2026

履修要項（2026年度入学生用）

2026 履修要項

Curriculum Guidelines

（2026年度入学生用）

KONAN UNIVERSITY

KONAN INFINITY

『履修要項』は卒業まで大切に保管してください

『履修要項』は、卒業するまで使用しますので、大切に保管してください。

紛失しても再配付は行いません。

目　　次

はじめに…… 1
甲南大学学則（抄）…… 8
甲南大学学位規程…… 17
2026年度甲南大学学則変更内容…… 21

履　修　要　項

全学共通科目…… 25
基礎共通科目…… 35
外国語科目…… 48
保健体育科目…… 60
キャリア創生共通科目…… 62
副専攻に関する科目…… 68
単位互換科目…… 79
専門教育科目
文　学　部…… 84
理工学部…… 146
経済学部…… 200
法　学　部…… 222
経営学部…… 238
知能情報学部…… 260
マネジメント創造学部…… 274
フロンティアサイエンス学部…… 292
グローバル教養学環…… 316
資格取得のための科目
教育職員養成課程…… 332
図書館学に関する専門教育科目…… 360
公認心理師に関する専門教育科目…… 363
日本語教員養成課程…… 366
外国人留学生対象科目
日本語特設科目…… 369
国際交流科目…… 371

はじめに

大学生活を有意義なものにし、自らのキャリアデザインを実践するためには、明確な目的・目標を定めて4年間の学修計画を立て、自らの学修の到達度を確認しながら計画的に履修を進めていくことが大切です。したがって、以下に記載する【履修の基本的な制度と仕組み】を有効に活用して「なりたい自分」の実現につなげてください。

本書には、本大学のカリキュラムを構成している全学共通科目（基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目および副専攻科目）、各学部・学科および学環の専門教育科目等について、その選択、履修、単位修得の方法を具体的に説明しています。これらは学修を進めていくうえで理解しておかなければならない事柄ですので、『履修ガイドブック』と併せて繰返し熟読し、理解に努めてください。

【履修の基本的な制度と仕組み】

甲南大学は「人物教育率先」の建学の理念のもと、各学部・学科および学環において教育基本方針を定め、それぞれの基本方針に基づき、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））※1 および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））※2 を定めています。

これらの方針および学則※3 に定められた人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力などの教育目標に基づき、段階的、系統的に授業科目を配置、構成したものを教育課程（カリキュラム）といいます。

各学部・学科および学環のカリキュラムには、DPに紐づいた到達目標※4 が設定されています。到達目標と各科目の対応関係は、カリキュラムマップ※5 や各科目のシラバスに示されています。また、カリキュラムは、各学部・学科および学環のカリキュラムツリー※6 で示されるように、卒業までの課程が編成され、系統的な学修ができるように構成されています。効果的な学修を進めるにあたっては、到達目標を踏まえて身に付けたい知識や能力を確認したうえで、毎年度の履修計画をきちんと立てて系統的に履修するようにしてください。

さらに、本学では、自らの学修の到達度を確認しながら計画的に履修を進めていけるように、自身の成長の過程を見える化・蓄積するツール「学修ポートフォリオ」を用意するとともに、社会で必要とされる汎用的な能力を測定する「ジェネリックスキル測定」を行っています。

また、専門教育・全学共通教育・正課外教育等で修得した知識や能力等の成果を大学が正式に証明する学位証書補足資料「ディプロマ・サプリメント」を発行するとともに、在学中は前後期毎にデータ更新を行い、「プレ・ディプロマ・サプリメント」として最新データをいつでも出力することができるようにしています。これらを積極的に活用することによって、大学での学びをより有意義なものにし、自らのキャリアデザインを実践していただくことを期待しています。

※1　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））

大学、学部・学科・学環等の教育基本方針に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、人材像を基にした学生の学修成果の目標ともなるもの。

※2　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

※3　学則

大学の修学において必要な事項を定めた規則。

※4　到達目標

所定の科目群を履修することによって得られるディプロマ・ポリシーに基づいた学修の具体的目標。

※5　カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針と到達目標および各科目の関係性を示すためのツールとなるもの。

※6　カリキュラムツリー

カリキュラムの全体を俯瞰的に把握し、順次性・系統性を意識して履修するためのツールとなるもの。

1. 授業科目について

(1) 授業科目の種類

授業科目には「カリキュラム体系」、「履修方法」、「授業方法」、「授業時期・期間」による４つの分類がある。

① カリキュラム体系による分類

本大学の授業科目は、全学部対象に開設している基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、副専攻科目、単位互換科目（甲南女子大学・大学コンソーシアムひょうご神戸)、各学部・学科および学環固有の専門教育科目、資格取得のために開設している教職・図書館学・公認心理師・日本語教員養成課程に関する科目、外国人留学生を対象に開設している日本語特設科目、国際交流科目に分かれている。

全学共通科目	
基礎共通科目	
外国語科目	基礎外国語科目
	中級・上級外国語科目
	海外語学講座・留学支援科目
保健体育科目	スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ
	生涯スポーツ
キャリア創生共通科目	
副専攻科目	
単位互換科目	

専門教育科目
学部・学科・学環固有の科目

資格取得のための科目
教職・図書館学・公認心理師・ 日本語教員養成課程に関する科目

外国人留学生対象科目
日本語特設科目
国際交流科目

② 履修方法による分類

科目分類	分類内容
必修科目	卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	区分された授業科目群のなかから、定められた単位数以上を修得しなければならない科目 定められた単位数を超えて修得した単位は自由選択科目として卒業単位に算入される
自由選択科目	必修・選択必修科目以外で単位を修得することができる科目 修得した単位は卒業単位に算入される
その他	自由に選んで単位を修得できるが、卒業単位として算入されない科目

③ 授業方法による分類

授業方法	内容
講義	主に担当教員の口頭での解説や板書などにより、知識や技術などを学ぶ授業
演習	担当教員の指導のもと、学生が研究・発表・討議を行うことを主眼とした少人数の授業
実験	学んだ知識や技術などを実験室などで試薬や機材などを実際に用いて学ぶ授業
実習	学んだ知識や技術などを実地またはパソコンなどの実物にあたって学ぶ授業
実技	保健体育科目などの技術や演技を実際に行う授業

（その他の授業方法）

○アクティブ・ラーニング

課題発見、問題解決を取入れた授業や、ディスカッション（意見交換）、ディベート（討論）、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークなど、授業への能動的な参加を取入れた授業方法。

○実践的教育

経営者、技術者、研究者、行政官などの実務家や学外での実務経験がある教員、または多様な企業などで実務経験がある講師による授業や、インターンシップや実習・研修を中心に位置付けた授業。

○遠隔授業

授業の特性上、インターネットを活用し、動画の視聴、教材の閲覧、テストの実施、課題の提出、ディスカッション等の学習方法を取入れた授業。

④　授業時期・期間による分類

名　　称	授業期間（時期）	履修登録の時期	成績の公開時期
通年科目 （夏期・冬期などの休業期間に授業を行う集中科目を含む）	4月から翌年1月まで	前期	学年末（3月）
前期科目 （夏期などの休業期間に授業を行う集中科目を含む）	4月から7月まで	前期	前期末（9月）
後期科目 （冬期などの休業期間に授業を行う集中科目を含む）	9月から翌年1月まで	前期または後期	学年末（3月）
クオーター科目	A期：4月から5月まで B期：6月から7月まで	前期	前期末（9月）
	C期：9月中旬から11月中旬まで D期：11月中旬から翌年1月まで	前期または後期	学年末（3月）

※「クオーター科目」はポートアイランドキャンパスで開講する一部の科目のみ。

(2) 授業科目の履修

①　配当年次

授業科目には「配当年次」が定められている。これは、カリキュラムツリーに基づいて履修するのにふさわしい年次を表している。つまり、配当年次が3年次の授業科目を履修するためには、1年次、2年次の学修による知識・経験が必要だということである。逆に言えば、1年次、2年次の授業科目はより専門的な学修をするうえであらかじめ履修しておくべき科目だといえる。したがって、自身の年次より高い配当年次の授業科目を履修することはできない。自身の年次以下の科目の中から選択し、履修すること。

②　授業科目の選択

必修科目は卒業するために必ず修得しなければならないことは前にも述べたが、低年次に配当されている必修科目は学部・学科および学環の基礎的な科目である。これらの単位を修得できないと、より専門的な授業科目を理解することは難しくなるので、必ず配当された年次で修得するように努めること。

選択必修科目は区分された授業科目群の中から、決められた単位数以上を修得しなければならない科目である。定められた単位数を超えて修得した単位は自由選択科目として卒業単位に算入される。卒業必要単位数を早期に充足しておけば余裕をもって科目選択を行うことができるが、逆に4年次まで充足できないでいると、卒業に必要な科目を余分に登録しておかなければ安心できないという事態に陥ることになってしまう。配当年次に従って早期に充足するように努めること。

必修科目と選択必修科目以外の科目は一部の実習・実験科目を除いて自由に選択・履修することができる。自由に選択・履修できる科目のうち卒業単位に含まれる科目を自由選択科目と呼んでいる。自由選択科目に含まれる授業科目は学部・学科・学環によって異なるので所属する学部・学科・学環のページを参照すること。なお、卒業単位に含まれる単位数には、上限が定められている場合があるため注意すること。

③　クラス指定科目

外国語科目および保健体育科目のうち、必修科目である基礎外国語および「スポーツ健康マネジメント演習I」、「スポーツ健康マネジメント演習II」は履修クラスが指定されている。このほか専門教育科目のなかにも学部・学科・学環・学年等によってクラスが指定されている授業科目がある。これらの授業科目は、必ず指定されたクラスで履修しなければならない。

④　他学部・他学科科目の履修について

他学部および他学科の科目は、原則として2年次から履修することができる。自身の入学年度の専門教育科目表に記載の配当年次に従って履修すること。該当する入学年度にない専門教育科目は履修できない。また、履修を認めていない科目があるので注意すること。

2. 単位制について

⑴「単位」とは

「単位」とは、大学設置基準に基づいて学修時間を数値で表したもので、45時間の学修をもって1単位とする。この45時間のなかには予習と復習の時間が含まれているが、授業科目の種類によって大学で行う時間数と予習・復習時間の割合が異なる。例えば講義科目の場合、大学の授業、予習、復習それぞれ15時間で1単位になる。毎週1回あたりの授業は90分を基本としており、これを2時間と計算する。したがって、半期（15週）30時間の授業では予習、復習を加えると90時間になり2単位ということになる。このほか、授業を30時間、予習、復習をそれぞれ15時間と計算する演習科目、授業を45時間と計算する実験科目などがあり、これらの組合わせによる授業科目もある。

本学の授業科目の単位数は学則第11条の規定に基づき、次のような計算方法をとっている。

① 講義および演習科目

・15 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：「哲学」、「中級ドイツ語Ⅰ」、「法社会学Ⅰ」等

・20 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：「微分積分及び演習Ⅰ」等

・30 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：「講読演習Ⅰ a」、「College English Listening」等

② 実験、実習および実技科目

・30 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：「物理学実験 1」、「基礎生物学実験」、「スポーツ健康マネジメント演習 I」等

・45 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：「物質化学実験Ａ」、「地学実験」等

③ 卒業論文、卒業研究および卒業実験等の授業科目

審査などにより、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修などを考慮して各学部・学科および学環で単位数が定められている。

(2) 単位の認定

履修登録期間内に科目を登録し、試験やレポートなどにより合格の評価を得ると、当該科目の単位が認定され、単位を修得することになる。これを「学修」という。

3. 履修科目の単位制限について

各年度において履修できる授業科目の単位数には制限が定められている。この単位数を超えて授業科目を履修登録することはできない。この制限は、単位制度の趣旨に沿った十分な学修量を確保することを目的としている。前項で説明したとおり、1 単位は 45 時間の学修によって成っている。一週間に実行不可能な学修量に相当する授業科目を履修しても成果は上がらない。授業の事前・事後の学修を念頭に置いて履修登録することが肝要である。

制限に含まれる科目、含まれない科目は入学年度や学部・学科・学環によって異なるので、自身の入学年度の『履修要項』に記載されている各学部・学環の「単位制限に関する内規」に従うこと。

4. 卒業の資格と学位

(1) 卒業要件

卒業するためには、修業年限を満たし、学則に定められた単位を修得しなければならない。修業年限とは卒業に必要な年数で 4 年の在学年数が必要である。なお、休学期間は在学年数に含まれない。

(2) 卒業に必要な単位数

卒業に必要な単位数は、以下のとおり定められている。卒業するまでの間に、定められた単位を修得しなければ卒業することはできない。

基礎共通科目	学部・学環によって異なる	8〜18 単位
外国語科目	学部・学環・コースによって異なる	4〜8 単位
キャリア創生共通科目	フロンティアサイエンス学部（学際科学コース）	20 単位
保健体育科目	全学部・学環	2 単位
専門教育科目	学部・学科・学環・コースによって異なる	56〜114 単位

○　基礎共通科目

文学部・経済学部・法学部・経営学部・グローバル教養学環は 18 単位、理工学部・知能情報学部は 16 単位、マネジメント創造学部は 8 単位、フロンティアサイエンス学部は 10 単位を修得しなければならない。

○　外国語科目

文学部・経済学部・法学部・経営学部・理工学部・知能情報学部・グローバル教養学環は、英語（Skill-based）4 単位と、基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語または大学日本語入門（外国人留学生および日本語を母語としない学生が対象）のうちから 1 外国語 4 単位、あわせて 8 単位を修得しなければならない。理工学部・知能情報学部は、英語（Skill-based）4 単位と英語（Content/Project-based）、基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語または大学日本語入門（外国人留学生および日本語を母語としない学生が対象）のうちから 1 外国語 4 単位、あわせて 8 単位を修得しなければならない。フロンティアサイエンス学部（先進科学コース）は英語（Skill-based）4 単位、フロンティアサイエンス学部（学際科学コース）は英語（Skill-based）4 単位と中級英語を 4 単位以上、計 8 単位以上を修得しなければならない。

○　キャリア創生共通科目

フロンティアサイエンス学部（学際科学コース）は、20 単位以上を修得しなければならない。

○　保健体育科目

「スポーツ健康マネジメント演習 I」、「スポーツ健康マネジメント演習 II」各 1 単位、あわせて 2 単位を修得しなければならない。

○　専門教育科目

学部、学科、学環およびコースによって異なるが、56〜114 単位の間で定められている。専門教育科目には必修、選択必修など他にも履修要件が定められている。詳細は所属する学部・学科・学環のページを確認すること。

(3) 学士の学位

本大学を卒業した者には、その学部・学科・学環に応じて、以下の学位が授与される。

学部・学環	学　　科	学　　位
文 学 部	日本語日本文学科	学士（文　学）
	英語英米文学科	学士（文　学）
	社会学科	学士（社会学）
	人間科学科	学士（文　学）
	歴史文化学科	学士（文　学）
理工学部	宇宙理学・量子物理工学科	学士（理学）または学士（理工学）
	生物学科	学士（理　学）
	物質化学科	学士（理工学）
	環境・エネルギー工学科	学士（理工学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
法 学 部	法学科	学士（法　学）
経営学部	経営学科	学士（経営学）
知能情報学部	知能情報学科	学士（知能情報学）
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	学士（マネジメント）
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	学士（理工学）
グローバル教養学環	–	学士（グローバル教養）

甲南大学学則（抄）

第1章　総　　則

第1条　本大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に則り、学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的とする。

第2章　組　　織

第2条　本大学は、学部及び大学院よりなる。

第3条　本大学に次の学部・学科を置く。

学部	学科
文学部	日本語日本文学科
	英語英米文学科
	社会学科
	人間科学科
	歴史文化学科
理工学部	宇宙理学・量子物理工学科
	生物学科
	物質化学科
	環境・エネルギー工学科
経済学部	経済学科
法学部	法学科
経営学部	経営学科
知能情報学部	知能情報学科
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科
フロンティアサイエンス学部	生命化学科

2　本大学に大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）に定める学部等連係課程実施基本組織として次の学環を置く。

学環
グローバル教養学環

第3条の2　各学部・学科及び学環における人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標は次のとおりとする。

学部　学科　学環	人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標
文学部	幅広く深い教養を基盤に、人文科学の専門分野における調査、研究技量を磨く経験を通して、問題を見出し、考え、成果を言葉で表現する力を形成する。それによつて、仕事を含む人生の様々な活動に発生する問題を主体的に解決できる人材を社会に送り出す。
日本語日本文学科	古典・近現代文学・日本語学・日本語教育学等のバランスの取れた教育・研究を通して、社会での活動の基盤である日本語の理解力・表現力を鍛えることを目標とする。
英語英米文学科	実践的語学教育と並行して英語学及び英米の文化・文学の教育を行い、英語圏文化の深い理解に裏打ちされた英語運用能力を持つ人材を育成し、国際化する社会の要請に応える。
社会学科	情報化、国際化の進展によつて急速に変化し、多様性や不確実性が高まつている社会の中で必要とされる「自ら調査・分析・表現・発信する実証的・実践的な態度と能力」を涵養する。
人間科学科	心理学、哲学、芸術学の知を関連づけながら、理論と実践の両面から「人間とは何か」を探求することにより、社会の諸問題を多角的に捉え、柔軟に問題解決できる人材育成を目指す。

学部　学科　学環		人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標
	歴史文化学科	人類がこれまで蓄積してきた有形・無形の文化遺産及び歴史の中における生活の場としての環境と人類との交流について歴史学、地理学・民俗学の分野から探求し、これら各分野を横断する総合的立場から教育を行う。
理工学部		自然科学の強固な学問的土台を身につけて、純粋理学と応用科学を融合させることのできる能力を養い、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材の育成を目指す。
	宇宙理学・量子物理工学科	時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して、問題の解決に果敢に挑み、創造性を発揮し、国際社会に貢献できる人材の養成を目的とし、物理学の基本的な知識及び論理的思考法・手法を講義と実験・実習科目による相補的な積み上げ方式によつて修得させ、卒業研究を通して総合的な問題解決能力を養う。
	生物学科	今日の社会が直面する生命や環境等に関わる諸問題を正しく理解し、それらの解決に貢献できる国際的視野を持つた人材の養成を目的とし、そのために必要な現代生物学の専門知識と技術及びそれらを充分に活用するための思考力を修得させる。
	物質化学科	科学技術に携わる者に求められる責任感と倫理観を有し、化学の専門知識並びに自然科学に対する柔軟な思考力を身につけた人材の養成を目的とし、化学の基礎的な知識・豊富な経験に基づく課題設定能力・解決能力を得て、現代社会の要請に応えることのできる能力を獲得させる。
	環境･エネルギー工学科	現代社会が抱える種々の課題の中でも、環境・資源・エネルギーに係わる課題に取り組むうえで必要な化学・物理学・地学の基礎知識、ならびに環境・エネルギー工学に関する専門知識を身につけた人材の養成を目的とし、環境・エネルギー工学分野での課題設定能力・問題解決能力を修得して、実社会の要請に応えることのできる能力を獲得させる。
経済学部	経済学科	経済学の学習を通じて、変化の激しい経済社会で充実した活動ができる知性と創造力を備えた人材を養成する。これらの人材養成上、学生が修得すべき能力として、経済・社会問題を的確に捉える能力、筋道を立てて問題を考える能力、自らの力で解決策を示す能力を求める。
法学部	法学科	法曹・行政・経済をはじめ社会の様々な分野で指導的な役割を担うことができる人材を養成するため、学生の個性尊重を旨として、法及び政治に関する専門知識の修得と思考力の涵養を通じて、個々の学生の論理的な思考力と柔軟な応用力を培うことを教育目標とする。
経営学部	経営学科	ヒト・モノ・カネ・情報等からなる組織（企業）の存続・発展のあり方について、自律的な洞察力を有し、社会に資するビジネスパーソンの養成を目的とする。このために学生が修得すべき能力として、次の各能力を求める。 (1) 幅広い教養に裏付けられた経営学の知識・理解力 (2) 各種スキルと論理的思考力に支えられた経営問題の発見・説明・解決力 (3) ビジネスパーソンに必要な社会的協調力と自発的遂行力及び倫理的責任力 (4) トータルな人間性と豊かな個性に基づいた社会的貢献力
知能情報学部	知能情報学科	人間力をベースに、感性・知性で高度国際情報社会におけるリーダーシップがとれる人材の育成を目指す。そのため、数学的基礎学力、知能情報学における専門知識、効果的な発表能力並びにコミュニケーション能力の修得を目標とする。
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	自ら学ぶ力を涵養し、営利、非営利、パブリックなどいずれの分野にあつても、社会的責任を創造的に果たしていくマネジメント能力を開発し、世界に貢献しうる人物育成を目指す。
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	教育・研究対象の中心に「生命化学」を据え、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー及びそれらの融合領域であるナノバイオに関する知識と技能を修得させることにより、社会の発展、福祉の増進のためとくに生命化学分野におけるフロンティア開発に資する人材を養成する。
グローバル教養学環		多様な文化と言語背景を持つ人々と関わり効果的に協働することを可能にする複数言語の運用能力、異文化間の価値観の異なりや多様性に起因する問題に対する異文化間調整能力、AI・データサイエンス、ICT の活用などを含めた文理横断的な知識と技能、課題解決のための企画立案・提案力を備え、グローバル社会又は地域社会の持続的発展に貢献することのできるグローカル人材の育成を目指す。

第４条　学部及び学環における学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部及び学環	学科	入学定員	収容定員
文学部	日本語日本文学科	70	280
	英語英米文学科	90	360
	社会学科	90	360
	人間科学科	95	380
	歴史文化学科	60	240
	計	405	1,620

学部及び学環	学科	入学定員	収容定員
理工学部	宇宙理学・量子物理工学科	45	180
	生物学科	45	180
	物質化学科	45	180
	環境・エネルギー工学科	40	160
	計	175	700
経済学部	経済学科	335	1,340
	計	335	1,340
法学部	法学科	330	1,320
	計	330	1,320
経営学部	経営学科	335	1,340
	計	335	1,340
知能情報学部	知能情報学科	120	480
	計	120	480
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	170	680
	計	170	680
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	45	180
	計	45	180
グローバル教養学環		25	100
合計		1,940	7,760

第５条　大学院に関する規程は、別に定める。

第３章　授業科目及び履修方法

第６条　本大学の授業科目を、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、副専攻科目、単位互換科目、日本語特設科目、国際交流科目及び専門教育科目に分ける。

２　基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、副専攻科目、単位互換科目、日本語特設科目、国際交流科目の授業科目及び単位数は、別表第１のとおりとする。

３　文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部及び知能情報学部における専門教育科目の授業科目、単位数、必修・選択必修等の区別は、別表第２の（1）のとおりとする。

４　マネジメント創造学部における専門教育科目の授業科目、単位数、必修・選択必修等の区別は、別表第２の（3）のとおりとする。

５　フロンティアサイエンス学部における専門教育科目の授業科目、単位数、必修・選択必修等の区別は、別表第２の（4）のとおりとする。

６　グローバル教養学環における専門教育科目の授業科目、単位数、必修・選択必修等の区別は、別表第２の（5）のとおりとする。

７　卒業に必要な単位数は、別表第２の（1）、別表第２の（3）、別表第２の（4）及び別表第２の（5）のとおりとする。

第６条の２　特定の分野又は課題に関する授業科目を体系的に編成する副専攻を置くことができる。

２　副専攻に関する規程については、別に定める。

第７条　本大学の修業年限は、４年とする。

第８条　中学校及び高等学校の教育職員免許状を得るために必要な教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）の授業科目及び単位数は、別表第３のとおりとする。

第９条　教育職員免許状を得るための資格を得ようとする者は、別に定める教育職員養成課程に関する規程に従い、必要な単位を修得しなければならない。

２　本大学において、取得できる免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
文学部	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	社会学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
	人間科学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史文化学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
理工学部	宇宙理学・量子物理工学科 生物学科 物質化学科 環境・エネルギー工学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
法学部	法学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
経営学部	経営学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
		商業	
知能情報学部	知能情報学科	数学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		情報	高等学校教諭一種免許状

第10条　図書館司書又は学校図書館司書教諭の資格を得ようとする者は、別表第4の(1)に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第10条の2　博物館学芸員の資格を得ようとする者は、別表第4の(2)に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第10条の3　公認心理師の受験資格を得るために大学において必要な科目を修めようとする者は、別表第4の(3)に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第11条　各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもつて1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもつて1単位とする。

(3) 一つの授業科目のなかで、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合の授業科目については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して定める時間の授業をもつて1単位とする。

2　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究及び卒業実験等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第11条の2　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2　本大学は、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4　本大学は、第１項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

第 11 条の３　学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2　学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たつては、客観性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがつて適切に行うものとする。

第４章　試験及び学士の学位

第 12 条　学生は、学期の初めに履修を希望する授業科目を届け出て承認を得なければならない。

第 12 条の２　教育上有益と認めるときは、他の大学（外国の大学を含む。）との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることがある。

2　前項により修得した単位は、60 単位を限度として、本大学において修得した単位とみなすことができる。

3　第１項の規定に基づく外国留学（以下「留学」という。）に関しては、この学則に定めるもののほか別に定める。

第 12 条の３　教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に本大学において履修した授業科目について修得した単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第 12 条の４　前２条により修得したものとみなす単位数は、編入学及び転学部の場合を除き、合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 13 条　単位の認定は、試験その他適当な方法による。ただし、実験、実習、演習、体育の実技等は、平常の成績によることができる。

2　授業科目の成績の評価は、秀（ＡＡ）・優（Ａ）・良（Ｂ）・可（Ｃ）・不可（Ｄ）の５種とし、その評点は、100 点を満点として次のとおり定める。

秀	（AA）	90 点以上	合　格
優	（ Ａ ）	80 点以上 90 点未満	
良	（ Ｂ ）	70 点以上 80 点未満	
可	（ Ｃ ）	60 点以上 70 点未満	
不可	（ Ｄ ）	60 点未満	不合格

第 14 条　試験は、原則として学期末又は学年末に行う。

第 15 条　削除

第 16 条　4年以上在学して第6条に掲げられた所定の授業科目及び履修方法により卒業に必要な単位数を修得した者には、学部教授会又は学環会議及び合同教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

2　本大学に３年以上在学した学生が、別に定める規程に従い卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認められる場合には、第７条に規定する修業年限の特例扱いとして学部教授会又は学環会議及び合同教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与することができる。

第 16 条の２　前条第１項の定めにかかわらず、卒業に必要な要件を満たした者が目標とする進路、資格等を獲得するために卒業を保留し、引き続き在学を希望した場合、学部教授会又は学環会議及び合同教授会の審議を経て、学長は卒業の延期を許可することができる。

2　卒業の延期に関する事項については、別に定める。

第 17 条　本大学を卒業した者には、学部・学科及び学環に応じて、次のとおり学士の学位を授与する。

文学部	日本語日本文学科	学士（文　学）
	英語英米文学科	学士（文　学）
	社会学科	学士（社会学）
	人間科学科	学士（文　学）
	歴史文化学科	学士（文　学）
理工学部	宇宙理学・量子物理工学科	学士（理　学）又は学士（理工学）
	生物学科	学士（理　学）
	物質化学科	学士（理工学）
	環境・エネルギー工学科	学士（理工学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
法学部	法学科	学士（法　学）
経営学部	経営学科	学士（経営学）
知能情報学部	知能情報学科	学士（知能情報学）
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	学士（マネジメント）
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	学士（理工学）
グローバル教養学環		学士（グローバル教養）

第５章　学年、学期及び休業日

第 18 条　学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。
第 19 条　学年は、前期・後期の 2 学期に分ける。
　前期　4 月　1 日～9 月 16 日
　後期　9 月 17 日～3 月 31 日
第 20 条　休業日を次のとおり定める。
　(1) 日曜日
　(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
　(3) 本学園創立記念日（4 月 21 日）
　(4) 夏期休業日、冬期休業日は学年暦によるものとする。
2　学長は、学年暦編成上必要ある場合は、前項の休業日を授業日に変更することができる。
3　学長は、必要に応じ臨時に授業を休止又は変更することができる。

第６章　入学、転学部、留学、休学、除籍及び退学

第 21 条　入学の時期は、学年初めとする。
第 22 条　本大学の第 1 年次に入学する資格のある者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。
　(1) 高等学校又は中等教育学校の卒業者
　(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
　(3) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
　(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
　(5) 文部科学大臣の指定した者
　(6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）により大学入学資格検定に合格した者を含む。）
　(7) その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者
第 23 条　入学は、選考によつて学長が決定する。
第 24 条　選考によつて入学を決定された者は、所定の期日までに入学に必要な手続をしなければならない。
第 25 条　本大学への編入学を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。
2　編入学についての細則は、別に定める。
第 26 条　本大学を卒業し、さらに本大学の他の学部・学科及び学環に学士入学を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。
2　学士入学についての細則は、別に定める。
第 27 条　他の学部へ転学部を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。
2　転学部についての細則は、別に定める。
第 27 条の 2　第 12 条の 2 の規定に基づく留学を希望する者は、願い出て学長の許可を受けなければならない。
2　前項により留学をした期間は、第 16 条及び第 29 条に規定する在学期間に算入する。
第 28 条　疾病その他やむを得ない理由により休学を願い出る者があるときは、学長はこれを許可することができる。
2　疾病のため修学に適さないと認められる者については、学長が休学を命ずることがある。
3　海外渡航の期間が 6 箇月以上にわたるときは、休学しなければならない。
4　休学の期間は、継続して 2 年を、通算して 4 年を超えることができない。

5　休学期間中に復学を願い出る者があるときは、学長は、これを許可することができる。
6　休学の期間は、第16条及び次条に規定する在学期間に算入しない。
第29条　本大学に在学する期間は、8年を超えることができない。
2　在学期間が8年を超える場合は、除籍する。
第30条　学費を納付しない者は、除籍する。ただし、1年以内に復籍を願い出たとき、又は1年経過後再入学を願い出たときは、審議の上、学長は、これを許可することができる。
第30条の2　死亡又は行方不明となつた者は、除籍する。
第31条　疾病その他やむを得ない理由によつて退学しようとするときは、学長の許可を受けなければならない。
第32条　前条により退学した者が再入学を願い出たときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。
第33条　他の大学へ入学又は転学を願い出ようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

第7章　科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生、高大連携聴講生及び高大連携科目等履修生

第34条　特定の授業科目について履修を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、科目等履修生として許可することができる。
2　科目等履修生規程については、別に定める。
第34条の2　本大学専任教員の指導を受け、特定の事項について研究をしようとする者があるときは、選考の上、学長は、研究生として許可することができる。
2　研究生規程については、別に定める。
第34条の3　特定の授業科目について聴講を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、聴講生として許可することができる。
2　聴講生規程については、別に定める。
第34条の4　他の大学との協議に基づき、本大学の授業科目を履修させる場合には、選考の上、学長は、特別聴講生として許可することができる。
第34条の5　甲南高等学校との協議及び教育委員会又は高等学校との協定に基づき、当該高校生が本大学が指定する授業科目の聴講を願い出る場合は、選考の上、学長は、高大連携聴講生として許可することができる。
2　高大連携聴講生については、別に定める。
3　本大学との高大連携科目等履修生制度に関する協定に基づき、当該高校生が本大学の指定する授業科目の履修を願い出る場合は、選考の上、学長は、高大連携科目等履修生として許可することができる。
4　高大連携科目等履修生については、別に定める。

第7章の2　特別の課程

第34条の6　学校教育法に規定する本大学の学生以外の者を対象とした特別の課程として、履修証明プログラムを編成することができる。
2　履修証明プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

第7章の3　外国人留学生

第34条の7　出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）に定める留学という在留資格の取得を必要とする者が、本大学に入学しようとする場合は、選考の上、学長は、外国人留学生として、これを許可することができる。
2　外国人留学生の受入れについては、別に定める。

第8章　賞　　罰

第35条　学業、人物、文化芸術、運動等の分野において優秀な者は表彰する。
第36条　学生に本大学の規則に違反し、又は学生の本分にもとる行為があると認めたときは、合同教授会の審議を経て、学長が懲戒を決定する。

2　学生の懲戒に関する規程は、別に定める。

第37条　懲戒処分は、訓告、停学及び退学とする。退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第9章　入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料、聴講生検定料、入学金、授業料、研究資料費、実験費、実習費、復籍料、在籍料、学修在籍料、科目等履修料、研究生登録料及び聴講料

第38条　本大学に入学を願い出る者は、別表第5に定める入学受験料を納付しなければならない。

2　本大学に科目等履修生を願い出る者は、別表第5に定める科目等履修生検定料を納付しなければならない。

3　研究生を願い出る者は、別表第5に定める研究生申請料を納付しなければならない。

4　聴講生を願い出る者は、別表第5に定める聴講生検定料を納付しなければならない。

第39条　本大学に入学を許可された者は、別表第6に定める入学金を納付しなければならない。

第40条　学生は、別表第7の(1)に定める授業料を納付しなければならない。実験又は実習を要する授業科目を履修する者は、別表第7の(2)に定める実験費又は別表第7の(3)に定める実習費を納付しなければならない。

2　文学部人間科学科1年次学生は、別表第7の(1)に定める研究資料費を納付しなければならない。

3　休学中の者は、別表第7の(4)に定める在籍料を納付しなければならない。

4　第30条により復籍を許可された者は、復籍料を納付しなければならない。

5　第16条の2により卒業の延期を許可された者は、別表第7の(6)に定める学修在籍料を納付しなければならない。

第41条　科目等履修生は、別表第7の(5)に定める科目等履修料を納付しなければならない。

第41条の2　研究生は、別表第7の(5)に定める研究生登録料を納付しなければならない。

第41条の3　聴講生は、別表第7の(5)に定める聴講料を納付しなければならない。

第42条　入学金、授業料、研究資料費、実験費、実習費、復籍料、在籍料、学修在籍料、科目等履修料、研究生登録料、聴講料、履修証明プログラム履修料等の学費及び入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料、聴講生検定料の徴収については、別に定める。

第43条　既納の学費、入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料及び聴講生検定料は、返還しない。

2　入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続きの取消しを願い出たものについては、前項にかかわらず、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

別表第7の(2)

実験費　（単位　円）

「ラボラトリー・フィジックス」「基礎化学実験」「基礎生物学実験」	
1科目	20,000
2科目	35,000
3科目	50,000
「基礎物理学実験」	15,000
「物理学実験1」	20,000
「物理学実験2」	20,000
「物理学実験3」	40,000
「生物学専門実験及び演習Ⅰ」	15,000
「生物学専門実験及び演習Ⅱ」	15,000
「生物学専門実験及び演習Ⅲ」	15,000
「生物学専門実験及び演習Ⅳ」	15,000
「物質化学実験A」	20,000
「物質化学実験B」	20,000
「物質化学実験C」	20,000
「物理学卒業研究」	60,000

「生物学卒業実験」	60,000
「物質化学卒業研究」	60,000
「環境・エネルギー工学卒業研究」	60,000
「科学実験基礎」	10,000
「ラボラトリー・ケミストリー」	20,000
「環境・エネルギー工学実験 1」	20,000
「環境・エネルギー工学実験 2」	20,000
「環境・エネルギー工学実験 3」	20,000
「地学実験」	20,000

別表第 7 の(3)

実習費　（単位　円）

「物質化学卒業演習および実習」	30,000
「コース演習：知能ロボット」	5,000
「コース演習：メディアデザイン」	3,000
「コース演習：ヒューマンセンシング」	3,000
「プロジェクト演習」	10,000
「知能情報学セミナーⅠ」	5,000
「知能情報学セミナーⅡ」	10,000
「卒業研究及び演習」	30,000
教育実習Ⅰ（3 週間）	16,000
教育実習Ⅱ（2 週間）	11,000
博物館実習Ⅰ	3,000
博物館実習Ⅱ	5,000
博物館実習Ⅲ	5,000
生物学臨海実習	30,000
心理実習	25,000

別表第 7 の(4)

在籍料　（単位　円）

前期	75,000
後期	75,000
通年	150,000

別表第 7 の(5)　（単位　円）

種別	金額
科目等履修料	1 単位　10,000
研究生登録料	50,000
聴講料	1 単位　5,000

※研究生登録料は、別途消費税を加えた額を徴収する。

別表第 7 の(6)

学修在籍料　（単位　円）

通年	300,000

（第 10 章以降、様式、別表第 1～7(1)及び附則は省略）

別表第 1 については、全学共通科目の項を参照のこと。

別表第 2 については、各学部専門教育科目の項を参照のこと。

別表第 3 については、教職に関する科目の項を参照のこと。

別表第 4 の（1）については、図書館学に関する専門教育科目の項を参照のこと。

別表第 4 の（2）については、文学部 人間科学科、文学部 歴史文化学科、理工学部 宇宙理学・量子物理工学科、又は理工学部 生物学科の博物館学芸員養成課程の項を参照のこと。

別表第 4 の（3）については、公認心理師に関する専門教育科目の項を参照のこと。

甲南大学学位規程

（目　　的）

第１条　この規程は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 13 条第 1 項の規定に基づき、本大学における学位及びその授与について、甲南大学学則（以下「学則」という。）及び甲南大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に従い、必要な事項を定める。

（学位の名称）

第２条　本大学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

(1) 学士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

名称	英語表記
文学	Bachelor of Arts
社会学	Bachelor of Arts in Sociology
理学	Bachelor of Science
理工学	Bachelor of Science and Technology
知能情報学	Bachelor of Intelligence and Informatics
経済学	Bachelor of Economics
法学	Bachelor of Law
経営学	Bachelor of Business Administration
マネジメント	Bachelor of Management
グローバル教養	Bachelor of Global Liberal Arts

(2) 修士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

名称	英語表記
文学	Master of Arts
社会学	Master of Arts in Sociology
理学	Master of Science
理工学	Master of Science and Technology
知能情報学	Master of Intelligence and Informatics
経済学	Master of Economics
経営学	Master of Business Administration

(3) 博士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

名称	英語表記
文学	Doctor of Philosophy
社会学	Doctor of Philosophy in Sociology
理学	Doctor of Science
理工学	Doctor of Science and Technology
知能情報学	Doctor of Intelligence and Informatics
経営学	Doctor of Business Administration

（学位授与の要件）
第３条　学士の学位は、学則の規定するところにより、学部又は学環を卒業した者に授与する。
第４条　修士の学位は、大学院学則の規定するところにより、修士課程を修了した者に授与する。
２　修士論文又は特定の課題について研究の成果（以下「研究の成果」という。）を提出するときには、修士論文（以下、研究の成果を含む。）を提出する学期に在学しなければならない。
第５条　博士の学位は、大学院学則の規定するところにより、博士課程を修了した者に授与する。
２　前項の規定により、博士の学位を取得しようとするときは、博士論文の提出時に在学し、かつ、博士論文の審査期間中及び最終試験が修了するまで在学しなければならない。
３　第１項に定める者のほか、博士の学位は、博士論文を提出し、博士論文の審査に合格し、かつ、本大学院の博士課程を修了して学位を授与される者と同等以上の学力を有することを確認（以下「学力の確認」という。）した者に授与することができる。
第６条　削除
（学位の申請等）
第７条　第４条又は第５条第１項の本大学院の課程に在学する者の学位の申請にあたつては、修士論文又は博士論文に学位申請書（様式第６号又は様式第７号）を添え、研究指導教員及び当該研究科長を経て学長に提出するものとする。
第８条　第５条第３項の本大学院の課程に在学しない者の博士の学位の申請にあたつては、博士論文に学位申請書（様式第８号）及び審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。
２　前項の博士論文が提出されたとき、学長は、その博士論文を審査すべき研究科委員会に審査を付託する。
第９条　学位の申請で提出された修士論文又は博士論文（以下「学位論文」という。）の受理は、研究科委員会の審議を経て、研究科長がこれを決定する。
２　受理した学位論文及び審査手数料は、返付しない。
第10条　学位論文は、主論文１篇とする。ただし、博士論文の場合は、副論文及び参考論文の提出を求めることができる。なお、論文は、１篇につき３部を提出するものとする。
２　前項の学位論文にその論文要旨（1000字程度）を添付し、３部提出する。
（審査委員）
第11条　本大学院の課程に在学する者の学位論文の審査委員は、主査となる研究指導教員に関連科目の研究指導教員又は授業担当教員を加え、併せて３名以上とする。
２　本大学院の博士課程に在学しない者が学位を申請し、受理された学位論文の審査委員は、提出された博士論文の専門分野に応じて当該分野又はその近接分野の研究指導教員若しくは授業担当教員を併せて３名以上とする。ただし、主査は研究指導教員とする。
３　研究科委員会は、必要と認めたときは他の研究科等の教員に審査委員を委嘱することができる。
４　研究科委員会は、学位論文の審査にあたつて、他の大学の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。
（大学院の課程に在学する者の論文審査及び最終試験）
第12条　審査委員は、第４条又は第５条第１項の学位論文の審査及び最終試験を行う。
２　最終試験は、学位論文を中心として、その関連科目について、口答又は筆答により行う。
（博士課程に在学しない者の論文審査等）
第13条　審査委員は、第５条第３項の博士論文の審査及び学力の確認を前条に準じて行う。
２　前項の学力の確認は、博士論文に関連のある科目及び外国語について、口頭試問又は筆答試問により行う。
３　研究科委員会が学歴、業績等により学位申請者の学力の確認を行い得ると認めたときは、試問の全部又は一部を省略することができる。
４　第２項の外国語については、原則２種類を課すものとする。
第14条　本大学院博士課程の所定の修業年限以上在学し、専攻ごとに定められた所定の単位を修得し、研究指導を受けたのち退学した者が退学後５年以内に博士論文を提出し、博士の学位を申請した場合は、前条第２項の学力の確認を免除する。

(論文審査)

第 15 条　審査委員は、論文審査及び最終試験又は学力の確認を速やかに行わなければならない。

第 16 条　審査委員が論文の審査及び最終試験又は学力の確認を終えたときは、論文とともにその審査の要旨、最終試験又は学力の確認の結果の要旨並びに学位を授与すべきか否かの意見を添えて、速やかに研究科長に報告をしなければならない。ただし、論文審査の結果、その内容が著しく不良であると認めるときは、最終試験又は学力の確認を要しない。

第 17 条　研究科委員会は、前条の報告に基づいて学位を授与すべきか否かを審議する。

2　前項の議決には、委員会委員の 3 分の 2 以上の出席を必要とし、出席委員の 3 分の 2 以上の賛成がなければならない。

第 18 条　研究科委員会が前条の議決をしたとき、その研究科長は論文を添えて、論文及び審査の要旨を文書で学長に報告しなければならない。

2　学位を授与できないものと決定したときは、最終試験又は学力の確認の結果の要旨を添えることを要しない。

(学位授与)

第 19 条　学長は、学部教授会及び学環会議の報告に基づいて、学士の学位を授与すべきか否かを合同教授会に諮り決定する。

2　学長は、前条第 1 項の報告に基づいて、修士又は博士の学位を授与すべきか否かを大学院委員会に諮り決定する。

3　削除

4　削除

5　前 2 項の決定には、大学院委員会の委員の 3 分の 2 以上の出席を必要とし、出席委員の 3 分の 2 以上の賛成がなければならない。

第 20 条　学長は、前条によつて決定された者で、学士の学位を授与すべき者には所定の卒業証書・学位記（様式第 1 号)、修士又は博士の学位を授与すべき者には所定の学位記（様式第 2 号又は様式第 3 号）を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。

2　学士及び修士の授与の時期は、原則として学年末及び前期末の 2 回とする。

3　博士の学位授与の時期は、その都度定める。

(論文要旨等の公表)

第 21 条　本大学が博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から 3 箇月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第 22 条　博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1 年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前にすでに公表したときは、この限りではない。

2　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該博士の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3　博士の学位を授与された者が行う前 2 項の規定による公表は、本大学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

(学位の名称)

第 23 条　本大学から学位を授与された者が、学位の名称を用いる場合には、次のように本大学名を付記しなければならない。

学　　士（専攻分野の名称）（甲南大学）
修　　士（専攻分野の名称）（甲南大学）
博　　士（専攻分野の名称）（甲南大学）

（学位の取消し）
第 24 条　修士又は博士の学位を授与された者が、不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚す行為をしたときは、学長は、大学院委員会の審議を経て学位を取り消すことができる。
2　削除
3　第 1 項の議決は、大学院委員会の委員の 3 分の 2 以上の出席を必要とし、出席委員の 3 分の 2 以上の賛成がなければならない。
4　第 1 項により取消しを決定した場合は、その旨を公表する。
（登録）
第 25 条　本大学において博士の学位を授与したときは、学長は、学位録に登録し、当該学位を授与した日から 3 箇月以内に学位授与報告書（様式第 9 号）を文部科学大臣に提出するものとする。
（審査手数料）
第 26 条　学位論文を提出して審査を申請する者は、別表に定める審査手数料を納付しなければならない。
（改廃）
第 27 条　この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が決定する。

附　則

1　この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 2 条第 1 項第 1 号、第 2 号及び第 3 号に規定する専攻分野の名称「知能情報学」は、令和 5 年度以降に入学する者及び博士論文の審査を申請する者が学位の授与を受ける日から適用することとし、令和 4 年以前に入学した者及び博士論文の審査を申請した者への学位授与にあたっての専攻分野の名称は、従前の例によることとする。
（様式　別表、第 1 号～第 9 号は省略）

2026年度甲南大学学則変更内容

以下の科目は、学則変更に伴って、2026年度に新設・廃止・科目分割・名称変更等した科目である。2026年度入学生は、新名称でのみ履修できる。廃止科目及び旧名称での履修はできない。

Ⅰ．外国語科目

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
分割	College English Reading	1	College English Reading and Writing	2
	College English Writing	1		
新設	College English Topics Ⅰ	1		
新設	College English Topics Ⅱ	1		
新設	College English Project Ⅰ	1		
新設	College English Project Ⅱ	1		

Ⅱ．キャリア創生共通科目

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
新設	医療概論	2		
新設	先端材料概論	2		
新設	創薬概論	2		
新設	食品・化粧品概論	2		

Ⅲ．文学部

1. 共通・関連科目

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
廃止			教育史	2

変更内容	科目名称	単位	旧区分
配置変更	ことばの研究	2	文学部日本語日本文学科
配置変更	日本語教授法研究Ⅱ	2	文学部日本語日本文学科

Ⅳ．理工学部

1. 生物学科

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
名称変更	熱・統計力学	2	熱力学	2

2. 理工学部共通・関連科目

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
廃止			地学実験	3

Ⅴ．法学部

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
廃止			福祉法政策	2
廃止			法学部情報処理Ⅰ	2
廃止			法学部情報処理Ⅱ	2

Ⅵ. 経営学部

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
廃　止			実践的経営シミュレーション演習	4

Ⅶ. 知能情報学部

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
名称変更	数値解析	2	解析学Ⅱ	2
名称変更	認知情報科学	2	ブレインサイエンスⅡ	2
名称変更	代数学	2	代数学Ⅰ	2
名称変更	応用代数学	2	代数学Ⅱ	2
名称変更	解析学	2	解析学Ⅰ	2
名称変更	幾何学	2	幾何学Ⅰ	2
廃　止			ブレインサイエンスⅠ	2
廃　止			数値プログラミング技法	2
廃　止			生理計測学	2
廃　止			幾何学Ⅱ	2

Ⅷ. マネジメント創造学部

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
新　設	Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅰ	4		
新　設	Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅱ	4		
新　設	Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅲ	4		
新　設	Academic Success Workshop (CALA)	2		
新　設	外国留学科目Ⅰ	2		
新　設	外国留学科目Ⅱ	2		
新　設	外国留学科目Ⅲ	3		
新　設	外国留学科目Ⅳ	3		
廃　止			Academic Foundations Workshop Ⅰ	2
廃　止			Academic Foundations Workshop Ⅱ	2
廃　止			Academic Success Workshop Ⅰ	2
廃　止			Academic Success Workshop Ⅱ	2
単位数変更	Academic Subject Ⅰ	2	Academic Subject Ⅰ	3
単位数変更	Academic Subject Ⅱ	2	Academic Subject Ⅱ	3
単位数変更	Academic Subject Ⅲ	2	Academic Subject Ⅲ	3
単位数変更	Academic Subject Ⅳ	2	Academic Subject Ⅳ	3

変更内容	科目名称	単位	旧区分
配置変更	大学日本語中級Ⅱ	4	外国語科目（中級外国語）
配置変更	大学日本語上級Ⅱ	4	外国語科目（上級外国語）

Ⅸ. フロンティアサイエンス学部

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
分　割	生物学基礎実験1	1	ナノバイオラボベーシックA	2
	化学基礎実験1	1		
分　割	生物学基礎実験2	1	ナノバイオラボベーシックB	2
	化学基礎実験2	1		

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
分割	生物学応用実験１	2	ナノバイオラボ１Ａ	4
	化学応用実験１	2		
分割	生物学応用実験２	2	ナノバイオラボ１Ｂ	4
	化学応用実験２	2		
新設	実践プレゼンテーション	2		
新設	化粧品関連研究開発論	2		
新設	理系キャリア実習	1		
新設	医療概論	2		
新設	先端材料概論	2		
新設	創薬概論	2		
新設	食品・化粧品概論	2		
新設	科学英語プレゼンテーション演習４	1		
名称変更	生物学序論	2	ナノバイオサイエンス序論	2
名称変更	化学序論	2	ケミカルサイエンス序論	2
名称変更	ナノバイオラボＡ	6	ナノバイオラボ２Ａ	6
名称変更	ナノバイオラボＢ	6	ナノバイオラボ２Ｂ	6
廃止			プレゼンテーション演習１	1
廃止			プレゼンテーション演習２	1
廃止			数学及び演習	3
廃止			日本語表現及び演習	3
廃止			バイオサイエンス序論	2
廃止			ナノサイエンス序論	2
廃止			メディカルサイエンス概論	2
廃止			バイオセンシングと環境	2
廃止			国際産学コーディネーター	2
廃止			科学と健康	2
廃止			科学と産業政策	2
廃止			科学英語コミュニケーション１	1
廃止			科学英語コミュニケーション２	1
廃止			安全倫理工学	2

変更内容	科目名称	単位	旧区分
配置変更	数学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	物理学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	化学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	生物学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	地学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	生命化学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	地球の歴史	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	生物の歴史	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	自然と人間	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	自然科学史	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	技術の歴史	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	環境と地理	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	現代生活と物理学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	現代生活と生物学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	現代生活と数理科学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	現代生活と最先端科学	2	基礎共通科目(自然科学系)

変更内容	科目名称	単位	旧区分
配置変更	核と環境	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	環境の化学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	大気と海洋	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	国際化と情報ネットワーク	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	国際社会における最先端科学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	現代生活と生命化学	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	Science in the World Today	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	Science, Technology and SDGs	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	Ｓｃｉｅｎｃｅ Ｎｅｗｓ	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	知能情報	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	生体情報	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	感性情報	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	生命情報	2	基礎共通科目(自然科学系)
配置変更	認知科学	2	基礎共通科目(自然科学系)

Ⅹ. グローバル教養学環

変更内容	科目名称	単位	旧区分
配置変更	大学日本語中級Ⅰ	4	外国語科目（中級外国語）
配置変更	大学日本語中級Ⅱ	4	外国語科目（中級外国語）
配置変更	大学日本語上級Ⅰ	4	外国語科目（上級外国語）
配置変更	大学日本語上級Ⅱ	4	外国語科目（上級外国語）

Ⅺ. 教職に関する専門科目

変更内容	新名称	単位	旧名称	単位
廃止			教育史	2

全学共通科目

基礎共通科目

外国語科目

保健体育科目

キャリア創生共通科目

副専攻に関する科目

単位互換科目

全学共通科目について

1. 全学共通科目の構成

全学共通科目は基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、副専攻科目のほか、単位互換科目で構成される。

2. 全学共通科目の特徴について

(1) 必修科目として位置付けられる科目（基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目）

基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目については、文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部、知能情報学部、マネジメント創造学部（外国語科目を除く）、フロンティアサイエンス学部、グローバル教養学環の必修科目として位置付けられており、卒業するためには所定の単位を修得しなければならない。

(2) 自身の興味・関心に応じて学ぶことができる

全学共通科目では学生自身の興味・関心に応じて学ぶことができるようになっている。学生一人ひとりの天賦の特性を啓発する意味でも、積極的に活用されたい。なお、修得した単位の取扱いは、入学年度や学部・学科および学環によって異なるので、必ず、所属する学部・学科および学環のページを参照すること。

(3) 副専攻制度について

学生が目的や個性に応じて学びを広げることができる「彩り教育」の一環として、所属する学部・学科および学環の教育課程に加え、全学共通科目による副専攻を設けている。各副専攻で定められた単位を修得すると、卒業時に大学から修了証書が授与される。詳細は「副専攻に関する科目」のページを参照すること。

全学共通科目

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学(以下「本学」という)では、学則第１条に定める、学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。

その実現のために、４年以上在学し本学の学位プログラムの課程を修め、各学部及び学環所定の必要単位数を修得することを通して、下記の能力・資質を身につけ、それらを社会生活において総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としています。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 専攻分野に関して基本的な知識を修得しています。
(5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
(6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針（DP）	
(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	専攻分野に関して基本的な知識を修得しています。
(5)	自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
(6)	事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与（DP）の方針の番号
A	人文科学、自然科学、社会科学に関する基礎的知識をもとに、多角的に物事を理解・考察する力を有している。	(2) (3)
B	大学での主体的な学びの姿勢とそれに必要な知識・技能を身につけ、甲南大学の建学の精神と教育理念を理解することができる。	(1) (5)
C	外国語によるコミュニケーション能力や多様な文化・価値観を理解しようとする姿勢及び能力を有している。	(3)
D	スポーツに親しみ、心身共に健康で文化的な生活を生涯にわたり営む社会の実現に寄与できる人材としての素養を身につけている。	(3)
E	キャリア形成に向けて、社会で必要とされる多様な実践的応用能力を身につけ、自らの興味・関心をもとに将来の進路を構想することができる。	(2) (6)

授業科目表（全学共通科目）　〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標				
						A	B	C	D	E
基礎共通科目	人文科学系	A群 リベラルアーツ	哲学	2	1	○				
			倫理学	2	1	○				
			心理学	2	1	○				
			歴史学	2	1	○				
			文学	2	1	○				
			哲学プラクティス	2	1	○				
			女性学	2	1	○				
			現代の芸術	2	1	○				
			宗教学	2	1	○				

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標				
						A	B	C	D	E
基礎共通科目	人文科学系	B群 人間を学ぶ	生態人類学	2	1	○				
			環境と文学	2	1	○				
			芸術と社会	2	1	○				
			生命と倫理	2	1	○				
			人権（同和）の問題	2	1	○				
			感情・人格心理学	2	1	○				
			DE&I 入門	2	1	○				
		C群 文化を学ぶ	ことばと社会	2	1	○				
			コミュニケーション論	2	1	○				
			イメージと文化	2	1	○				
			日本語の諸相	2	1	○				
			比較文化	2	1	○				
			芸術学基礎論	2	1	○				
			現代思想	2	1	○				
			近現代の文学	2	1	○				
			日本研究	2	1	○				
			越境する文化と文学	2	1	○				
			伝統文化を学ぶ	2	1	○				
		D群 歴史を学ぶ	社会思想史	2	1	○				
			歴史と文化	2	1	○				
			文学と歴史	2	1	○				
			地域と文化	2	1	○				
			芸術史	2	1	○				
			歴史とメディア	2	1	○				
			国際化の歴史	2	1	○				
			生活の歴史	2	1	○				
	社会科学系	A群 リベラルアーツ	社会学	2	1	○				
			法学	2	1	○				
			経済学	2	1	○				
			経営学	2	1	○				
			政治学	2	1	○				
			地理学	2	1	○				
			国際関係論	2	1	○				
		B群 経済を学ぶ	産業と経済	2	1	○				
			企業と情報	2	1	○				
			歴史と経済	2	1	○				
			現代社会と企業	2	1	○				
			世界と経済	2	1	○				
			暮らしと経済	2	1	○				
			福祉と経済	2	1	○				
			社会とファイナンス	2	1	○				
			SDGs と ISO 国際標準	2	1	○				
		C群 社会を学ぶ	現代社会論	2	1	○				
			現代都市論	2	1	○				
			公共哲学	2	1	○				
			環境人間学	2	1	○				
			社会福祉論	2	1	○				
			家族関係論	2	1	○				
			歴史と社会	2	1	○				
			ボランティア論	2	1	○				
			グローバリゼーションと文化	2	1	○				
			地域連携入門	2	1	○				
			地域とメディア	2	1	○				
		D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	2	1	○				
			社会生活と法	2	1	○				
			現代政治論	2	1	○				
			法と情報	2	1	○				
			環境法学	2	1	○				

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標				
						A	B	C	D	E
基礎共通科目	社会科学系	D群 法と政治を学ぶ	家族関係と法	2	1	○				
			少子高齢社会と法	2	1	○				
			財産と法	2	1	○				
			消費者問題	2	1	○				
			市場と法	2	1	○				
			組織と法	2	1	○				
			まちづくりと行政	2	1	○				
			地域創生	2	1	○				
	自然科学系	A群 リベラルアーツ	数学	2	1	○				
			物理学	2	1	○				
			化学	2	1	○				
			生物学	2	1	○				
			地学	2	1	○				
			生命化学	2	1	○				
		B群 自然の歴史を学ぶ	地球の歴史	2	1	○				
			生物の歴史	2	1	○				
			自然と人間	2	1	○				
			自然科学史	2	1	○				
			技術の歴史	2	1	○				
			環境と地理	2	1	○				
		C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	2	1	○				
			現代生活と生物学	2	1	○				
			現代生活と数理科学	2	1	○				
			現代生活と最先端科学	2	1	○				
			核と環境	2	1	○				
			環境の化学	2	1	○				
			大気と海洋	2	1	○				
			国際化と情報ネットワーク	2	1	○				
			国際社会における最先端科学	2	1	○				
			現代生活と生命化学	2	1	○				
			Science in the World Today	2	1	○				
			Science, Technology and SDGs	2	1	○				
			Science News	2	1	○				
		D群 情報を学ぶ	知能情報	2	1	○				
			生体情報	2	1	○				
			感性情報	2	1	○				
			生命情報	2	1	○				
			認知科学	2	1	○				
	学際融合系		ケアの倫理	2	1	○				
			ライフプラン教育	2	1	○				
			癒しの諸相	2	1	○				
			自己の探求	2	1	○				
			心の健康科学	2	1	○				
			保健衛生	2	1	○				
			人体の構造と機能及び疾病	2	1	○				
			環境教育の実践	2	1	○				
			食品科学	2	1	○				
			フロントランナー講座	2	1	○				
			情報社会のセキュリティ	2	1	○				
			社会を読み解く（クリティカルシンキング）	2	1	○				
			文章表現論	2	1	○				

授業科目名					単位数	配当年次	到達目標				
							A	B	C	D	E
基礎共通科目	国際言語文化系			ヨーロッパの文化を学ぶ	2	1	○				
				アジアの文化を学ぶ	2	1	○				
				ヨーロッパの言語と社会	2	1	○				
				アジアの言語と社会	2	1	○				
				国際理解	2	1	○				
				国際理解 English	2	1	○				
				日本理解	2	1	○				
				Japan Topics	2	1	○				
				Culture Topics I	2	1	○				
				Culture Topics II	2	1	○				
				English for Science	2	1	○				
				Science Writing	2	1	○				
	スポーツ健康系			スポーツ心理学	2	1	○				
				スポーツ運動学	2	1	○				
				スポーツ文化論	2	1	○				
				スポーツマネジメント	2	1	○				
				生涯スポーツ論	2	1	○				
				スポーツ社会学	2	1	○				
				スポーツ医学	2	1	○				
				運動生理学	2	1	○				
				健康と生命科学	2	1	○				
				スポーツコーチング論	2	1	○				
				トレーニング論	2	1	○				
				基礎スポーツ健康科学	2	1	○				
	導入共通科目			甲南大学と平生釟三郎	2	1		○			
				共通基礎演習	2	1		○			
				IT 基礎	2	1		○			
				AI・データサイエンス入門	2	1		○			
外国語科目	基礎外国語	英語	Skill-based	College English Reading	1	1			○		
				College English Writing	1	1			○		
				College English Listening	1	1			○		
				College English Speaking	1	1			○		
			Content/ Project-based	College English Topics Ⅰ	1	1			○		
				College English Topics Ⅱ	1	1			○		
				College English Project Ⅰ	1	1			○		
				College English Project Ⅱ	1	1			○		
		ドイツ語		基礎ドイツ語Ⅰ	2	1			○		
				基礎ドイツ語Ⅱ	2	1			○		
		フランス語		基礎フランス語Ⅰ	2	1			○		
				基礎フランス語Ⅱ	2	1			○		
		中国語		基礎中国語Ⅰ	2	1			○		
				基礎中国語Ⅱ	2	1			○		
		韓国語		基礎韓国語Ⅰ	2	1			○		
				基礎韓国語Ⅱ	2	1			○		
		日本語		大学日本語入門Ⅰ	2	1			○		
				大学日本語入門Ⅱ	2	1			○		
	中級外国語	英語	Skill-based	中級英語 Speaking	4	2			○		
				中級英語 Presentation	4	2			○		
				中級英語 Listening	4	2			○		
				中級英語 Reading	4	2			○		
				中級英語 Writing	4	2			○		
				中級英語 Pronunciation	2	2			○		
			Test Preparation	中級英語 TOEIC	4	2			○		

授業科目名					単位数	配当年次	到達目標				
							A	B	C	D	E
外国語科目	中級外国語	英語	Content-based	中級英語 Global Topics Ⅰ	2	2			○		
				中級英語 Global Topics Ⅱ	2	2			○		
				中級英語 Life Topics Ⅰ	2	2			○		
				中級英語 Life Topics Ⅱ	2	2			○		
				中級英語 Career English Ⅰ	2	2			○		
				中級英語 Career English Ⅱ	2	2			○		
		ドイツ語		中級ドイツ語Ⅰ	4	2			○		
				中級ドイツ語Ⅱ	4	2			○		
				中級ドイツ語Ⅲ	4	2			○		
				中級ドイツ語Ⅳ	4	2			○		
		フランス語		中級フランス語Ⅰ	4	2			○		
				中級フランス語Ⅱ	4	2			○		
				中級フランス語Ⅲ	4	2			○		
				中級フランス語Ⅳ	4	2			○		
		中国語		中級中国語Ⅰ	4	2			○		
				中級中国語Ⅱ	4	2			○		
				中級中国語Ⅲ	4	2			○		
				中級中国語Ⅳ	4	2			○		
		韓国語		中級韓国語Ⅰ	4	2			○		
				中級韓国語Ⅱ	4	2			○		
				中級韓国語Ⅲ	4	2			○		
				中級韓国語Ⅳ	4	2			○		
		外国留学科目		外国留学科目Ⅰ	4	2			○		
				外国留学科目Ⅱ	4	2			○		
				外国留学科目Ⅲ	4	2			○		
				外国留学科目Ⅳ	4	2			○		
		日本語		大学日本語中級Ⅰ	4	2			○		
				大学日本語中級Ⅱ	4	2			○		
	上級外国語	英語	Test Preparation	上級英語 TOEIC	4	3・4			○		
			Content-based	上級英語 Global Topics Ⅰ	2	3・4			○		
				上級英語 Global Topics Ⅱ	2	3・4			○		
				上級英語 Life Topics Ⅰ	2	3・4			○		
				上級英語 Life Topics Ⅱ	2	3・4			○		
				上級英語 Career English Ⅰ	2	3・4			○		
				上級英語 Career English Ⅱ	2	3・4			○		
		ドイツ語		上級ドイツ語Ⅰ	4	3・4			○		
				上級ドイツ語Ⅱ	4	3・4			○		
		フランス語		上級フランス語Ⅰ	4	3・4			○		
				上級フランス語Ⅱ	4	3・4			○		
		中国語		上級中国語Ⅰ	4	3・4			○		
				上級中国語Ⅱ	4	3・4			○		
		韓国語		上級韓国語Ⅰ	4	3・4			○		
				上級韓国語Ⅱ	4	3・4			○		
		外国留学科目		上級外国留学科目Ⅰ	4	3・4			○		
				上級外国留学科目Ⅱ	4	3・4			○		
		日本語		大学日本語上級Ⅰ	4	3・4			○		
				大学日本語上級Ⅱ	4	3・4			○		
	海外語学講座・留学支援科目			海外語学講座Ⅰ	4	1			○		
				海外語学講座Ⅱ	4	1			○		
				海外語学講座Ⅲ	2	1			○		
				海外語学講座Ⅳ	2	1			○		
				TOEFL Ⅰ	2	1			○		
				TOEFL Ⅱ	2	2			○		
				IELTS Ⅰ	2	1			○		

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標				
					A	B	C	D	E
外国語科目	海外語学講座・留学支援科目	IELTS Ⅱ	2	2			○		
		English Regions Ⅰ	2	1			○		
		English Regions Ⅱ	2	1			○		
		English Regions Ⅲ	2	2			○		
		English Regions Ⅳ	2	2			○		
		German Studies Ⅰ	2	1			○		
		German Studies Ⅱ	2	2			○		
		German Studies Ⅲ	2	2			○		
		German Studies Ⅳ	2	2			○		
		French Studies Ⅰ	2	1			○		
		French Studies Ⅱ	2	2			○		
		French Studies Ⅲ	2	2			○		
		French Studies Ⅳ	2	2			○		
		Chinese Studies Ⅰ	2	1			○		
		Chinese Studies Ⅱ	2	2			○		
		Chinese Studies Ⅲ	2	2			○		
		Chinese Studies Ⅳ	2	2			○		
		Korean Studies Ⅰ	2	1			○		
		Korean Studies Ⅱ	2	2			○		
		Korean Studies Ⅲ	2	2			○		
		Korean Studies Ⅳ	2	2			○		
保健体育科目		スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	1	1				○	
		スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	1	1				○	
	生涯スポーツ	生涯スポーツ・バドミントンⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・バドミントンⅡ	1	2				○	
		生涯スポーツ・硬式テニスⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・硬式テニスⅡ	1	2				○	
		生涯スポーツ・卓球Ⅰ	1	2				○	
		生涯スポーツ・エアロビクスⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・ゴルフⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・ゴルフⅡ	1	2				○	
		生涯スポーツ・健康柔道Ⅰ	1	2				○	
		生涯スポーツ・健康柔道Ⅱ	1	2				○	
		生涯スポーツ・バスケットボールⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・バスケットボールⅡ	1	2				○	
		生涯スポーツ・バレーボールⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・バレーボールⅡ	1	2				○	
		生涯スポーツ・フットサルⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・フットサルⅡ	1	2				○	
		生涯スポーツ・レクレーショナルスポーツⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・レクレーショナルスポーツⅡ	1	2				○	
		生涯スポーツ・ジョギングⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・トレーニング実習Ⅰ	1	2				○	
		生涯スポーツ・トレーナー実習Ⅰ	1	2				○	
		生涯スポーツ・フィットネス実習Ⅰ	1	2				○	
		生涯スポーツ・スノースポーツⅠ	1	2				○	
		生涯スポーツ・スノースポーツⅡ	1	2				○	
キャリア創生共通科目	演習	共通応用演習Ⅰ	2	3					○
		共通応用演習Ⅱ	2	3					○
		文理融合総合研究	8	4					○
	キャリアデザイン系	ベーシック・キャリアデザイン	2	1					○
		キャリア実習	2	1					○
		キャリアゼミ	2	2					○
		プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2	2					○
		プラクティカル・キャリアデザインⅡ	2	3					○
		アドバンスト・キャリアデザイン	2	4					○

		授業科目名	単位数	配当年次	到達目標				
					A	B	C	D	E
キャリア創生共通科目	ビジネス系	入門マネジメント	2	2					○
		実践マネジメント	2	2					○
		入門パーソナルファイナンス	2	2					○
		応用パーソナルファイナンス	2	2					○
		入門ビジネス会計	2	2					○
		実践ビジネス会計	2	2					○
		入門商業簿記Ⅰ	2	2					○
		入門商業簿記Ⅱ	2	2					○
		中級簿記	4	2					○
		工業簿記	4	2					○
		上級簿記Ⅰ	2	2					○
		上級簿記Ⅱ	2	2					○
		上級財務諸表論Ⅰ	2	2					○
		上級財務諸表論Ⅱ	2	2					○
		上級工業簿記	2	2					○
		上級原価計算	2	2					○
		起業・アントレプレナーシップを学ぶ	2	2					○
		医療概論	2	1					○
		先端材料概論	2	1					○
		創薬概論	2	1					○
		食品・化粧品概論	2	1					○
	政策・法務系	ビジネスを支える法の世界	2	3					○
		入門ビジネス法務	2	2					○
		実践ビジネス法務	2	2					○
		入門民法　財産法編Ⅰ	2	2					○
		入門民法　財産法編Ⅱ	2	2					○
		実践民法Ⅰ	2	3					○
		実践民法Ⅱ	2	3					○
		実践民法Ⅲ	2	3					○
		実践民法Ⅳ	2	3					○
		実践民法Ⅴ	2	3					○
		実践民法Ⅵ	2	3					○
		入門商法　会社法編	2	2					○
		証券市場と法	2	3					○
		金融取引と法	2	3					○
		証券業と法	2	3					○
		公共政策論Ⅰ	2	2					○
		公共政策論Ⅱ	2	2					○
		知的財産とイノベーションⅠ	2	2					○
		知的財産とイノベーションⅡ	2	2					○
	情報系	IT 応用	2	1					○
		情報通信テクノロジⅠ	2	1					○
		情報通信テクノロジⅡ	2	1					○
		ICT セキュリティ	2	2					○
		基本情報技術	2	3					○
		統計基礎	2	1					○
		データサイエンス基礎	2	2					○
		統計活用情報分析Ⅰ	2	2					○
		統計活用情報分析Ⅱ	2	2					○
	国際系	グローバル・コミュニケーションⅠ	4	2					○
		グローバル・コミュニケーションⅡ	4	2					○
		エリアスタディーズⅠ	2	1					○
		エリアスタディーズⅡ	2	1					○
		エリアスタディーズⅢ	2	1					○

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標				
					A	B	C	D	E
キャリア創生共通科目	国際系	エリアスタディーズⅣ	2	1					○
		エリアスタディーズⅤ	2	1					○
		エリアスタディーズⅥ	2	1					○
		エリアスタディーズⅦ	2	1					○
		エリアスタディーズⅧ	2	1					○
		エリアスタディーズⅨ	2	1					○
		エリアスタディーズⅩ	2	1					○
		世界の中の日本Ⅰ	2	2					○
		世界の中の日本Ⅱ	2	2					○
		海外ボランティアⅠ	4	1					○
		海外ボランティアⅡ	2	1					○
		海外キャリア実習	4	2					○
	ボランティア・地域連携系	実践ボランティアⅠ	1	1					○
		実践ボランティアⅡ	1	1					○
		地域ファシリテイト	2	2					○
		地域プロジェクトⅠ	2	1					○
		地域プロジェクトⅡ	2	1					○
	福祉・スポーツ健康科学系	応用スポーツ健康科学	2	2					○
		障害者・障害児心理学	2	3・4					○
		福祉心理学	2	2					○
副専攻科目		副専攻外国留学科目Ⅰ	2	1					○
		副専攻外国留学科目Ⅱ	2	1					○
		副専攻演習	2	3					○

基礎共通科目の概要

私たちが生きる現代社会においては、つねに唯一の正しい答えがあるとは限らない。複数の答えがある場合や、そもそも答えのない場合さえある。こうした社会を生きるうえで、正しいと思われる判断を行うには、正確な情報に基づき、論理的に思考し、結論を導くことが何より重要であるが、そのためには学部・学環で身に付けるべき体系的な専門的知識以外に、専門外の多様な基本的知識や概念をある定まった視点に立って体系的・系統的に修得することが必要となる。基礎共通科目は、そうした広範な教養を身に付けることを主たる目的としたものである。

基礎共通科目においては、科学系統群により幅広く基礎教養を学ぶことができるよう、授業科目を人文科学系、社会科学系、自然科学系の３系統に、学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系をあわせた６つの系統に分類している。

人文科学系、社会科学系、自然科学系の３系統については、科目の内容に応じてさらに４つの「群」に分けており、様々な知識をバランス良く身に付けるためには、各「群」から各１科目２単位以上を修得することが望まれる。なお、各系統のＡ群はリベラルアーツとしているが、これは古代ギリシャに起源をもち、自由七科（文法、修辞、論理、算術、幾何、天文、音楽）を基本とする「人を自由にする学問」にちなむ名称であり、各系統の基本的な領域の科目を配置している。

学部・学環で履修する専門教育科目以外に、こうした基礎共通科目の履修を通して、社会で生きていくうえでの広範な教養や知識を身に付けることができる環境が整っている。また、一部の科目では実社会において豊富な経験を積んだ実務家教員が担当するなど、学問の追及と実践的教育のバランスを考慮したカリキュラムとしている。したがって、卒業必要単位の修得に止まるのではなく、各自の専門分野との関連から、あるいはより広い学びへの知的好奇心から、基礎共通科目を積極的に履修してほしい。

各系統の構成について

各系統の構成は以下に示すが、科目の内容については、『シラバス』をよく読んで履修すること。

1. 人文科学系

本領域は、人間の精神や文化を主な研究対象とする人文科学に属する科目を、Ａ群：リベラルアーツ、Ｂ群：人間を学ぶ、Ｃ群：文化を学ぶ、Ｄ群：歴史を学ぶ　の４つの群に分けて配置している。

2. 社会科学系

本領域は、人間集団や社会の在り方を主な研究対象とする社会科学に属する科目を、Ａ群：リベラルアーツ、Ｂ群：経済を学ぶ、Ｃ群：社会を学ぶ、Ｄ群：法と政治を学ぶ　の４つの群に分けて配置している。

3. 自然科学系

本領域は、自然界の様々な現象を研究対象とする自然科学に属する科目を、A 群：リベラルアーツ、B 群：自然の歴史を学ぶ、C 群：現代科学を学ぶ、D 群：情報を学ぶ　の 4 つの群に分けて配置している。

4. 学際融合系

本領域は、単純に 3 つの科学系統のひとつに当てはめることのできない、学問の内容が複数の異なる領域にまたがる学際的、融合的な科目群である。

5. 国際言語文化系

本領域は、英語および第 2 外国語圏の文化、歴史、生活習慣、考え方、日本との関わりなどを学ぶことで国際理解・異文化理解を深めるための科目群である。

6. スポーツ健康系

本領域は、スポーツと健康について、人文科学、社会科学、自然科学の切り口から学びを深める科目群である。

7. 導入共通科目

導入共通科目は、高校までの勉強を大学での「学び」へとスムーズに繋ぐとともに、甲南大学学生としての自覚と誇りを身に付けることを目的とした、初年次導入教育として重要な意味をもつ科目群である。

(1)「甲南大学と平生釟三郎」

甲南学園創立者である平生釟三郎や甲南を巣立っていった人物などについて、毎回異なる講師が様々な角度からとりあげる。また、卒業生に登壇いただき、自らの在学時の様子や現在の状況について語っていただくことにより、甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える科目である。

(2)「共通基礎演習」

甲南大学の建学の精神や教育理念について認識を深め、“甲南大学での学び”の意義を考え、学生生活を“より良き”ものとし、社会人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生（人生のデザイン）に対する認識を醸成していくことを目的とした科目である。学部・学環をこえた少人数のグループを作り、ひとつのテーマを共同で研究する方法をとるため、履修者数に制限を設けている。なお、導入教育という趣旨から、1 年次のみを対象とし、2 年次以上の履修は原則として認めない。

(3)「IT 基礎」

学部・学環学生が専門科目を履修する際や社会人になってから必要となる、情報活用や情報発信に関する基礎的能力の向上を目標としたものである。実習設備に限りがあるため、履修者数に制限を設けている。

(4)「AI・データサイエンス入門」

今日の社会において新たに求められている、情報を集め、整理し、分析し、新しい価値を生み出すための、数理・ＡＩ・データサイエンスの基礎知識を学ぶ科目である。コンピュータを用いた基礎的な実習、データを扱うためのセキュリティや最新の研究トピックにも触れながら学びを深める。

【卒業必要単位数】

基礎共通科目の卒業に必要な単位数は、文学部、経済学部、法学部、経営学部、グローバル教養学環にあっては 18 単位、理工学部、知能情報学部にあっては 16 単位、マネジメント創造学部にあっては 8 単位、フロンティアサイエンス学部にあっては 10 単位である。履修方法などの詳細は、『基礎共通科目 授業科目表』を参照すること。

〔科目履修上の諸注意〕

1. 基礎共通科目の履修は下表のとおり開始する。

学部・学環	履修開始時期
文学部・経済学部・法学部・経営学部	1 年次後期より開始する。ただし、『導入共通科目』の履修は 1 年次前期より開始する。
理工学部・知能情報学部 マネジメント創造学部・グローバル教養学環	1 年次前期より開始する。
フロンティアサイエンス学部	1 年次後期より開始する。

2. 1 年次に履修できる基礎共通科目の単位数については学部・学科および学環により上限が異なるため、注意すること。
3. 履修できる導入共通科目は所属する学部・学環によって下表のとおり異なるので注意すること。

学部・学環	履修できる導入共通科目
文学部・経済学部・法学部・経営学部	「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」
理工学部・知能情報学部・マネジメント創造学部 フロンティアサイエンス学部	「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」
グローバル教養学環	「甲南大学と平生釟三郎」 「共通基礎演習」「IT 基礎」

4. 副専攻は、全学共通科目により、カリキュラムが設計されている。副専攻を選択することにより、卒業に必要となる基礎共通科目の履修方法の一部が変わるため、副専攻を選択した学生はそれぞれ、国際言語文化副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』、スポーツ健康副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』を確認すること。

基礎共通科目　授業科目表　〔2025 年度（令和 7 年度）以降の入学生に適用〕

	人文科学系		社会科学系		自然科学系	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
A群	【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】	
	哲学	2	社会学	2	数学	2
	倫理学	2	法学	2	物理学	2
	心理学	2	経済学	2	化学	2
	歴史学	2	経営学	2	生物学	2
	文学	2	政治学	2	地学	2
	哲学プラクティス	2	地理学	2	生命化学	2
	女性学	2	国際関係論	2		
	現代の芸術	2				
	宗教学	2				
B群	【人間を学ぶ】		【経済を学ぶ】		【自然の歴史を学ぶ】	
	生態人類学	2	産業と経済	2	地球の歴史	2
	環境と文学	2	企業と情報	2	生物の歴史	2
	芸術と社会	2	歴史と経済	2	自然と人間	2
	生命と倫理	2	現代社会と企業	2	自然科学史	2
	人権（同和）の問題	2	世界と経済	2	技術の歴史	2
	感情・人格心理学	2	暮らしと経済	2	環境と地理	2
	DE&I入門	2	福祉と経済	2		
			社会とファイナンス	2		
			SDGsとISO国際標準	2		
C群	【文化を学ぶ】		【社会を学ぶ】		【現代科学を学ぶ】	
	ことばと社会	2	現代社会論	2	現代生活と物理学	2
	コミュニケーション論	2	現代都市論	2	現代生活と生物学	2
	イメージと文化	2	公共哲学	2	現代生活と数理科学	2
	日本語の諸相	2	環境人間学	2	現代生活と最先端科学	2
	比較文化	2	社会福祉論	2	核と環境	2
	芸術学基礎論	2	家族関係論	2	環境の化学	2
	現代思想	2	歴史と社会	2	大気と海洋	2
	近現代の文学	2	ボランティア論	2	国際化と情報ネットワーク	2
	日本研究	2	グローバリゼーションと文化	2	国際社会における最先端科学	2
	越境する文化と文学	2	地域連携入門	2	現代生活と生命化学	2
	伝統文化を学ぶ	2	地域とメディア	2	Science in the World Today	2
					Science, Technology and SDGs	2
					Science News	2
D群	【歴史を学ぶ】		【法と政治を学ぶ】		【情報を学ぶ】	
	社会思想史	2	日本国憲法	2	知能情報	2
	歴史と文化	2	社会生活と法	2	生体情報	2
	文学と歴史	2	現代政治論	2	感性情報	2
	地域と文化	2	法と情報	2	生命情報	2
	芸術史	2	環境法学	2	認知科学	2
	歴史とメディア	2	家族関係と法	2		
	国際化の歴史	2	少子高齢社会と法	2		
	生活の歴史	2	財産と法	2		
			消費者問題	2		
			市場と法	2		
			組織と法	2		
			まちづくりと行政	2		
			地域創生	2		

学際融合系		国際言語文化系		スポーツ健康系	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
ケアの倫理	2	ヨーロッパの文化を学ぶ	2	スポーツ心理学	2
ライフプラン教育	2	アジアの文化を学ぶ	2	スポーツ運動学	2
癒しの諸相	2	ヨーロッパの言語と社会	2	スポーツ文化論	2
自己の探求	2	アジアの言語と社会	2	スポーツマネジメント	2
心の健康科学	2	国際理解	2	生涯スポーツ論	2
保健衛生	2	国際理解English	2	スポーツ社会学	2
人体の構造と機能及び疾病	2	日本理解	2	スポーツ医学	2
環境教育の実践	2	Japan Topics	2	運動生理学	2
食品科学	2	Culture TopicsⅠ	2	健康と生命科学	2
フロントランナー講座	2	Culture TopicsⅡ	2	スポーツコーチング論	2
情報社会のセキュリティ	2	English for Science	2	トレーニング論	2
社会を読み解く(クリティカルシンキング)	2	Science Writing	2	基礎スポーツ健康科学	2
文章表現論	2				

導入共通科目	
【文学部・経済学部・法学部・経営学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
ＩＴ基礎	2
ＡＩ・データサイエンス入門	2
【理工学部・知能情報学部・マネジメント創造学部・フロンティアサイエンス学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
ＡＩ・データサイエンス入門	2
【グローバル教養学環】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
ＩＴ基礎	2

【履修方法】

1　文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上
(2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2 単位以上
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT 基礎」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上

2　基礎外国語として日本語を履修する文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 2 単位以上
(2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2 単位以上
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT 基礎」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上
(4) 外国語科目「大学日本語中級Ⅰ」、「大学日本語中級Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ」、「大学日本語上級Ⅱ」の中から、4 単位以上

3　理工学部および知能情報学部の学生は、次に定めるとおり 16 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位
(2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2 単位
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位

4　マネジメント創造学部の学生は、次に定める授業科目の中から 8 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系、学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目
(2) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」

5　フロンティアサイエンス学部の学生は、次に定める授業科目の中から 10 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、学際融合系（「フロントランナー講座」を除く。）、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目
(2) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」

6　グローバル教養学環の学生は、次に定める授業科目の中から 18 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上
(2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2 単位以上
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT 基礎」の中から、2 単位以上

〔『基礎共通科目』履修上の注意事項〕

履修に際しては、人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目がひとつの群に偏らず、A、B、C、D の各群からバランスよく履修することが望ましい。

国際言語文化副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』

基礎共通科目　授業科目表　〔2025 年度（令和 7 年度）以降の入学生に適用〕

	人文科学系		社会科学系		自然科学系	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
A群	【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】	
	哲学	2	社会学	2	数学	2
	倫理学	2	法学	2	物理学	2
	心理学	2	経済学	2	化学	2
	歴史学	2	経営学	2	生物学	2
	文学	2	政治学	2	地学	2
	哲学プラクティス	2	地理学	2	生命化学	2
	女性学	2	国際関係論	2		
	現代の芸術	2				
	宗教学	2				
B群	【人間を学ぶ】		【経済を学ぶ】		【自然の歴史を学ぶ】	
	生態人類学	2	産業と経済	2	地球の歴史	2
	環境と文学	2	企業と情報	2	生物の歴史	2
	芸術と社会	2	歴史と経済	2	自然と人間	2
	生命と倫理	2	現代社会と企業	2	自然科学史	2
	人権（同和）の問題	2	世界と経済	2	技術の歴史	2
	感情・人格心理学	2	暮らしと経済	2	環境と地理	2
	DE&I入門	2	福祉と経済	2		
			社会とファイナンス	2		
			SDGsとISO国際標準	2		
C群	【文化を学ぶ】		【社会を学ぶ】		【現代科学を学ぶ】	
	ことばと社会	2	現代社会論	2	現代生活と物理学	2
	コミュニケーション論	2	現代都市論	2	現代生活と生物学	2
	イメージと文化	2	公共哲学	2	現代生活と数理科学	2
	日本語の諸相	2	環境人間学	2	現代生活と最先端科学	2
	比較文化	2	社会福祉論	2	核と環境	2
	芸術学基礎論	2	家族関係論	2	環境の化学	2
	現代思想	2	歴史と社会	2	大気と海洋	2
	近現代の文学	2	ボランティア論	2	国際化と情報ネットワーク	2
	日本研究	2	グローバリゼーションと文化	2	国際社会における最先端科学	2
	越境する文化と文学	2	地域連携入門	2	現代生活と生命化学	2
	伝統文化を学ぶ	2	地域とメディア	2	Science in the World Today	2
					Science, Technology and SDGs	2
					Science News	2
D群	【歴史を学ぶ】		【法と政治を学ぶ】		【情報を学ぶ】	
	社会思想史	2	日本国憲法	2	知能情報	2
	歴史と文化	2	社会生活と法	2	生体情報	2
	文学と歴史	2	現代政治論	2	感性情報	2
	地域と文化	2	法と情報	2	生命情報	2
	芸術史	2	環境法学	2	認知科学	2
	歴史とメディア	2	家族関係と法	2		
	国際化の歴史	2	少子高齢社会と法	2		
	生活の歴史	2	財産と法	2		
			消費者問題	2		
			市場と法	2		
			組織と法	2		
			まちづくりと行政	2		
			地域創生	2		

学際融合系		国際言語文化系		スポーツ健康系	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
ケアの倫理	2	ヨーロッパの文化を学ぶ	2	スポーツ心理学	2
ライフプラン教育	2	アジアの文化を学ぶ	2	スポーツ運動学	2
癒しの諸相	2	ヨーロッパの言語と社会	2	スポーツ文化論	2
自己の探求	2	アジアの言語と社会	2	スポーツマネジメント	2
心の健康科学	2	国際理解	2	生涯スポーツ論	2
保健衛生	2	国際理解English	2	スポーツ社会学	2
人体の構造と機能及び疾病	2	日本理解	2	スポーツ医学	2
環境教育の実践	2	Japan Topics	2	運動生理学	2
食品科学	2	Culture TopicsⅠ	2	健康と生命科学	2
フロントランナー講座	2	Culture TopicsⅡ	2	スポーツコーチング論	2
情報社会のセキュリティ	2	English for Science	2	トレーニング論	2
社会を読み解く(クリティカルシンキング)	2	Science Writing	2	基礎スポーツ健康科学	2
文章表現論	2				

導入共通科目	
【文学部・経済学部・法学部・経営学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
IT基礎	2
AI・データサイエンス入門	2
【理工学部・知能情報学部・マネジメント創造学部・フロンティアサイエンス学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
AI・データサイエンス入門	2

外国語科目（指定科目）	
授業科目	単位
中級英語Writing	4
中級英語Presentation	4
中級ドイツ語Ⅰ	4
中級ドイツ語Ⅱ	4
中級フランス語Ⅰ	4
中級フランス語Ⅱ	4
中級中国語Ⅰ	4
中級中国語Ⅱ	4
中級韓国語Ⅰ	4
中級韓国語Ⅱ	4

【履修方法】

1　国際言語文化副専攻に登録した文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、基礎共通科目および外国語科目から次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 2 単位以上
(2) 国際言語文化系の授業科目、外国語科目「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ」、「中級ドイツ語Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ」、「中級フランス語Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ」、「中級中国語Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ」、「中級韓国語Ⅱ」の中から、8 単位
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT 基礎」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上

2　基礎外国語として日本語を履修する文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 2 単位以上
(2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2 単位以上
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT 基礎」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上
(4) 外国語科目「大学日本語中級Ⅰ」、「大学日本語中級Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ」、「大学日本語上級Ⅱ」の中から、4 単位以上

3　国際言語文化副専攻に登録した理工学部および知能情報学部の学生は、次に定めるとおり 16 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 2 単位
(2) 国際言語文化系の授業科目の中から、8 単位
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位

4　マネジメント創造学部の学生は、次に定める授業科目の中から 8 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系、学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目
(2) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」

5　フロンティアサイエンス学部の学生は、次に定める授業科目の中から 10 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、学際融合系（「フロントランナー講座」を除く。）、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目
(2) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」

※グローバル教養学環の学問領域と国際言語文化副専攻の学修内容が近いことから、グローバル教養学環の学生は国際言語文化副専攻に登録できない。

〔国際言語文化副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』履修上の注意事項〕

1. 履修に際しては、ひとつの群に偏らず、A、B、C、D の各群からバランスよく履修することが望ましい。
2. 学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目については、『基礎共通科目』としての卒業必要単位数が所属する学部により下表のとおり異なるので注意すること。

(1) 文学部、経済学部、法学部、経営学部

人文科学系	社会科学系	自然科学系	導入共通科目	学際融合系	スポーツ健康系	国際言語文化系	外国語科目（指定科目）
2 単位	2 単位	2 単位	2 単位			8 単位	
2 単位							

(2) 基礎外国語として日本語を履修する文学部、経済学部、法学部、経営学部の学生の場合

人文科学系	社会科学系	自然科学系	導入共通科目	学際融合系	国際言語文化系	スポーツ健康系	外国語科目（日本語）
2 単位	2 単位	2 単位	2 単位	2 単位			4 単位
4 単位							

(3) 理工学部、知能情報学部

学際融合系・スポーツ健康系	国際言語文化系
卒業必要単位に含まれない	8 単位

(4) マネジメント創造学部

学際融合系・スポーツ健康系	国際言語文化系
卒業必要単位に含まれる	卒業必要単位に含まれる

(5) フロンティアサイエンス学部

学際融合系・スポーツ健康系	国際言語文化系
卒業必要単位に含まれる （「フロントランナー講座」を除く）	卒業必要単位に含まれる

3. 学修計画の変更などにより副専攻修了に向けた学修を断念した場合や結果的に副専攻を修了できなかった場合においても、基礎共通科目の履修方法は変更されない。

スポーツ健康副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』

基礎共通科目　授業科目表　〔2025 年度（令和 7 年度）以降の入学生に適用〕

	人文科学系		社会科学系		自然科学系	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
A群	【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】	
	哲学	2	社会学	2	数学	2
	倫理学	2	法学	2	物理学	2
	心理学	2	経済学	2	化学	2
	歴史学	2	経営学	2	生物学	2
	文学	2	政治学	2	地学	2
	哲学プラクティス	2	地理学	2	生命化学	2
	女性学	2	国際関係論	2		
	現代の芸術	2				
	宗教学	2				
B群	【人間を学ぶ】		【経済を学ぶ】		【自然の歴史を学ぶ】	
	生態人類学	2	産業と経済	2	地球の歴史	2
	環境と文学	2	企業と情報	2	生物の歴史	2
	芸術と社会	2	歴史と経済	2	自然と人間	2
	生命と倫理	2	現代社会と企業	2	自然科学史	2
	人権（同和）の問題	2	世界と経済	2	技術の歴史	2
	感情・人格心理学	2	暮らしと経済	2	環境と地理	2
	DE&I入門	2	福祉と経済	2		
			社会とファイナンス	2		
			SDGsとISO国際標準	2		
C群	【文化を学ぶ】		【社会を学ぶ】		【現代科学を学ぶ】	
	ことばと社会	2	現代社会論	2	現代生活と物理学	2
	コミュニケーション論	2	現代都市論	2	現代生活と生物学	2
	イメージと文化	2	公共哲学	2	現代生活と数理科学	2
	日本語の諸相	2	環境人間学	2	現代生活と最先端科学	2
	比較文化	2	社会福祉論	2	核と環境	2
	芸術学基礎論	2	家族関係論	2	環境の化学	2
	現代思想	2	歴史と社会	2	大気と海洋	2
	近現代の文学	2	ボランティア論	2	国際化と情報ネットワーク	2
	日本研究	2	グローバリゼーションと文化	2	国際社会における最先端科学	2
	越境する文化と文学	2	地域連携入門	2	現代生活と生命化学	2
	伝統文化を学ぶ	2	地域とメディア	2	Science in the World Today	2
					Science, Technology and SDGs	2
					Science News	2
D群	【歴史を学ぶ】		【法と政治を学ぶ】		【情報を学ぶ】	
	社会思想史	2	日本国憲法	2	知能情報	2
	歴史と文化	2	社会生活と法	2	生体情報	2
	文学と歴史	2	現代政治論	2	感性情報	2
	地域と文化	2	法と情報	2	生命情報	2
	芸術史	2	環境法学	2	認知科学	2
	歴史とメディア	2	家族関係と法	2		
	国際化の歴史	2	少子高齢社会と法	2		
	生活の歴史	2	財産と法	2		
			消費者問題	2		
			市場と法	2		
			組織と法	2		
			まちづくりと行政	2		
			地域創生	2		

学際融合系		国際言語文化系		スポーツ健康系	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
ケアの倫理	2	ヨーロッパの文化を学ぶ	2	スポーツ心理学	2
ライフプラン教育	2	アジアの文化を学ぶ	2	スポーツ運動学	2
癒しの諸相	2	ヨーロッパの言語と社会	2	スポーツ文化論	2
自己の探求	2	アジアの言語と社会	2	スポーツマネジメント	2
心の健康科学	2	国際理解	2	生涯スポーツ論	2
保健衛生	2	国際理解English	2	スポーツ社会学	2
人体の構造と機能及び疾病	2	日本理解	2	スポーツ医学	2
環境教育の実践	2	Japan Topics	2	運動生理学	2
食品科学	2	Culture TopicsⅠ	2	健康と生命科学	2
フロントランナー講座	2	Culture TopicsⅡ	2	スポーツコーチング論	2
情報社会のセキュリティ	2	English for Science	2	トレーニング論	2
社会を読み解く(クリティカルシンキング)	2	Science Writing	2	基礎スポーツ健康科学	2
文章表現論	2				

導入共通科目	
【文学部・経済学部・法学部・経営学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
IT基礎	2
AI・データサイエンス入門	2
【理工学部・知能情報学部・マネジメント創造学部・フロンティアサイエンス学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
AI・データサイエンス入門	2
【グローバル教養学環】	
授業科目	単位
甲南大学と平生釟三郎	2
共通基礎演習	2
IT基礎	2

【履修方法】

1　スポーツ健康副専攻に登録した文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、基礎共通科目から次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 2 単位以上
(2) スポーツ健康系の授業科目の中から、8 単位
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT 基礎」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上

2　基礎外国語として日本語を履修する文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 2 単位以上
(2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2 単位以上
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT 基礎」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上
(4) 外国語科目「大学日本語中級Ⅰ」、「大学日本語中級Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ」、「大学日本語上級Ⅱ」の中から、4 単位以上

3　スポーツ健康副専攻に登録した理工学部および知能情報学部の学生は、次に定めるとおり16単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ2単位
(2) スポーツ健康系の授業科目の中から、8単位
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」の中から、2単位

4　マネジメント創造学部の学生は、次に定める授業科目の中から8単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系、学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目
(2) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」

5　フロンティアサイエンス学部の学生は、次に定める授業科目の中から10単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、学際融合系（「フロントランナー講座」を除く。）、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目
(2) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「AI・データサイエンス入門」

6　スポーツ健康副専攻に登録したグローバル教養学環の学生は、基礎共通科目から次に定めるとおり18単位を修得しなければならない。
(1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ2単位以上
(2) スポーツ健康系の授業科目の中から、8単位
(3) 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」、「共通基礎演習」、「IT基礎」の中から、2単位以上

〔スポーツ健康副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』履修上の注意事項〕

1. 履修に際しては、ひとつの群に偏らず、A、B、C、Dの各群からバランスよく履修することが望ましい。
2. 学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目については、履修方法の変更により『基礎共通科目』としての卒業必要単位数が所属する学部・学環により下表のとおり異なるので注意すること。

(1) 文学部、経済学部、法学部、経営学部、グローバル教養学環

<table>
<tr><th>人文
科学系</th><th>社会
科学系</th><th>自然
科学系</th><th>導入
共通科目</th><th>学際
融合系</th><th>国際言語
文化系</th><th>スポーツ
健康系</th></tr>
<tr><td>2単位</td><td>2単位</td><td>2単位</td><td>2単位</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td rowspan="2">8単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2単位</td></tr>
</table>

(2) 基礎外国語として日本語を履修する文学部、経済学部、法学部、経営学部の学生の場合

<table>
<tr><th>人文
科学系</th><th>社会
科学系</th><th>自然
科学系</th><th>導入
共通科目</th><th>学際
融合系</th><th>国際言語
文化系</th><th>スポーツ
健康系</th><th>外国語科目
（日本語）</th></tr>
<tr><td>2単位</td><td>2単位</td><td>2単位</td><td>2単位</td><td colspan="3">2単位</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td colspan="8">4単位</td></tr>
</table>

(3) 理工学部、知能情報学部

学際融合系・国際言語文化系	スポーツ健康系
卒業必要単位に含まれない	8単位

(4) マネジメント創造学部

学際融合系・国際言語文化系	スポーツ健康系
卒業必要単位に含まれる	卒業必要単位に含まれる

(5) フロンティアサイエンス学部

学際融合系・国際言語文化系	スポーツ健康系
卒業必要単位に含まれる (「フロントランナー講座」を除く)	卒業必要単位に含まれる

3. 学修計画の変更などにより副専攻修了に向けた学修を断念した場合や結果的に副専攻を修了できなかった場合においても、基礎共通科目の履修方法は変更されない。

外国語科目

〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

名称＼学年		1年次		2年次以上		3・4年次	
		基礎外国語		中級外国語		上級外国語	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
英語	Skill-based	College English Reading	1	中級英語Speaking	4		
		College English Writing	1	中級英語Presentation	4		
		College English Listening	1	中級英語Listening	4		
		College English Speaking	1	中級英語Reading	4		
				中級英語Writing	4		
				中級英語Pronunciation	2		
	Content／Project-based	College English Topics Ⅰ	1				
		College English Topics Ⅱ	1				
		College English Project Ⅰ	1				
		College English Project Ⅱ	1				
	Test Preparation			中級英語TOEIC	4	上級英語TOEIC	4
	Content-based			中級英語Global Topics Ⅰ	2	上級英語Global Topics Ⅰ	2
				中級英語Global Topics Ⅱ	2	上級英語Global Topics Ⅱ	2
				中級英語Life Topics Ⅰ	2	上級英語Life Topics Ⅰ	2
				中級英語Life Topics Ⅱ	2	上級英語Life Topics Ⅱ	2
				中級英語Career English Ⅰ	2	上級英語Career English Ⅰ	2
				中級英語Career English Ⅱ	2	上級英語Career English Ⅱ	2
ドイツ語		基礎ドイツ語Ⅰ	2	中級ドイツ語Ⅰ	4	上級ドイツ語Ⅰ	4
		基礎ドイツ語Ⅱ	2	中級ドイツ語Ⅱ	4	上級ドイツ語Ⅱ	4
				中級ドイツ語Ⅲ	4		
				中級ドイツ語Ⅳ	4		

フランス語	基礎フランス語Ⅰ	2	中級フランス語Ⅰ	4	上級フランス語Ⅰ	4
	基礎フランス語Ⅱ	2	中級フランス語Ⅱ	4	上級フランス語Ⅱ	4
			中級フランス語Ⅲ	4		
			中級フランス語Ⅳ	4		
中国語	基礎中国語Ⅰ	2	中級中国語Ⅰ	4	上級中国語Ⅰ	4
	基礎中国語Ⅱ	2	中級中国語Ⅱ	4	上級中国語Ⅱ	4
			中級中国語Ⅲ	4		
			中級中国語Ⅳ	4		
韓国語	基礎韓国語Ⅰ	2	中級韓国語Ⅰ	4	上級韓国語Ⅰ	4
	基礎韓国語Ⅱ	2	中級韓国語Ⅱ	4	上級韓国語Ⅱ	4
			中級韓国語Ⅲ	4		
			中級韓国語Ⅳ	4		
日本語	大学日本語入門Ⅰ	2	大学日本語中級Ⅰ	4	大学日本語上級Ⅰ	4
	大学日本語入門Ⅱ	2	大学日本語中級Ⅱ	4	大学日本語上級Ⅱ	4
英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語共通 （留学先で取得した単位の読替え用の科目）			外国留学科目Ⅰ	4	上級外国留学科目Ⅰ	4
			外国留学科目Ⅱ	4	上級外国留学科目Ⅱ	4
			外国留学科目Ⅲ	4		
			外国留学科目Ⅳ	4		

名称＼学年		1年次		2年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位
海外語学講座		海外語学講座Ⅰ	4		
		海外語学講座Ⅱ	4		
		海外語学講座Ⅲ	2		
		海外語学講座Ⅳ	2		
留学支援科目	英語	TOEFLⅠ	2	TOEFLⅡ	2
		IELTSⅠ	2	IELTSⅡ	2
		English RegionsⅠ	2	English RegionsⅢ	2
		English RegionsⅡ	2	English RegionsⅣ	2
	ドイツ語	German StudiesⅠ	2	German StudiesⅡ	2
				German StudiesⅢ	2
				German StudiesⅣ	2
	フランス語	French StudiesⅠ	2	French StudiesⅡ	2
				French StudiesⅢ	2
				French StudiesⅣ	2
	中国語	Chinese StudiesⅠ	2	Chinese StudiesⅡ	2
				Chinese StudiesⅢ	2
				Chinese StudiesⅣ	2
	韓国語	Korean StudiesⅠ	2	Korean StudiesⅡ	2
				Korean StudiesⅢ	2
				Korean StudiesⅣ	2

【卒業必要単位数】

外国語科目の卒業に必要な単位数は、文学部、経済学部、法学部、経営学部、グローバル教養学環、理工学部、知能情報学部にあっては８単位、フロンティアサイエンス学部にあっては４単位である。

〔『外国語科目』履修方法〕

1. 文学部、経済学部、法学部、経営学部およびグローバル教養学環の学生は、次に定めるとおり８単位を修得しなければならない。

(1) 基礎外国語のうち、英語（Skill-based）４単位を修得しなければならない。

(2) 基礎外国語のうち、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語について１外国語４単位を修得しなければならない。

(3) 上記（2）にかかわらず、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生は、基礎外国語のうち、日本語４単位を修得しなければならない。

2. 理工学部および知能情報学部の学生は、次に定めるとおり８単位を修得しなければならない。

(1) 基礎外国語のうち、英語（Skill-based）４単位を修得しなければならない。

(2) 基礎外国語のうち、英語（Content/Project-based）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語について１外国語４単位を修得しなければならない。

(3) 上記（2）にかかわらず、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生は、基礎外国語のうち、日本語４単位を修得しなければならない。

3. フロンティアサイエンス学部の学生は、基礎外国語のうち、英語（Skill-based）４単位を修得しなければならない。

4. 外国語科目のうち、日本語（大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。

〔『外国語科目』履修上の注意事項〕

文学部・理工学部・経済学部・法学部・経営学部・知能情報学部・グローバル教養学環

1. 〔『外国語科目』履修方法〕に基づき、1年次の4月に下表のとおり1外国語を選択して、「第2外国語」として履修しなければならない。

学部・学環	選択できる「第２外国語」の種類
文学部、経済学部、法学部、経営学部、グローバル教養学環	ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語および日本語から１外国語を選択
理工学部、知能情報学部	英語（Content/Project-based）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語および日本語から１外国語を選択

2. 2年次以上において、第2外国語として履修する科目以外の、下表に定める科目を「第3外国語」として履修することを認める。ただし、「第3外国語」の修得単位の取扱いは、入学年度や学部・学科および学環によって異なるので、この点留意すること。

なお、日本語を除いた外国語を「第3外国語」として履修する場合に限り、当該外国語の[第3外国語中級科目履修資格基準]に記載された基準を満たす者は、中級外国語科目から履修を認める。

学部・学環	選択できる「第３外国語」の科目
文学部、経済学部、法学部、経営学部、グローバル教養学環	基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語および基礎韓国語のうち、第２外国語として履修する外国語以外の科目
理工学部、知能情報学部	College English（Content/Project-based）、基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語および基礎韓国語のうち、第２外国語として履修する外国語以外の科目

［第３外国語中級科目履修資格基準］

言　語	検定試験	基準の対象とするレベル・級
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）	５級以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠	A1 以上
フランス語	フランス語技能検定試験（仏検）	５級以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠	A1 以上
中国語	中国語検定試験（中検）	４級
	漢語水平考試（HSK）	１級
	中国語コミュニケーション能力検定（TECC）	E 級
	実用中国語技能検定試験	準４級
	ビジネス中国語検定	BCT（A）
韓国語	韓国語能力試験	１級以上
	ハングル能力検定試験	５級以上

※各検定試験は過去３年間以内に受検した者に限る。ただし、ドイツ語・フランス語についてはこの限りではない。

マネジメント創造学部

1. 英語の科目（基礎外国語、中級外国語、上級外国語）は履修することができない。
2. 基礎外国語のうち、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語を履修することができる。
3. ドイツ語、フランス語、中国語および韓国語の履修を希望する学生で、当該外国語に関する検定試験の基準が上表［第３外国語中級科目履修資格基準］で定められた基準を満たす者は、中級外国語科目から履修を認める。

フロンティアサイエンス学部

1. 基礎外国語のうち、英語（Content／Project－based）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語を履修することができる。
2. ドイツ語、フランス語、中国語および韓国語の履修を希望する学生で、当該外国語に関する検定試験の基準が上表［第3外国語中級科目履修資格基準］で定められた基準を満たす者は、中級外国語科目から履修を認める。

全学部・学環共通事項

1. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。
2. 「海外語学講座Ⅰ～Ⅳ」は、夏期・春期休業期間を利用した語学研修を目的とした講座で、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」は英語、「海外語学講座Ⅱ・Ⅲ」はドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の講座として開講する。なお、海外語学講座は、国際情勢の急変などによって中止することがある。「海外語学講座」の履修を希望する者は、ガイダンスに出席すること。

   各講座の履修資格は、次のとおりである。

□海外語学講座Ⅰ・Ⅳ：1年次以上の学部・学環生

□海外語学講座Ⅱ・Ⅲ：次のいずれかに該当する学部・学環生

・該当する言語の基礎科目Ⅰ・Ⅱを履修中、または、すでに修得した者

・該当する言語の以下のいずれかの条件を満たす者

ドイツ語：「独検５級以上」「ヨーロッパ言語共通参照枠のＡ１以上」
フランス語：「仏検５級以上」「ＤＥＬＦ　Ａ１以上」「ＴＣＦまたはＴＥＦレベル１以上」
中　国　語：「中国語検定試験準４級以上」「ＨＳＫ（漢語水平考試）１級以上」「中国語コミュニケーション能力検定Ｇレベル以上」
韓　国　語：「ハングル能力検定試験５級以上」「韓国語能力試験１級以上」

3. 中級外国語科目・上級外国語科目・留学支援科目については、履修条件が設定されている。各言語のページを参照し、履修条件に従って履修すること。
4. 中級外国語科目・上級外国語科目・海外語学講座・留学支援科目の修得単位の取扱いは、入学年度や学部・学科および学環によって異なるので、この点留意すること。
5. 中級外国語科目・上級外国語科目の履修を希望する者は、抽選科目の申請を行わなければならない。クラスの定員を超えて申請があった場合は、抽選によって履修者を決定する。

   なお、履修を希望する者は「中級・上級外国語ガイダンス」で履修条件や各科目の内容を確認すること。
6. 編入学生が中級外国語科目・上級外国語科目の履修を希望する場合は、『履修ガイドブック』に記載の期日までに全学教育推進機構事務室に申し出ること。
7. 「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」「上級外国留学科目Ⅰ・Ⅱ」は留学先で取得した単位の読替え用の科目である。

Ⅰ．英　　語

College English

1. College Englishは必修科目である。各自指定されたクラスで履修しなければならない。入学直後にWebで実施する「College Englishプレイスメントテスト（GTEC）」により、習熟度別クラス編成を行う。クラス分けを行うことから、このテストは必ず受けなければならない。
2. College Englishの再履修者は、指定されたクラスが事前に登録されている。クラスの変更を希望する者は所定の手続きを行うこと。

　なお、再履修者に限り履修できるクラスを「College English Reading」、「College English Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」に設ける。この再履修者クラスの履修を希望する者は、所定の手続きを行うこと。

中　級　英　語

1. 中級英語は、College Englishの単位を修得し、さらに英語を学びたいという者のための科目で、College English（Skill-based）4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級英語は、それぞれ内容の異なった科目から構成されている。英語の総合的な実力を養うためには、多くの科目を履修することが望ましい。
3. 中級英語は、PS（Pre Stream：中級準備）クラス・MS（Main Stream：中級）クラス・TS（Top Stream：中級アドバンス）クラスの3つの学力レベル別編成を行っている。
4. 留学のための英語集中プログラム登録学生およびグローバル教養学環の学生は、配当年次に関わらず、中級英語を履修することができる。

上　級　英　語

1. 上級英語は、中級英語の単位を修得し、さらに上級の英語を学びたいという者のための科目で、上級英語に対応する中級英語（例えば、「上級英語TOEIC」を履修するには「中級英語TOEIC」）の単位を修得した者が履修できる。ただし、**中級英語を8単位以上修得した者は、上級英語のいずれの科目でも履修できる。**
2. 上級英語はそれぞれ内容の異なった科目から構成されている。英語の総合的な実力を養うためには、多くの科目を履修することが望ましい。
3. 「上級英語TOEIC」はTS（Top Stream：上級アドバンス）クラスとTSクラスより少しレベルの低いPS（Pre Stream：上級）クラスを設けている。「上級英語TOEIC」のTSクラスを履修するには、TOEIC 450点以上を取得していることが望ましい。
4. 留学のための英語集中プログラム登録学生およびグローバル教養学環の学生は、配当年次に関わらず、上級英語を履修することができる。

留学支援科目

1.「English Regions Ⅰ」、「English RegionsⅡ」は、総合的な英語能力と異文化意識の向上を目的とした半期科目で、英語が母国語、または第一公用語で話される国や地域に関して深く学ぶ科目である。
2.「TOEFL Ⅰ・Ⅱ」、「IELTS Ⅰ・Ⅱ」は、留学に必要となるTOEFLおよびIELTSのスコアを向上させることを目的とした科目である。
3.「English Regions Ⅲ」、「English Regions Ⅳ」は、留学先で取得した単位の読替え用の科目である。

留学のための英語集中プログラム（PAGE）

1. 英語圏への留学を希望する者は、1年次に「留学のための英語集中プログラム」を選択することができる。ただし、マネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部およびグローバル教養学環は対象外とする。
2. 1年次で、「留学のための英語集中プログラム」に関心のある者は、所定の手続きを行うこと。
3. このプログラムでは、1年次の前期に集中的に「College English Reading」(1単位)、「College English Writing」(1単位)、「College English Listening」(1単位)、「College English Speaking」(1単位）を履修し、College English 4単位修得者は1年次後期に「中級英語Writing」（4単位）および「中級英語Presentation」（4単位）を履修することができる。ただし、「College English Reading」、「College English Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」のうち、1科目でも未修得または4科目全ての成績評価が『可』の場合は、1年次後期以降の留学のための英語集中プログラム科目を履修することはできない。
4. 2年次においては、前期に、「中級英語Speaking」(4単位)、「中級英語Global Topics Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)、「TOEFL Ⅱ」(2単位)、「IELTS Ⅱ」(2単位）の中から自由に選択して履修できるが、集中的に英語の学習を継続するために、週4回（8単位）以上の履修を勧める。ただし、1年次後期に「中級英語Writing」、「中級英語Presentation」を2科目とも未修得の場合は、2年次以降の留学のための英語集中プログラム科目を履修することはできない。

履修モデル「留学のための英語集中プログラム」

<table>
<tr><th>1年次</th><th>2年次</th></tr>
<tr><td>前期：College English Reading
College English Writing
College English Listening
College English Speaking</td><td rowspan="2">前期：中級英語 Speaking
中級英語 Global Topics Ⅰ
中級英語 Global Topics Ⅱ
TOEFL Ⅱ
IELTS Ⅱ</td></tr>
<tr><td>後期：中級英語 Writing
中級英語 Presentation
集中科目：TOEFL Ⅰ
IELTS Ⅰ</td></tr>
</table>

Ⅱ．ドイツ語

基礎ドイツ語

1. 基礎ドイツ語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施しており、申請を希望する者は、所定の手続きを行うこと。
2. 基礎ドイツ語の再履修者は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。

中級ドイツ語

1. 中級ドイツ語は、基礎ドイツ語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級ドイツ語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。ドイツ語の総合的な実力を養うためには多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級ドイツ語Ⅱ」(4単位)、後期に「中級ドイツ語Ⅰ」(4単位）を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的にドイツ語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎ドイツ語4単位を修得していれば履修できる。

上級ドイツ語

1. 上級ドイツ語は、中級ドイツ語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級ドイツ語は、中級ドイツ語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。ドイツ語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。
3. 「基礎第2外国語履修免除制度」により中級ドイツ語4単位を修得した者は、配当年次に関わらず上級ドイツ語を履修できる。

留学支援科目

1. 「German Studies Ⅰ」、「German StudiesⅡ」は、ドイツ語圏への留学に意欲のある学生を対象に、ドイツ語圏の社会や文化についてできる限りドイツ語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. 「German StudiesⅢ」、「German StudiesⅣ」は、留学先で取得した単位の読替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履　修　条　件
German Studies Ⅰ	基礎ドイツ語Ⅰおよび基礎ドイツ語Ⅱを履修中、または修得していること
German Studies Ⅱ	基礎ドイツ語Ⅰおよび基礎ドイツ語Ⅱを修得していること

Ⅲ．フランス語

基礎フランス語

1. 基礎フランス語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施しており、申請を希望する者は、所定の手続きを行うこと。
2. 基礎フランス語の再履修者は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。

中級フランス語

1. 中級フランス語は、基礎フランス語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級フランス語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。フランス語の総合的な実力を養うためには、多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級フランス語Ⅱ」(4単位)、後期に「中級フランス語Ⅰ」(4単位）を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的にフランス語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎フランス語4単位を修得していれば履修できる。

上級フランス語

1. 上級フランス語は、中級フランス語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級フランス語は、中級フランス語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。フランス語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。
3. 「基礎第2外国語履修免除制度」により中級フランス語4単位を修得した者は、配当年次に関わらず上級フランス語を履修できる。

留学支援科目

1. 「French StudiesⅠ」、「French StudiesⅡ」は、フランス語圏への留学に意欲のある学生を対象に、フランス語圏の社会や文化についてできる限りフランス語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. 「French StudiesⅢ」、「French StudiesⅣ」は、留学先で取得した単位の読替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履　修　条　件
French Studies Ⅰ	基礎フランス語Ⅰおよび基礎フランス語Ⅱを履修中、または修得していること
French Studies Ⅱ	基礎フランス語Ⅰおよび基礎フランス語Ⅱを修得していること

Ⅳ. 中　国　語

基礎中国語

1. 基礎中国語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施しており、申請を希望する者は、所定の手続きを行うこと。
2. 基礎中国語の再履修者は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。

中級中国語

1. 中級中国語は、基礎中国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級中国語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。中国語の総合的な実力を養うためには多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級中国語Ⅱ」(4単位)、後期に「中級中国語Ⅰ」(4単位）を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的に中国語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎中国語4単位を修得していれば履修できる。

上級中国語

1. 上級中国語は、中級中国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級中国語は、中級中国語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。中国語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。
3. 「基礎第2外国語履修免除制度」により中級中国語4単位を修得した者は、配当年次に関わらず上級中国語を履修できる。

留学支援科目

1. 「Chinese StudiesⅠ」、「Chinese StudiesⅡ」は、中国語圏への留学に意欲のある学生を対象に、中国語圏の社会や文化についてできる限り中国語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. 「Chinese StudiesⅢ」、「Chinese StudiesⅣ」は、留学先で取得した単位の読替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履　修　条　件
Chinese Studies Ⅰ	基礎中国語Ⅰおよび基礎中国語Ⅱを履修中、または修得していること
Chinese Studies Ⅱ	基礎中国語Ⅰおよび基礎中国語Ⅱを修得していること

Ⅴ. 韓 国 語

基礎韓国語

1. 基礎韓国語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施しており、申請を希望する者は、所定の手続きを行うこと。
2. 基礎韓国語の再履修者は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。

中級韓国語

1. 中級韓国語は、基礎韓国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級韓国語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。韓国語の総合的な実力を養うためには多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級韓国語Ⅱ」(4単位)、後期に「中級韓国語Ⅰ」(4単位）を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的に韓国語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎韓国語4単位を修得していれば履修できる。

上級韓国語

1. 上級韓国語は、中級韓国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級韓国語は、中級韓国語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。韓国語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。
3. 「基礎第2外国語履修免除制度」により中級韓国語4単位を修得した者は、配当年次に関わらず上級韓国語を履修できる。

留学支援科目

1. 「Korean StudiesⅠ」、「Korean StudiesⅡ」は、韓国語圏への留学に意欲のある学生を対象に、韓国語圏の社会や文化についてできる限り韓国語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. 「Korean StudiesⅢ」、「Korean StudiesⅣ」は、留学先で取得した単位の読替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履 修 条 件
Korean Studies Ⅰ	基礎韓国語Ⅰおよび基礎韓国語Ⅱを履修中、または修得していること
Korean Studies Ⅱ	基礎韓国語Ⅰおよび基礎韓国語Ⅱを修得していること

Ⅵ. 日　本　語

大学日本語入門

1. 大学日本語入門は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。
2. 大学日本語入門の再履修者は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。

大学日本語中級

1. 大学日本語中級は、大学日本語入門4単位を修得した者が履修できる。
2. 大学日本語中級は、大学日本語入門を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。

大学日本語上級

1. 大学日本語上級は、大学日本語中級4単位を修得した者が履修できる。
2. 大学日本語上級は、大学日本語中級を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。

保健体育科目

保健体育科目は、1年次を対象にした「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」と、2年次以上を対象とした生涯スポーツが開設されている。

Ⅰ　スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ（必修科目）

授業科目	単位	配当年次
スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	1	1
スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	1	1

科目履修上の諸注意

1.「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」は必修科目である。卒業までに2科目2単位を修得しなければならない。
2.「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」は、各自指定されたクラスで受講しなければならない。「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」は、種目選択により決定したクラスで受講しなければならない。
3. 障がい、病気、怪我などにより、通常クラスでの実技の参加が難しい場合は、状況に応じて個別の対応を行う。個別対応の希望がある場合は、その状況が生じた時点で全学教育推進機構事務室（3号館1階）に申出ること。
4. 再履修者は、原則として指定されたクラスで履修しなければならない。詳細は『履修ガイドブック』を確認すること。
5. この科目を履修するためには、原則として本学指定の定期健康診断を受診していなければならない。
6. この科目は、岡本・西宮・ポートアイランド校地と六甲アイランド総合体育施設との移動時間が含まれるため、登録上1・2時限連続して実施されることになっている。しかし、授業を受講するのは1時限または2時限となる。各自のクラスについては〈My KONAN〉の「学生時間割表」で確認すること。ただし、指定された日については、1・2限連続で授業を行う場合がある。

Ⅱ　生涯スポーツ（選択科目）

授　業　科　目	単位	配当年次	授　業　科　目	単位	配当年次
生涯スポーツ・バドミントンⅠ	1	2	生涯スポーツ・バレーボールⅠ	1	2
生涯スポーツ・バドミントンⅡ	1	2	生涯スポーツ・バレーボールⅡ	1	2
生涯スポーツ・硬式テニスⅠ	1	2	生涯スポーツ・フットサルⅠ	1	2
生涯スポーツ・硬式テニスⅡ	1	2	生涯スポーツ・フットサルⅡ	1	2
生涯スポーツ・卓球Ⅰ	1	2	生涯スポーツ・レクレーショナルスポーツⅠ	1	2
生涯スポーツ・エアロビクスⅠ	1	2	生涯スポーツ・レクレーショナルスポーツⅡ	1	2
生涯スポーツ・ゴルフⅠ	1	2	生涯スポーツ・ジョギングⅠ	1	2
生涯スポーツ・ゴルフⅡ	1	2	生涯スポーツ・トレーニング実習Ⅰ	1	2
生涯スポーツ・健康柔道Ⅰ	1	2	生涯スポーツ・トレーナー実習Ⅰ	1	2
生涯スポーツ・健康柔道Ⅱ	1	2	生涯スポーツ・フィットネス実習Ⅰ	1	2
生涯スポーツ・バスケットボールⅠ	1	2	生涯スポーツ・スノースポーツⅠ	1	2
生涯スポーツ・バスケットボールⅡ	1	2	生涯スポーツ・スノースポーツⅡ	1	2

科目履修上の諸注意

以下の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
生涯スポーツ・（各種目）	「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済みであること

1. 修得単位の取扱いは、入学年度や学部・学科および学環によって異なるので、必ず、所属する学部・学科および学環のページを参照すること。なお、この科目を卒業必要単位として含めることができない場合であっても、履修することはできるので積極的に履修してほしい。
2. この科目を履修するためには、原則として本学指定の定期健康診断を受診していなければならない。
3. 各生涯スポーツの名称Ⅰ、Ⅱは便宜上のものであり、スポーツの技術レベルを示すものではない。授業では、個々のレベルに応じた指導がされる。
4. 「生涯スポーツ・スノースポーツⅠ、Ⅱ」および「生涯スポーツ・ゴルフⅠ、Ⅱ」はそれぞれ同時に履修することはできない。
5. 留学生の履修は妨げない。履修条件は、所属大学で「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」と同様の科目を履修していること。ただし、宿泊が伴う種目を履修する場合は、担当教員との事前面談が必要となる。

キャリア創生共通科目の概要

キャリア創生共通科目には、社会で必要とされる多様な実践的応用能力、例えば、法律・会計・財務・マネジメントに関する実務知識や、IT リテラシー、英語で学ぶビジネスなど、多種多様な科目が設けられている。

これらの科目を専門教育科目と並行して学ぶことにより、社会で活躍するための有用な能力を手に入れることができる。また、これらの科目をうまく組合わせて履修することにより、将来の資格取得に役立てることもできるようになっている。

キャリア創生共通科目は、社会で活躍するフィールドを広げる、すなわちキャリアの広がりを創り出していくことを目的とした、大学と社会をつなぐ科目である。

したがって、教員も実社会において豊富な経験を積んだ実務家が担当するなど、実践的な教育を行う科目も多数含まれる。

Ⅰ．生涯を通じた就業力を培う科目群

一人ひとりの学生が自分自身を深く見つめ、目的意識をもって学修を継続し、深化させ、生涯を通じた就業力を培い、豊かな人生設計を行うことができるようになることを目標としている。

演習

【全学部・学環対象科目】

授業科目	つながる力
共通応用演習Ⅰ 共通応用演習Ⅱ	これまでに身に付けた知識や経験や能力を応用的・実践的なものへとブラッシュアップし、社会人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生に対する認識を醸成する力

【理工学部宇宙理学・量子物理工学科 文理融合コース・フロンティアサイエンス学部生命化学科 学際科学コース対象科目】

授業科目	つながる力
文理融合総合研究	自然科学の基礎教養を生かし人文・社会科学系の分野で活躍できる力

キャリアデザイン系

授業科目	つながる力
ベーシック・キャリアデザイン	学部・学環での学びと進路や就職とのつながりについて考えるための力
キャリア実習	就労体験により、社会で求められる知識や能力を認識し、職業観・就業意識を培う力
キャリアゼミ	様々な仕事や働き方について理解するとともに、職業観や人生観を深めるための力
プラクティカル・キャリアデザインⅠ プラクティカル・キャリアデザインⅡ	インターンシップ・就職活動を中心に将来の進路の描き方を実践的に学ぶための力
アドバンスト・キャリアデザイン	社会人として求められる基本的な意識、知識、関係構築、行動について習得するための力

Ⅱ．働くための力を磨く科目群

社会に出て働き、賃金を得て、生活をしていくためには、様々な知識や能力が求められる。

例えば、企業が儲かっているのか損をしているのかを会計の情報（決算書）から読解くことや、経営者・出資者・取引先・従業員といった、企業の活動にかかわる人々の間での争いを予防するための法律知識などは、社会で活動するうえで不可欠な力である。

また、当たり前のようにパソコンやタブレットを使う情報社会において、企画や計画を進めていくうえで必要な統計結果を分かりやすくまとめる方法など、社会で生かせる基礎的能力を学ぶ。

ビ ジ ネ ス 系　21 世紀型高度ビジネス人材を目指して

商品を売る側と買う側から、またサービスを求める側と提供する側から、儲けとお金について知る。

授 業 科 目	つながる力・資格
入門マネジメント 実践マネジメント	ビジネスやマネジメントの意義を理解する力
入門ビジネス会計 実践ビジネス会計	ビジネス会計検定
入門パーソナルファイナンス 応用パーソナルファイナンス	ファイナンシャルプランナー
入門商業簿記Ⅰ 入門商業簿記Ⅱ	日商簿記検定３級
中級簿記 工業簿記	日商簿記検定２級
上級簿記Ⅰ 上級簿記Ⅱ 上級財務諸表論Ⅰ	日商簿記検定１級 →　税理士試験・公認会計士試験
上級財務諸表論Ⅱ	ビジネス会計検定 →　公認会計士試験
上級工業簿記 上級原価計算	日商簿記検定１級 →　公認会計士試験
起業・アントレプレナーシップを学ぶ	困難な変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく力
医療概論 先端材料概論 創薬概論 食品・化粧品概論	「医療」「創薬」「先端材料」「食品・化粧品」業界の最新動向、理系の基礎的事項を理解する力 各業界において研究・開発のみならず、営業、広報、経営などで活躍できるビジネス力

政 策 ・ 法 務 系　企業や官公庁で働くための実践的な学び

企業や官公庁で働くため、また公務員試験や資格取得に向けて、必要となる政策や法務に関する知識を学ぶ。

授 業 科 目	つながる力・資格
ビジネスを支える法の世界 入門ビジネス法務 実践ビジネス法務	ビジネス関連の法務を理解する力

授業科目	つながる力・資格
入門商法　会社法編 証券市場と法 金融取引と法 証券業と法	企業活動の基本となる商法に関する基礎と実践を理解する力
入門民法　財産法編Ⅰ 入門民法　財産法編Ⅱ 実践民法Ⅰ 実践民法Ⅱ 実践民法Ⅲ 実践民法Ⅳ 実践民法Ⅴ 実践民法Ⅵ	社会の様々な分野に関連する民法に関する基礎と実践を理解する力 公務員試験：地方公務員（上級）、国家公務員Ⅱ種など 資格取得：宅地建物取引士、行政書士など 建築・不動産関係、銀行・金融機関などの業務 ※科目の対応については下記【補足説明】を参照
公共政策論Ⅰ 公共政策論Ⅱ	社会の仕組みと課題解決のための政策立案を理解し、実践に結びつける力 地方公務員、国家公務員
知的財産とイノベーションⅠ 知的財産とイノベーションⅡ	文系・理系を問わず各自の専門性や必要性に適合した知的財産に関する知識やその利活用スキルを社会の発展に役立つように駆使できる力

【補足説明】民法は社会生活を基礎付ける幅広い領域をもつため、8科目を設けている。民法の基礎から重要な論点まで体系的に学ぶことができるが、学びたい分野を選択して学ぶこともできる。そこで民法の8科目について、公務員試験や資格取得など履修者の目的に応じて重要と考えられるものを例示すると、次のとおりである。

○地方公務員（上級）を目指す場合
　入門民法　財産法編Ⅰ・Ⅱのほか、実践民法Ⅰを必修分野とし、その他にも広く学ぶことが望ましい。
○宅地建物取引士や建築・不動産関係の仕事を目指す場合
　入門民法　財産法編Ⅰ・Ⅱのほか、実践民法Ⅰ～Ⅳが関連し、とくに実践民法Ⅰ・Ⅳが重要分野である。
○行政書士、国家公務員Ⅱ種（民法を選択する場合）を目指す場合
　民法に関して幅広く体系的に学んでおくことが必要である。入門民法　財産法編Ⅰ・Ⅱ、実践民法Ⅰ～Ⅵを計画的に学ぶことを勧める。
○銀行・金融機関などを目指す場合
　入門民法　財産法編Ⅰ・Ⅱのほか、実践民法Ⅱ・Ⅲが重要な分野である。

情　報　系　社会で求められる基礎的能力の習得

パソコンやタブレットを活用し、ビジネス界で活躍するための基礎的能力を育成する。

授　業　科　目	つながる力・資格
ＩＴ応用	ウェブデザイン技能検定３級 Web デザイナー検定
情報通信テクノロジⅠ 情報通信テクノロジⅡ	ＩＴパスポート
基本情報技術 ICT セキュリティ	基本情報技術者試験 情報セキュリティマネジメント試験
統計基礎	統計検定４級
データサイエンス基礎 統計活用情報分析Ⅰ 統計活用情報分析Ⅱ	データサイエンスの基礎能力

Ⅲ．活躍する世界を広げる科目群

大学を卒業後、社会人として活躍する舞台は職場だけではない。地域社会の取組みや被災地支援、あるいは健康な社会をつくる活動への参加など、社会に貢献する機会はたくさんある。また、グローバル化がますます進展し、仕事でもプライベートでも海外で活躍・活動する機会が増えることであろう。このような環境のなかで、様々なシチュエーションで力を発揮することが求められるようになる。

卒業後の活躍の場を広げるためには、机に向かうだけでなく、街に、フィールドに、世界に飛び出し学ぶことが大切である。人生を豊かなものにするためにも、自らの世界を広げる力を身に付けることが必要である。

国　際　系　世界に通用するグローバル人材の育成

語学運用力を身に付け、日本と世界を理解し、異文化の中でも活用できる力を身に付ける。

授　業　科　目	つながる力・資格
グローバル・コミュニケーションⅠ	英語でコミュニケートする力
グローバル・コミュニケーションⅡ	英語によるビジネスコミュニケーション力 TOEIC
エリアスタディーズⅠ～X	異文化理解
世界の中の日本Ⅰ	日本についての理解
世界の中の日本Ⅱ	国際関係と国際問題を考える力
海外ボランティアⅠ	人々の交流や地域への貢献を通じて、国際理解を深め、行動する力
海外ボランティアⅡ	
海外キャリア実習	語学力、コミュニケーション力、協調性

ボランティア・地域連携系　社会で活躍する場を広げる

被災地支援や街のイベントなど、地域で活動するための基本的な知識や課題の解決方法を身に付ける。

授　業　科　目	つながる力
実践ボランティアⅠ 実践ボランティアⅡ 地域ファシリテイト 地域プロジェクトⅠ 地域プロジェクトⅡ	地域の課題を解決するため、関係する人々と協力しながら考え、行動するための力、コーディネートする力

福祉・スポーツ健康科学系　福祉・スポーツを通じた地域・社会貢献

高齢者福祉や障がい者（児）福祉、社会的養護に必要な心理学の知識を身に付け、地域における福祉活動を支える力を身に付けるとともに、スポーツ指導・運営に関する実践力を高め、地域におけるスポーツ活動を支える力を身に付ける。

授 業 科 目	資格
応用スポーツ健康科学	日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー資格
障害者・障害児心理学	公認心理師資格
福祉心理学	公認心理師資格

キャリア創生共通科目

キャリア創生共通科目　授業科目表　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

	授業科目	単位	配当年次	備考
演習	共通応用演習Ⅰ	2	3	
	共通応用演習Ⅱ	2	3	
	文理融合総合研究	8	4	※1
キャリアデザイン系	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	
	キャリア実習	2	1	
	キャリアゼミ	2	2	
	プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2	2	
	プラクティカル・キャリアデザインⅡ	2	3	
	アドバンスト・キャリアデザイン	2	4	
ビジネス系	入門マネジメント	2	2	
	実践マネジメント	2	2	
	入門パーソナルファイナンス	2	2	
	応用パーソナルファイナンス	2	2	
	入門ビジネス会計	2	2	
	実践ビジネス会計	2	2	
	入門商業簿記Ⅰ	2	2	
	入門商業簿記Ⅱ	2	2	
	中級簿記	4	2	
	工業簿記	4	2	
	上級簿記Ⅰ	2	2	
	上級簿記Ⅱ	2	2	
	上級財務諸表論Ⅰ	2	2	
	上級財務諸表論Ⅱ	2	2	
	上級工業簿記	2	2	
	上級原価計算	2	2	
	起業・アントレプレナーシップを学ぶ	2	2	
	医療概論	2	1	
	先端材料概論	2	1	
	創薬概論	2	1	
	食品・化粧品概論	2	1	
政策・法務系	ビジネスを支える法の世界	2	3	
	入門ビジネス法務	2	2	
	実践ビジネス法務	2	2	
	入門民法　財産法編Ⅰ	2	2	
	入門民法　財産法編Ⅱ	2	2	
	実践民法Ⅰ	2	3	
	実践民法Ⅱ	2	3	
	実践民法Ⅲ	2	3	
	実践民法Ⅳ	2	3	
	実践民法Ⅴ	2	3	
	実践民法Ⅵ	2	3	
	入門商法　会社法編	2	2	
	証券市場と法	2	3	
	金融取引と法	2	3	
	証券業と法	2	3	
	公共政策論Ⅰ	2	2	
	公共政策論Ⅱ	2	2	
	知的財産とイノベーションⅠ	2	2	
	知的財産とイノベーションⅡ	2	2	

	授業科目	単位	配当年次	備考
情報系	ＩＴ応用	2	1	
	情報通信テクノロジⅠ	2	1	
	情報通信テクノロジⅡ	2	1	
	ＩＣＴセキュリティ	2	2	
	基本情報技術	2	3	
	統計基礎	2	1	
	データサイエンス基礎	2	2	
	統計活用情報分析Ⅰ	2	2	
	統計活用情報分析Ⅱ	2	2	
国際系	グローバル・コミュニケーションⅠ	4	2	
	グローバル・コミュニケーションⅡ	4	2	
	エリアスタディーズⅠ	2	1	
	エリアスタディーズⅡ	2	1	
	エリアスタディーズⅢ	2	1	
	エリアスタディーズⅣ	2	1	
	エリアスタディーズⅤ	2	1	
	エリアスタディーズⅥ	2	1	
	エリアスタディーズⅦ	2	1	
	エリアスタディーズⅧ	2	1	
	エリアスタディーズⅨ	2	1	
	エリアスタディーズⅩ	2	1	
	世界の中の日本Ⅰ	2	2	
	世界の中の日本Ⅱ	2	2	
	海外ボランティアⅠ	4	1	
	海外ボランティアⅡ	2	1	
	海外キャリア実習	4	2	
ボランティア・地域連携系	実践ボランティアⅠ	1	1	
	実践ボランティアⅡ	1	1	
	地域ファシリテイト	2	2	
	地域プロジェクトⅠ	2	1	
	地域プロジェクトⅡ	2	1	
福祉・スポーツ健康科学系	応用スポーツ健康科学	2	2	
	障害者・障害児心理学	2	3･4	
	福祉心理学	2	2	

※1 理工学部宇宙理学・量子物理工学科文理融合コースおよびフロンティアサイエンス学部生命化学科学際科学コース対象科目。

科目履修上の諸注意

1. キャリア創生共通科目の**配当年次および修得単位の取扱いは、入学年度や学部・学科および学環によって異なる**ので、必ず、所属する学部・学科および学環のページを参照すること。

2. 下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。
「日商簿記検定２級合格者と同等のレベル」を有する者は、『履修ガイドブック』の指示に従って手続きを行うこと。

授業科目	履修条件
上級簿記Ⅰ	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティスⅠ」および「APアカウンティング･プラクティス演習Ⅰ」の単位を修得済みであること。
上級簿記Ⅱ	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティスⅠ」および「APアカウンティング･プラクティス演習Ⅰ」の単位を修得済みであること。
上級財務諸表論Ⅰ	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティスⅠ」および「APアカウンティング･プラクティス演習Ⅰ」の単位を修得済みであること。
上級財務諸表論Ⅱ	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティスⅠ」および「APアカウンティング･プラクティス演習Ⅰ」の単位を修得済みであること。
上級工業簿記	「工業簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティスⅡ」および「APアカウンティング･プラクティス演習Ⅱ」の単位を修得済みであること。
上級原価計算	「工業簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティスⅡ」および「APアカウンティング･プラクティス演習Ⅱ」の単位を修得済みであること。
情報通信テクノロジⅡ	「情報通信テクノロジⅠ」の単位を修得済みであること。
地域プロジェクトⅡ	「地域プロジェクトⅠ」の単位を修得済みであること。
実践ボランティアⅡ	「実践ボランティアⅠ」の単位を修得済み、または、本科目と同時に履修すること。

副専攻に関する科目

本学では、学生が目的や個性に応じて学びを広げることができる「彩り教育」の一環として、所属する学部・学科および学環の教育課程に加え、特定の分野または課題に関する授業科目を体系的に編成した多様な教育を提供する副専攻を設けている。各副専攻で定められた単位を修得すると、卒業時に学長がこれを認定し、修了証書が授与される。

なお、副専攻の修了にあたっては、所属する学部・学科および学環の卒業に必要な単位とは別に一定の単位数を修得する必要があり、計画的に履修することが求められる。

Ⅰ．副専攻の種類について

副専攻の種類は下表のとおりとし、いずれか１つの副専攻に登録することができる。

	副専攻の種類	
登録可能な学部・学環	国際言語文化副専攻	スポーツ健康副専攻
文学部	定員は設けない	定員約 40 名
理工学部		
経済学部		
法学部		
経営学部		
知能情報学部		
マネジメント創造学部		
フロンティアサイエンス学部		
グローバル教養学環	×（※）	

※グローバル教養学環の学問領域と国際言語文化副専攻の学修内容が近いことから、グローバル教養学環の学生は国際言語文化副専攻に登録できない。

Ⅱ．副専攻の登録・履修方法について

各副専攻の修了に必要な授業科目および単位数は、次項のとおりとする。なお、履修にあたっては、次の事項に留意すること。

1. 副専攻の登録について

副専攻の登録期間は下表のとおりとする。なお、副専攻の登録を終えた後は原則として副専攻の登録を取消すことはできない。また、副専攻登録時期に先立って、『基礎共通科目』の履修が開始されるため、副専攻の登録を検討している学生は、その修了要件をあらかじめ確認のうえ、所属学部・学科および学環の専門教育科目とのバランスを考えて、4 年間の履修計画を立てること。

学部・学環	副専攻の登録期間
文学部・経済学部・法学部・経営学部・マネジメント創造学部	２年次前期 履修登録期間内
理工学部・知能情報学部・グローバル教養学環	１年次後期 履修登録期間内
フロンティアサイエンス学部	３年次前期 履修登録期間内

2. 副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』の履修方法について

副専攻は、全学共通科目により、カリキュラムが設計されている。副専攻に登録した学生は、卒業に必要となる『基礎共通科目』の履修方法・要件の一部が変わるので、注意すること。

3. 副専攻の修了に係る学修を取り止めた場合について

学修計画の変更などにより、副専攻の修了に係る学修を取り止めた場合であっても、登録した副専攻を取り消すことはできない。副専攻を修了しない場合でも、登録した副専攻が定める『基礎共通科目』の履修方法により卒業要件を満たさなければならない。

Ⅲ．副専攻科目

副専攻科目　授業科目表　〔2023 年度（令和 5 年度）以降の入学生に適用〕

授　業　科　目	単位	配当年次	備　考
副専攻外国留学科目Ⅰ	2	1	
副専攻外国留学科目Ⅱ	2	1	
副専攻演習	2	3	

科目履修上の諸注意

1. 副専攻科目は、副専攻に登録した者を対象とした科目であり、登録していない者は履修できない。
2.「副専攻外国留学科目Ⅰ」「副専攻外国留学科目Ⅱ」は、留学先で取得した単位の読替え用の科目である。

国際言語文化副専攻

国際言語文化副専攻　授業科目表　〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

科目群	授業科目名			単位数	科目区分
A 群	ヨーロッパの文化を学ぶ アジアの文化を学ぶ ヨーロッパの言語と社会 アジアの言語と社会 国際理解 国際理解 English 日本理解 Japan Topics Culture Topics Ⅰ Culture Topics Ⅱ English for Science Science Writing			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	基礎共通科目 （国際言語文化系）
	副専攻外国留学科目Ⅰ 副専攻外国留学科目Ⅱ			2 2	副専攻科目
	以上のうち 10 単位選択必修				
B 群	英語	中級	中級英語 Writing 中級英語 Presentation	4 4	外国語科目
	ドイツ語	中級	中級ドイツ語Ⅰ 中級ドイツ語Ⅱ	4 4	
	フランス語	中級	中級フランス語Ⅰ 中級フランス語Ⅱ	4 4	
	中国語	中級	中級中国語Ⅰ 中級中国語Ⅱ	4 4	
	韓国語	中級	中級韓国語Ⅰ 中級韓国語Ⅱ	4 4	
	日本語	中級	大学日本語中級Ⅰ 大学日本語中級Ⅱ	4 4	
	以上のうち 8 単位選択必修				
C 群	英語	中級	中級英語 Speaking 中級英語 Listening 中級英語 Reading 中級英語 Pronunciation 中級英語 TOEIC 中級英語 Global Topics Ⅰ 中級英語 Global Topics Ⅱ 中級英語 Life Topics Ⅰ 中級英語 Life Topics Ⅱ 中級英語 Career English Ⅰ 中級英語 Career English Ⅱ	4 4 4 2 4 2 2 2 2 2 2	外国語科目
		上級	上級英語 TOEIC 上級英語 Global Topics Ⅰ 上級英語 Global Topics Ⅱ 上級英語 Life Topics Ⅰ 上級英語 Life Topics Ⅱ 上級英語 Career English Ⅰ 上級英語 Career English Ⅱ	4 2 2 2 2 2 2	
	ドイツ語	中級	中級ドイツ語Ⅲ 中級ドイツ語Ⅳ	4 4	

副専攻

科目群	授業科目名			単位数	科目区分
C 群	ドイツ語	上級	上級ドイツ語Ⅰ 上級ドイツ語Ⅱ	4 4	外国語科目
	フランス語	中級	中級フランス語Ⅲ 中級フランス語Ⅳ	4 4	
		上級	上級フランス語Ⅰ 上級フランス語Ⅱ	4 4	
	中国語	中級	中級中国語Ⅲ 中級中国語Ⅳ	4 4	
		上級	上級中国語Ⅰ 上級中国語Ⅱ	4 4	
	韓国語	中級	中級韓国語Ⅲ 中級韓国語Ⅳ	4 4	
		上級	上級韓国語Ⅰ 上級韓国語Ⅱ	4 4	
	日本語	上級	大学日本語上級Ⅰ 大学日本語上級Ⅱ	4 4	
D 群	英語		TOEFL Ⅰ TOEFL Ⅱ IELTS Ⅰ IELTS Ⅱ English Regions Ⅰ English Regions Ⅱ English Regions Ⅲ English Regions Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2	外国語科目
	ドイツ語		German Studies Ⅰ German Studies Ⅱ German Studies Ⅲ German Studies Ⅳ	2 2 2 2	
	フランス語		French Studies Ⅰ French Studies Ⅱ French Studies Ⅲ French Studies Ⅳ	2 2 2 2	
	中国語		Chinese Studies Ⅰ Chinese Studies Ⅱ Chinese Studies Ⅲ Chinese Studies Ⅳ	2 2 2 2	
	韓国語		Korean Studies Ⅰ Korean Studies Ⅱ Korean Studies Ⅲ Korean Studies Ⅳ	2 2 2 2	
	海外語学講座		海外語学講座Ⅰ 海外語学講座Ⅱ 海外語学講座Ⅲ 海外語学講座Ⅳ	4 4 2 2	
	その他		外国留学科目Ⅰ 外国留学科目Ⅱ 外国留学科目Ⅲ 外国留学科目Ⅳ 上級外国留学科目Ⅰ 上級外国留学科目Ⅱ	4 4 4 4 4 4	
C 群及び D 群より 8 単位選択必修					
合計 26 単位					

副専攻

【修了必要単位数】

国際言語文化副専攻に登録のうえ、下記の副専攻所定の単位を修得し、卒業の認定を受けた学生は、副専攻修了証書が授与される。

国際言語文化副専攻　授業科目表	
選択必修科目　A群より	10単位
選択必修科目　B群より	8単位
選択必修科目　C群及びD群より	8単位
合　計	26単位

※1　文学部、経済学部、法学部、経営学部の学生が、『国際言語文化副専攻 授業科目表』に定めるA群およびB群で修得した18単位のうち副専攻科目を除く8単位は、基礎共通科目の卒業必要単位に含む。

※2　理工学部、知能情報学部の学生が、『国際言語文化副専攻 授業科目表』に定めるA群で修得した10単位のうち副専攻科目を除く8単位は、基礎共通科目の卒業必要単位に含む。

※3　基礎外国語として日本語を履修する文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生、マネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部の学生は、国際言語文化副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』の【履修方法】を併せて確認すること。

※4　B群、C群およびD群で修得した単位の取扱いは、入学年度や学部・学科によって異なるので、必ず所属する学部・学科のページを参照すること。

Ⅰ．国際言語文化副専攻の特徴について

国際言語文化副専攻では、外国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）を伸ばすとともに、英語や第2外国語圏の文化、歴史、生活習慣、考え方、日本との関わり等についての学びを通して国際理解・異文化理解を深めていく。これらを学ぶことで、多様性を尊重する複眼的な思考と価値観を持った国際人としての教養を深め、グローバル社会の現代において、広い世界観をもって異文化との共生を図り、世界の人々と協働できる人材を育成することを目的としている。

まず、英語ならびに第2外国語で選択した言語の学修を2年次以降も続けたいと考える個々の学生の希望や目的や個性を、大学が定める副専攻として評価、認定することで、学生の学修に対する意欲を涵養し、外国語運用能力の伸長につなげる。次に、留学先での学修成果を単位認定することで、実践的な学びを評価することも可能とする。他方、グローバル社会が到来し地球規模での協力・協調が求められる現代においては、国内外問わず多文化社会での共生について考える機会が増えている。こうした時代にあっては母語とは異なる言語を学ぶだけではなく、自国の文化ならびに自国以外の文化についての理解を深めていくことが肝要となる。これらを体系立てて学べることが国際言語文化副専攻の大きな特徴といえる。

Ⅱ．履修上の諸注意

1. 国際言語文化副専攻の科目構成

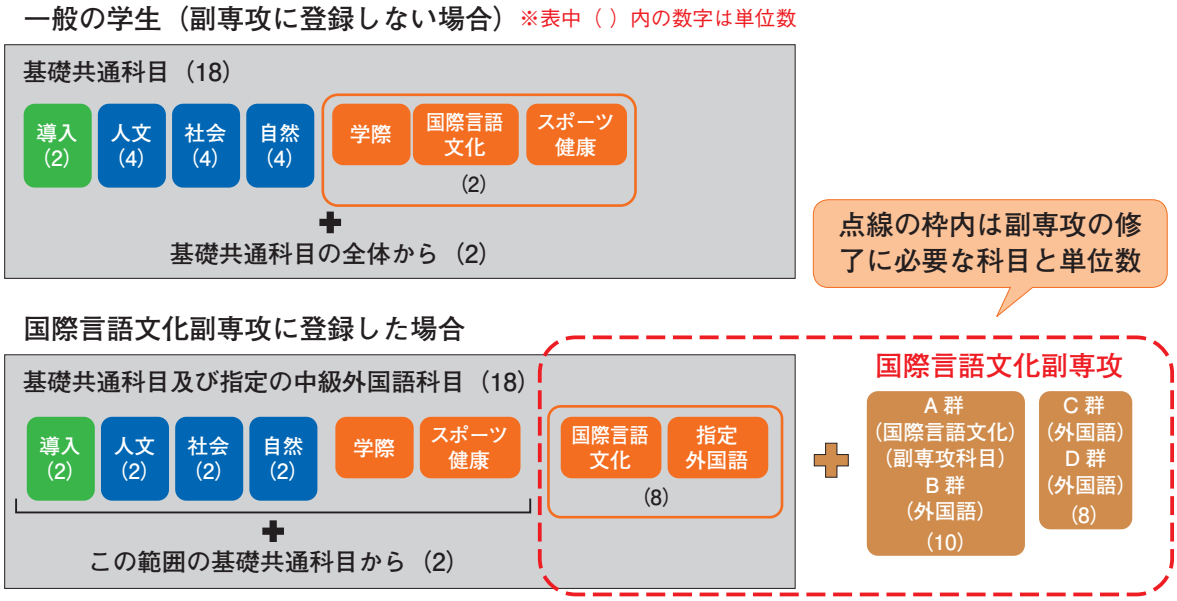
国際言語文化副専攻は、基礎共通科目、外国語科目、副専攻科目で構成されている。

2. 国際言語文化副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』の履修方法について

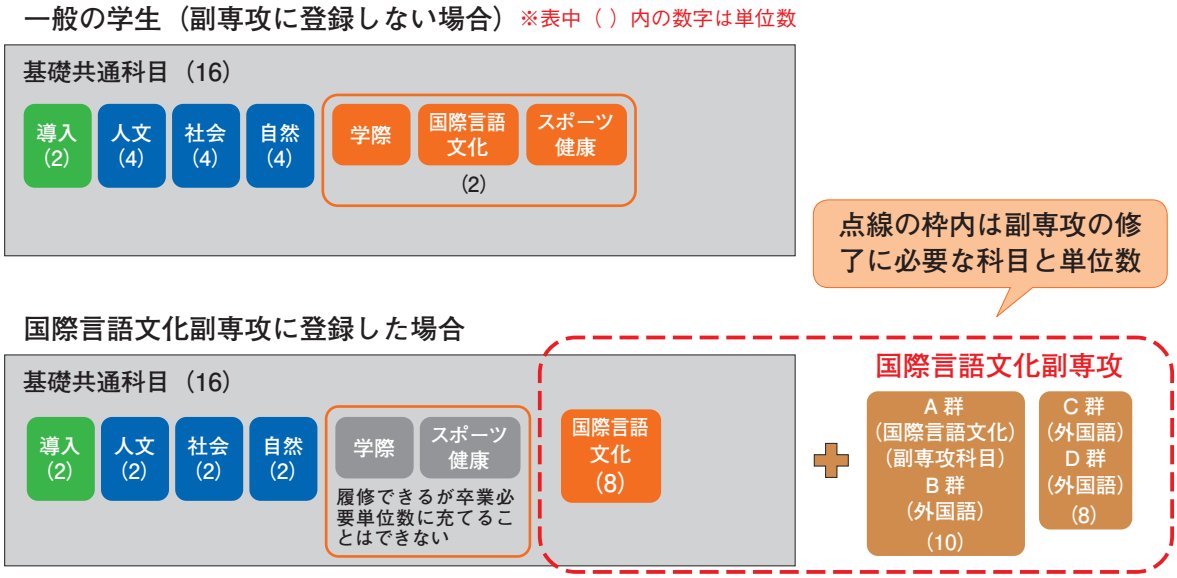
国際言語文化副専攻は、所属する学部・学科の卒業要件の一つである『基礎共通科目』を利用したカリキュラムとなっている。文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部、知能情報学部の学生は、国際言語文化副専攻への登録を行うことで『基礎共通科目』の履修方法が次のとおり変更となるため、十分に注意のうえ、履修登録を行うこと。詳細は、「基礎共通科目の概要」を確認すること。

ただし、基礎外国語として日本語を履修する学生が国際言語文化副専攻に登録した場合、『基礎共通科目』の履修方法に変更はない。(〔国際言語文化副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』履修上の注意事項〕を併せて確認すること。)

(1) 文学部、経済学部、法学部、経営学部



(2) 理工学部、知能情報学部



3. ガイダンスについて

履修登録にあたり、＜ My KONAN ＞で副専攻のガイダンス動画を配信する。副専攻の登録を検討している学生は必ず確認すること。副専攻制度の概要ならびに履修登録に関する質問は、全学共通教育センター（全学教育推進機構事務室内）（3 号館 1 階）に申出ること。

スポーツ健康副専攻

スポーツ健康副専攻　授業科目表　〔2025 年度（令和 7 年度）以降の入学生に適用〕

科目群	授業科目名	単位数	科目区分
A 群	スポーツ心理学	2	基礎共通科目（スポーツ健康系）
	スポーツ運動学	2	
	スポーツ文化論	2	
	スポーツマネジメント	2	
	生涯スポーツ論	2	
	スポーツ社会学	2	
	スポーツ医学	2	
	運動生理学	2	
	健康と生命科学	2	
	スポーツコーチング論	2	
	トレーニング論	2	
	以上のうち 12 単位選択必修		
B 群	基礎スポーツ健康科学	2	基礎共通科目（スポーツ健康系）
	応用スポーツ健康科学	2	キャリア創生共通科目
	副専攻演習	2	副専攻科目
	以上 6 単位必修		
合計 18 単位			

副専攻

【修了必要単位数】

スポーツ健康副専攻に登録のうえ、下記の副専攻所定の単位を修得し、卒業の認定を受けた学生は、副専攻修了証書が授与される。

スポーツ健康副専攻　授業科目表	
選択必修科目　A群より	12 単位
必修科目　B群より	6 単位
合　計	18 単位

※ 1　文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部、知能情報学部、グローバル教養学環の学生が、『スポーツ健康副専攻 授業科目表』に定めるA群で修得した 12 単位のうち 8 単位は、基礎共通科目の卒業必要単位に含む。

※ 2　基礎外国語として日本語を履修する文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生、マネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部の学生は、スポーツ健康副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』の【履修方法】を併せて確認すること。

Ⅰ．スポーツ健康副専攻の特徴について

スポーツ健康副専攻では、スポーツ科学の概要を学び、スポーツに関連する今日的な問題を発見し、その解決策について検討・提案できる能力を涵養する。以上のプロセスを通じ、健康社会を創るための能力と意欲を持つ人材（地域など様々なスポーツ活動の場で指導や運営等に携わり、得られた知識や経験を生かし、スポーツを生活の一部として定着・活性化させ、地域に健康社会を根付かせるサポートができる人材) を育成する。

A群では「スポーツに関する問題を具体的にする」というコンセプトの下、選択科目の履修を通

じ、「スポーツ」に関連する今日的な問題を発見するうえで、自分の興味関心に適合するアプローチの仕方について学ぶ。B群では「スポーツ科学の概要を知る」ことを目標として、スポーツ科学的な「ものの見方」について学ぶ。なお、保健体育科目「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」に加え、B群に定める「基礎スポーツ健康科学」と「応用スポーツ健康科学」の単位を修得することで、日本スポーツ協会公認指導者資格である「スポーツコーチングリーダー」の受験資格を取得できる。さらに演習科目である「副専攻演習」の履修を通して、研究発表の仕方、研究レポートのまとめ方について専門的な指導を受ける。以上により、スポーツ・健康科学に関する諸問題について、アカデミックな視点に基づき、解決策に向けた検討をできる人材の育成を目指す。

スポーツ健康副専攻のカリキュラムを修了することで、民間企業のみならず、研究者や教育者、指導者など、スポーツ健康という領域で社会で活躍できる力を身に付けることができる。

Ⅱ．履修上の諸注意

1. スポーツ健康副専攻の科目構成について

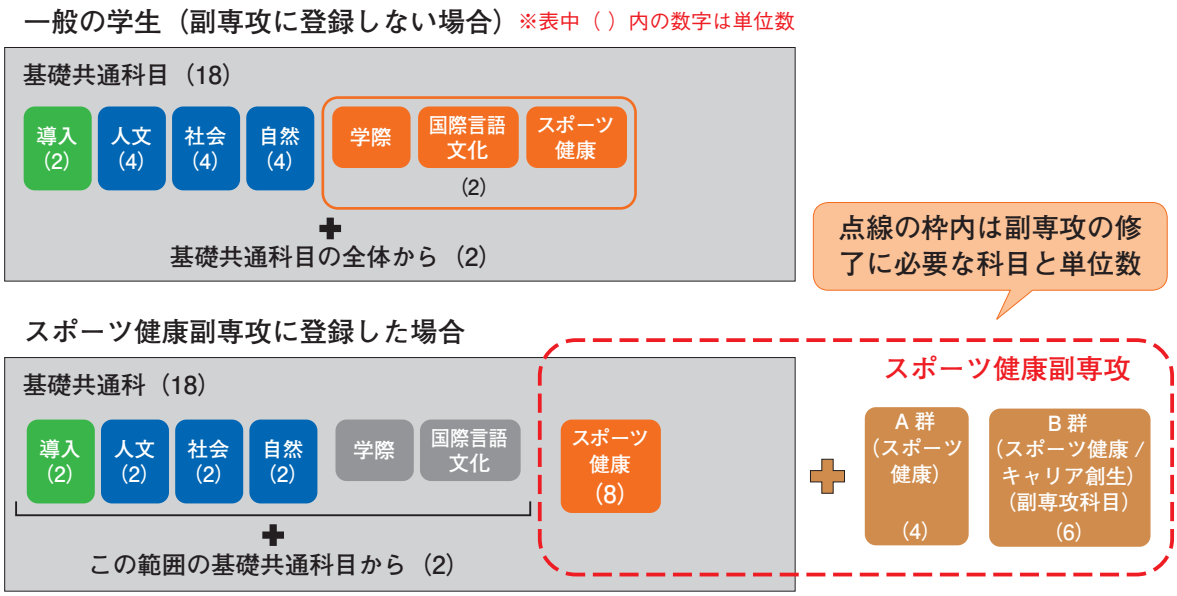
スポーツ健康副専攻は、基礎共通科目、キャリア創生共通科目、副専攻科目で構成されている。

2. スポーツ健康副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』の履修方法について

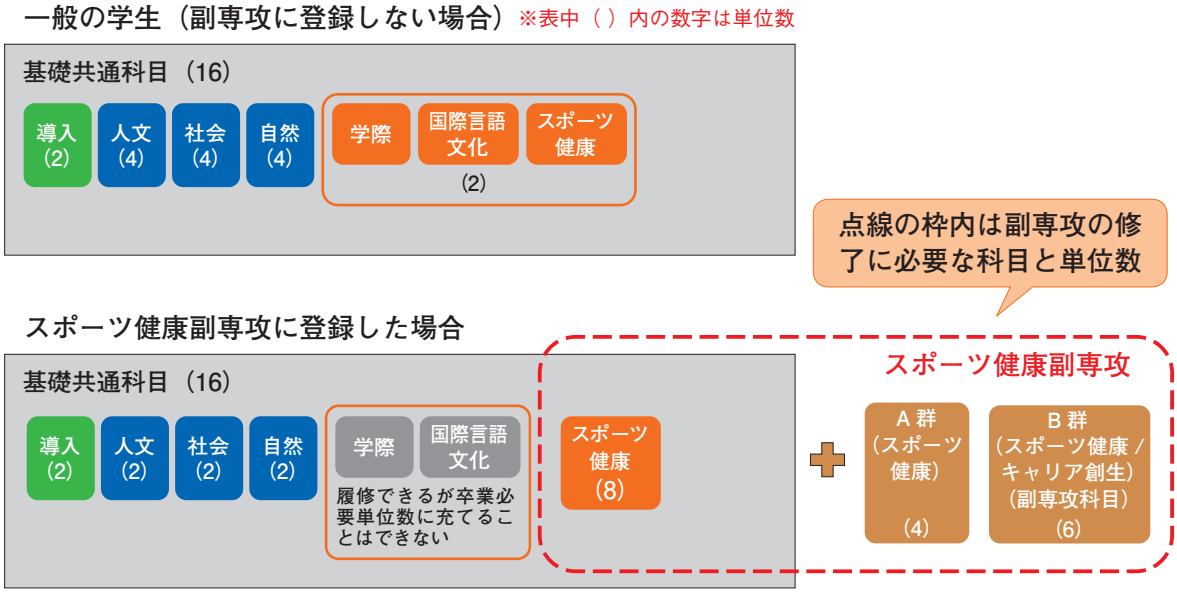
スポーツ健康副専攻は、所属する学部・学科および学環の卒業要件の一つである『基礎共通科目』を利用したカリキュラムとなっている。文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部、知能情報学部、グローバル教養学環の学生は、スポーツ健康副専攻への登録を行うことで『基礎共通科目』の履修方法が次のとおり変更となるため、十分に注意のうえ、履修登録を行うこと。詳細は、「基礎共通科目の概要」を確認すること。

ただし、基礎外国語として日本語を選択した学生がスポーツ健康副専攻に登録した場合は、『基礎共通科目』の履修方法に変更はない。（〔スポーツ健康副専攻に登録した学生の『基礎共通科目』履修上の注意事項〕を併せて確認すること。）

（1）文学部、経済学部、法学部、経営学部、グローバル教養学環



（2）理工学部、知能情報学部



3. ガイダンスについて

履修登録にあたり、＜ My KONAN ＞で副専攻のガイダンス動画を配信する。副専攻の登録を検討している学生は必ず確認すること。副専攻制度の概要ならびに履修登録に関する質問は、全学共通教育センター（全学教育推進機構事務室内）（3 号館 1 階）に申出ること。

Ⅲ．JSPO 公認「スポーツコーチングリーダー」資格取得について

1.「スポーツコーチングリーダー」資格とは

（1）JSPO（日本スポーツ協会）の「公認スポーツ指導者資格」において「スポーツ指導者基礎資格」に位置づけられる資格である。

（2）地域におけるスポーツグループやサークル等において、上位資格者の補佐として、基礎的なスポーツ指導や運営にあたることができる能力の証である。

（3）「スポーツコーチングリーダー」資格取得後、競技別指導や健康・体力づくり指導などの専門分野に関する上位資格へとステップアップする道も開けている。

2. 大学での資格取得

JSPO で実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラムを大学で履修することで、講習・試験の一部またはすべてが免除される「免除適応コース」があり、甲南大学は「共通科目Ⅰコース」の承認校となっている。在学中の資格取得が可能であるため、希望する学生は計画を立てて履修すること。

3. 資格取得の要件

(1) 以下 4 科目の単位を修得済みであること。

- 保健体育科目「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」
- 保健体育科目「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」
- 基礎共通科目「基礎スポーツ健康科学」
- キャリア創生共通科目「応用スポーツ健康科学」

(2) 上記 4 科目を修得し、大学から JSPO への書類申請をおこなうことで、JSPO の講習を受講せずにオンライン試験を受験することができ、合格後に手続きを行えば「スポーツコーチングリーダー」資格が授与される。

(3) 手続きの詳細は、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」、「基礎スポーツ健康科学」、「応用スポーツ健康科学」の授業で説明され、＜ My KONAN ＞にも掲示されるので、確認すること。

※『履修ガイドブック』の保健体育科目に記載している「スポーツコーチングリーダー」資格の項も参照すること。

甲南大学副専攻規程

学長決定

改正　令和８年２月26日

第１条　この規程は、甲南大学学則第６条の２の規定に基づき、副専攻に関し必要な事項を定める。

第２条　副専攻は、特定の分野又は課題に関する授業科目を体系的に編成した多様な教育を提供することにより、所属する学部等における学修に加えて、学生の目的や個性に応じた学修を促進することを目的とする。

第３条　副専攻は、18単位以上の単位の修得を修了の要件とする。

第４条　副専攻所定の単位を修得し、卒業の認定を受けた者については、副専攻を所管する部局の長の証明により、合同教授会の審議を経て、学長がこれを認定し、修了証書を授与する。

第５条　本大学の学生を対象として、次の副専攻を置く。

(1) 国際言語文化副専攻

(2) スポーツ健康副専攻

２ 副専攻の修了認定に必要な授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

３ 第１項第１号及び第２号の副専攻は、全学共通教育センターが所管する。

第６条　副専攻の授業科目の実施にあたり、必要があるときは、副専攻ごとに定員を設けることができる。

第７条　副専攻を履修しようとする学生は、所定の期間に登録を行わなければならない。ただし、複数の副専攻を登録することはできない。

２ 副専攻の登録は、原則として取り消すことはできない。

第８条　この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

別表「副専攻名：国際言語文化副専攻」については、国際言語文化副専攻の項を参照のこと。

別表「副専攻名：スポーツ健康副専攻」については、スポーツ健康副専攻の項を参照のこと。

単位互換科目（甲南女子大学）

本大学と甲南女子大学とは、両大学の研究・教育上の環境を考慮し、両大学が特色ある教育をより充実させることを目的として単位互換協定を締結している。本大学では、それに基づき、甲南女子大学の授業科目を履修することができる。

履修を許可された者は、甲南女子大学の「科目等履修生」として同大学の授業科目を履修することになる。人数は1学期30名以内（先着順）とする。

対象学部は、経済学部、法学部、経営学部、グローバル教養学環であり、「単位互換科目（甲南女子大学）」の概要は、『履修ガイドブック』で確認すること。

単位互換科目（大学コンソーシアムひょうご神戸）

本大学と大学コンソーシアムひょうご神戸は、単位互換事業に関する包括協定を締結しており、単位互換事業に加盟している他の大学・短期大学が開放する授業科目を履修することができる。

履修を許可された者は、各大学の定める範囲において、「単位互換履修生」として開講科目を履修し、単位を修得することができる。

「単位互換科目（大学コンソーシアムひょうご神戸）」の概要は、『履修ガイドブック』で確認すること。

専門教育科目

文学部
理工学部
経済学部
法学部
経営学部
知能情報学部
マネジメント創造学部
フロンティアサイエンス学部
グローバル教養学環

文　学　部

文　学　部

教育基本方針

幅広い教養を身につけながら、専門分野での研究能力を磨き、問題を見出し、深く考え、その成果を言葉で表現する力を身につけます。それを通じて、仕事を含む人生のさまざまな問題を主体的に解決できるようになることをめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。文学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目 18 単位　外国語科目 8 単位　保健体育科目 2 単位　専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（文学）又は学士（社会学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 世界に通用する国際教養力を有しています。
(5) 人文科学の諸分野に関して基本的な知識を修得しています。
(6) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
(7) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

1. 文学部学生は、所属学科について学則によって定められた単位を修得しなければならない。
2. 文学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討した上で履修科目を選択すること。

文学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和６年２月16日　改正〕

【令和６年度以降入学生に適用】

文学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける単位数は次のとおりとする。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

１　文学部の学生が履修登録できる授業科目の単位数は次のとおりとする。

１年次	２年次	３年次	４年次
48単位以内 （基礎共通科目の単位数は８単位以内）	48単位以内	48単位以内	48単位以内

２　次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

(1)　文学部各学科の専門教育科目にある「卒業研究」
(2)　外国語科目にある海外語学講座・留学支援科目
(3)　教育職員免許状を得るために必要な教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目及び文学部専門教育科目を除く。）
(4)　図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうちＡ群の科目
(5)　学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
(6)　公認心理師に関する専門教育科目のうちＡ群の科目
(7)　キャリア創生共通科目にある「エリアスタディーズⅠ～X」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」、「海外キャリア実習」
(8)　卒業単位に算入されない他大学等との単位互換協定に基づく科目

（中略・令和５年度以前入学生適用表　略）

（改廃）

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は　令和６年４月１日から施行する。

3. 文学部卒業研究　審査基準について

卒業研究の成果と口頭試問の結果に基づいて、以下の項目について総合的に判断し、主査１名、副査１名による評価を行う。60 点以上（100 点満点）を得た者を合格とする。

(1) テーマの妥当性

研究課題が、関連する知識と資料調査などに基づいて、指導教員との相談を経て決定され、意義のあるものとなっていること。

(2) 方法の適切性

研究分野における適切な研究方法を用いていること。作品制作などの場合は、分野および課題に適した方法を用いていること。

(3) 内容の豊かさ

分析および考察、素材の収集と整理などが充実しており、内容が十分練られたものであること。

(4) 表現能力

論文、作品等の体裁が整い、内容が適切に伝わるものとなっていること。また、試問において内容を分かりやすく説明でき、質問に正確かつ端的に答えられること。

(5)「卒業研究」の特別履修について

4 年生以上の学生が通年で履修する「卒業研究」について休学等により通常とは異なる半期での履修を行う制度である。

詳しくは『履修ガイドブック』を確認すること。

4. 留学について

本学の留学制度を利用して留学する場合には、必ず学科主任に履修相談をすること。

5. 文学部共通科目について

文学部では、各学科において専門科目が設けられており、専門分野について深く学ぶことができる。また、他学科の専門科目や、５学科が共同で開講している科目、他学部の科目も履修できる。これらの科目を履修することにより、深い専門性に加え、幅広い分野について学ぶことが可能である。

(i) 横断科目

文学部では5つの学科がそれぞれに専門に応じた演習を展開している。それに対し、この「横断演習」は5学科を横断して実施されるプロジェクト型の授業科目である。

募集・履修等の詳細については新入生履修指導で説明するので、必ず参加すること。

授業科目	開講学部等
横　断　演　習　Ⅰ	文　学　部
横　断　演　習　Ⅱ	

(ii) 地域連携講座科目

地域連携講座科目は、文学部の各学科の専門科目として開講されているもので、文学部のすべての学生に開かれた科目群である。

これらの科目は、できるだけ多くの学生が、様々な地域に関心を抱き、将来的には地域とかかわるほかの活動とも連携しながら、地域において活躍することを目的としている。また、地域からのゲスト・スピーカーによる授業や、地域住民が聴講できる公開授業の実施も予定している。

授業科目	開講学部等
関西のことばと文学	日本語日本文学科
ことばの研究	
日本語教授法研究Ⅱ	
地域社会論	社会学科
NPO／NGO論	
メディア文化論	
阪神文化論	歴史文化学科
観光文明学Ⅰ	
観光文明学Ⅱ	

(iii) 国際交流科目

「言語・文学・教育」、「歴史・宗教・地理」、「経済・経営」、「芸術・文化・社会」、「国際関係・法学・政治」という様々な観点から日本理解を促進することを目的としている。外国人留学生を対象に英語で開講される科目であるが、留学生とともにグローバルな観点から日本社会の諸側面を学び、視野を広げることができるため、文学部の学生にはぜひ履修してほしい。

なお、詳細な手続などに関しては『履修要項』「国際交流科目」のページ、『シラバス』を確認すること。

授業科目	開講学部等
ジャパンスタディーズ1	国際交流センター
ジャパンスタディーズ2	
ジャパンスタディーズ3	
ジャパンスタディーズ4	
ジャパンスタディーズ5	
ジャパンスタディーズ6	
ジャパンスタディーズ7	
ジャパンスタディーズ8	
ジャパンスタディーズ9	
ジャパンスタディーズ10	
ジャパンスタディーズ11	
ジャパンスタディーズ12	
ジャパンスタディーズ13	
ジャパンスタディーズ14	

(iv) キャリア関連科目

キャリア関連科目は、文学部の各学科および共通・関連科目として開講されている専門科目の

うち、社会生活と密接に係わる基礎知識を身に付けることで、卒業後の進路選択やキャリア形成に役立つと思われる科目群である。社会に目を向け、卒業後の生き方を考える際のヒントを与えてくれる。他学科の科目であっても、興味のある授業を積極的に履修することが望ましい。
修得した単位は所属する学科の専門科目または他学科科目として卒業単位に含まれる。

なお、自学科の科目表にない科目の配当年次は、開講学部等の科目表を参照すること。

授業科目	開講学部等
ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ	英語英米文学科
現代家族論	社会学科
発展研究B(ライフスタイルと社会Ⅰ)	
人間環境論Ⅰ・Ⅱ	人間科学科
社会・集団・家族心理学	
教育・学校心理学	
現代史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歴史文化学科
観光文明学Ⅰ・Ⅱ	
初級マクロ経済学	経済学部
労働法Ⅰ	法学部
経営学総論	経営学部
経営労務論	
マーケティング総論	

(v) 言語基礎科目

言語基礎科目は、一般的に「西洋古典語」と呼ばれるラテン語と古典ギリシア語からなる科目群である。これらの言語は、今日のヨーロッパ諸言語の源流として位置付けられている。また、その西洋古典語による古典文化は今もなお「ヨーロッパ的なもの」を形作る基盤であり続けている。その古典語文法を学ぶことによって、今日のヨーロッパ文化の理解を深めることを目的として設けられた科目群である。

基本的に「ラテン語入門」は奇数年、「ギリシア語入門」は偶数年に開講される。

授業科目	開講学部等
ギリシア語入門	文学部
ラテン語入門	

⑹ 社会科学基礎科目

社会科学基礎科目は、文学部の学生に身に付けてもらいたい経済学、法学、政治学、経営学の基礎的な知識や考え方を学ぶ科目群である。社会生活を送る上での知識として役立つのみならず、各学科の専門科目とともに履修することで、多角的な見方・考え方を身に付けることにもつながる。

なお、自学科の科目表にない科目の配当年次は、開講学部等の科目表を参照すること。

授業科目	開講学部等
初級マクロ経済学	経済学部
初級ミクロ経済学	
経済史	
労働経済Ⅰ	
労働経済Ⅱ	
社会経済思想Ⅰ	
社会経済思想Ⅱ	
憲法Ⅰ	法学部
憲法Ⅱ	
労働法Ⅰ	
経営学総論	経営学部
経営労務論	
マーケティング総論	

⑺ 教職関連科目

教職関連科目は、教育職員養成課程に関連する科目群である。教育や学習に関わるテーマについて、将来、教員として働く際に必要となる内容を中心に学ぶ。文学部の卒業生には、教員として活躍している先輩がいる。これらの科目は、教育職員養成課程に登録していない人も履修することができる。各課程の詳細については、『履修要項』の「教職に関する専門教育科目」や『教職ガイドブック』などで確認すること。

授業科目	開講学部等
教育心理	教職に関する専門教育科目
教育相談	
教育社会行政論	

日本語日本文学科

教育基本方針

世界の中での日本文化の価値と意義を知り、広い視点から自国の文化を見直すとともに、世界に向けて発信するために、日本語と日本文学について、多面的かつ深く学ぶことを目標とします。また、日本語の高度な理解力と運用能力・表現能力を身につけることで、実社会のさまざまな分野で活躍することをめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。日本語日本文学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（文学）の学位を授与します。

(1) 教養ある社会人として責任感と倫理観を持ち、現代社会の発展に貢献する意志と能力を有するとともに、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 世界に発信し得る、日本語と日本文学に関する知識と常識を有しています。
(5) 自らの考えを分かりやすく表現し、他者に伝える力を有しています。
(6) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

文学部日本語日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の 3 本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。

また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力と表現力を養成します。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
(5) キャリア教育により、日本語・日本文学に関する知識を社会で生かす力を養うとともに地域連携講座科目を通じて、地域との結びつきを形成する能力を養成します。
(6) 在学中の学修成果を集大成する仕組みとそれを評価する取組みとして、卒業研究を配置します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習、演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	【人物教育】教養ある社会人として責任感と倫理観を持ち、現代社会の発展に貢献する意志と能力を有するとともに、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【専門・知識】世界に発信し得る、日本語と日本文学に関する知識と常識を有しています。
(5)	【専門・コミュニケーション能力】自らの考えを分かりやすく表現し、他者に伝える力を有しています。
(6)	【集大成・課題解決】的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(5)
A	的確な問いをたてて問題解決を図る能力を有しているとともに、日本語を用いて論理を構成し文章で他者を説得することができる。また、研究リテラシーを体得し、日本語と日本文学に関する高度な分析能力を有している。	(2)(5)(6)
B	日本語について分析するために必要となる基礎的知識を有しているとともに、情報を的確に取捨選択し、有効に活用することができる。	(5)(6)
C	日本語について分析するために必要となる基礎的知識を有しているとともに、日本語に対する知識を応用し、社会で生かすことができる。また、日本語を通じて社会とのつながりを保持し、地域との連携を深めることができる。	(1)(3)
D	日本古典文学について分析するために必要となる基礎的知識や、さまざまな時代の文章を的確に理解するための基礎的な読解力を有している。また、日本語を用いて論理を構成し文章で他者を説得することができる。	(5)
E	日本近現代文学について分析するために必要となる基礎的知識や、さまざまな時代の文章を的確に理解するための基礎的な読解力を有している。また、日本語を用いて論理を構成し文章で他者を説得することができる。	(5)
F	日本語学と日本文学に隣接する諸領域を横断し分析するために必要となる基礎的知識を獲得するとともに、自らの考えを分かりやすく表現し、他者に伝える力を有している。また、研究リテラシーを体得し、日本語と日本文学に関する高度な分析能力を身につけるとともに、社会で生かすことができる。	(4)
G	日本語学と日本文学に隣接する他分野の知識を獲得するとともに、的確な問いをたてて問題解決を図る能力を有している。また、日本語を通じて社会とのつながりを保持し、地域との連携を深めることができる。	(1)(2)

授業科目表(文学部日本語日本文学科)　〔2026年度(令和8年度)の入学生に適用〕

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				Z	A	B	C	D	E	F	G
全学共通科目	基礎共通科目	*	*	○							
	外国語科目	*	*	○							
	保健体育科目	*	*	○							

＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと
全学共通科目（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）28単位

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標							
						Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	必修科目		日本文学概論Ⅰ	2	1						○		
			日本文学概論Ⅱ	2	1					○			
			日本語学概論Ⅰ	2	1			○					
			日本語学概論Ⅱ	2	1				○				
			基礎演習Ⅰ	2	1		○						
			基礎演習Ⅱ	2	1		○						
			演習Ⅰａ	2	2		○						
			演習Ⅰｂ	2	2		○						
			演習Ⅱａ	2	3		○						
			演習Ⅱｂ	2	3		○						
			研究演習	2	4		○						
			卒業研究	8	4		○						
	以上30単位必修												
	基礎科目		日本語表現法Ⅰ	2	1						○		
			日本語表現法Ⅱ	2	1						○		
			日本文学史Ⅰａ	2	1					○			
			日本文学史Ⅰｂ	2	1					○			
			日本文学史Ⅱａ	2	1						○		
			日本文学史Ⅱｂ	2	1						○		
			漢文学Ⅰａ	2	1					○			
			漢文学Ⅰｂ	2	1					○			
			漢文学Ⅱａ	2	2					○			
			漢文学Ⅱｂ	2	2					○			
			日本語史Ⅰ	2	2			○					
			日本語史Ⅱ	2	2			○					
			日本語文法論Ⅰ	2	2			○					
			日本語文法論Ⅱ	2	2			○					
	Ⓐ以上のうち16単位以上選択必修												
	発展科目	日本文学分野	古典文学	上代文学講読Ⅰ	2	1					○			
				上代文学講読Ⅱ	2	1					○			
				中古文学講読Ⅰ	2	1					○			
				中古文学講読Ⅱ	2	1					○			
				中世文学講読Ⅰ	2	1					○			
				中世文学講読Ⅱ	2	1					○			
				近世文学講読Ⅰ	2	1					○			
				近世文学講読Ⅱ	2	1					○			
				上代文学研究	2	3					○			
				中古文学研究	2	3					○			
				中世文学研究	2	3					○			
				近世文学研究	2	3					○			
			以上のうち8単位以上選択必修											
			近現代文学	近代文学講読Ⅰ	2	1						○		
				近代文学講読Ⅱ	2	1						○		
				近代文学講読Ⅲ	2	2						○		
				近代文学講読Ⅳ	2	2						○		
				現代文学講読Ⅰ	2	1						○		
				現代文学講読Ⅱ	2	1						○		
				現代文学講読Ⅲ	2	2						○		
				現代文学講読Ⅳ	2	2						○		
				近代文学研究	2	3						○		
				現代文学研究	2	3						○		
			以上のうち6単位以上選択必修											

授業科目名					単位数	配当年次	到達目標							
							Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	発展科目	日本語分野	日本語のしくみ	言語学概論Ⅰ	2	1			○					
				言語学概論Ⅱ	2	1			○					
				日本語音声学Ⅰ	2	2			○					
				日本語音声学Ⅱ	2	2			○					
				日本語語彙論Ⅰ	2	2			○					
				日本語語彙論Ⅱ	2	2			○					
				現代日本語研究Ⅰ	2	2			○					
				現代日本語研究Ⅱ	2	2			○					
				日本語学特殊講義Ⅰ	2	2			○					
			以上のうち4単位以上選択必修											
			日本語と社会	マスコミ言語研究Ⅰ	2	1				○				
				マスコミ言語研究Ⅱ	2	1				○				
				日本語教育概論Ⅰ	2	1				○				
				日本語教育概論Ⅱ	2	1				○				
				社会言語学Ⅰ	2	2				○				
				社会言語学Ⅱ	2	2				○				
				対照言語学Ⅰ	2	2				○				
				対照言語学Ⅱ	2	2				○				
				日本語学特殊講義Ⅱ	2	2				○				
				日本語教育研究Ⅰ	2	2				○				
				日本語教育研究Ⅱ	2	2				○				
				日本事情	2	3				○				
				日本語教授法研究Ⅰ	2	2				○				
				日本語教授法研究Ⅱ	2	2				○				
				日本語教育特殊講義	2	3				○				
				日本語教授法実習Ⅰ	2	3				○				
				日本語教授法実習Ⅱ	2	4				○				
			以上のうち4単位以上選択必修											
		共通分野		文学と表現Ⅰ	2	2							○	
				文学と表現Ⅱ	2	2							○	
				日本文学特殊講義Ⅰ	2	3							○	
				日本文学特殊講義Ⅱ	2	3							○	
				比較文学特殊講義	2	2							○	
				ことばの研究	2	2							○	
				こどもの文学とことば	2	3							○	
				関西のことばと文学	2	2							○	
				日本の舞台芸術	2	3							○	
				映像表現研究	2	3							○	
				マンガ・アニメ史	2	3							○	
				融合フォーラム（ジェンダー）	2	3							○	
				演習Ⅲa	2	4							○	
				演習Ⅲb	2	4							○	
				書道	2	2							○	
			以上のうち4単位以上選択必修											
	Ⓑ以上のうち40単位以上選択必修													

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	関連科目	横断演習Ⅰ	2	1								○
		横断演習Ⅱ	2	1								○
		英語圏文化Ⅰ	2	3								○
		英語圏文化Ⅱ	2	3								○
		英語の獲得と理解	2	3								○
		社会心理学	2	2								○
		文化人類学	2	2								○
		多文化共生論	2	2								○
		地域社会論	2	2								○
		情報社会論	2	2								○
		コミュニケーション研究	2	3								○
		メディア研究	2	3								○
		現代文化論	2	2								○
		文学思想史	2	2								○
		発達心理学	2	2								○
		民俗学の諸問題Ⅰ	2	2								○
		民俗学の諸問題Ⅱ	2	2								○
		地理学・民俗学資料研究Ⅰ	2	2								○
		地理学・民俗学資料研究Ⅱ	2	2								○
		古文書学Ⅰ	2	3								○
		古文書学Ⅱ	2	3								○
		ＩＴ応用	2	1								○
		阪神文化論	2	1								○
専門教育科目　102 単位以上												
卒業必要単位数　130 単位以上												

【卒業必要単位数】

1. 文学部日本語日本文学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		18 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目		30 単位
選択必修科目	Ⓐより	16 単位以上
	Ⓑより	40 単位以上
自由選択科目		
合　計		130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目

②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内

③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内

④生涯スポーツについては、2 単位以内

⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 16 単位以内

Ⅰ．日本語日本文学科の特徴

1. 日本語日本文学科について

日本語日本文学科では、日本語と日本文学について多面的に学ぶことを目標としている。日本語は、これまで培われてきた日本文化の幹であり、日本文学はその稔りである。日本語と日本文学を深く学ぶことは、世界の中での日本文化の価値と意義を知ることであり、広い視点から自国の文化を見直すという作業の第一歩でもある。

また、実社会に通用する日本語の高度な理解力と表現力を身に付けることも、日本語日本文学科の学修の目標の一つである。

日本語分野では、日本語学の基礎を身に付けるとともに、日本語の意味や文法、日本語教育の方法、方言のあり方、日本語の表現技法について研究し、私たちがふだん意識せずに使っている日本語を新しい視点から見直す。日本文学分野では、古典から近現代にわたる様々な時代や多様なジャンルの作品や文学的事象を研究し、日本文学を総合的に把握するとともに、イメージの比較研究など文化領域に開かれた学修も行っている。

カリキュラムマップに見られるとおり、専門領域の充実に努めてきたが、関連する領域の学修もできるように学科独自の特色ある科目（「マスコミ言語研究Ⅰ・Ⅱ」など）や、地域に根差した科目（「関西のことばと文学」など）も設けている。また日本語教員養成課程が設けられており、外国人に対する日本語教育に必要な知識と技法を学ぶことができる。

2. 日本語日本文学科の教育課程

1 年次では「日本語学概論」、「日本文学概論」などの科目で日本語や日本文学についての基礎を学ぶ。また、少人数の「基礎演習」では、文献の調べ方やレポート作成に関する基礎的な技法を習得し、表現や理解の能力を鍛える。「基礎演習」は、専門分野に関連しつつ展開されるので、2 年次からの学修のよい導きとなるだろう。

2 年次から「演習Ⅰａ、Ⅰｂ」（ゼミ）に所属し、それぞれの指導教員のもとで、専門的な研究を行ううえでの基礎を身に付け、実践的な方法を学ぶ。課題を決めて、研究発表に臨み、具体的に研究の実際に触れることができる。

3年次では、引き続き「演習Ⅱａ、Ⅱｂ」（ゼミ）での学修を中心にして、より進んだ専門性を身に付ける。卒業研究で取り組むテーマを見つけることも課題の一つである。

最終学年の4年次では卒業研究（卒業論文）を作成し､4年間の学びの集大成とする。「研究演習」では、卒業研究作成の基礎となる事項を指導する。

一貫した少人数の演習によって、研究の基礎から高度な技法にいたるまで、懇切な指導を行っていることが、日本語日本文学科の特色である。また、演習を中核とした専門領域の学修を通じて、実社会に出ても評価される表現と理解の力を鍛えることも日本語日本文学科の特色の一つである。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。
2. 中級および上級外国語科目を履修する場合は、外国語科目の項に従うこと。
3. 日本語日本文学科の学生が他学科の1年次配当専門教育科目を履修できるのは、2年次以降とする。また、他学科の学生が、日本語日本文学科の1年次配当専門教育科目を履修できるのは、同じく2年次以降とする。ただし、「日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ」に限り、他学科1年次生の履修を認める。
4. 日本語日本文学科の学生は、4年次において卒業研究を行い、その成果を卒業論文として学科主任に提出しなければならない。提出期日は『履修ガイドブック』などを参照すること。
5. 下記の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
日本語教授法実習Ⅰ	「日本語学概論Ⅰ」、「日本語文法論Ⅱ」、「日本語教育概論Ⅰ」、「日本語教育概論Ⅱ」の8単位ならびに、次の4科目「日本語教育研究Ⅰ」、「日本語教育研究Ⅱ」、「日本語教授法研究Ⅰ」、「日本語教授法研究Ⅱ」の中から選択した2科目4単位と併せて12単位を修得していること。
日本語教授法実習Ⅱ	「日本語教授法実習Ⅰ」の単位を修得していること。

(1)「日本語教授法実習Ⅰ・Ⅱ」のクラスについて

「日本語教授法実習Ⅰ・Ⅱ」は①国内実習、②国外実習のうち、いずれかのクラスを選択して履修する。②クラスは、後期分の授業を夏期休暇中に海外で集中的に行う。海外での実習に参加できない者は①クラスを選択すること。なお、各クラスの説明は4月の第1回目の授業で行う。

(2) 国内・国外ともに交通費等（②クラスは渡航費と宿泊費を含む）の実費は、履修者の自己負担とする。

Ⅲ．日本語日本文学科の学生が目指せる資格

①中学校教諭一種免許状（国語）（「教育職員養成課程」のページを参照。）

②高等学校教諭一種免許状（国語）（「教育職員養成課程」のページを参照。）

③図書館司書（「図書館学に関する専門教育科目」のページを参照。）

④学校図書館司書教諭（「図書館学に関する専門教育科目」のページを参照。）

⑤登録日本語教員（「日本語教員養成課程」のページを参照。）

文学部 日本語日本文学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1)【人物教育】教養ある社会人として責任感と倫理観を持ち、現代社会の発展に貢献する意志と能力を有するとともに、自らを律し、他者と協調・協働することができます。		
	(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		
	(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (5)	(2) (5) (6)	(5) (6)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 的確な問いをたてて問題解決を図る能力を有しているとともに、日本語を用いて論理を構成し文章で他者を説得することができる。また、研究リテラシーを体得し、日本語と日本文学に関する高度な分析能力を有している。	B 日本語について分析するために必要となる基礎的知識を有しているとともに、情報を的確に取捨選択し、有効に活用することができる。
科目群	全学共通科目	必修科目	日本語のしくみ科目
4年		卒業研究◎ 研究演習◎	日本語学特殊講義Ⅰ 現代日本語研究Ⅱ 現代日本語研究Ⅰ 日本語語彙論Ⅱ 日本語語彙論Ⅰ 日本語音声学Ⅱ 日本語音声学Ⅰ 日本語文法論Ⅱ○ 日本語文法論Ⅰ○ 日本語史Ⅱ○ 日本語史Ⅰ○
3年		演習Ⅱｂ◎ 演習Ⅱａ◎	
2年	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	演習Ⅰｂ◎ 演習Ⅰａ◎	
1年	基礎共通科目(人文･自然･社会)＊1 基礎共通科目(導入共通/学際融合等)＊2 スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ College English Reading College English Writing College English Listening College English Speaking 基礎第2外国語Ⅱ（ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語） 基礎第2外国語Ⅰ（ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語）	基礎演習Ⅱ◎ 基礎演習Ⅰ◎	言語学概論Ⅱ 言語学概論Ⅰ 日本語学概論Ⅰ◎

1. 基礎共通科目は、合計 18 単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位以上、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位以上（＊2）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門・知識】世界に発信し得る、日本語と日本文学に関する知識と常識を有しています。	
	(5)【専門・コミュニケーション能力】自らの考えを分かりやすく表現し、他者に伝える力を有しています。	
	(6)【集大成・課題解決】的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。	

(1)(3)	(5)	(5)	(4)	(1)(2)
C 日本語について分析するために必要となる基礎的知識を有しているとともに、日本語に対する知識を応用し、社会で生かすことができる。また、日本語を通じて社会とのつながりを保持し、地域との連携を深めることができる。	D 日本古典文学について分析するために必要となる基礎的知識や、さまざまな時代の文章を的確に理解するための基礎的な読解力を有している。また、日本語を用いて論理を構成し文章で他者を説得することができる。	E 日本近現代文学について分析するために必要となる基礎的知識や、さまざまな時代の文章を的確に理解するための基礎的な読解力を有している。また、日本語を用いて論理を構成し文章で他者を説得することができる。	F 日本語学と日本文学に隣接する諸領域を横断し分析するために必要となる基礎的知識を獲得するとともに、自らの考えを分かりやすく表現し、他者に伝える力を有している。また、研究リテラシーを体得し、日本語と日本文学に関する高度な分析能力を身につけるとともに、社会で生かすことができる。	G 日本語学と日本文学に隣接する他分野の知識を獲得するとともに、的確な問いをたてて問題解決を図る能力を有している。また、日本語を通じて社会とのつながりを保持し、地域との連携を深めることができる。
日本語と社会科目	古典文学科目	近現代文学科目	共通分野科目	関連科目
日本語教授法実習Ⅱ			演習Ⅲｂ 演習Ⅲａ	
日本語教授法実習Ⅰ 日本事情 日本語教育特殊講義	近世文学研究 中世文学研究 中古文学研究 上代文学研究	現代文学研究 近代文学研究	日本文学特殊講義Ⅱ 日本文学特殊講義Ⅰ こどもの文学とことば 日本の舞台芸術 映像表現研究 融合フォーラム（ジェンダー） マンガ・アニメ史	英語圏文化Ⅱ 英語圏文化Ⅰ 英語の獲得と理解 コミュニケーション研究 メディア研究 古文書学Ⅱ 古文書学Ⅰ
日本語教授法研究Ⅱ 日本語教授法研究Ⅰ 日本語教育研究Ⅱ 日本語教育研究Ⅰ 日本語学特殊講義Ⅱ 対照言語学Ⅱ 対照言語学Ⅰ 社会言語学Ⅱ 社会言語学Ⅰ	漢文学Ⅱｂ○ 漢文学Ⅱａ○	現代文学講読Ⅳ 現代文学講読Ⅲ 近代文学講読Ⅳ 近代文学講読Ⅲ	文学と表現Ⅱ 文学と表現Ⅰ 比較文学特殊講義 ことばの研究 関西のことばと文学 書道	社会心理学 文化人類学 多文化共生論 地域社会論 情報社会論 現代文化論 文学思想史 発達心理学 民俗学の諸問題Ⅱ 民俗学の諸問題Ⅰ 地理学・民俗学資料研究Ⅱ 地理学・民俗学資料研究Ⅰ
マスコミ言語研究Ⅱ マスコミ言語研究Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教育概論Ⅰ 日本語学概論Ⅱ◎	近世文学講読Ⅱ 近世文学講読Ⅰ 中世文学講読Ⅱ 中世文学講読Ⅰ 中古文学講読Ⅱ 中古文学講読Ⅰ 上代文学講読Ⅱ 上代文学講読Ⅰ 漢文学Ⅰｂ○ 漢文学Ⅰａ○ 日本文学史Ⅰｂ○ 日本文学史Ⅰａ○ 日本文学概論Ⅱ◎	現代文学講読Ⅱ 現代文学講読Ⅰ 近代文学講読Ⅱ 近代文学講読Ⅰ 日本語表現法Ⅱ○ 日本語表現法Ⅰ○ 日本文学史Ⅱｂ○ 日本文学史Ⅱａ○ 日本文学概論Ⅰ◎		横断演習Ⅱ 横断演習Ⅰ 阪神文化論 IT 応用

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目
②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内
③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内
④生涯スポーツについては、2 単位以内
⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 16 単位以内
注）上記 2 の①～⑤の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。
3. ◎はカリキュラムマップにおける授業科目表（文学部日本語日本文学科）専門教育科目の必修科目、○は基礎科目を表す。

英語英米文学科

教育基本方針

実践的語学教育と並行して英語学及び英語圏の文化・文学の教育をおこないます。英語圏文化の深い理解に裏打ちされた英語運用能力を持つ人材を育成し、グローバル化する社会の要請に応えます。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。英語英米文学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数130単位以上（基礎共通科目18単位　外国語科目8単位　保健体育科目2単位　専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（文学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 世界に通用する国際教養力を有しています。
(5) 英語圏文化を語るのに必要な常識と、文学、歴史学、言語学に関する基礎的な専門知識を有しています。
(6)「ことば」を使って論理的に思考し、他者に伝える力を有しています。
(7) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

文学部英語英米文学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の3本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力及び表現力を養成します。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 英語圏文学・文化及び英語学についての幅広い専門科目群を選択必修とし、文学・歴史学・言語学に関する知識と理解を涵養します。
(5) 少人数のゼミで質問力や問題解決能力などの社会人基礎力を育成します。
(6) 多様な留学制度を通してグローバルな視点を育成します。
(7) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
(8) 卒業研究（卒業論文）により、(i) 問題を設定する能力、(ii) 資料・調査に基づき中長期プロジェクトを推進する力、(iii) それらを総合した論考を一定の長さの論文としてまとめ読み手に伝える能力を涵養し、在学中の学びの集大成とします。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習、演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	【人物教育】自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識するとともに、自らを律し、他者と協調・協働する力を有しています。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【専門・知識】世界に通用する国際教養力を有しています。
(5)	【専門・知識】英米文化を語るのに必要な常識と、文学、歴史学、言語学に関する基礎的な専門知識を有しています。
(6)	【専門・コミュニケーション能力】「ことば」を使って論理的に思考し、他者に伝える力を有しています。
(7)	【集大成・課題解決】的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(6)
A	論理的な思考を通して自分の意見を他者に有効的に伝えることができ、課題を見出して問題解決を図ることや、特定のトピックについてリサーチして論理的に文章化することができる。	(1)(2)(7)
B	英語の四技能を的確に運用できる能力を有し、グローバル社会に対応する意思と能力を身につけている。	(4)(6)
C	英語運用能力の他に、留学の前後に役立つ知識・能力・教養などを身につけ、グローバル社会に対応することができる。	(4)(6)
D	言語学の基礎的な専門知識を有し、ことばを科学的な視点で分析するとともに、多言語という観点からグローバル社会に対応できる教養を身につけている。	(4)(6)
E	英語圏文化と日本文化を理解し、比較の視座を備えるとともに、多文化という観点からグローバル社会に対応できる教養を身につけている。	(4)(5)
F	文化的・歴史的背景を踏まえ、英語圏の文学作品を理解するとともに、多文化という観点からグローバル社会に対応できる教養を身につけている。	(4)(5)
G	人文学を中心に幅広い教養を身につけ、将来、社会人として生きる上で必要となる基礎的な知識を有している。	(3)(4)

授業科目表（文学部英語英米文学科）　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E	F	G
全学共通科目	基礎共通科目	*	*	○							
	外国語科目	*	*	○							
	保健体育科目	*	*	○							

＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと
全学共通科目（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）28単位

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標							
						Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	文化・文学・英語学	必修	英米文化・文学入門	4	1						○	○	
			英語学入門	4	1					○			
			基礎演習Ⅰa	1	1		○						
			基礎演習Ⅰb	1	1		○						
			基礎演習Ⅱa	1	2		○						
			基礎演習Ⅱb	1	2		○						
			Qualifying Test	2	4			○					
			セミナーⅠa	2	3		○						
			セミナーⅠb	2	3		○						
			セミナーⅡa	2	4		○						
			セミナーⅡb	2	4		○						
			卒業研究	8	4		○						
		以上30単位必修											
		A群（英・米・英語圏文化）	英米文化探訪Ⅰ	2	1						○		
			英米文化探訪Ⅱ	2	1						○		
			ブリティッシュ・スタディーズⅠ	2	2						○		
			ブリティッシュ・スタディーズⅡ	2	2						○		
			アメリカン・スタディーズⅠ	2	2						○		
			アメリカン・スタディーズⅡ	2	2						○		
			英米文化研究Ⅰ	2	3						○		
			英米文化研究Ⅱ	2	3						○		
			英語圏文化Ⅰ	2	2						○		
			英語圏文化Ⅱ	2	2						○		
			西洋史概説Ⅰ	2	2						○		
			西洋史概説Ⅱ	2	2						○		
			西洋史特論Ⅱ	2	3						○		
		以上のうち4単位以上選択必修											
		B群（英・米・英語圏文学）	文学探訪a	2	1							○	
			文学探訪b	2	1							○	
			イギリス文学思潮史Ⅰ	2	2							○	
			イギリス文学思潮史Ⅱ	2	2							○	
			アメリカ文学思潮史Ⅰ	2	2							○	
			アメリカ文学思潮史Ⅱ	2	2							○	
			英米文学研究Ⅰ	2	3							○	
			英米文学研究Ⅱ	2	3							○	
			英語圏文学Ⅰ	2	2							○	
			英語圏文学Ⅱ	2	2							○	
			比較文学特殊講義	2	3							○	
			文学思想史	2	2							○	
		以上のうち4単位以上選択必修											
		C群（英語学）	英語の文法	2	2					○			
			英語の音声	2	2					○			
			英語の意味	2	2					○			
			英語の歴史	2	2					○			
			英語のレキシコン	2	2					○			
			英語の獲得と理解	2	2					○			
			英語学講座Ⅰ	2	2					○			
			英語学講座Ⅱ	2	2					○			
			英語学講座Ⅲ	2	2					○			
			英語学講座Ⅳ	2	2					○			
			英語学研究Ⅰ	2	3					○			
			英語学研究Ⅱ	2	3					○			
		以上のうち4単位以上選択必修											
	Ⓐ以上のうち28単位以上選択必修												

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標							
						Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	リーディング・ライティング・スピーキング	D群（リーディング）	講読演習Ⅰa	1	1			○					
			講読演習Ⅰb	1	1			○					
			講読演習Ⅱa	1	2			○					
			講読演習Ⅱb	1	2			○					
			講読演習Ⅲa	1	3			○					
			講読演習Ⅲb	1	3			○					
		以上のうち2単位以上選択必修											
		E群（ライティング）	英作文Ⅰa	1	1			○					
			英作文Ⅰb	1	1			○					
			英作文Ⅱa	1	2			○					
			英作文Ⅱb	1	2			○					
			英作文Ⅲa	1	3			○					
			英作文Ⅲb	1	3			○					
		以上のうち2単位以上選択必修											
		F群（スピーキング）	イングリッシュ・フォーラムⅠa	1	1			○					
			イングリッシュ・フォーラムⅠb	1	1			○					
			イングリッシュ・フォーラムⅡa	1	2			○					
			イングリッシュ・フォーラムⅡb	1	2			○					
			イングリッシュ・フォーラムⅢa	1	3			○					
			イングリッシュ・フォーラムⅢb	1	3			○					
		以上のうち2単位以上選択必修											
	Ⓑ以上のうち12単位以上選択必修												
	英語英米文学科専門その他	G群（英語力強化）	ボキャブラリー・ビルディングⅠ	2	1			○					
			ボキャブラリー・ビルディングⅡ	2	1			○					
			ワークショップⅠa	2	2			○					
			ワークショップⅠb	2	2			○					
			ワークショップⅡa	2	3			○					
			ワークショップⅡb	2	3			○					
			ワークショップⅢa	2	3			○					
			ワークショップⅢb	2	3			○					
			時事英語Ⅰ	2	1			○					
			時事英語Ⅱ	2	1			○					
			ＣＡＬＬⅠ	2	2			○					
			ＣＡＬＬⅡ	2	2			○					
			ビジネス・イングリッシュⅠ	1	3			○					
			ビジネス・イングリッシュⅡ	1	3			○					
			翻訳セミナーⅠ	2	3			○					
			翻訳セミナーⅡ	2	3			○					
		H群（留学関連）	Japan in English Ⅰ	2	1				○				
			Japan in English Ⅱ	2	1				○				
			留学特別講座Ⅰ	4	2				○				
			留学特別講座Ⅱ	4	2				○				
			留学特別講座Ⅲ	4	2				○				
			English Studies Ⅰ	2	2				○				
			English Studies Ⅱ	2	2				○				
			English Studies Ⅲ	2	2				○				
			English Studies Ⅳ	2	2				○				
			English Studies Ⅴ	2	2				○				
			English Studies Ⅵ	2	2				○				
			English Studies Ⅶ	2	2				○				
			English Studies Ⅷ	2	2				○				
	Ⓒ以上のうち14単位以上選択必修												

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	関連科目	西洋美術史	2	2								○
		歴史と思想	2	3								○
		比較文化論	2	2								○
		西洋史研究Ⅰ	2	2								○
		西洋史研究Ⅱ	2	2								○
		哲学入門	2	2								○
		マンガ・アニメ史	2	2								○
		融合フォーラム（ファンタジー）	2	3								○
		融合フォーラム（文化と自然）	2	3								○
		文学と表現Ⅰ	2	3								○
		文学と表現Ⅱ	2	3								○
		芸術表象論	2	2								○
		多文化共生論	2	2								○
		学習・言語心理学	2	1								○
		心理学統計法	2	1								○
		日本語文法論Ⅰ	2	3								○
		日本語文法論Ⅱ	2	3								○
		日本語音声学Ⅰ	2	3								○
		日本語音声学Ⅱ	2	3								○
		自然言語処理	2	3								○
		横断演習Ⅰ	2	1								○
		横断演習Ⅱ	2	1								○
	ⓓ以上のうち4単位以上選択必修											
専門教育科目　102単位以上												
卒業必要単位数　130単位以上												

【卒業必要単位数】

1. 文学部英語英米文学科の学生は、次に定めるところに従って合計130単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		18単位
外国語科目		8単位
保健体育科目		2単位
専門教育科目		102単位以上
必修科目		30単位
選択必修科目	Ⓐより	28単位以上
	Ⓑより	12単位以上
	Ⓒより	14単位以上
	ⓓより	4単位以上
自由選択科目		
合　計		130単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目

②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内

③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内

④生涯スポーツについては、2 単位以内

⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 16 単位以内

Ⅰ．英語英米文学科の特徴

英語英米文学科では、英・米をはじめとした英語圏の文化・文学・言語を多面的に学ぶことを目標としている。英語という外国語の学習を通して文化・文学・言語を学ぶことによって、学識を深め、広い視野をもち、健全な判断力と論理的思考を涵養し、創立者平生釟三郎の言葉にある「世界に通用する人材」の育成を目指している。この目標を達成するために、英語英米文学科の専門教育科目に関るカリキュラムは、英語圏の文化、英語圏の文学、英語を言語学的に研究する英語学に分けられている。

1 年次においては入門科目（英米文化・文学入門、英語学入門）によって、2 年次以降の専門教育科目の基礎を学ぶ。2 年次においては、それを発展させた科目群Ａ群、Ｂ群、Ｃ群を設置し、英・米・英語圏文化、英・米・英語圏文学、英語学について万遍なく学べるように工夫してある。このような科目を履修することによって、学生はそれぞれの興味に応じて、3 年次で「セミナー」を選び専門を決定し、それが 4 年次の「卒業研究」へと連結することになる。そして、3、4 年次の「セミナー」での研究を通じて「卒業研究」のテーマを設定し、4 年間の集大成として論文形式にまとめることになる。

また、英語英米文学科においては英語力養成に特段の力を入れている。上段で述べた専門分野についての研究は、確固たる英語力あるいはコミュニケーション能力に支えられてこそ初期目標を達成することが可能であることは言うまでもないからである。この領域の科目群は、リーディング、ライティングおよびスピーキングに関する科目群Ｄ、Ｅ、Ｆと英語英米文学科専門その他の科目群Ｇ、Ｈでまとめられている。前者においては読み書き話す技能を向上させ、後者においては「時事英語」、「ビジネス・イングリッシュ」、「ＣＡＬＬ」、「翻訳セミナー」等によって多角的な英語力を涵養することを目指す。英語力養成に関する方向付けは、必修科目「Qualifying Test」によって具現化されている。同科目は、英語力テスト、アクティブ・ラーニング、ＴＯＥＩＣ スコアに基づき、英

語英米文学科を卒業する者としてふさわしい英語力があるかを総合的に判断したうえで、成績評価をする。同科目合格に向けて「ワークショップ」を設けて支援体制を整えている。

甲南大学は、国際交流に積極的に取組んできたことが全国的に高い評価を得ている。国際交流センターでも多様な制度を設けているが、留学希望者の多くが英語英米文学科の学生であることに鑑み、学科においても「留学特別講座」、「Japan in English」を設置して留学支援体制を充実させている。さらに、留学した学生が履修上有利になるように「English Studies」を初めとして単位換算の幅を拡大している。

英語英米文学科においては、英語英米文学に関する専門および英語力養成科目を必修、あるいは選択必修としながら、一方ではある一定の範囲で自由な履修形態を可能にしている。このカリキュラム構成上の柔軟性は甲南の自由闊達な学風を反映していると言える。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
セ　ミ　ナ　ー　Ⅰ　a	「基礎演習Ⅰa」および「基礎演習Ⅰb」の単位を修得していること。
セ　ミ　ナ　ー　Ⅰ　b	
セ　ミ　ナ　ー　Ⅱ　a	
セ　ミ　ナ　ー　Ⅱ　b	

2. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

3. 卒業研究

英語英米文学科の4年次学生は、「卒業研究」を履修しなければならない。「卒業研究」は原則として、セミナー担当教員の指導を受けるものとし、卒業研究の成果を提出しなければならない。卒業研究の提出予定者は、卒業研究のテーマを所定の用紙に記入し、指導主任の確認印を必ず添付して提出すること。提出期日は、『履修ガイドブック』を確認すること。論文についての試問を2月に行う。

4. セミナー

(1)　「セミナーⅠa、Ⅰb」は3年次、「セミナーⅡa、Ⅱb」は4年次で履修し、「セミナーⅠa」、「セミナーⅠb」、「セミナーⅡa」、「セミナーⅡb」の順に履修するものとする。なお、これらの科目を2科目以上同時に履修することはできない。ただし、4年次生か本学の留学制度で留学した者で「セミナーⅠa」または「セミナーⅠb」が未履修の者は、事情によっては複数の科目を履修できる場合もあるので、履修登録前に必ず学科主任に相談すること。

(2)　2年次生は3年次に履修する「セミナーⅠa、Ⅰb」を12月に予備登録を行う。細部については10月の説明会で発表する。

5. 基礎演習Ⅰ・Ⅱ

(1) 「基礎演習Ⅰa、Ⅰb」は1年次、「基礎演習Ⅱa、Ⅱb」は2年次で履修し、「基礎演習Ⅰa」、「基礎演習Ⅰb」、「基礎演習Ⅱa」、「基礎演習Ⅱb」の順に履修するものとする。なお、これらの科目を2科目以上同時に履修することはできない。ただし、4年次生の場合は、事情によっては複数の科目を同時に履修することができる場合もあるので、複数科目の履修を希望するものは履修登録前に必ず学科主任に相談すること。

(2) 「基礎演習Ⅰa、Ⅰb」の履修を2、3、4年次で希望する場合、また、「基礎演習Ⅱa、Ⅱb」を3、4年次で希望する場合は、履修登録前に必ず学科主任の承認を得て指定されたクラスで履修すること。

(3) 「基礎演習Ⅰa、Ⅰb」を修得していないものは「セミナーⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb」を履修することができないので注意すること。ただし、4年次生の場合は、学科主任の承認が得られれば「基礎演習Ⅰa、Ⅰb」とセミナー科目を同時に履修することができる場合もあるので、同時履修を希望するものは履修登録前に必ず学科主任に相談すること。

6. クラス指定、または人数制限のある科目

(1) 「ボキャブラリー・ビルディングⅠ、Ⅱ」は、指定されたクラスの履修登録をすること。

(2) 次の科目の履修登録は、抽選登録を行う。抽選の際受付期間は通常の履修登録期間と異なるので注意すること。なお、各クラスの定員は＜My KONAN＞を参照すること。

「時事英語Ⅰ、Ⅱ」「CALL Ⅰ、Ⅱ」「留学特別講座Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」

「イングリッシュ・フォーラムⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

「英作文Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

「講読演習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

「ワークショップⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

7. Qualifying Test

「Qualifying Test」は、授業タスクのポイントとTOEICスコアを換算したポイントの合計で単位が認定される。TOEICで高得点を取る必要があるので、C～F群の科目に取組むなかで、学生生活の早い段階から準備することが望ましい。

文学部 英語英米文学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1)【人物教育】自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識するとともに、自らを律し、他者と協調・協働する力を有しています。		
	(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		
	(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (6)	(1) (2) (7)	(4) (6)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 論理的な思考を通して自分の意見を他者に有効的に伝えることができ、課題を見出して問題解決を図ることや、特定のトピックについてリサーチして論理的に文章化することができる。	B 英語の四技能を的確に運用できる能力を有し、グローバル社会に対応する意思と能力を身につけている。
科目群	全学共通科目	演習科目	英語力向上科目 （英語スキル）
4年		卒業研究 セミナーⅡb セミナーⅡa	Qualifying Test
3年		セミナーⅠb セミナーⅠa	ビジネス・イングリッシュⅡ ビジネス・イングリッシュⅠ 翻訳セミナーⅡ 翻訳セミナーⅠ ワークショップⅡb ワークショップⅡa ワークショップⅢb ワークショップⅢa イングリッシュ・フォーラムⅢb イングリッシュ・フォーラムⅢa 英作文Ⅲb 英作文Ⅲa 講読演習Ⅲb 講読演習Ⅲa
2年	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	基礎演習Ⅱb 基礎演習Ⅱa	ワークショップⅠb ワークショップⅠa CALL Ⅱ CALL Ⅰ イングリッシュ・フォーラムⅡb イングリッシュ・フォーラムⅡa 英作文Ⅱb 英作文Ⅱa 講読演習Ⅱb 講読演習Ⅱa
1年	基礎共通科目(人文･自然･社会)＊1 基礎共通科目(導入共通/学際融合等)＊2 スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ College English Reading College English Writing College English Listening College English Speaking 基礎第2外国語Ⅱ(ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語) 基礎第2外国語Ⅰ(ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語)	基礎演習Ⅰb 基礎演習Ⅰa	ボキャブラリー・ビルディングⅡ ボキャブラリー・ビルディングⅠ 時事英語Ⅱ 時事英語Ⅰ イングリッシュ・フォーラムⅠb イングリッシュ・フォーラムⅠa 英作文Ⅰb 英作文Ⅰa 講読演習Ⅰb 講読演習Ⅰa

1. 基礎共通科目は、合計 18 単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位以上、
学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位以上（＊2）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門・知識】世界に通用する国際教養力を有しています。	
	(5)【専門・知識】英米文化を語るのに必要な常識と、文学、歴史学、言語学に関する基礎的な専門知識を有しています。	
	(6)【専門・コミュニケーション能力】「ことば」を使って論理的に思考し、他者に伝える力を有しています。	
	(7)【集大成・課題解決】的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。	

(4)（6）	(4)（6）	(4)（5）	(4)（5）	(3)（4）
C 英語運用能力の他に、留学の前後に役立つ知識・能力・教養などを身につけ、グローバル社会に対応することができる。	D 言語学の基礎的な専門知識を有し、ことばを科学的な視点で分析するとともに、多言語という観点からグローバル社会に対応できる教養を身につけている。	E 英語圏文化と日本文化を理解し、比較の視座を備えるとともに、多文化という観点からグローバル社会に対応できる教養を身につけている。	F 文化的・歴史的背景を踏まえ、英語圏の文学作品を理解するとともに、多文化という観点からグローバル社会に対応できる教養を身につけている。	G 人文学を中心に幅広い教養を身につけ、将来、社会人として生きる上で必要となる基礎的な知識を有している。
英語力向上科目（留学）	専門科目（英語学）	専門科目 （英・米・英語圏文化）	専門科目 （英・米・英語圏文学）	関連科目
English Studies Ⅰ English Studies Ⅱ English Studies Ⅲ English Studies Ⅳ English Studies Ⅴ English Studies Ⅵ English Studies Ⅶ English Studies Ⅷ 留学	英語学研究Ⅱ 英語学研究Ⅰ	英米文化研究Ⅱ 英米文化研究Ⅰ 西洋史特論Ⅱ	英米文学研究Ⅱ 英米文学研究Ⅰ 比較文学特殊講義	歴史と思想 融合フォーラム(文化と自然) 融合フォーラム(ファンタジー) 文学と表現Ⅱ 文学と表現Ⅰ 日本語文法論Ⅱ 日本語文法論Ⅰ 日本語音声学Ⅱ 日本語音声学Ⅰ 自然言語処理
留学特別講座Ⅰ 留学特別講座Ⅱ 留学特別講座Ⅲ （留学のための集中プログラム） 中級英語：Speaking, TOEFL（全学共通科目） Global Topics Ⅰ・Ⅱ （全学共通科目）	英語の文法 英語の音声 英語の意味 英語の歴史 英語のレキシコン 英語の獲得と理解 英語学講座Ⅰ 英語学講座Ⅱ 英語学講座Ⅲ 英語学講座Ⅳ	アメリカン・スタディーズⅡ アメリカン・スタディーズⅠ ブリティッシュ・スタディーズⅡ ブリティッシュ・スタディーズⅠ 英語圏文化Ⅱ 英語圏文化Ⅰ 西洋史概説Ⅱ 西洋史概説Ⅰ	アメリカ文学思潮史Ⅱ アメリカ文学思潮史Ⅰ イギリス文学思潮史Ⅱ イギリス文学思潮史Ⅰ 英語圏文学Ⅱ 英語圏文学Ⅰ 文学思想史	西洋美術史 比較文化論 西洋史研究Ⅱ 西洋史研究Ⅰ 哲学入門 マンガ・アニメ史 芸術表象論 多文化共生論
Japan in English Ⅱ Japan in English Ⅰ （留学のための英語集中プログラム） College English: Reading, Writing, Listening, Speaking (全学共通科目) 中級英語：Presentation, Writing （全学共通科目）	英語学入門	英米文化探訪Ⅱ 英米文化探訪Ⅰ 英米文化・文学入門	文学探訪ｂ 文学探訪ａ 英米文化・文学入門	学習・言語心理学 心理学統計法 横断演習Ⅱ 横断演習Ⅰ

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目
②中級・上級外国語(国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。)については、16 単位以内
③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内
④生涯スポーツについては、2 単位以内
⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 16 単位以内

注）上記 2 の①～⑤の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

社会学科

教育基本方針

情報化、国際化の急速な進展によって、未来に対する予測がますます困難になってきた社会環境の中で、自ら世界と人の動きをよく見聞きし、考え、新たな未来を切り開いていく行動力を持った人物を育むことを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。社会学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数130単位以上（基礎共通科目18単位　外国語科目8単位　保健体育科目2単位　専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（社会学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 国際的教養に裏付けられた世界に通用する行動力を有しています。
(5) 社会学・人類学の諸分野に関する知識と常識を有しています。
(6) 多様な社会文化現象を読み解き、自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。
(7) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

文学部社会学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の3本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。

また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力および表現力を育成します。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 少人数のゼミで質問力や問題解決能力などの社会人基礎力を育成します。
(5) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
(6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
(7) 地域連携講座科目を通じて、地域の中で自己と他者を総合的に捉える力を養います。
(8) 卒業研究により、在学中に学んだことを集大成します。

2）教育方法

(1) 講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習・演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	【社会貢献・倫理・協働】自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	【建学の精神】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【国際的行動力】国際的教養に裏付けられた世界に通用する行動力を有しています。
(5)	【専門的知識】社会学・人類学の諸分野に関する知識と常識を有しています。
(6)	【解釈力・表現力】多様な社会文化現象を読み解き、自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。
(7)	【課題解決力】的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(6)
A	少人数での対話型教育に基づき、綜合的（ジェネリックな）思考力を身につけ、論文執筆や研究制作により、学びの成果を集大成することができる。	(1)(2)
B	社会調査、具体的な課題解決など（アクティブ・ラーニング）を介して、実践的行動力を身につけ、専門諸分野における方法を学び、明晰に分析することができる。	(1)(2)
C	専門諸分野における理論を修得し、頑健に思索することができる。	(4)(5)
D	的確かつ有益な問いを立て、その解決を図る意思と発想を有し、既成の情報や旧来の常識を批判し、新しい視点や考え方を打ち出すことができる。	(4)(7)
E	現代社会が抱える諸問題を理解し、普遍かつ不偏に行動する力を身につけている。	(6)

授業科目表（文学部社会学科）　〔2026年度（令和８年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○					
		外国語科目	*	*	○					
		保健体育科目	*	*	○					
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）28単位										
専門教育科目	必修科目	研究法入門演習	2	1		○				
		社会調査基礎演習	2	1		○				
		共通演習	2	2		○				
		ゼミナール１	2	2		○				
		ゼミナール２	2	3		○				
		ゼミナール３	2	3		○				
		ゼミナール４	2	4		○				
		卒業研究	8	4		○				
	以上22単位必修									

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標					
						Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	基本科目		公共社会学	2	1				○		
			社会学概論	2	1				○		
			文化人類学	2	1				○		
			多文化共生論	2	1				○		
			社会心理学	2	1				○		
			社会意識論	2	1				○		
			社会調査法	2	1			○			
			家族社会学	2	1				○		
			社会人口論	2	1				○		
			文化社会学	2	1				○		
			コミュニケーション研究	2	1				○		
			メディア研究	2	1				○		
			ＮＰＯ／ＮＧＯ論	2	1				○		
			都市社会学	2	1				○		
			阪神文化論	2	1				○		
	Ⓐ以上のうち 18 単位以上選択必修										
	応用領域		計量社会学	2	2			○			
			社会統計学	2	2			○			
			フィールドワーク研究	2	2			○			
		ライフスタイルと社会	現代家族論	2	2				○		
			ライフコース論	2	2				○		
			生活福祉論	2	2				○		
			社会階層論	2	2				○		
			労働経済Ⅰ	2	2				○		
			労働経済Ⅱ	2	3				○		
		文化と共生	比較文化論	2	2				○		
			現代文化論	2	2				○		
			社会人類学	2	2				○		
			ジェンダー／セクシュアリティ論	2	2				○		
			融合フォーラム（ジェンダー）	2	3・4				○		
			現代思想	2	3				○		
		サステナビリティと地域	サステナビリティ論	2	2				○		
			市民社会論	2	2				○		
			環境社会論	2	2				○		
			地域社会論	2	2				○		
			観光文明学Ⅰ	2	3				○		
			観光文明学Ⅱ	2	3				○		
		組織とネットワーク	ソーシャル・キャピタル論	2	2				○		
			社会ネットワーク論	2	2				○		
			集団組織論	2	2				○		
			社会運動論	2	2				○		
			社会・集団・家族心理学	2	2				○		
			教育・学校心理学	2	2				○		
		メディアコミュニケーションと表現	メディア文化論	2	2				○		
			映像文化論	2	2				○		
			創作過程論	2	2				○		
			情報社会論	2	2				○		
			芸術社会史	2	3				○		
			サウンドスケープ研究	2	2				○		
	Ⓑ以上のうち 34 単位以上選択必修										

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	発展研究	社会調査実践研究	4	3			○			
		量的データ解析	2	3			○			
		発展研究A（社会理論の可能性）	2	3					○	
		発展研究B（ライフスタイルと社会Ⅰ）	2	3					○	
		発展研究B（ライフスタイルと社会Ⅱ）	2	3					○	
		発展研究C（文化と共生Ⅰ）	2	3					○	
		発展研究C（文化と共生Ⅱ）	2	3					○	
		発展研究D（サステナビリティと地域Ⅰ）	2	3					○	
		発展研究D（サステナビリティと地域Ⅱ）	2	3					○	
		発展研究E（組織とネットワークⅠ）	2	3					○	
		発展研究E（組織とネットワークⅡ）	2	3					○	
		発展研究F（メディアコミュニケーションと表現Ⅰ）	2	3					○	
		発展研究F（メディアコミュニケーションと表現Ⅱ）	2	3					○	
	©以上のうち6単位以上選択必修									
	関連科目	横断演習Ⅰ	2	1						○
		横断演習Ⅱ	2	1						○
		日本史概説Ⅰ	2	2						○
		日本史概説Ⅱ	2	2						○
		アジア史概説Ⅰ	2	2						○
		アジア史概説Ⅱ	2	2						○
		西洋史概説Ⅰ	2	2						○
		西洋史概説Ⅱ	2	2						○
		日本史研究Ⅰ	2	2						○
		日本史研究Ⅱ	2	2						○
		アジア史研究Ⅰ	2	2						○
		アジア史研究Ⅱ	2	2						○
		西洋史研究Ⅰ	2	2						○
		西洋史研究Ⅱ	2	2						○
		人文地理	2	2						○
		法律学概論	2	2						○
		政治学入門	2	1						○
		政治学原論	2	2						○
		地誌Ⅰ	2	2						○
		地誌Ⅱ	2	2						○
		民俗学の諸問題Ⅰ	2	2						○
		民俗学の諸問題Ⅱ	2	2						○
		自然地理学	2	2						○
		関西のことばと文学	2	2						○
		IT応用	2	1						○
専門教育科目　102単位以上										
卒業必要単位数　130単位以上										

【卒業必要単位数】

1. 文学部社会学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		18 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目		22 単位
選択必修科目	Ⓐより	18 単位以上
	Ⓑより	34 単位以上
	Ⓒより	6 単位以上
自由選択科目		
合　計		130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目

②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内

③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内

④生涯スポーツについては、2 単位以内

⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 10 単位以内

Ⅰ．社会学科のカリキュラムの特徴

1．社会学科の教育目標

現代社会は「VUCA」、すなわち Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の時代とも呼ばれるように、不確実性が高く、将来を明確に予測することが困難になっている。社会学科では、このような時代をよりよく生きることに資する、多様な社会現象および社会問題を捉え深く考察するための広い視野と柔軟な思考力、すなわち「社会を読み解く力」と、みずから課題を設定して必要な情報を的確な手法で収集・分析し、その成果を表現・発信する実証的・実践的なマインドおよびスキルを養成する。

2. 社会学科が育てたい人物像

社会学科では、

(1) 既成の情報やこれまでの常識にとらわれず、それらを批判的に検討しながら多様な価値観を理解することで、新しい視点や考え方を打ち出していく姿勢を有する人

(2) 複雑な現代社会の中で情報を整理し、読み解くことができる「メディアリテラシー」と、目的に適したデータを収集・分析し、その成果を表現・発信できる「リサーチリテラシー」を有する人

(3) 上記の姿勢とリテラシーを備え、実践的に社会と関わりながら現場で他者とコミュニケーションをとる感性を有する人を育成すべく、以下のようにカリキュラムを編成している。

3. 社会学科カリキュラムの基本ポイント

(1) 応用領域における５つの科目群

応用領域を、

- ➢ 「ライフスタイルと社会」
- ➢ 「文化と共生」
- ➢ 「サステナビリティと地域」
- ➢ 「組織とネットワーク」
- ➢ 「メディアコミュニケーションと表現」

という５つの科目群に分け、学べる内容をイメージしやすく編成している。ここには社会学科専門科目だけではなく、他学部・他学科の科目も積極的に取入れている。

(2) 社会調査関連科目／社会調査工房プロジェクト

調査教育の積み重ねを経た集大成として､3 年次に｢社会調査実践研究｣を設定している。また、｢社会調査基礎演習」を皮切りに、｢社会調査実践研究」を経て社会調査士資格を取得するため、｢社会調査法」､｢計量社会学」､｢社会統計学」､｢フィールドワーク研究」､｢量的データ解析」といった社会調査関連科目を段階的に配置した。

また社会学科には､｢社会調査工房」があり、社会調査教育の自学自習用として「社会調査工房オンライン」という e-learning コンテンツが用意されている。これは授業外学習を支援するためのものである。課題の作成、ゼミナールでの発表や卒業研究に積極的に利用することを勧める。

ちなみに、実証的・実践的な調査マインドというものは何も文字や数値だけで構成されるものではない｡社会調査工房では､マルチメディア室を中心に､映像・画像編集などのメディア・コミュニケーション系実習・講義を支援するための設備や機器が配置され、調査記録の編集などのフィールド調査教育の支援を行っている。

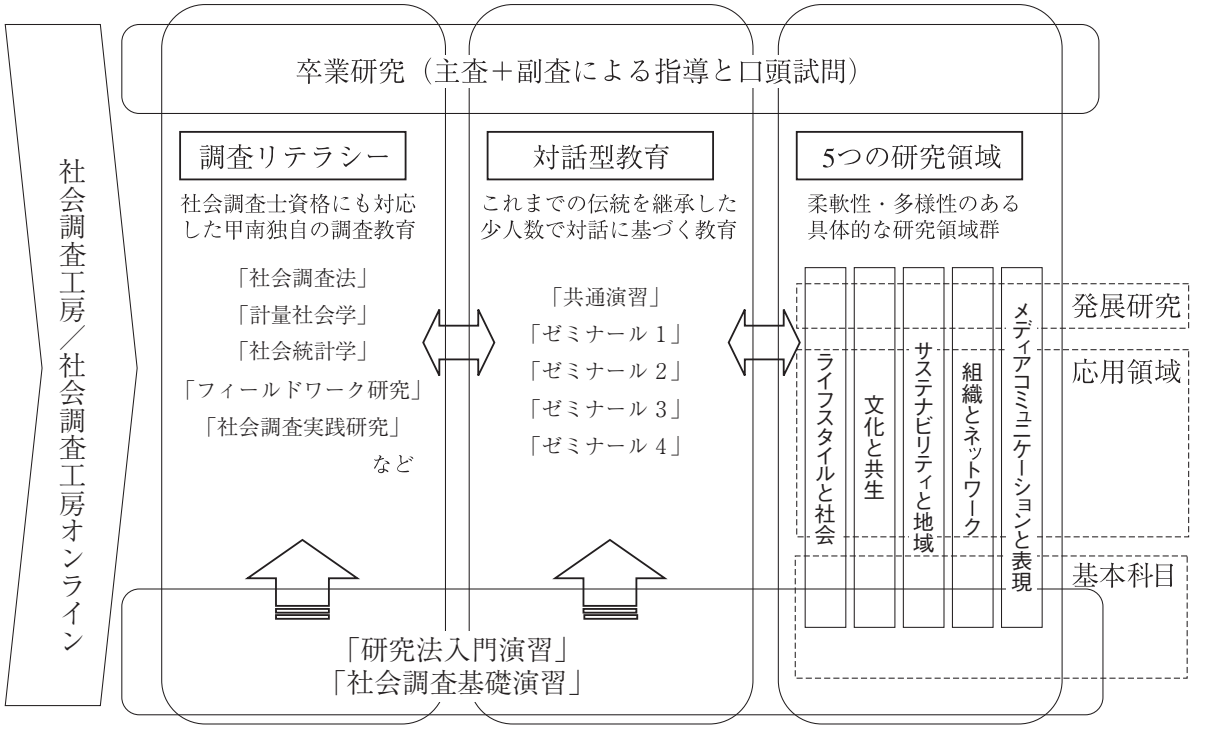
(3) 顔の見える教育－ゼミナール

社会学科では、ゼミナールを２年次後期より設けている。これは単なる少人数クラスの授業ではなく、個々人の関心・志向、創意・工夫に基づく自由研究の場であり、学生相互の、教員－学生間の対話の場である。学んできたことを積極的に語ってほしい。

１年次は、１人でも多くの先生の授業に参加し、多様な考えに触れてみて、次年度のゼミナールの選択に臨んでほしい。

(4) ゆるやかな段階的・構造的な科目構成

1年次配当科目 を「基本科目群」とし、導入・基礎科目として位置付けたうえで、2年次以降を個別分野の知識とスキルを深める「応用領域科目群」、3年次以降をそれまでの知識とスキルをもとに様々な特定テーマを少人数クラスで考える「発展研究科目群」とし、5領域を立体的に配置している。すなわち、履修レベルを明確にし、履修学年に偏りが出ないような構成に向け、専門科目を編成している。下図とカリキュラムマップを参照して計画的に履修をし、「社会を読み解く力」と実証的・実践的なマインドおよびスキルを身につけてほしい。



Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 下表の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
量 的 デ ー タ 解 析	「社会統計学」の単位を修得していること。

2. 所属する年次をこえる配当年次の授業科目は履修できない。
3. 科目によっては通常の履修登録とは異なり、抽選によって履修登録を行うもの、特別な手続きが必要なものがあるので、＜My KONAN＞を参照すること。
4. 社会学科４年次の学生は、「卒業研究」を履修したうえで、その研究成果を提出し、審査を受けなければならない。提出期日などは、『履修ガイドブック』を参照すること。

社会調査士資格制度について

社会調査士資格には「社会調査士」「専門社会調査士」の２種類がある。「社会調査士」とは、インタビュー調査やアンケート調査の基本的な方法を学び、統計や世論調査の結果を批判的に検討するなど、社会調査の現場で必要な基礎的な能力をもっていることを表す資格である。資格認定に必要な科目の単位を取得し、大学卒業時に申請することで認定される。また在学中に所定の単位を取得することで、卒業時に社会調査士資格を取得予定であることを示す「社会調査士（キャンディデイト）」の認定を受けることができる。より高度な実務能力を証明する「専門社会調査士」の資格取得については、「社会調査士」を取得したうえで大学院に進学し、必要な科目の単位を取得して修士課程を修了するとともに、社会調査データを用いて執筆した研究論文を提出することが必要となる。社会調査士資格制度についての詳細は、社会調査協会のホームページ（http://jasr.or.jp/）を参照すること。

「社会調査士」の資格を取得するために必要な科目は次のとおりである。

《2018 年度以降の入学生》

調査士科目区分	科　目　名	配当年次	単位数	履修要件
A	社会調査法	1	2	必修
B	社会調査基礎演習	1	2	必修
C	計量社会学	2	2	必修
D	社会統計学	2	2	必修
F	フィールドワーク研究	2	2	選択必修
E	量的データ解析	3	2	選択必修
G	社会調査実践研究	3	4	必修

必修科目	5 科目	12 単位	
選択必修科目	1 科目	2 単位	
計	6 科目	14 単位	以上

「社会調査士（キャンディデイト）」とは、社会調査協会が「大学卒業時に社会調査士資格を取得する見込みである」ことを証明するもので、在学中の就職や進学にむけた活動にも社会調査士資格の取得に向けた学修が役立つように設けているものである。本学科では 3 年次前期に申請を受け付けている。

ただし、このキャンディデイト資格を正式の資格に変更するためには、卒業時に資格変更を申請する必要があり、またキャンディデイト資格を取得しなくても卒業時に正式な資格の取得を申請できるので、キャンディデイト資格が必要か考えたうえで申請すること。

申請手続きについては、『履修ガイドブック』を参照すること。

社会調査士（キャンディデイト）資格を取得するために必要な条件

以下の条件をすべて満たす必要がある。

(1) 在籍期間が 1 年以上であること

(2) 申請時までに、必要科目（上に記載の表参照）を 3 科目以上単位取得していること

(3) (2) の単位取得済み科目と申請時に履修中の必要科目の合計が、5 科目以上であること

※ (2) (3) についての科目の数え方

・「フィールドワーク研究」と「量的データ解析」は選択制のため両方取得（あるいは履修中）の場合でも 1 科目と数える。

文学部 社会学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1)【社会貢献・倫理・協働】自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。		
	(2)【建学の精神】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		
	(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP)の番号	(1)(2)(3)(6)	(1)(2)	(1)(2)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 少人数での対話型教育に基づき、総合的（ジェネリックな）思考力を身につけ、論文執筆や研究制作により、学びの成果を集大成することができる。	B 社会調査、具体的な課題解決など（アクティブ・ラーニング）を介して、実践的行動力を身につけ、専門諸分野における方法を学び、明晰に分析することができる。
科目群	全学共通科目	ゼミナール科目	社会調査科目
4年		ゼミナール4 卒業研究	
3年		ゼミナール3 ゼミナール2	社会調査実践研究 量的データ解析
2年	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	共通演習 ゼミナール1	計量社会学 社会統計学 フィールドワーク研究
1年	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 基礎共通科目（導入共通/学際融合等）＊2 スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ College English Reading College English Writing College English Listening College English Speaking 基礎第2外国語Ⅱ(ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語) 基礎第2外国語Ⅰ(ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語)	研究法入門演習 社会調査基礎演習	社会調査法

1. 基礎共通科目は、合計18単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位以上（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から2単位以上、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から2単位以上（＊2）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【国際的行動力】国際的教養に裏付けられた世界に通用する行動力を有しています。	
	(5)【専門的知識】社会学・人類学の諸分野に関する知識と常識を有しています。	
	(6)【解釈力・表現力】多様な社会文化現象を読み解き、自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。	
	(7)【課題解決力】的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。	

(4) (5)	(4) (7)	(6)
C 専門諸分野における理論を修得し、頑健に思索することができる。	D 的確かつ有益な問いを立て、その解決を図る意思と発想を有し、既成の情報や旧来の常識を批判し、新しい視点や考え方を打ち出すことができる。	E 現代社会が抱える諸問題を理解し、普遍かつ不偏に行動する力を身につけている。
基本科目と応用領域科目	発展研究科目	関連科目
【ライフスタイルと社会】 労働経済Ⅱ 【文化と共生】 融合フォーラム（ジェンダー） 現代思想 【サステナビリティと地域】 観光文明学Ⅱ 観光文明学Ⅰ 【メディアコミュニケーションと表現】 芸術社会史	【発展研究 A】 社会理論の可能性 【発展研究 B】 ライフスタイルと社会Ⅱ ライフスタイルと社会Ⅰ 【発展研究 C】 文化と共生Ⅱ 文化と共生Ⅰ 【発展研究 D】 サステナビリティと地域Ⅱ サステナビリティと地域Ⅰ 【発展研究 E】 組織とネットワークⅡ 組織とネットワークⅠ 【発展研究 F】 メディアコミュニケーションと表現Ⅱ メディアコミュニケーションと表現Ⅰ	
【ライフスタイルと社会】 現代家族論 ライフコース論 生活福祉論 社会階層論 労働経済Ⅰ 【文化と共生】 比較文化論 現代文化論 社会人類学 ジェンダー／セクシュアリティ論 【サステナビリティと地域】 サステナビリティ論 市民社会論 環境社会論 地域社会論 【組織とネットワーク】 ソーシャル・キャピタル論 社会ネットワーク論 集団組織論 社会運動論 社会・集団・家族心理学 教育・学校心理学 【メディアコミュニケーションと表現】 メディア文化論 映像文化論 創作過程論 情報社会論 サウンドスケープ研究		【日本史】 日本史概説Ⅱ 日本史概説Ⅰ 日本史研究Ⅱ 日本史研究Ⅰ 【アジア史】 アジア史概説Ⅱ アジア史概説Ⅰ アジア史研究Ⅱ アジア史研究Ⅰ 【西洋史】 西洋史概説Ⅱ 西洋史概説Ⅰ 西洋史研究Ⅱ 西洋史研究Ⅰ 【地理】 人文地理 地誌Ⅱ 地誌Ⅰ 自然地理学 【民俗】 民俗学の諸問題Ⅱ 民俗学の諸問題Ⅰ 関西のことばと文学 法律学概論 政治学原論
公共社会学 文化人類学 社会心理学 家族社会学 文化社会学 社会学概論 多文化共生論 社会意識論 社会人口論 メディア研究 コミュニケーション研究 ＮＰＯ／ＮＧＯ論 都市社会学 阪神文化論		横断演習Ⅱ 横断演習Ⅰ 政治学入門 IT 応用

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目
②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内
③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内
④生涯スポーツについては、2 単位以内
⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 10 単位以内

注）上記 2 の①～⑤の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

人間科学科

教育基本方針

心理学・哲学・芸術学の知を関連づけながら「人間とは何か」を探求することにより、社会の問題を多角的に捉え、柔軟に解決することのできる人物の育成をめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。人間科学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数130単位以上（基礎共通科目又18単位　外国語科目8単位　保健体育科目2単位　専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に、学士（文学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 世界に通用する国際教養力を有しています。
(5) 各専門分野（心理学分野、哲学・芸術学分野）において研究、実践、表現等を行う能力を有しています。
(6) 自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。
(7) 的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

文学部人間科学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の３本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。

また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次から２年次にかけての基礎演習を必修とし、基礎的な読解力及び表現力を向上させるとともに、専門分野への導入を行います。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報リテラシーを学ぶ科目を配置します。
(3) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 少人数のゼミで質問力や問題解決能力などの社会人基礎力を育成しながら、専門分野の研究、実践、表現等の能力を鍛えます。
(5) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
(6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を１年次から４年次まで継続的に実施します。
(7) 地域連携講座科目を通じて、地域の中で自己と他者を総合的に捉える力を養います。
(8) 卒業研究（卒業論文）により、在学中に学んだことを集大成します。

2）教育方法

(1) １）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習・演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	世界に通用する国際教養力を有しています。
(5)	各専門分野（心理学分野、哲学・芸術学分野）において研究、実践、表現等を行う能力を有しています。
(6)	自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。
(7)	的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1) (2) (3) (6)
A	心理学の専門的知見や方法を通じて、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	(4) (5)
B	哲学や思想の文献読解を基盤として、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	(4) (5)
C	表現活動や作品の理解を通じて、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	(4) (5)
D	複数の専門分野の知識や方法の違いを踏まえたうえで、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	(3) (4)
E	専門分野の研究の方法や倫理を身につけて自分の考察したことを適切に表現できる。	(1) (2) (6) (7)
F	専門分野にとらわれない広い教養に基づいて、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	(3) (4)
G	専門家として求められている知識や技能を身につけ、関連分野の調査・研究・運営に当たることができる。	(5) (6) (7)

授業科目表（文学部人間科学科）　〔2026 年度（令和8 年度）の入学生に適用〕

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				Z	A	B	C	D	E	F	G
全学共通科目	基礎共通科目	*	*	○							
	外国語科目	*	*	○							
	保健体育科目	*	*	○							

＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと
全学共通科目（基礎共通科目 18 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位）28 単位

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	必修科目	人間科学入門	2	1					○			
		人間科学基礎演習Ⅰ	2	1						○		
		人間科学基礎演習Ⅱ	2	2						○		
		人間科学基礎演習Ⅲ	2	2						○		
		演習Ⅰａ	2	3						○		
		演習Ⅰｂ	2	3						○		
		演習Ⅱａ	2	4						○		
		演習Ⅱｂ	2	4						○		
		卒業研究	8	4						○		
	以上24単位必修											
	融合科目	融合フォーラム（死生学）	2	1					○			
		融合フォーラム（ジェンダー）	2	2					○			
		融合フォーラム（文化と自然）	2	2					○			
		融合フォーラム（ファンタジー）	2	3・4					○			
		西洋古典文化論	2	1					○			
		西洋人間科学思想入門Ⅰ	2	1					○			
		西洋人間科学思想入門Ⅱ	2	1					○			
		アート・ワークショップ入門	2	1					○			
		心理学と哲学	2	2					○			
		心理学と芸術	2	2					○			
		環境学入門	2	2					○			
		身体論	2	2					○			
		トラウマ学	2	2					○			
		芸術療法	2	3・4					○			
		防災心理学	2	3・4					○			
	Ⓐ以上のうち12単位以上選択必修											
	基礎科目	心理学概論	2	1		○						
		こころの科学	2	1		○						
		発達心理学	2	1		○						
		学習・言語心理学	2	1		○						
		哲学入門	2	1			○					
		倫理学基礎論	2	1			○					
		応用倫理学	2	1			○					
		西洋美術史	2	1				○				
		日本美術史	2	1				○				
		文学思想史	2	1				○				
		欧文講読基礎Ⅰ	2	2					○			
		欧文講読基礎Ⅱ	2	2					○			
		平和学	2	2			○					
		芸術社会史	2	2				○				
		心理学史Ⅰ	2	3		○						
		心理学史Ⅱ	2	3		○						
	Ⓑ以上のうち12単位以上選択必修											

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標							
						Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	展開科目	分野共通	欧文講読Ⅰ	2	3・4					○			
			欧文講読Ⅱ	2	3・4					○			
			欧文講読Ⅲ	2	3・4					○			
			欧文講読Ⅳ	2	3・4					○			
			演習Ⅲａ	2	3						○		
			演習Ⅲｂ	2	3						○		
		哲学分野	現代思想	2	2			○					
			環境学	2	2			○					
			宗教思想史	2	2			○					
			日本哲学史	2	2			○					
			メディア哲学	2	2			○					
			ヒューマンライツ	2	2			○					
			西洋史概説Ⅰ	2	2			○					
			西洋史概説Ⅱ	2	2			○					
			哲学思想史	2	3			○					
			比較思想史	2	3・4			○					
			人間環境論Ⅰ	2	3			○					
			人間環境論Ⅱ	2	3			○					
			倫理思想史	2	3			○					
		芸術学分野	サウンドスケープ研究	2	1				○				
			視覚メディア論	2	1				○				
			マンガ・アニメ史	2	1				○				
			モダンアート研究	2	2				○				
			映像表現研究	2	2				○				
			サブカルチャー研究	2	2				○				
			芸術表象論	2	2				○				
			アート・ワークショップ実践	2	2				○				
			現代芸術研究	2	3				○				
			身体表現研究	2	3・4				○				
			現代芸術ワークショップ	2	3				○				
			デザイン・ワークショップ入門	2	3				○				
			デザイン・ワークショップ実践	2	3				○				
			言語表現論	2	3・4				○				
		心理学分野	心理学統計法	2	1		○						
			発達臨床心理学	2	1		○						
			心理学実験実習	2	1		○						
			心理療法	2	2		○						
			力動的心理学	2	2		○						
			臨床心理学概論	2	2		○						
			社会・集団・家族心理学	2	2		○						
			心理検査法	2	2		○						
			心理学研究法	2	2		○						
			教育・学校心理学	2	2		○						
			精神疾患とその治療	2	2		○						
			神経・生理心理学	2	2		○						
			心理的アセスメント	2	2		○						
			心理尺度構成法実習	2	3		○						
			心理調査計画法	2	2		○						
			心理地域援助	4	3・4		○						
			知覚・認知心理学	2	3・4		○						
			健康・医療心理学	2	3・4		○						
	©以上のうち 32 単位以上選択必修												

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標							
						Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	関連科目		日本文学史Ⅱａ	2	2							○	
			日本文学史Ⅱｂ	2	2							○	
			ＮＰＯ／ＮＧＯ論	2	2							○	
			メディア文化論	2	2							○	
			地域社会論	2	2							○	
			社会心理学	2	2							○	
			社会意識論	2	2							○	
			現代史Ⅰ	2	2							○	
			現代史Ⅱ	2	2							○	
			比較文学特殊講義	2	3							○	
			日本の舞台芸術	2	3							○	
			アメリカ文学思潮史Ⅰ	2	3							○	
			アメリカ文学思潮史Ⅱ	2	3							○	
			イギリス文学思潮史Ⅰ	2	3							○	
			イギリス文学思潮史Ⅱ	2	3							○	
			ソーシャル・キャピタル論	2	3							○	
			西洋史研究Ⅰ	2	3							○	
			西洋史研究Ⅱ	2	3							○	
			横断演習Ⅰ	2	1							○	
			横断演習Ⅱ	2	1							○	
	資格科目	博物館学芸員資格科目	生涯学習概論	2	1								○
			博物館概論	2	1								○
			博物館教育論	2	1								○
			考古学Ⅰ	2	1								○
			考古学Ⅱ	2	1								○
			歴史と美術	2	2								○
			博物館経営論	2	2								○
			博物館資料論	2	2								○
			博物館実習Ⅰ	1	2								○
			民俗学の諸問題Ⅰ	2	2								○
			民俗学の諸問題Ⅱ	2	2								○
			環境生物学	2	2								○
			生態学	2	2								○
			博物館展示論	2	3								○
			博物館資料保存論	2	3								○
			博物館情報・メディア論	2	3								○
			博物館実習Ⅱ	1	3								○
			博物館実習Ⅲ	1	4								○
		教職科目	IT 応用	2	1								○
			政治学入門	2	1								○
			公共社会学	2	2								○
			社会学概論	2	2								○
			文化人類学	2	2								○
			多文化共生論	2	2								○
			メディア研究	2	2								○
			コミュニケーション研究	2	2								○
			政治学原論	2	2								○
			法律学概論	2	2								○
			アジア史概説Ⅰ	2	2								○
			アジア史概説Ⅱ	2	2								○
			人文地理	2	2								○
			地誌Ⅰ	2	2								○
			地誌Ⅱ	2	2								○
			日本史概説Ⅰ	2	2								○
			日本史概説Ⅱ	2	2								○
			自然地理学	2	2								○
専門教育科目　102 単位以上													
卒業必要単位数　130 単位以上													

【卒業必要単位数】

1. 文学部人間科学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		18 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目		24 単位
選択必修科目	Ⓐより	12 単位以上
	Ⓑより	12 単位以上
	Ⓒより	32 単位以上
自由選択科目		
合　計		130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目

②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内

③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内

④生涯スポーツについては、2 単位以内

⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 10 単位以内

Ⅰ．人間科学科の特徴

文学部人間科学科は、人間の内面に着目しつつ現代世界の諸問題にアプローチする学科である。心理学、哲学、芸術学の知を関連付けながら「人間とは何か」を探究することで、家族、学校、環境、メディア、アートといった社会のことがらに広く関心を持ち、そこに見られる問題を解決する力を育てる。カリキュラムは複数の学問分野を有機的に結ぶ「融合科目群」を中心に、学生それぞれの関心を基礎から応用へと展開するよう設計されている。国家資格の公認心理師に必要な科目の学習を援助するだけでなく、思想や文化を含む、より幅広い視野で人間を捉えるための学びを支援する。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。
2. 卒業研究

　人間科学科 4 年次の学生は「卒業研究」を履修登録したうえで、その研究論文を人間科学科主任に提出しなければならない。提出期日などについては、『履修ガイドブック』を参照すること。

3. その他

　他学科、他学部学生が人間科学科の必修科目の履修を申込む場合は、各担当教員の了承を得た場合に限り履修できる。また、その他の科目についても、履修を制限することがあるので、『シラバス』で確認すること。

Ⅲ．人間科学科の卒業生が取得できる資格について

①「博物館学芸員」（「博物館学芸員養成課程」のページを参照。）

②「認定心理士」

　1990 年から日本心理学会が基礎資格として位置付け、認定を開始した資格である。大学で心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを認定する資格で、「心理学」という名称が使われていない学部学科を卒業した場合でも、心理学に関する標準的な単位を修得していることが証明できる。また、2016 年 3 月に、心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士の資格として認定心理士（心理調査）も制定されており、これを取得することも可能である。ただし、これらの資格は、心理学の専門職につながるものではなく、国家資格である「公認心理師」とは別の資格である。日本心理学会が定めた内容に対応する所定の科目の単位を修得したうえで、原則として卒業後に申請し、資格を得ることができる。

　資格の詳細については人間科学科および日本心理学会のウェブページを参照すること。

人間科学科ウェブページ：https://www.konan-u.ac.jp/faculty/letters/human/nintei.html

日本心理学会ウェブページ：https://www.psych.or.jp/qualification/documents_new/

Ⅳ．人間科学科を卒業した後さらに条件を満たすことで取得できる資格について

「公認心理師」

　公認心理師の資格を得るためには、(1) 大学で必要とされる科目を修めて卒業し、(2) 大学院において必要とされる科目を修めて修了するか、もしくは文部科学省令・厚生労働省令で定めた施設において定められたプログラムを終了したうえで、(3) 国家試験に合格しなくてはならない。詳細については「公認心理師に関する専門教育科目」を参照すること。また、科目を履修する際の注意事項について、『履修ガイドブック』を必ず参照すること。

Ⅴ．博物館学芸員養成課程（文学部人間科学科　対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。ここでの博物館とは、美術館、自然誌（史）博物館、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、郷土館、記念館、動植物園、水族館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では文学部人間科学科、歴史文化学科と理工学部宇宙理学・量子物理工学科、生物学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身に付けることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用できるであろう。

(1) 学芸員養成課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには､1 年次から 4 年次までの各年度で行われるガイダンスを受講し、1 年次後半に学芸員養成課程登録をする必要がある。
2. 2 年次以降、(a) 歴史文化領域コース、(b) 美術領域コース、(c) 環境領域コースの 3 コースから 1 つを選択して履修する。1 年次後半にガイダンスを受講し、学芸員養成課程登録とともにコースを選択する必要がある。
3. 学芸員養成課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については以下の点に注意すること。
   ① 館園実習を履修するまでに、それ以外の必修科目をすべて修得しておく必要がある。
   ② 実習を受入れてくれる施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取扱う場合もある。そのため実習希望者については、人間科学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
   ③ 実習施設への申込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取止めることは認めない。
   ④ 実習の期間は実習施設によって異なる。多くは 4 年次夏休みだが、4 年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導などの日程は変更になることがある。

(2) 学芸員養成課程に必要な科目

［2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用］

授業科目	単位	必要単位数	
生涯学習概論	2	11 科目 19 単位必修	
博物館概論	2		
博物館経営論	2		
博物館資料論	2		
博物館資料保存論	2		
博物館展示論	2		
博物館教育論	2		
博物館情報・メディア論	2		
博物館実習Ⅰ	1		
博物館実習Ⅱ	1		
博物館実習Ⅲ	1		
日本史概説Ⅰ	2	A	A～E の科目群について、2 群以上 8 単位以上選択必修
日本史概説Ⅱ	2		
アジア史概説Ⅰ	2		
アジア史概説Ⅱ	2		
西洋史概説Ⅰ	2		
西洋史概説Ⅱ	2		
考古学Ⅰ	2		
考古学Ⅱ	2		
民俗学の諸問題Ⅰ	2		
民俗学の諸問題Ⅱ	2		
歴史と美術	2	B	
西洋美術史	2		
日本美術史	2		
芸術社会史	2		
モダンアート研究	2		
現代芸術研究	2		
環境学入門	2	C	
環境学	2		
人間環境論Ⅰ	2		
人間環境論Ⅱ	2		
環境教育の実践	2		
地学通論Ⅰ	2		
地学通論Ⅱ	2		
環境生物学	2	D	
生態学	2		
生物学臨海実習	2		
物理学通論Ⅰ	2	E	
物理学通論Ⅱ	2		
力学基礎	2		
電磁気学基礎	2		

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの 3 つがある。学科の専門性に応じ、人間科学科の学生は歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースのいずれかを選択すること。

注 2. 必修科目のうち、「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、「博物館実習Ⅲ」は複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、歴史文化領域コースおよび美術領域コースは科目群ＡＢＣ、環境領域コースは科目群ＡＣＤＥを履修することが望ましい。

注 4.「生物学臨海実習」は、生物学科の学生のみを対象とする。

注 5.【C】群の「地学通論Ⅰ」「地学通論Ⅱ」及び【E】群の科目は、高度の数学的知識が要求されるので文学部の学生は注意すること。

(3) 学芸員養成課程のスケジュール

学芸員養成課程の4年間のスケジュールは、おおよそ次のとおりである。実施の日時などは、その都度連絡するので、＜My KONAN＞の掲示に注意すること。

1 年 次	4月	新入生ガイダンス
	前期	仮登録
	12月～1月	課程登録
	3月	次年度課程登録者への履修ガイダンス
2 年 次	3月	次年度課程登録者への履修ガイダンス
3 年 次	12月～1月	館園実習希望者への面接
	1月～3月	館園実習予定者の発表
4 年 次	6月～7月	館園実習の事前指導
	7月～9月頃	館園実習（「博物館実習Ⅲ」およそ7日間）
	卒業時	学芸員課程の修了証明書の授与

文学部 人間科学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。				
	(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。				
	(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。				
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (6)	(4) (5)	(4) (5)	(4) (5)	
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 心理学の専門的知見や方法を通じて、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	B 哲学や思想の文献読解を基盤として、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	C 表現活動や作品の理解を通じて、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	
科目群	全学共通科目	心理学科目	哲学科目	芸術学科目	
4年					
3年		健康・医療心理学 心理尺度構成法実習 知覚・認知心理学 心理地域援助 心理学史Ⅱ 心理学史Ⅰ	倫理思想史 哲学思想史 比較思想史 人間環境論Ⅱ 人間環境論Ⅰ	身体表現研究 現代芸術研究 言語表現論 デザイン・ワークショップ実践 デザイン・ワークショップ入門 現代芸術ワークショップ	
2年	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	心理的アセスメント 心理検査法 教育・学校心理学 力動的心理学 精神疾患とその治療 心理療法 神経・生理心理学 心理調査計画法 臨床心理学概論 社会・集団・家族心理学 心理学研究法	メディア哲学 日本哲学史 ヒューマンライツ 平和学 西洋史概説Ⅱ 西洋史概説Ⅰ 現代思想 宗教思想史 環境学	サブカルチャー研究 アート・ワークショップ実践 モダンアート研究 映像表現研究 芸術表象論 芸術社会史	
1年	基礎共通科目(人文･自然･社会)＊1 基礎共通科目(導入共通/学際融合等)＊2 スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ College English Reading College English Writing College English Listening College English Speaking 基礎第2外国語Ⅱ (ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語) 基礎第2外国語Ⅰ (ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語)	心理学実験実習 心理学統計法 発達臨床心理学 学習・言語心理学 こころの科学 心理学概論 発達心理学	応用倫理学 哲学入門 倫理学基礎論	サウンドスケープ研究 視覚メディア論 マンガ・アニメ史 日本美術史 文学思想史 西洋美術史	

1. 基礎共通科目は、合計 18 単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位以上、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位以上（＊2）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4) 世界に通用する国際教養力を有しています。	
	(5) 各専門分野（心理学分野、哲学・芸術学分野）において研究、実践、表現等を行う能力を有しています。	
	(6) 自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。	
	(7) 的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。	

(3) (4)	(1) (2) (6) (7)	(3) (4)	(5) (6) (7)
D 複数の専門分野の知識や方法の違いを踏まえたうえで、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	E 専門分野の研究の方法や倫理を身につけて自分の考察したことを適切に表現できる。	F 専門分野にとらわれない広い教養に基づいて、個人や社会の問題について学術的に考察できる。	G 専門家として求められている知識や技能を身につけ、関連分野の調査・研究・運営に当たることができる。
領域横断科目	研究リテラシー科目	関連科目	資格科目
	卒業研究 演習Ⅱb 演習Ⅱa		博物館実習Ⅲ
融合フォーラム（ファンタジー） 芸術療法 防災心理学 欧文講読Ⅰ 欧文講読Ⅱ 欧文講読Ⅲ 欧文講読Ⅳ	演習Ⅰb 演習Ⅰa 演習Ⅲb 演習Ⅲa	イギリス文学思潮史Ⅱ イギリス文学思潮史Ⅰ アメリカ文学思潮史Ⅱ アメリカ文学思潮史Ⅰ 西洋史研究Ⅱ 西洋史研究Ⅰ ソーシャル・キャピタル論 比較文学特殊講義 日本の舞台芸術	博物館展示論 博物館資料保存論 博物館情報・メディア論 博物館実習Ⅱ
身体論 環境学入門 トラウマ学 融合フォーラム（ジェンダー） 融合フォーラム（文化と自然） 心理学と芸術 心理学と哲学 欧文講読基礎Ⅱ 欧文講読基礎Ⅰ	人間科学基礎演習Ⅲ 人間科学基礎演習Ⅱ	現代史Ⅱ 現代史Ⅰ 日本文学史Ⅱb 日本文学史Ⅱa 地域社会論 社会心理学 社会意識論 NPO/NGO 論 メディア文化論	民俗学の諸問題Ⅱ　公共社会学 民俗学の諸問題Ⅰ　文化人類学 社会学概論　日本史概説Ⅱ 多文化共生論　日本史概説Ⅰ アジア史概説Ⅱ　メディア研究 アジア史概説Ⅰ　地誌Ⅱ コミュニケーション研究　地誌Ⅰ 自然地理学　人文地理 法律学概論　政治学原論 歴史と美術　環境生物学 生態学　博物館経営論 博物館資料論　博物館実習Ⅰ
アート･ワークショップ入門 西洋古典文化論 西洋人間科学思想入門Ⅱ 西洋人間科学思想入門Ⅰ 融合フォーラム（死生学） 人間科学入門	人間科学基礎演習Ⅰ	横断演習Ⅱ 横断演習Ⅰ	博物館教育論 政治学入門 考古学Ⅱ 考古学Ⅰ 博物館概論 生涯学習概論 IT 応用

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目
②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内
③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内
④生涯スポーツについては、2 単位以内
⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 10 単位以内

注）上記 2 の①～⑤の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

歴史文化学科

教育基本方針

人類がこれまで蓄積してきた有形・無形の歴史や文化を、歴史学、地理学、民俗学の諸分野を横断的に探求することで、人類の過去・現在・未来をとらえ、みずから未来を拓いていける人物を育成します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。歴史文化学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数130単位以上（基礎共通科目18単位　外国語科目8単位　保健体育科目2単位　専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（文学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 自文化と異文化への理解に裏付けられた、世界に通用する国際教養力を有しています。
(5) 歴史学、地理学・民俗学の諸分野に関する基礎的で領域横断的な知識と常識を有しています。
(6) 自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。
(7) 的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

文学部歴史文化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の3本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。

また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力及び表現力を育成します。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 少人数のゼミで調査研究や討議の方法を学び、問題解決能力などの社会人基礎力を育成します。
(5) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
(6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
(7) 地域を分析する学びを通じて、自己と他者を総合的に捉える力を養います。
(8) 卒業研究（卒業論文）により、在学中に学んだことを集大成します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習・演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	自文化と異文化への理解に裏付けられた、世界に通用する国際教養力を有しています。
(5)	歴史学、地理学・民俗学の諸分野に関する基礎的で領域横断的な知識と常識を有しています。
(6)	自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。
(7)	的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(6)
A	歴史学・地理学・民俗学の手法を用いて、調査・研究を行い、その成果を的確に発表し、議論することができる。	(1)(2)(6)(7)
B	歴史学・地理学・民俗学の史資料の特質を理解し、考察することができる。	(5)(6)
C	歴史学・地理学・民俗学に関して、体系的に理解している。	(4)(5)
D	歴史学・地理学・民俗学の応用的事項や領域横断的な事項に関して幅広い知識を有している。	(4)(5)
E	文化財に関する基本的な知識を持ち、博物館の社会的役割や意義を理解している。	(1)(7)
F	歴史学・地理学・民俗学の隣接領域に関する知識を有している。	(3)(4)

授業科目表（文学部歴史文化学科）　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E	F
全学共通科目	基礎共通科目		*	*	○						
	外国語科目		*	*	○						
	保健体育科目		*	*	○						
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）28単位											
専門教育科目	必修科目	基礎演習Ⅰ	2	1		○					
		基礎演習Ⅱ	2	1		○					
		日本学	2	1			○				
		演習Ⅰ	2	2		○					
		演習Ⅱ	2	2		○					
		演習Ⅲ	2	3		○					
		演習Ⅳ	2	3		○					
		卒業研究	8	4		○					
	以上22単位必修										
	基本科目	阪神文化論	2	1			○				
		日本史概説Ⅰ	2	1				○			
		日本史概説Ⅱ	2	1				○			
		西洋史概説Ⅰ	2	1				○			
		西洋史概説Ⅱ	2	1				○			

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標						
					Z	A	B	C	D	E	F
専門教育科目	基本科目	アジア史概説Ⅰ	2	1				○			
		アジア史概説Ⅱ	2	1				○			
		地理学の諸問題Ⅰ	2	1				○			
		地理学の諸問題Ⅱ	2	1				○			
		民俗学の諸問題Ⅰ	2	1				○			
		民俗学の諸問題Ⅱ	2	1				○			
		日本史研究Ⅰ	2	2				○			
		日本史研究Ⅱ	2	2				○			
		西洋史研究Ⅰ	2	2				○			
		西洋史研究Ⅱ	2	2				○			
		アジア史研究Ⅰ	2	2				○			
		アジア史研究Ⅱ	2	2				○			
		地誌Ⅰ	2	2				○			
		地誌Ⅱ	2	2				○			
		人文地理	2	2				○			
		民俗文化研究	2	2				○			
		人文地理特論Ⅰ	2	3				○			
		人文地理特論Ⅱ	2	3				○			
		民俗文化特論	2	3				○			
		日本史特論 Ⅰ	2	3				○			
		日本史特論 Ⅱ	2	3				○			
		西洋史特論Ⅰ	2	3				○			
		西洋史特論Ⅱ	2	3				○			
		アジア史特論 Ⅰ	2	3				○			
		アジア史特論 Ⅱ	2	3				○			
	Ⓐ以上のうち32単位以上選択必修										
	発展科目	現代史Ⅰ	2	1					○		
		現代史Ⅱ	2	1					○		
		現代史Ⅲ	2	1					○		
		歴史と美術	2	1					○		
		考古学Ⅰ	2	1					○		
		考古学Ⅱ	2	1					○		
		社会意識論	2	1					○		
		自然地理学	2	1					○		
		都市社会学	2	1					○		
		歴史と思想	2	2					○		
		歴史と自然	2	2					○		
		文化交流史	2	2					○		
		技術と文化	2	2					○		
		地理と情報Ⅰ	2	2			○				
		地理と情報Ⅱ	2	2			○				
		日本史史料研究Ⅰ	2	2			○				
		日本史史料研究Ⅱ	2	2			○				
		日本史史料研究Ⅲ	2	2			○				
		日本史史料研究Ⅳ	2	2			○				
		西洋史史料研究Ⅰ	2	2			○				
		西洋史史料研究Ⅱ	2	2			○				
		西洋史史料研究Ⅲ	2	2			○				
		西洋史史料研究Ⅳ	2	2			○				
		アジア史史料研究Ⅰ	2	2			○				
		アジア史史料研究Ⅱ	2	2			○				
		アジア史史料研究Ⅲ	2	2			○				
		アジア史史料研究Ⅳ	2	2			○				

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標						
					Z	A	B	C	D	E	F
専門教育科目	発展科目	地理学・民俗学資料研究Ⅰ	2	2			○				
		地理学・民俗学資料研究Ⅱ	2	2			○				
		地理学・民俗学資料研究Ⅲ	2	2			○				
		地理学・民俗学資料研究Ⅳ	2	2			○				
		古文書学Ⅰ	2	2			○				
		古文書学Ⅱ	2	2			○				
		実践地域学	2	2					○		
		ブリティッシュ・スタディーズⅠ	2	2					○		
		ブリティッシュ・スタディーズⅡ	2	2					○		
		アメリカン・スタディーズⅠ	2	2					○		
		アメリカン・スタディーズⅡ	2	2					○		
		映像文化論	2	2					○		
		現代文化論	2	2					○		
		地域社会論	2	2					○		
		芸術表象論	2	2					○		
		西洋美術史	2	2					○		
		日本美術史	2	2					○		
		観光文明学Ⅰ	2	3					○		
		観光文明学Ⅱ	2	3					○		
		歴史文化特殊講義Ⅰ	2	3					○		
		歴史文化特殊講義Ⅱ	2	3					○		
		歴史文化特殊講義Ⅲ	2	3					○		
		歴史文化特殊講義Ⅳ	2	3					○		
	Ⓑ以上のうち 28 単位以上選択必修										
	関連科目	博物館概論	2	1						○	
		博物館教育論	2	1						○	
		博物館経営論	2	2						○	
		博物館資料論	2	2						○	
		博物館展示論	2	3						○	
		博物館資料保存論	2	3						○	
		博物館情報・メディア論	2	3						○	
		博物館実習Ⅰ	1	2						○	
		博物館実習Ⅱ	1	3						○	
		博物館実習Ⅲ	1	4						○	
		生涯学習概論	2	1						○	
		公共社会学	2	2							○
		社会学概論	2	2							○
		文化人類学	2	1							○
		多文化共生論	2	1							○
		社会調査法	2	2							○
		フィールドワーク研究	2	2							○
		哲学入門	2	1							○
		倫理学基礎論	2	1							○
		応用倫理学	2	1							○
		宗教思想史	2	2							○
		日本哲学史	2	2							○
		法律学概論	2	2							○
		政治学入門	2	1							○
		政治学原論	2	2							○
		横断演習Ⅰ	2	1							○
		横断演習Ⅱ	2	1							○
専門教育科目　102 単位以上											
卒業必要単位数　130 単位以上											

【卒業必要単位数】

1. 文学部歴史文化学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		18 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目		22 単位
選択必修科目	Ⓐより	32 単位以上
	Ⓑより	28 単位以上
自由選択科目		
合　計		130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
   ①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目
   ②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語 Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内
   ③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内
   ④生涯スポーツについては、2 単位以内
   ⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 16 単位以内

Ⅰ．歴史文化学科の特徴

1. 歴史文化学科の理念と学び

六甲山の南麓に位置する甲南大学は、1923 年に始まる旧制甲南高等学校の伝統を受継ぎ、1951 年、異文化が混じりあう国際海港都市である神戸に開学しました。そして、大学開学 50 周年を迎えた 2001 年、歴史文化学科は誕生しました。

本学科の学びは、あらゆるものを資料として駆使し、時間という縦軸と地域・文化という横軸を交差させながら未来を拓いていくことです。人々の営みを時間軸と空間軸の双方から把握する統合知としての歴史文化学の実践を進めてきました。

全体をみる眼差しを養うため、本学科では、歴史学（日本史・西洋史・アジア史）と地理学・民俗学の多様な領域をバランスよく学ぶカリキュラムを準備しています。自分の決めたテーマを追究することと、特定の分野に閉じこもらず幅広く学ぶことの両立を目指します。また地域に根差し世界に広がっていく視野を持つことを大切にしています。

本学科の学びを支える専門研究の土台は、資料にもとづく分析、すなわち実証です。ここでいう資料は、文字や図像で表されるものだけでなく、人や場所、事物、そして人々の記憶や語りなど、人類が作りだすあらゆるものを対象とし、さらには環境や自然も視野に収めています。本学科で学ぶことにより、確かな根拠にもとづいて事実を探求し、自分の言葉で伝え対話できるようになります。

基礎演習や演習・卒業研究では一貫した指導体制のもとで、研究の方法を学んで自らのテーマを追究するとともに、社会で必要とされるリテラシーの修得を目指します。またアクティブラーニングやグループワークによる学びを重視し、実践の場として「歴史文化ラボラトリ」や「歴史文化情報処理室」、「標本室」を整備しています。

さらに本学科では、専門教育と関わりの深い免許・資格として教育職員免許（中学社会科・高校地理歴史科）と博物館学芸員資格が取得でき、社会のなかで専門の学びを活かせます。また学生の自主的な研究グループである「歴史文化らぼ（歴らぼ）」の活動では、主体的・対話的な学びを深め、協働する力を養います。

このような学びを通じて本学科では、以下のような力を身に付けます。

① 歴史的・地理的な広い視野をもって将来を展望する力

② 事実を探求し確かな根拠にもとづいて考える力

③ 人々の営みや環境の多様性を理解する力

④ 自分の言葉で伝え対話し、人々と協働する力

2. 歴史文化学科の教育課程

上記の理念や学びを実現するため、次のような観点からカリキュラムを編成しています。

(1) 広い視野を養うため幅広い学びを提供する。

(2) 専門を深めるため基礎から応用まで積み上げ式の科目を提供する。

(3) 演習形式、実習形式等で双方向的・実践的に学ぶ科目を多数用意する。

(4) 少人数ゼミを1年次から設け、4年次の卒業論文に至るまで、学生が各自の課題を発見し追究できるよう導く。

(5) 初年時では独自編集の教科書を活用し、本学科の学びの多様性、研究に必要なリテラシーの基礎、グループワークやプレゼンテーションの基本を学ぶ機会を提供する。

(6) 地域に根差し世界に広がる学びを設ける。

(7) 現場に立って考えるフィールドワークなどの機会を設ける。

(8) 教育職員養成課程では歴史文化学の観点から社会（中学）・地理歴史（高校）の免許取得に向けた学びを提供する。

(9) 博物館学芸員養成課程では専門性を生かし社会教育に取組む学びを提供する。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

2. 演習Ⅰ～Ⅳ

2年次以降の「演習Ⅰ～Ⅳ」は、1年次に予備登録を行う。詳しくは11月頃に行う説明会で確認すること。

3. 卒業研究

歴史文化学科4年次の学生は「卒業研究」を履修登録した上で、卒業論文を提出しなければならない。論文提出の手続き・時期等は、『履修ガイドブック』を参照すること。

Ⅲ．博物館学芸員養成課程（文学部歴史文化学科　対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。ここでの博物館とは、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、美術館、郷土館、記念館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では文学部歴史文化学科、人間科学科および理工学部宇宙理学・量子物理工学科、生物学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の養成課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身に付けることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用できるであろう。

(1) 学芸員養成課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには､1 年次から 4 年次までの各年度で行われるガイダンスを受講し、１年次後半に学芸員養成課程の登録を申請する必要がある。ただし、２年次から履修を始めるのは可能であるが、３年次からの２年間では課程を修了できない。
2. ２年次以降、(a) 歴史文化領域コース、(b) 美術領域コースの２コースから１つを選択して履修する。1 年次後半にガイダンスを受講し、学芸員養成課程の登録とともにコースを選択する必要がある。なお (b) 美術領域コースを選択する場合は、選択必修科目が卒業単位に認定されない場合もあるため、事前に担当教員に相談すること。
3. 学芸員養成課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については次の点に注意すること。
   ① 館園実習を履修するまでに､原則として､それ以外の必修科目をすべて修得しておく必要がある。
   ② 実習受入れ施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取扱う場合もある。そのため実習希望者については、歴史文化学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
   ③ 実習施設への申込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取止めることは認めない。
   ④ 実習の期間は実習施設によって異なる。多くは 4 年次夏休みだが、4 年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導などの日程は変更になることがある。

(2) 学芸員養成課程に必要な科目

［2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用］

授業科目	単位	必要単位数	
生涯学習概論	2	11 科目 19 単位 必修	
博物館概論	2		
博物館経営論	2		
博物館資料論	2		
博物館資料保存論	2		
博物館展示論	2		
博物館教育論	2		
博物館情報・メディア論	2		
博物館実習Ⅰ	1		
博物館実習Ⅱ	1		
博物館実習Ⅲ	1		
日本史概説Ⅰ	2	A	A～E の科目群について、2 群以上 8 単位以上 選択必修
日本史概説Ⅱ	2		
アジア史概説Ⅰ	2		
アジア史概説Ⅱ	2		
西洋史概説Ⅰ	2		
西洋史概説Ⅱ	2		
考古学Ⅰ	2		
考古学Ⅱ	2		
民俗学の諸問題Ⅰ	2		
民俗学の諸問題Ⅱ	2		
歴史と美術	2	B	
西洋美術史	2		
日本美術史	2		
芸術社会史	2		
モダンアート研究	2		
現代芸術研究	2		
環境学入門	2	C	
環境学	2		
人間環境論Ⅰ	2		
人間環境論Ⅱ	2		
環境教育の実践	2		
地学通論Ⅰ	2		
地学通論Ⅱ	2		
環境生物学	2	D	
生態学	2		
生物学臨海実習	2		
物理学通論Ⅰ	2	E	
物理学通論Ⅱ	2		
力学基礎	2		
電磁気学基礎	2		

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの３つがある。学科の専門性に応じ、歴史文化学科の学生は歴史文化領域コースもしくは美術領域コースを選択すること。

注 2. 必修科目のうち、「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、「博物館実習Ⅲ」は複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、歴史文化領域コースおよび美術領域コースは科目群ＡＢを履修することが望ましい。

注 4.「生物学臨海実習」は、生物学科の学生のみを対象とする。

(3) 学芸員養成課程のスケジュール

学芸員養成課程における各種手続や学外講義・集中講義・博物館実習のスケジュールは、ガイダンスで伝えるので＜My KONAN＞の掲示に注意すること。

文学部 歴史文化学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。			
	(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。			
	(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。			
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (6)	(1) (2) (6) (7)	(5) (6)	
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 歴史学・地理学・民俗学の手法を用いて、調査・研究を行い、その成果を的確に発表し、議論することができる。	B 歴史学・地理学・民俗学の史資料の特質を理解し、考察することができる。	
科目群	全学共通科目	演習科目	実習系科目	
4年		卒業研究		
3年		演習Ⅲ 演習Ⅳ		
2年	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	演習Ⅰ 演習Ⅱ	古文書学Ⅰ 古文書学Ⅱ 地理と情報Ⅰ 地理と情報Ⅱ 地理学・民俗学資料研究Ⅰ 地理学・民俗学資料研究Ⅱ 地理学・民俗学資料研究Ⅲ 地理学・民俗学資料研究Ⅳ アジア史史料研究Ⅰ アジア史史料研究Ⅱ アジア史史料研究Ⅲ アジア史史料研究Ⅳ 西洋史史料研究Ⅰ 西洋史史料研究Ⅱ 西洋史史料研究Ⅲ 西洋史史料研究Ⅳ 日本史史料研究Ⅰ 日本史史料研究Ⅱ 日本史史料研究Ⅲ 日本史史料研究Ⅳ	
1年	基礎共通科目(人文･自然･社会)＊1 基礎共通科目(導入共通/学際融合等)＊2 スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ College English Reading College English Writing College English Listening College English Speaking 基礎第2外国語Ⅰ(ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語) 基礎第2外国語Ⅱ(ドイツ語･フランス語･中国語･韓国語･日本語)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ	日本学 阪神文化論	

1. 基礎共通科目は、合計 18 単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位以上、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位以上（＊2）

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4) 自文化と異文化への理解に裏付けられた、世界に通用する国際教養力を有しています。
		(5) 歴史学、地理学・民俗学の諸分野に関する基礎的で領域横断的な知識と常識を有しています。
		(6) 自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。
		(7) 的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。

	(4) (5)	(4) (5)	(1) (7)	(3) (4)
	C 歴史学・地理学・民俗学に関して、体系的に理解している。	D 歴史学・地理学・民俗学の応用的事項や領域横断的な事項に関して幅広い知識を有している。	E 文化財に関する基本的な知識を持ち、博物館の社会的役割や意義を理解している。	F 歴史学・地理学・民俗学の隣接領域に関する知識を有している。
	基本科目	発展科目	博物館学芸員養成課程科目	関連科目
			博物館実習Ⅲ	
	日本史特論Ⅰ 日本史特論Ⅱ 西洋史特論Ⅰ 西洋史特論Ⅱ アジア史特論Ⅰ アジア史特論Ⅱ 人文地理特論Ⅰ 人文地理特論Ⅱ 民俗文化特論	歴史文化特殊講義Ⅰ 歴史文化特殊講義Ⅱ 歴史文化特殊講義Ⅲ 歴史文化特殊講義Ⅳ 観光文明学Ⅰ 観光文明学Ⅱ	博物館展示論 博物館資料保存論 博物館情報・メディア論 博物館実習Ⅱ	
	日本史研究Ⅰ 日本史研究Ⅱ 西洋史研究Ⅰ 西洋史研究Ⅱ アジア史研究Ⅰ アジア史研究Ⅱ 地誌Ⅰ 地誌Ⅱ 人文地理 民俗文化研究	芸術表象論 西洋美術史 日本美術史 映像文化論 ブリティッシュ・スタディーズⅠ ブリティッシュ・スタディーズⅡ アメリカン・スタディーズⅠ アメリカン・スタディーズⅡ 地域社会論 現代文化論 歴史と自然 歴史と思想 文化交流史 技術と文化 実践地域学	博物館経営論 博物館資料論 博物館実習Ⅰ	公共社会学 社会学概論 社会調査法 フィールドワーク研究 宗教思想史 日本哲学史 法律学概論 政治学原論
	日本史概説Ⅰ 日本史概説Ⅱ 西洋史概説Ⅰ 西洋史概説Ⅱ アジア史概説Ⅰ アジア史概説Ⅱ 地理学の諸問題Ⅰ 地理学の諸問題Ⅱ 民俗学の諸問題Ⅰ 民俗学の諸問題Ⅱ	考古学Ⅰ 考古学Ⅱ 歴史と美術 社会意識論 都市社会学 現代史Ⅰ 現代史Ⅱ 現代史Ⅲ 自然地理学	博物館概論 博物館教育論 生涯学習概論	文化人類学 多文化共生論 哲学入門 倫理学基礎論 応用倫理学 政治学入門 横断演習Ⅰ 横断演習Ⅱ

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目
②中級・上級外国語（国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）については、16 単位以内
③海外語学講座・留学支援科目については、8 単位以内
④生涯スポーツについては、2 単位以内
⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目については、併せて 16 単位以内

注）上記 2 の①～⑤の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

共通・関連科目

共通・関連科目表

〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

	授業科目	単位	配当年次	備考
横断科目	横断演習Ⅰ	2	1	
	横断演習Ⅱ	2	1	
地域連携講座科目	関西のことばと文学	2	2	
	ことばの研究	2	2	
	日本語教授法研究Ⅱ	2	2	
	地域社会論	2	2	
	ＮＰＯ／ＮＧＯ論	2	2	
	メディア文化論	2	2	
	阪神文化論	2	1	
	観光文明学Ⅰ	2	3	
	観光文明学Ⅱ	2	3	
国際交流科目	ジャパンスタディーズ 1	3	2	
	ジャパンスタディーズ 2	3	2	
	ジャパンスタディーズ 3	3	2	
	ジャパンスタディーズ 4	3	2	
	ジャパンスタディーズ 5	3	2	
	ジャパンスタディーズ 6	3	2	
	ジャパンスタディーズ 7	3	2	
	ジャパンスタディーズ 8	3	2	
	ジャパンスタディーズ 9	3	2	
	ジャパンスタディーズ 10	3	2	
	ジャパンスタディーズ 11	3	2	
	ジャパンスタディーズ 12	3	2	
	ジャパンスタディーズ 13	2	1	
	ジャパンスタディーズ 14	2	1	

	授業科目	単位	配当年次	備考
言語基礎科目	ギリシア語入門	2	2	
	ラテン語入門	2	2	
社会科学基礎科目	初級マクロ経済学	2	1	
	初級ミクロ経済学	2	1	
	経済史	4	3	
	労働経済Ⅰ	2	2	
	労働経済Ⅱ	2	3	
	社会経済思想Ⅰ	2	3	
	社会経済思想Ⅱ	2	3	
	憲法Ⅰ	2	1	
	憲法Ⅱ	2	2	
	労働法Ⅰ	2	2	
	経営学総論	4	2	
	経営労務論	4	3	
	マーケティング総論	4	3	
教職関連科目	教育心理	2	1	
	教育相談	2	2	
	教育社会行政論	2	2	

1. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

理　工　学　部

理　工　学　部

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生釟三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、いずれの学科においても、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。理工学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数128単位以上（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位、専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理学）又は学士（理工学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 自然科学に関する基礎的な素養の基に、各学科に関わる専門分野の基本的な知識・技術を修得しています。
(5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
(6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

1. 理工学部生は、入学を認められた学科について、学則により指定された必修・選択必修科目の単位を修得しなければならない。また、履修科目の選択にあたっては、学科主任、指導主任およびそれぞれの授業科目の担当教員に相談のうえ、その選択を誤らないよう留意されたい。
2. 所属学科により、履修科目が異なるので科目を選択するにあたっては、充分注意すること。
3. 専門教育科目は、配当年次を考慮して履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は原則として履修できない。
4. 次の授業科目は、設備などに限界があるため、該当学科の学生以外の履修は原則として認めない。ただし、特に希望する者については選考のうえ、許可することがあるので、履修登録とは別に、理由を付した履修許可願を教務部へ提出すること。提出期日は、『履修ガイドブック』を参照すること。

宇宙理学・量子物理工学科：「基礎物理学実験」、「物理学実験1・2・3」、「プログラミング・AIのためのIT入門」、「プログラミング・AI実習Ⅰ・Ⅱ」、「プログラミング・AI実践」、「天体観測ワークショップ」

生　物　学　科：「生物学専門実験及び演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「科学英語演習Ⅰ・Ⅱ」、「生物学臨海実習」

物質化学科：「物質化学入門」、「物質化学実験A・B・C」

環境・エネルギー工学科：「環境・エネルギー工学入門」、「科学実験基礎」、「ラボラトリー・ケミストリー」、「環境・エネルギー工学実験1・2・3」、「環境・エネルギー工学演習1・2・3」

5. 理工学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討したうえで履修科目を選択すること

理工学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和8年2月26日　改正〕

理工学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりとする。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

(宇宙理学・量子物理工学科)

【令和8年度以降入学生】

1　宇宙理学・量子物理工学科の学生が履修登録できる上限の単位数は次のとおりとする。

1年次	2年次	3年次	4年次
49単位以内	49単位以内	49単位以内	49単位以内

2　次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

(1)　海外語学講座・留学支援科目
(2)　ベーシック・キャリアデザイン
(3)　他学部・他学科専門教育科目
(4)　国際交流科目

(5) 教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」
(6) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(7) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
(8) 公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(9) 海外ボランティアⅠ・Ⅱ
(10) その他の卒業必要単位に算入されない授業科目

（生物学科）
【令和 8 年度以降入学生】
1 生物学科の学生が履修登録できる上限の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内

2 次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。
(1) 生物学科専門教育科目のうち集中科目である「生物学特殊講義Ⅰ～Ⅵ」、「生物学臨海実習」
(2) 海外語学講座・留学支援科目
(3) 実施後に単位認定申請書などの提出を行い当該科目の履修登録を行う科目である「生物学特設科目Ⅰ・Ⅱ」、「Biological Science Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」
(4) 他学部・他学科専門教育科目
(5) 国際交流科目
(6) 教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」
(7) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(8) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
(9) 博物館学芸員養成課程科目（生物学科専門教育科目のうち選択必修 A 及び C に含まれる科目を除く。）
(10) 公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(11) 生物学科の専門教育科目に記載されていないキャリア創生共通科目
(12) その他の卒業必要単位に算入されない授業科目

（物質化学科）
【令和 8 年度以降入学生】
1 物質化学科の学生が履修登録できる上限の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内

2 次に掲げる科目については、上記 1 の単位制限を受けない。
(1) 海外語学講座・留学支援科目
(2) 他学部・他学科専門教育科目
(3) 国際交流科目
(4) 教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」
(5) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(6) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目

(7)　公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(8)　物質化学科の専門教育科目に記載されていないキャリア創生共通科目
(9)　その他の卒業必要単位に算入されない授業科目

(環境・エネルギー工学科)
【令和 8 年度以降入学生】
1　環境・エネルギー工学科の学生が履修登録できる上限の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内

2　次に掲げる科目については、上記 1 の単位制限を受けない。
(1)　海外語学講座・留学支援科目
(2)　他学部・他学科専門教育科目
(3)　国際交流科目
(4)　教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目(教科に関する専門的事項の科目を除く。)」
(5)　図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうちA群の科目
(6)　学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
(7)　公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(8)　環境・エネルギー工学科の専門教育科目に記載されていないキャリア創生共通科目
(9)　その他の卒業必要単位に算入されない授業科目

(改廃)
この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則
この内規は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。

宇宙理学・量子物理工学科

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生釟三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

宇宙理学・量子物理工学科は、あらゆる自然現象の基本となる物理法則を理解し、その論理性を応用することによって、将来、宇宙・量子分野を含む次世代工学分野を中心に広く社会に貢献できる学生の養成をめざします。また、社会で活躍するための総合力を実験、実習を通して養成します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。宇宙理学・量子物理工学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数128単位以上（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位、専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理学）又は学士（理工学）の学位を授与します。

学士（理学）

(1)【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。
(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)【専門・知識】理学の基本的な知識を修得し、物理学と宇宙理学に関連した高度な知識を有しています。
(5)【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
(6)【実践力】物理学と宇宙理学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

学士（理工学）

(1)【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。
(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)【専門・知識】理工学の基本的な知識を修得し、物理学と量子物理工学に関連した高度な知識を有しています。
(5)【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
(6)【実践力】物理学と量子物理工学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

理工学部宇宙理学・量子物理工学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1)大学における物理学、宇宙理学、量子物理工学の学びの基盤となる基礎的実験法やレポートの書き方、基本的計算法などを修得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な実験及び演習科目を設けます。
(2)外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3)全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識や異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4)物理学、宇宙理学、量子物理工学の学びの基盤をつくるため、これらの分野以外の自然科学の科目や情報技術に関する科目等を配置します。
(5)物理学、宇宙理学、量子物理工学に関する知識及び論理的思考力を修得できるように科目ごとに必修、選択必修又は選択の別を設け、段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。また実験を通して物理学、宇宙理学、量子物理工学を理解するために、各年次に実験・実習科目を配置します。
(6)

学士（理学）	学士（理工学）
理学に関連した高度で専門的な知識を学ぶ「宇宙理学コース」を配置します。理学に関連した高度な知識を学びつつ会計や経営などに関連したキャリア科目も学ぶ「文理融合コース」を配置します。	理工学に関連した高度で専門的な知識を学ぶ、「量子物理工学コース」を配置します。

(7)各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
(8)在学中の学修成果を集大成する仕組みとして、また社会人として必要な責任感と倫理観を養成するために、宇宙理学コース及び量子物理工学コースは物理学卒業研究を、文理融合コースは文理融合総合研究を必修科目として配置します。

2）教育方法

(1)1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらの併用により授業を実施します。
(2)論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実験・演習を行います。また集大成として卒業研究を行います。
(3)授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、グループ・ディスカッションなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4)成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の修得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)	
(1)	【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【専門・知識】理学の基本的な知識を修得し、物理学と宇宙理学に関連した高度な知識を有しています。
(5)	【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
(6)	【実践力】物理学と宇宙理学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、宇宙理学や量子物理工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(5)
A	自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を考察することができる。	(2)(3)
B	数学、コンピュータ科学ならびに情報科学に関する知識を修得し、宇宙理学や量子物理工学へと適切に応用することができる。	(3)
C	宇宙理学や量子物理工学の根幹をなす物理学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	(4)
D	物理学、宇宙理学、量子物理工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って実験・実習を行い、結果を解析して他者に伝えることができる。	(1)(2)(5)
E	宇宙理学に関する専門知識を修得し、自ら設定した課題に対して探求心を持ちながら研究を進め、課題を解決することができる。	(6)

授業科目表（理工学部宇宙理学・量子物理工学科）宇宙理学コース　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○					
		外国語科目	*	*	○					
		保健体育科目	*	*	○					
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）26単位										
専門教育科目	必修科目	基礎物理学実験	1	1					○	
		物理学実験1	2	1					○	
		物理学実験2	2	2					○	
		物理学実験3	2	2					○	
		力学Ⅰ	2	1				○		
		力学Ⅱ	2	2				○		
		電磁気学Ⅰ	2	1				○		
		電磁気学Ⅱ	2	2				○		
		量子論入門	2	2				○		
		天文学入門	2	2				○		
		物理学卒業研究	8	4	○			○	○	○
	以上27単位必修									
	選択必修科目Ⓐ	トピカル・フィジックス	2	1				○		
		力学基礎	2	1				○		
		電磁気学基礎	2	1				○		
		振動・波動	2	1				○		
		微分積分学Ⅰ	2	1			○			
		微分積分学Ⅱ	2	1			○			
		線形代数学Ⅰ	2	1			○			

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標					
						Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	選択必修科目Ⓐ	線形代数学Ⅱ		2	1			○			
		プログラミング・AIのためのIT入門		2	1			○			
		ベクトル解析		2	2				○		
		複素関数論		2	2				○		
		解析力学		2	2				○		
		電磁気学Ⅲ		2	2				○		
		熱・統計力学		2	2				○		
		プログラミング・AI実習Ⅰ		2	2			○			
	以上Ⓐのうち20単位以上選択必修										
	選択必修科目Ⓑ	統計力学Ⅰ		2	3				○		
		統計力学Ⅱ		2	3				○		
		量子力学Ⅰ		2	3				○		
		量子力学Ⅱ		2	3				○		
		相対性理論		2	3				○		
		電気・電子回路		2	3				○		
		特殊関数論		2	3				○		
		物性物理学Ⅰ		2	3				○		
		物性物理学Ⅱ		2	4				○		
		流体力学Ⅰ		2	3				○		
		流体力学Ⅱ		2	4				○		
		プログラミング・AI実習Ⅱ		2	3			○			
		英語で学ぶ物理学		2	3	○					
		科学英語		2	4	○					
	以上Ⓑのうち8単位以上選択必修										
	コース別科目C-1	素粒子物理学	[隔年]	2	3・4						○
		原子核物理学	[隔年]	2	3・4						○
		天文学概論	[隔年]	2	3・4						○
		宇宙物理学	[隔年]	2	3・4						○
		量子線計測学	[隔年]	2	3・4						○
		宇宙理学リサーチ		4	3						○
	以上コース別科目C-1のうち8単位以上選択必修										
	少人数・参加型科目	数学演習Ⅰa		1	1				○		
		数学演習Ⅰb		1	1				○		
		力学・電磁気学演習Ⅰ		1	1				○		
		力学・電磁気学演習Ⅱ		1	2				○		
		ワークショップⅡa		1	2				○		
		ワークショップⅡb		1	2				○		
		ワークショップⅢa		1	3				○		
		ワークショップⅢb		1	3				○		
		ワークショップⅣa		1	4				○		
		ワークショップⅣb		1	4				○		
		天体観測ワークショップ		2	2					○	
		プログラミング・AI実践		3	3			○			
	以上少人数・参加型科目										
	選択科目	電子物性工学	[隔年]	2	3・4				○		
		光・量子エレクトロニクス	[隔年]	2	3・4				○		
		量子情報工学	[隔年]	2	3・4				○		
		光物性工学	[隔年]	2	3・4				○		
		半導体デバイス	[隔年]	2	3・4				○		
		確率統計学Ⅰ		2	2			○			
		確率統計学Ⅱ		2	2			○			
		解析学Ⅰ		2	3			○			
		解析学Ⅱ		2	3			○			
		コンピュータサイエンス		2	2			○			

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	選択科目	地学通論Ⅰ	2	1		○				
		地学通論Ⅱ	2	1		○				
		化学通論Ⅰ	2	1		○				
		化学通論Ⅱ	2	1		○				
		生物学通論Ⅰ	2	2		○				
		生物学通論Ⅱ	2	2		○				
		地学実験	3	2		○				
		基礎化学実験	3	2		○				
		基礎生物学実験	3	2		○				
		博物館資料論	2	2	○					
		博物館情報・メディア論	2	3	○					
	以上選択科目									
専門教育科目　102 単位以上										
卒業必要単位数　128 単位以上										

【卒業必要単位数】（宇宙理学コース）

1. 理工学部宇宙理学・量子物理工学科宇宙理学コースの学生は、次に定めるところに従って合計128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		16 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目		27 単位
選択必修科目	Ⓐより	20 単位以上
	Ⓑより	8 単位以上
コース別科目	C-1 より	8 単位以上
少人数・参加型科目		
選択科目		
合　計		128 単位以上

2. 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English Regions Ⅲ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として 8 単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。
4. 「IT 基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」および「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
5. 宇宙理学コースの卒業要件を充足した者には「学士（理学）」を授与する。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)	
(1)	【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【専門・知識】理工学の基本的な知識を修得し、物理学と量子物理工学に関連した高度な知識を有しています。
(5)	【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
(6)	【実践力】物理学と量子物理工学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、宇宙理学や量子物理工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(5)
A	自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を考察することができる。	(2)(3)
B	数学、コンピュータ科学ならびに情報科学に関する知識を修得し、宇宙理学や量子物理工学へと適切に応用することができる。	(3)
C	宇宙理学や量子物理工学の根幹をなす物理学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	(4)
D	物理学、宇宙理学、量子物理工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って実験・実習を行い、結果を解析して他者に伝えることができる。	(1)(2)(5)
E	量子物理工学に関する専門知識を修得し、自ら設定した課題に対して探求心を持ちながら研究を進め、課題を解決することができる。	(6)

授業科目表（理工学部宇宙理学・量子物理工学科）量子物理工学コース　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○					
		外国語科目	*	*	○					
		保健体育科目	*	*	○					
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）26単位										
専門教育科目	必修科目	基礎物理学実験	1	1					○	
		物理学実験1	2	1					○	
		物理学実験2	2	2					○	
		物理学実験3	2	2					○	
		力学Ⅰ	2	1				○		
		力学Ⅱ	2	2				○		
		電磁気学Ⅰ	2	1				○		
		電磁気学Ⅱ	2	2				○		
		量子論入門	2	2				○		
		天文学入門	2	2				○		
		物理学卒業研究	8	4	○			○	○	○
	以上27単位必修									
	選択必修科目Ⓐ	トピカル・フィジックス	2	1				○		
		力学基礎	2	1				○		
		電磁気学基礎	2	1				○		
		振動・波動	2	1				○		
		微分積分学Ⅰ	2	1			○			
		微分積分学Ⅱ	2	1			○			
		線形代数学Ⅰ	2	1			○			
		線形代数学Ⅱ	2	1			○			
		プログラミング・AIのためのIT入門	2	1			○			
		ベクトル解析	2	2				○		

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標					
						Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	選択必修科目Ⓐ	複素関数論		2	2				○		
		解析力学		2	2				○		
		電磁気学Ⅲ		2	2				○		
		熱・統計力学		2	2				○		
		プログラミング・AI 実習Ⅰ		2	2			○			
	以上Ⓐのうち 20 単位以上選択必修										
	選択必修科目Ⓑ	統計力学Ⅰ		2	3				○		
		統計力学Ⅱ		2	3				○		
		量子力学Ⅰ		2	3				○		
		量子力学Ⅱ		2	3				○		
		相対性理論		2	3				○		
		電気・電子回路		2	3				○		
		特殊関数論		2	3				○		
		物性物理学Ⅰ		2	3				○		
		物性物理学Ⅱ		2	4				○		
		流体力学Ⅰ		2	3				○		
		流体力学Ⅱ		2	4				○		
		プログラミング・AI 実習Ⅱ		2	3			○			
		英語で学ぶ物理学		2	3	○					
		科学英語		2	4	○					
	以上Ⓑのうち 8 単位以上選択必修										
	コース別科目 C-2	電子物性工学	[隔年]	2	3・4						○
		光・量子エレクトロニクス	[隔年]	2	3・4						○
		量子情報工学	[隔年]	2	3・4						○
		光物性工学	[隔年]	2	3・4						○
		半導体デバイス	[隔年]	2	3・4						○
		量子物理工学リサーチ		4	3						○
	以上コース別科目 C-2 のうち 8 単位以上選択必修										
	少人数・参加型科目	数学演習Ⅰa		1	1				○		
		数学演習Ⅰb		1	1				○		
		力学・電磁気学演習Ⅰ		1	1				○		
		力学・電磁気学演習Ⅱ		1	2				○		
		ワークショップⅡa		1	2				○		
		ワークショップⅡb		1	2				○		
		ワークショップⅢa		1	3				○		
		ワークショップⅢb		1	3				○		
		ワークショップⅣa		1	4				○		
		ワークショップⅣb		1	4				○		
		天体観測ワークショップ		2	2					○	
		プログラミング・AI 実践		3	3			○			
	以上少人数・参加型科目										
	選択科目	素粒子物理学	[隔年]	2	3・4				○		
		原子核物理学	[隔年]	2	3・4				○		
		天文学概論	[隔年]	2	3・4				○		
		宇宙物理学	[隔年]	2	3・4				○		
		量子線計測学	[隔年]	2	3・4				○		
		確率統計学Ⅰ		2	2			○			
		確率統計学Ⅱ		2	2			○			
		解析学Ⅰ		2	3			○			
		解析学Ⅱ		2	3			○			
		コンピュータサイエンス		2	2			○			
		地学通論Ⅰ		2	1		○				
		地学通論Ⅱ		2	1		○				
		化学通論Ⅰ		2	1		○				
		化学通論Ⅱ		2	1		○				
		生物学通論Ⅰ		2	2		○				
		生物学通論Ⅱ		2	2		○				
		地学実験		3	2		○				
		基礎化学実験		3	2		○				
		基礎生物学実験		3	2		○				
		博物館資料論		2	2	○					
		博物館情報・メディア論		2	3	○					
	以上選択科目										
専門教育科目　102 単位以上											
卒業必要単位数　128 単位以上											

【卒業必要単位数】（量子物理工学コース）

1. 理工学部宇宙理学・量子物理工学科量子物理工学コースの学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		16 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目		27 単位
選択必修科目	Ⓐより	20 単位以上
	Ⓑより	8 単位以上
コース別科目	C-2 より	8 単位以上
少人数・参加型科目		
選択科目		
合　計		128 単位以上

2. 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English Regions Ⅲ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エリアスタディーズ I～X」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として 8 単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。
4. 「IT 基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」および「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
5. 量子物理工学コースの卒業要件を充足した者には「学士（理工学）」を授与する。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)	
(1)	【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【専門・知識】理学の基本的な知識を修得し、物理学と宇宙理学に関連した高度な知識を有しています。
(5)	【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
(6)	【実践力】物理学と宇宙理学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、宇宙理学や量子物理工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(5)
A	自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を考察することができる。	(2)(3)
B	数学、コンピュータ科学ならびに情報科学に関する知識を修得し、宇宙理学や量子物理工学へと適切に応用することができる。	(3)
C	宇宙理学や量子物理工学の根幹をなす物理学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	(4)
D	物理学、宇宙理学、量子物理工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って実験・実習を行い、結果を解析して他者に伝えることができる。	(1)(2)(5)
E	文理融合分野に関する専門知識を修得し、自ら設定した課題に対して探求心を持ちながら研究を進め、課題を解決することができる。	(6)

授業科目表（理工学部宇宙理学・量子物理工学科）文理融合コース　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○					
		外国語科目	*	*	○					
		保健体育科目	*	*	○					
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）26単位										
専門教育科目	必修科目	基礎物理学実験	1	1					○	
		物理学実験1	2	1					○	
		物理学実験2	2	2					○	
		物理学実験3	2	2					○	
		力学Ⅰ	2	1				○		
		力学Ⅱ	2	2				○		
		電磁気学Ⅰ	2	1				○		
		電磁気学Ⅱ	2	2				○		
		量子論入門	2	2				○		
		天文学入門	2	2				○		
		文理融合総合研究	8	4	○			○	○	○
	以上27単位必修									
	選択必修科目Ⓐ	トピカル・フィジックス	2	1				○		
		力学基礎	2	1				○		
		電磁気学基礎	2	1				○		
		振動・波動	2	1				○		
		微分積分学Ⅰ	2	1			○			
		微分積分学Ⅱ	2	1			○			
		線形代数学Ⅰ	2	1			○			
		線形代数学Ⅱ	2	1			○			
		プログラミング・AIのためのIT入門	2	1			○			

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標					
						Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	選択必修科目Ⓐ	ベクトル解析		2	2				○		
		複素関数論		2	2				○		
		解析力学		2	2				○		
		電磁気学Ⅲ		2	2				○		
		熱・統計力学		2	2				○		
		プログラミング・AI実習Ⅰ		2	2			○			
	以上Ⓐのうち20単位以上選択必修										
	選択必修科目Ⓑ	統計力学Ⅰ		2	3				○		
		統計力学Ⅱ		2	3				○		
		量子力学Ⅰ		2	3				○		
		量子力学Ⅱ		2	3				○		
		相対性理論		2	3				○		
		電気・電子回路		2	3				○		
		特殊関数論		2	3				○		
		物性物理学Ⅰ		2	3				○		
		物性物理学Ⅱ		2	4				○		
		流体力学Ⅰ		2	3				○		
		流体力学Ⅱ		2	4				○		
		プログラミング・AI実習Ⅱ		2	3			○			
		英語で学ぶ物理学		2	3	○					
		科学英語		2	4	○					
		確率統計学Ⅰ		2	2			○			
		確率統計学Ⅱ		2	2			○			
		解析学Ⅰ		2	3			○			
		解析学Ⅱ		2	3			○			
		コンピュータサイエンス		2	2			○			
		地学通論Ⅰ		2	1		○				
		地学通論Ⅱ		2	1		○				
		化学通論Ⅰ		2	1		○				
		化学通論Ⅱ		2	1		○				
		生物学通論Ⅰ		2	2		○				
		生物学通論Ⅱ		2	2		○				
		地学実験		3	2		○				
		基礎化学実験		3	2		○				
		基礎生物学実験		3	2		○				
		素粒子物理学	[隔年]	2	3・4				○		
		原子核物理学	[隔年]	2	3・4				○		
		天文学概論	[隔年]	2	3・4				○		
		宇宙物理学	[隔年]	2	3・4				○		
		量子線計測学	[隔年]	2	3・4				○		
		電子物性工学	[隔年]	2	3・4				○		
		光・量子エレクトロニクス	[隔年]	2	3・4				○		
		量子情報工学	[隔年]	2	3・4				○		
		光物性工学	[隔年]	2	3・4				○		
		半導体デバイス	[隔年]	2	3・4				○		
		博物館資料論		2	2	○					
		博物館情報・メディア論		2	3	○					
	以上Ⓑのうち8単位以上選択必修										
	コース別科目C-3	共通応用演習Ⅰ		2	3	○					○
		共通応用演習Ⅱ		2	3	○					○
		文理融合リサーチ		4	3						○
	以上コース別科目C-3 8単位必修										
	少人数・参加型科目	数学演習Ⅰa		1	1				○		
		数学演習Ⅰb		1	1				○		
		力学・電磁気学演習Ⅰ		1	1				○		
		力学・電磁気学演習Ⅱ		1	2				○		
		ワークショップⅡa		1	2				○		
		ワークショップⅡb		1	2				○		
		ワークショップⅢa		1	3				○		
		ワークショップⅢb		1	3				○		

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	少人数・参加型科目	ワークショップⅣa	1	4				○		
		ワークショップⅣb	1	4				○		
		天体観測ワークショップ	2	2					○	
		プログラミング・AI実践	3	3			○			
	以上少人数・参加型科目									
専門教育科目　102単位以上										
卒業必要単位数　128単位以上										

【卒業必要単位数】（文理融合コース）

1. 理工学部宇宙理学・量子物理工学科文理融合コースの学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		16単位
外国語科目		8単位
保健体育科目		2単位
専門教育科目		102単位以上
必修科目		27単位
選択必修科目	Ⓐより	20単位以上
	Ⓑより	8単位以上
コース別科目	C-3	8単位
少人数・参加型科目		
合　計		128単位以上

2. 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English Regions Ⅲ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エリアスタディーズI～X」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として8単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。
4. 「ＩＴ基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」および「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
5. キャリア創生共通科目（「エリアスタディーズⅠ～X」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」、「ベーシック・キャリアデザイン」、「データサイエンス基礎」を除く）を、専門教育科目として22単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
6. 関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目を、専門教育科目として16単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
7. 文理融合コースの卒業要件を充足した者には「学士（理学）」を授与する。

Ⅰ.コース選択に関する注意

1. 宇宙理学・量子物理工学科では、専門教育科目の履修について、3年次より宇宙理学コース、量子物理工学コースおよび文理融合コースを設けている。
2. 2年次の1月に希望コースの調査を行う。それをもとに調整を行い各コースに分属される。文理融合コースを第一希望とする場合は第6項に注意すること。
3. 宇宙理学コース、量子物理工学コースの学生は分属されたコースのいずれかの研究室へ配属される。
4. 宇宙理学コースの学生は宇宙理学コース科目のコース別科目C-1より最低8単位以上修得しなくてはならない。本コースの「宇宙理学リサーチ」および「物理学卒業研究」は配属された宇宙理学コースの研究室で行われる。
5. 量子物理工学コースの学生は量子物理工学コースのコース別科目C-2より最低8単位以上修得しなくてはならない。本コースの「量子物理工学リサーチ」および「物理学卒業研究」は配属された量子物理工学コースの研究室で行われる。
6. 文理融合コースを第一希望とする場合、指導主任・学科主任との面談後、全学共通教育センター所長の許可が得られれば、3年次より文理融合コースとなる。ただし、文理融合コースを選択するためには、2年次終了時点で卒業に必要な基礎共通科目、外国語科目の基礎外国語、保健体育科目の「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」をすべて修得していなければならない。
7. 文理融合コースの学生は宇宙理学・量子物理工学科のいずれかの研究室へ配属される。文理融合コースの学生向けに提供される「文理融合リサーチ」は配属された研究室で行われる。
8. 一度決定したコースは原則変更できない。ただし、特別な事情がある場合は変更できる可能性があるため、指導主任に相談すること。

Ⅱ.科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

以下の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
物理学卒業研究 文理融合総合研究	卒業に必要な基礎共通科目、外国語科目の基礎外国語、保健体育科目の「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」および卒業に必要な専門教育科目の修得単位数があわせて88単位以上あること。
宇宙理学リサーチ 量子物理工学リサーチ 文理融合リサーチ	卒業に必要な基礎共通科目、外国語科目の基礎外国語、保健体育科目の「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」および卒業に必要な専門教育科目の修得単位数があわせて62単位以上あること。

2. 少人数・参加型ワークショップ科目は、以下のような学生の履修を勧める。

「しっかりした基礎力をつけたい」、「科目の不得意領域をなくしたい」、「発展的な学修をしたい」、「大学院への進学準備をしたい」、「コンピュータを使って物理を深く理解したい」、「じゅうぶん時間をかけ試行錯誤して実験をしてみたい」、「大きな天体望遠鏡を用いて観測してみたい」などと考えている学生。

3.「宇宙理学リサーチ」、「量子物理工学リサーチ」は、所属するコース以外のものを履修することはできない。また、3 年次後期始めに履修条件を満たしていること。

4.「文理融合リサーチ」は文理融合コースの学生のみが履修できる。また、3 年次後期始めに履修条件を満たしていること。

5.「物理学卒業研究」を履修するには、「宇宙理学リサーチ」または「量子物理工学リサーチ」を修得しておくことが望ましい。

6.「文理融合総合研究」を履修するには、「文理融合リサーチ」を修得しておくこと。

7.「物理学卒業研究」および「文理融合総合研究」は最終年度に履修するものとし、4 年次始めに履修条件を満たしていること。

8.「天体観測ワークショップ」には履修要件および定員を設けてあるので、必ずガイダンスに出席し、予備登録を行うこと。履修要件を満たす希望者数が定員を超えた場合は選考を行う。履修要件については別途『シラバス』で確認を行うこと。

『物理学卒業研究』『文理融合総合研究』審査基準について

卒業論文および卒業研究発表会の結果に基づいて、以下の項目について総合的に判断し、学科構成員全員による評価を行う。60 点以上（100 点満点）を得た者を合格とする。

(1) テーマの妥当性
研究課題が、関連する知識と資料調査等に基づいて、指導教員との相談を経て決定され、意義のあるものとなっていること。

(2) 方法の適切性
研究分野における適切な研究方法を用いていること。

(3) 実験結果の解釈
実験結果や根拠などの整理が充分かつ明確になされ、考察の内容が客観的かつ論理的であること。

(4) 表現能力
論文の体裁が整い、内容が適切に伝わるものとなっていること。また、卒業研究発表会において内容を分かりやすく説明でき、質問に正確かつ端的に答えられること。

(5) 研究への取り組み状況
継続的に研究に励むこと。

Ⅲ．博物館学芸員養成課程（理工学部宇宙理学・量子物理工学科対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。ここでの博物館とは、自然史博物館、科学館、美術館、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、郷土館、記念館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では、理工学部宇宙理学・量子物理工学科、生物学科と文学部人間科学科、歴史文化学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の養成課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身につけることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用したりできるであろう。

(1)　学芸員養成課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには、1年次から4年次までの各年度で行われるガイダンスを受講し、1年次後半に学芸員養成課程の登録を申請する必要がある。ただし、2年次から履修を始めるのは可能であるが、3年次からの2年間では課程を修了できない。
2. 2年次以降、環境領域コースを選択して履修する。
3. 学芸員養成課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については次の点に注意すること。
   ①　館園実習を履修するまでに、それ以外の所定の科目をすべて修得しておく必要がある。
   ②　実習受入れ施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取扱う場合もある。そのため実習希望者については、物理学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
   ③　実習施設への申込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取止めることは認めない。
   ④　実習の期間は実習施設によって異なる。多くは4年次夏休みだが、4年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導などの日程は変更になることがある。

(2) 学芸員養成課程に必要な科目

[2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用]

授業科目	単位	必要単位数	
生涯学習概論	2	11 科目 19 単位必修	
博物館概論	2		
博物館経営論	2		
博物館資料論	2		
博物館資料保存論	2		
博物館展示論	2		
博物館教育論	2		
博物館情報・メディア論	2		
博物館実習Ⅰ	1		
博物館実習Ⅱ	1		
博物館実習Ⅲ	1		
日本史概説Ⅰ	2	A	A～E の科目群について、2 群以上 8 単位以上選択必修
日本史概説Ⅱ	2		
アジア史概説Ⅰ	2		
アジア史概説Ⅱ	2		
西洋史概説Ⅰ	2		
西洋史概説Ⅱ	2		
考古学Ⅰ	2		
考古学Ⅱ	2		
民俗学の諸問題Ⅰ	2		
民俗学の諸問題Ⅱ	2		
歴史と美術	2	B	
西洋美術史	2		
日本美術史	2		
芸術社会史	2		
モダンアート研究	2		
現代芸術研究	2		
環境学入門	2	C	
環境学	2		
人間環境論Ⅰ	2		
人間環境論Ⅱ	2		
環境教育の実践	2		
地学通論Ⅰ	2		
地学通論Ⅱ	2		
環境生物学	2	D	
生態学	2		
生物学臨海実習	2		
物理学通論Ⅰ	2	E	
物理学通論Ⅱ	2		
力学基礎	2		
電磁気学基礎	2		

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの 3 つがある。学科の専門性に応じ、宇宙理学・量子物理工学科の学生は環境領域コースを選択すること。

注 2. 必修科目のうち、「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、「博物館実習Ⅲ」は複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、環境領域コースはＡＣＤＥを履修することが望ましい。

注 4.「生物学臨海実習」は、生物学科の学生のみを対象とする。

(3) 学芸員養成課程のスケジュール

学芸員養成課程における各種手続や学外講義・集中講義・博物館実習のスケジュールは、ガイダンスで伝えるので＜My KONAN＞の掲示に注意すること。

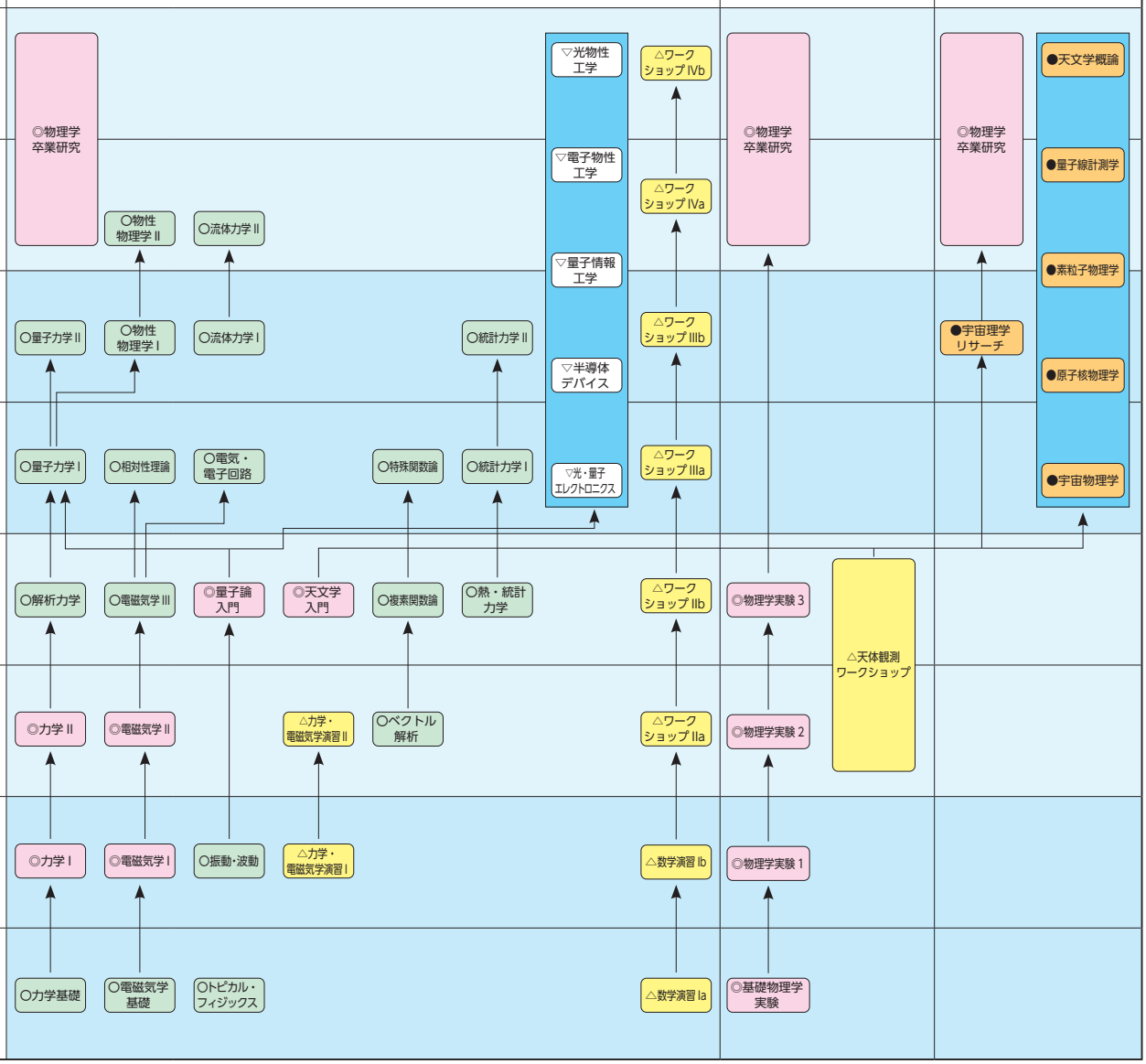
理工学部 宇宙理学・量子物理工学科 カリキュラムツリー（宇宙理学コース）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1)【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。		
	(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		
	(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (5)	(2) (3)	(3)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、宇宙理学や量子物理工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を考察することができる。	B 数学、コンピュータ科学ならびに情報科学に関する知識を修得し、宇宙理学や量子物理工学へと適切に応用することができる。
科目群	全学共通科目・科学基盤科目	自然科学教養科目	コンピュータ・数学科目
4年後期	◎物理学卒業研究		
4年前期	○科学英語		
3年後期	○英語で学ぶ物理学 ▽博物館情報・メディア論		△プログラミング・AI実践 ▽解析学Ⅱ
3年前期			○プログラミング・AI実習Ⅱ ▽解析学Ⅰ
2年後期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ▽博物館資料論	▽生物学通論Ⅱ ▽地学実験	○プログラミング・AI実習Ⅰ ▽確率統計学Ⅱ
2年前期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	▽生物学通論Ⅰ ▽基礎化学実験 ▽基礎生物学実験	▽コンピュータサイエンス ▽確率統計学Ⅰ
1年後期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ○基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking ○基礎第2外国語Ⅰ（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語） ○基礎第2外国語Ⅱ（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	▽地学通論Ⅱ ▽化学通論Ⅱ	○プログラミング・AIのためのIT入門 ○微分積分学Ⅱ ○線形代数学Ⅱ
1年前期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ○基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking	▽地学通論Ⅰ ▽化学通論Ⅰ	○微分積分学Ⅰ ○線形代数学Ⅰ

1. 基礎共通科目は、合計16単位を修得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から2単位、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から2単位（＊2）

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門・知識】理学の基本的な知識を修得し、物理学と宇宙理学に関連した高度な知識を有しています。
		(5)【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
		(6)【実践力】物理学と宇宙理学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

	(4)	(1) (2) (5)	(6)
	C 宇宙理学や量子物理工学の根幹をなす物理学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	D 物理学、宇宙理学、量子物理工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って実験・実習を行い、結果を解析して他者に伝えることができる。	E 宇宙理学に関する専門知識を修得し、自ら設定した課題に対して探求心を持ちながら研究を進め、課題を解決することができる。
	物理学基礎・教養科目	実験・実習科目	宇宙理学専門科目



◎必修科目　○選択必修科目　●コース別科目　△少人数・参加型科目　▽選択科目

2. 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English Regions Ⅲ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として8単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. 「IT 基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」および「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

注）上記2, 3の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

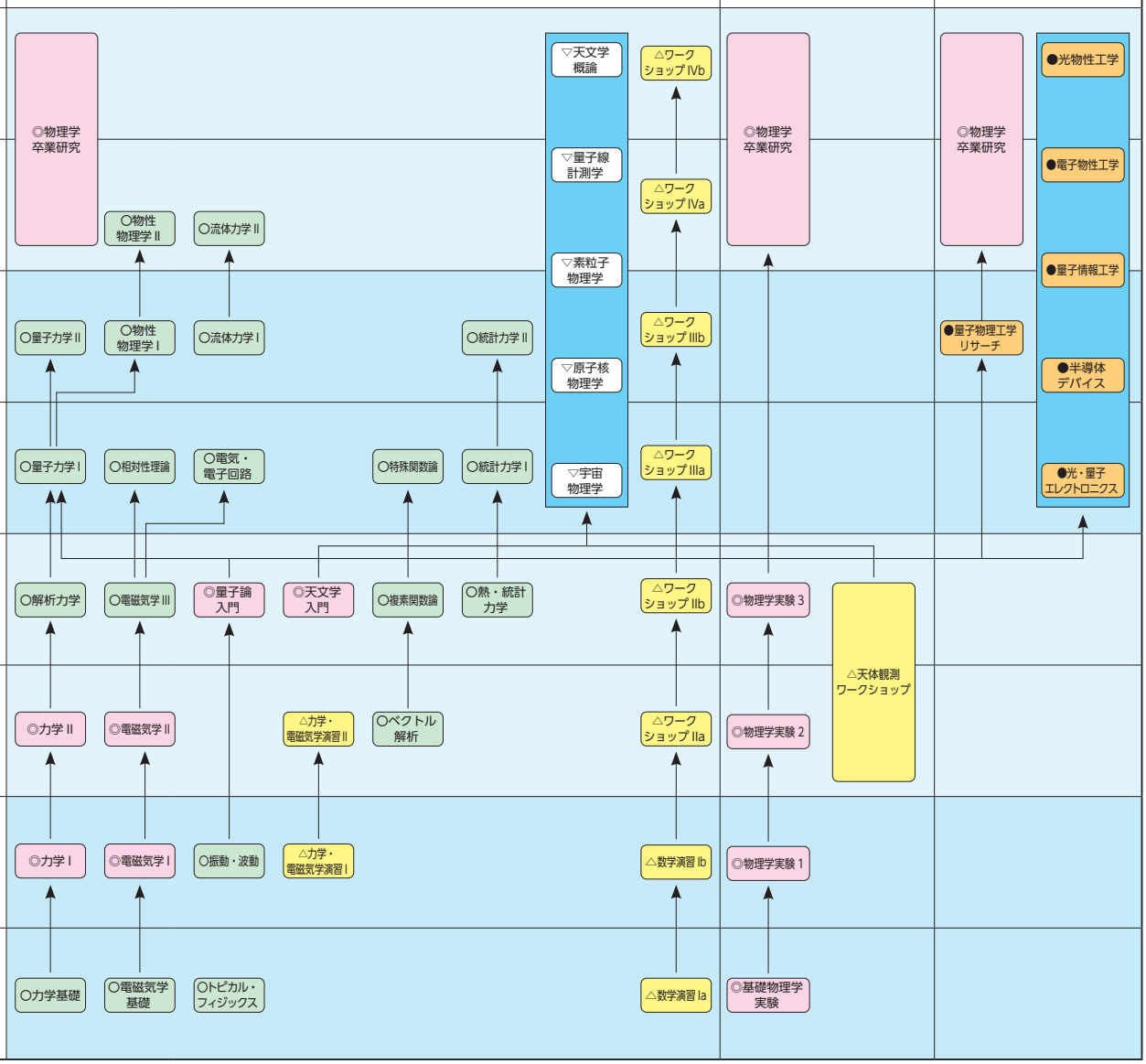
理工学部 宇宙理学・量子物理工学科 カリキュラムツリー（量子物理工学コース）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1)【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。		
	(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		
	(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (5)	(2) (3)	(3)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、宇宙理学や量子物理工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を考察することができる。	B 数学、コンピュータ科学ならびに情報科学に関する知識を修得し、宇宙理学や量子物理工学へと適切に応用することができる。
科目群	全学共通科目・科学基盤科目	自然科学教養科目	コンピュータ・数学科目
4年後期	◎物理学卒業研究		
4年前期	○科学英語		
3年後期	○英語で学ぶ物理学 ▽博物館情報・メディア論		△プログラミング・AI実践 ▽解析学Ⅱ
3年前期			○プログラミング・AI実習Ⅱ ▽解析学Ⅰ
2年後期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ▽博物館資料論	▽生物学通論Ⅱ ▽地学実験	○プログラミング・AI実習Ⅰ ▽確率統計学Ⅱ
2年前期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	▽生物学通論Ⅰ ▽基礎化学実験 ▽基礎生物学実験	▽コンピュータサイエンス ▽確率統計学Ⅰ
1年後期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ○基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking ○基礎第2外国語Ⅰ（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語） ○基礎第2外国語Ⅱ（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	▽地学通論Ⅱ ▽化学通論Ⅱ	○プログラミング・AIのためのIT入門 ○微分積分学Ⅱ ○線形代数学Ⅱ
1年前期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ○基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking	▽地学通論Ⅰ ▽化学通論Ⅰ	○微分積分学Ⅰ ○線形代数学Ⅰ

1. 基礎共通科目は、合計16単位を修得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から2単位、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から2単位（＊2）

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門・知識】理工学の基本的な知識を修得し、物理学と量子物理工学に関連した高度な知識を有しています。
		(5)【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
		(6)【実践力】物理学と量子物理工学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

	(4)	(1) (2) (5)	(6)
	C 宇宙理学や量子物理工学の根幹をなす物理学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	D 物理学、宇宙理学、量子物理工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って実験・実習を行い、結果を解析して他者に伝えることができる。	E 量子物理工学に関する専門知識を修得し、自ら設定した課題に対して探求心を持ちながら研究を進め、課題を解決することができる。
	物理学基礎・教養科目	実験・実習科目	量子物理工学専門科目



◎必修科目　○選択必修科目　●コース別科目　△少人数・参加型科目　▽選択科目

2. 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English Regions Ⅲ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として8単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. 「IT 基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」および「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

注）上記 2, 3 の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

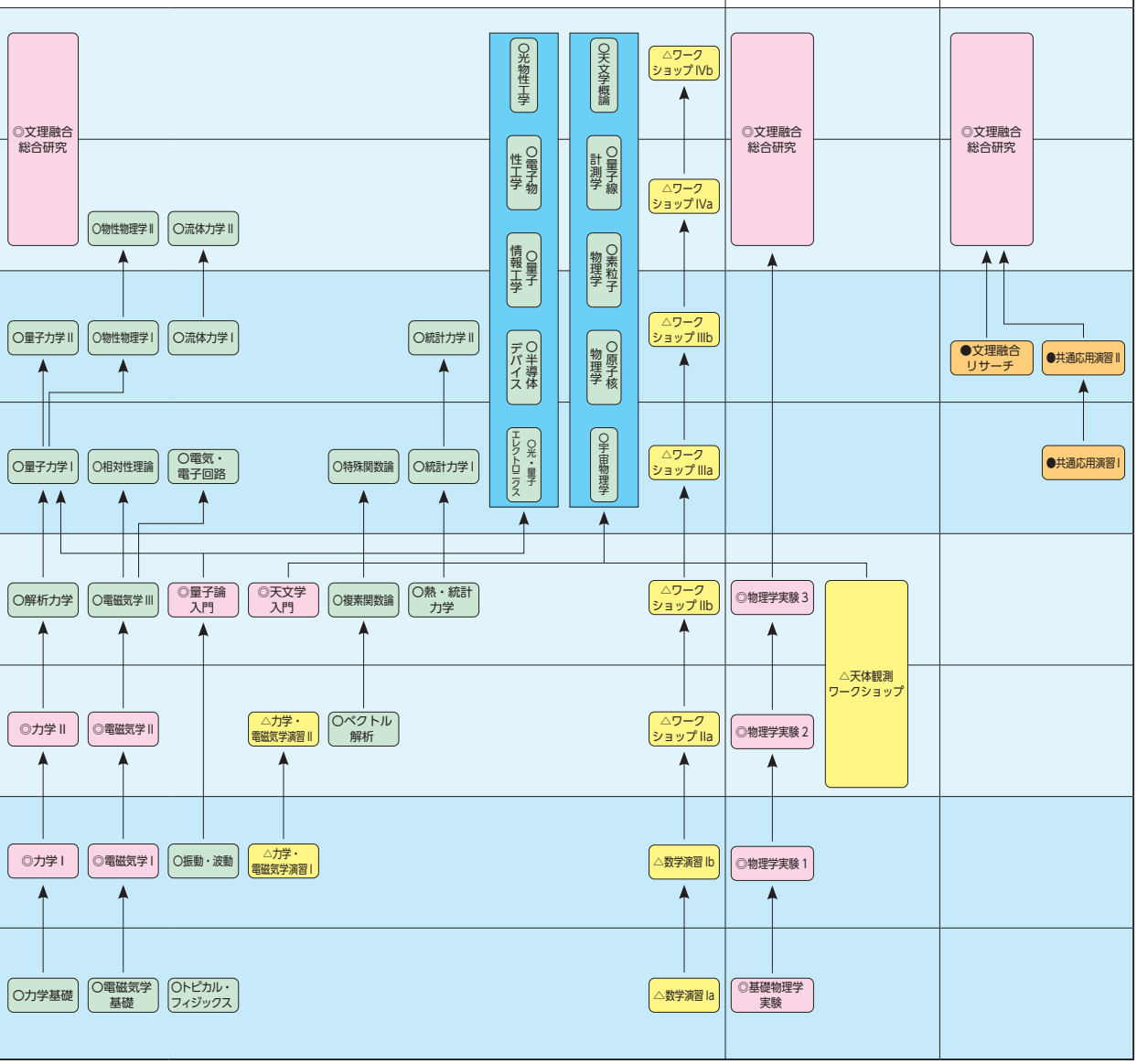
理工学部 宇宙理学・量子物理工学科 カリキュラムツリー（文理融合コース）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1)【人物教育】社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。		
	(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		
	(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (5)	(2) (3)	(3)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、宇宙理学や量子物理工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を考察することができる。	B 数学、コンピュータ科学ならびに情報科学に関する知識を修得し、宇宙理学や量子物理工学へと適切に応用することができる。
科目群	全学共通科目・科学基盤科目	自然科学教養科目	コンピュータ・数学科目
4年後期	◎文理融合総合研究		
4年前期	○科学英語		
3年後期	○英語で学ぶ物理学		△プログラミング・AI実践 ○解析学Ⅱ
3年前期	○博物館情報・メディア論		○プログラミング・AI実習Ⅱ ○解析学Ⅰ
2年後期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ○博物館資料論	○生物学通論Ⅱ ○地学実験	○プログラミング・AI実習Ⅰ ○確率統計学Ⅱ
2年前期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	○生物学通論Ⅰ ○基礎化学実験 ○基礎生物学実験	○コンピュータサイエンス ○確率統計学Ⅰ
1年後期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ○基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking ○基礎第2外国語Ⅰ（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語） ○基礎第2外国語Ⅱ（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	○地学通論Ⅱ ○化学通論Ⅱ	○プログラミング・AIのためのIT入門 ○微分積分学Ⅱ ○線形代数学Ⅱ
1年前期	○基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 ○基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking	○地学通論Ⅰ ○化学通論Ⅰ	○微分積分学Ⅰ ○線形代数学Ⅰ

1. 基礎共通科目は、合計16単位を修得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から2単位、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から2単位（＊2）

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門・知識】理学の基本的な知識を修得し、物理学と宇宙理学に関連した高度な知識を有しています。
		(5)【専門・コミュニケーション能力】共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
		(6)【実践力】物理学と宇宙理学の専門知識を活用して、問題発見能力や論理的思考法・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

	(4)	(1) (2) (5)	(6)
	C 宇宙理学や量子物理工学の根幹をなす物理学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	D 物理学、宇宙理学、量子物理工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って実験・実習を行い、結果を解析して他者に伝えることができる。	E 文理融合分野に関する専門知識を修得し、自ら設定した課題に対して探求心を持ちながら研究を進め、課題を解決することができる。
	物理学基礎・教養科目	実験・実習科目	文理融合専門科目



◎必修科目　○選択必修科目　●コース別科目　△少人数・参加型科目

2. 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English Regions Ⅲ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として8単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. 「IT 基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」および「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
4. キャリア創生共通科目（エリアスタディーズⅠ～Ⅹ、海外ボランティアⅠ・Ⅱ、ベーシック・キャリアデザイン、データサイエンス基礎を除く）を、専門教育科目として22単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
5. 関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目を、専門教育科目として16単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

注）上記2～5の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

生物学科

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生釟三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

さらに、生物学科は、本学の学士課程における教育基本方針に則り、教養と専門とのバランスある人材を育成することに努めます。専門分野の教育において、自然科学の本質を身につけ、生物学の専門的な知識やバイオテクノロジーの基礎的な技術を修得し、人間社会の技術革新に貢献できる人材の養成をめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。生物学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 生物学に関する基本的な知識・技術を修得しています。
(5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
(6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

理工学部生物学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な演習科目及び基礎専門科目、科学英語科目を設けます。また、補習授業や自主実験を設けます。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識や異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 生物学分野の学びの基盤をつくるため、生物学分野以外の自然科学の科目、科学英語や情報技術に関する科目等を設けます。
(5) 生物学分野に関する知識及び論理的思考力を習得できるように、生物学分野全体を俯瞰する専門科目と段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
(6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。
(7) 総合的な問題解決力及び社会人として必要な責任感と倫理観を養成するために、実験科目、実習科目、卒業研究を配置します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実験・実習・演習を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の修得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	生物学に関する基本的な知識・技術を修得しています。
(5)	自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
(6)	事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、生物学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(5)
A	自然科学、および生物学の修得・応用に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を考察することができる。	(2)(3)
B	生物学に関する基礎知識を修得し、生物学の専門分野に応用することができる。	(4)
C	生物学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	(2)(4)(5)
D	生物学に関する実験を行い、各分野の知識をもとに実験結果を解析することができる。	(1)(2)(4)(5)(6)

授業科目表（理工学部生物学科）　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○				
		外国語科目	*	*	○				
		保健体育科目	*	*	○				
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）26単位									
専門教育科目	選択必修科目Ⓐ	細胞生物学	2	2・3				○	
		生態学	2	2・3				○	
		植物生化学	2	2・3				○	
		植物細胞工学	2	2・3				○	
		遺伝学概論	2	1･2･3				○	
		分子遺伝学	2	1･2･3				○	
		発生学概論	2	1･2･3				○	
		発生生物学	2	1･2･3				○	
		生物物理化学	2	1･2･3				○	
		酵素化学	2	1･2･3				○	
		環境生物学	2	1･2･3				○	
		系統分類学	2	1･2･3				○	
		動物生理学	2	1･2･3				○	
		比較生理学	2	1･2･3				○	
		植物細胞生物学	2	2・3				○	
		植物分子生物学	2	2・3				○	
		微生物生理学	2	2・3				○	
		微生物遺伝学	2	2・3				○	
		生物学入門	2	1			○		
		基礎生物学Ⅰ	2	1			○		
		基礎生物学Ⅱ	2	1			○		
		科学英語演習Ⅰ	2	1		○			
		科学英語演習Ⅱ	2	1		○			
		基礎生物学演習Ⅰ	2	2			○		
		基礎生物学演習Ⅱ	2	2			○		
	Ⓐ以上のうち32単位以上選択必修								

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標				
						Z	A	B	C	D
専門教育科目	選択必修科目Ⓑ		基礎生物学実験	3	2					○
			生物学臨海実習	2	3					○
			生物学専門実験及び演習Ⅰ	5	3					○
			生物学専門実験及び演習Ⅱ	5	3					○
			生物学専門実験及び演習Ⅲ	5	3					○
			生物学専門実験及び演習Ⅳ	5	3					○
	Ⓑ以上のうち23単位以上選択必修									
	選択必修科目	C1	生物学卒業実験	12	4					○
			生物学特殊講義Ⅰ	2	3				○	
			生物学特殊講義Ⅱ	2	3				○	
			生物学特殊講義Ⅲ	2	3				○	
			生物学特殊講義Ⅳ	2	3				○	
			生物学特殊講義Ⅴ	2	2				○	
			生物学特殊講義Ⅵ	2	2				○	
			生物学特設科目Ⅰ	1	3					○
			生物学特設科目Ⅱ	2	3					○
			Biological Science Ⅰ	1	2		○			
			Biological Science Ⅱ	1	2		○			
			Biological Science Ⅲ	2	2		○			
			Biological Science Ⅳ	2	2		○			
			化学通論Ⅰ	2	1		○			
			化学通論Ⅱ	2	1		○			
			有機化学A	2	2		○			
			有機化学B	2	2		○			
			物理化学A	2	2		○			
			物理化学B	2	2		○			
			基礎化学実験	3	2		○			
			分析化学A	2	2		○			
			分析化学B	2	2		○			
			物理学通論Ⅰ	2	1		○			
			物理学通論Ⅱ	2	1		○			
			熱・統計力学	2	2		○			
			ラボラトリー・フィジックス	3	2		○			
			地学通論Ⅰ	2	1		○			
			地学通論Ⅱ	2	1		○			
			地学実験	3	2		○			
			コンピュータサイエンス	2	1		○			
			線形代数A	2	1		○			
			線形代数B	2	1		○			
			微分積分A	2	1		○			
			微分積分B	2	1		○			
			確率統計学Ⅰ	2	2		○			
			確率統計学Ⅱ	2	2		○			
			博物館資料論	2	2		○			
			博物館情報・メディア論	2	3		○			
			情報通信テクノロジⅠ	2	1		○			
			IT応用	2	1		○			
			統計基礎	2	1		○			
			データサイエンス基礎	2	2		○			
		C2	文化人類学	2	2		○			
			多文化共生論	2	2		○			

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標				
						Z	A	B	C	D
専門教育科目	選択必修科目	C2	自然地理学	2	1		○			
			人文地理	2	2		○			
			人文地理特論Ⅰ	2	3		○			
			環境学入門	2	2		○			
			環境学	2	2		○			
		C3	中級英語 Speaking	4	2		○			
			中級英語 Presentation	4	2		○			
			中級英語 Listening	4	2		○			
			中級英語 Reading	4	2		○			
			中級英語 Writing	4	2		○			
			中級英語 Pronunciation	2	2		○			
			中級英語 TOEIC	4	2		○			
			中級英語 Global Topics Ⅰ	2	2		○			
			中級英語 Global Topics Ⅱ	2	2		○			
			中級英語 Life Topics Ⅰ	2	2		○			
			中級英語 Life Topics Ⅱ	2	2		○			
			中級英語 Career English Ⅰ	2	2		○			
			中級英語 Career English Ⅱ	2	2		○			
			上級英語 TOEIC	4	3		○			
			上級英語 Global Topics Ⅰ	2	3		○			
			上級英語 Global Topics Ⅱ	2	3		○			
			上級英語 Life Topics Ⅰ	2	3		○			
			上級英語 Life Topics Ⅱ	2	3		○			
			上級英語 Career English Ⅰ	2	3		○			
			上級英語 Career English Ⅱ	2	3		○			
			海外語学講座Ⅰ	4	1		○			
			海外語学講座Ⅱ	4	1		○			
			海外語学講座Ⅲ	2	1		○			
			海外語学講座Ⅳ	2	1		○			
			TOEFL Ⅰ	2	1		○			
			TOEFL Ⅱ	2	2		○			
			IELTS Ⅰ	2	1		○			
			IELTS Ⅱ	2	2		○			
			English Regions Ⅰ	2	1		○			
			English Regions Ⅱ	2	1		○			
			English Regions Ⅲ	2	2		○			
			English Regions Ⅳ	2	2		○			
			外国留学科目Ⅰ	4	2		○			
			外国留学科目Ⅱ	4	2		○			
			外国留学科目Ⅲ	4	2		○			
			外国留学科目Ⅳ	4	2		○			
			上級外国留学科目Ⅰ	4	3・4		○			
			上級外国留学科目Ⅱ	4	3・4		○			
			大学日本語中級Ⅰ	4	2		○			
			大学日本語中級Ⅱ	4	2		○			
			大学日本語上級Ⅰ	4	3		○			
			大学日本語上級Ⅱ	4	3		○			
			海外ボランティアⅠ	4	1		○			
			海外ボランティアⅡ	2	1		○			
	©以上のうち30単位以上選択必修 ただし、C2グループからは8単位を上限として、C3グループからは16単位を上限として卒業必要単位数に含めることができる。									

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標				
					Z	A	B	C	D
専門教育科目	博物館学芸員科目	生涯学習概論	2	1		○			
		博物館概論	2	1		○			
		博物館経営論	2	2		○			
		博物館資料保存論	2	3		○			
		博物館教育論	2	1		○			
		博物館展示論	2	3		○			
		博物館実習Ⅰ	1	2		○			
		博物館実習Ⅱ	1	3		○			
		博物館実習Ⅲ	1	4		○			
	以上の科目は卒業必要単位数に充てることはできない。								
専門教育科目　102 単位以上									
卒業必要単位数　128 単位以上									

【卒業必要単位数】

1. 理工学部生物学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		16 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
選択必修科目	Ⓐより	32 単位以上
	Ⓑより	23 単位以上
	Ⓒより	30 単位以上
自由選択科目		
合　計		128 単位以上

2.「エリアスタディーズⅠ～X」については 2 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、選択必修の単位数に充てることはできない。

3. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。

Ⅰ．科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

以下の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
生物学専門実験及び演習Ⅰ 生物学専門実験及び演習Ⅱ 生物学専門実験及び演習Ⅲ 生物学専門実験及び演習Ⅳ	「基礎生物学実験」を修得していること。これを修得していないときは、必ずこれを並行履修すること。
生　物　学　卒　業　実　験	(1)　A群より36単位以上を修得していること。ただし、卒業実験の指導教員の担当する科目（4単位）を含まなければならない。 (2)　B群より18単位以上を修得していること。ただし、卒業実験の指導教員の担当する実験及び演習（5単位）を含まなければならない。

2.「生物学卒業実験」は、「生物学専門実験及び演習Ⅰ～Ⅳ」のアドバンス科目としての性格をもつもので、履修することが望ましい。

これを履修しようとする者は、履修条件を共に満たしていること。

3.「生物学卒業実験」の履修により受講時間は著しく制限されるので、履修希望者は、4年次までにできるだけ多くの生物学科専門教育科目表にある授業科目を修得することが望ましい。

4.「生物学臨海実習」は、実習所の収容能力により定員を設けてあるので、必ずガイダンスに出席し、予備登録を行うこと。

5.「生物学特設科目Ⅰ」、「生物学特設科目Ⅱ」は、全国各地の臨海・臨湖実験所で実施される公開臨海・臨湖実習で修得した単位を、単位数に応じて「生物学特設科目Ⅰ」(1単位）または「生物学特設科目Ⅱ」(2単位）の単位として認定するものである。この科目の履修にあたっては種々の手続きを要するので、科目担当教員（本学生物学科）とよく相談すること。場合により単位の認定が次年度になることがあるので、履修にあたっては注意すること。

6.「Biological Science Ⅰ」、「Biological Science Ⅱ」、「Biological Science Ⅲ」、「Biological Science Ⅳ」は、国際交流センターが提供する留学プログラムで修得した生物学に関する科目の単位を、単位数に応じて「Biological Science Ⅰ」、「Biological Science Ⅱ」(1単位）または「Biological Science Ⅲ」、「Biological Science Ⅳ」(2単位）の単位として認定するものである。この科目の履修にあたっては種々の手続きを要するので、必ずガイダンスに出席し、予備調査で登録を行い、科目担当教員（本学生物学科）とよく相談すること。

7. 国際交流センターが提供する留学プログラムで修得した語学に関する科目の単位は、単位数と内容に応じて、C3にある中級英語および上級英語の単位として換算することができる。この手続きについては、留学に関するガイダンスに出席し、国際交流センターとよく相談すること。

『生物学卒業実験』審査基準について

卒業論文および生物学卒業実験発表会の結果に基づいて、原則として以下の項目およびその新規性や進歩性の項目について総合的に判断し、学科の専任教員全員による評価を行う。60 点以上（100 点満点）を得た者を合格とする。

(1) テーマの妥当性

研究課題が、関連する先行研究と資料調査等に基づいて、指導教員との相談を経て決定され、意義のあるものとなっていること。

(2) 方法の適切性

研究分野における適切な研究方法を用いていること。

(3) 実験結果の解釈

実験結果や根拠などの整理が充分かつ明確になされ、考察の内容が客観的かつ論理的であること。

(4) 表現能力

論文の体裁が整い、内容が適切に伝わるものとなっていること。また、生物学卒業実験発表会において内容を分かりやすく説明でき、質問に正確かつ端的に答えられること。

(5) 研究への取り組み状況

一年間を通じて継続的に研究に励むこと。

(6) 履修年度の前期試験期間終了から後期授業開始までの間の指定する日時までに、卒業実験の取り組み状況についての確認文書を提出すること。

(7) 履修年度の 10 月末の指定する日時までに卒業実験の中間報告書を提出すること。

なお、生物学卒業実験発表会と卒業論文提出と（6）と（7）の提出の方法ならびに期限等については、生物学卒業実験の履修期間のできるだけ早い時期に周知するので注意すること。

Ⅱ．博物館学芸員養成課程（理工学部生物学科　対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。ここでの博物館とは、自然史博物館、科学館、美術館、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、郷土館、記念館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では、理工学部宇宙理学・量子物理工学科、生物学科と文学部人間科学科、歴史文化学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の養成課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身につけることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用できるであろう。

(1)　学芸員養成課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには、1年次から4年次までの各年度で行われるガイダンスを受講し、1年次後半に学芸員養成課程の登録を申請する必要がある。ただし、2年次から履修を始めるのは可能であるが、3年次からの2年間では課程を修了できない。
2. 2年次以降、環境領域コースを選択して履修する。
3. 学芸員養成課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については次の点に注意すること。
   ①　館園実習を履修するまでに、それ以外の所定の科目をすべて修得しておく必要がある。
   ②　実習受入れ施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取扱う場合もある。そのため実習希望者については、生物学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
   ③　実習施設への申込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取止めることは認めない。
   ④　実習の期間は実習施設によって異なる。多くは4年次夏休みだが、4年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導などの日程は変更になることがある。
6. 生物学卒業実験を履修すること。

(2) 学芸員養成課程に必要な科目

［2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用］

授業科目	単位	必要単位数	
生涯学習概論	2	11 科目 19 単位必修	
博物館概論	2		
博物館経営論	2		
博物館資料論	2		
博物館資料保存論	2		
博物館展示論	2		
博物館教育論	2		
博物館情報・メディア論	2		
博物館実習Ⅰ	1		
博物館実習Ⅱ	1		
博物館実習Ⅲ	1		
日本史概説Ⅰ	2	A	A～E の科目群について、2 群以上 8 単位以上選択必修
日本史概説Ⅱ	2		
アジア史概説Ⅰ	2		
アジア史概説Ⅱ	2		
西洋史概説Ⅰ	2		
西洋史概説Ⅱ	2		
考古学Ⅰ	2		
考古学Ⅱ	2		
民俗学の諸問題Ⅰ	2		
民俗学の諸問題Ⅱ	2		
歴史と美術	2	B	
西洋美術史	2		
日本美術史	2		
芸術社会史	2		
モダンアート研究	2		
現代芸術研究	2		
環境学入門	2	C	
環境学	2		
人間環境論Ⅰ	2		
人間環境論Ⅱ	2		
環境教育の実践	2		
地学通論Ⅰ	2		
地学通論Ⅱ	2		
環境生物学	2	D	
生態学	2		
生物学臨海実習	2		
物理学通論Ⅰ	2	E	
物理学通論Ⅱ	2		
力学基礎	2		
電磁気学基礎	2		

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの 3 つがある。学科の専門性に応じ、生物学科の学生は環境領域コースを選択すること。

注 2. 必修科目のうち、「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、「博物館実習Ⅲ」は複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、環境領域コースはＡＣＤＥを履修することが望ましい。

注 4.「生物学臨海実習」は、生物学科の学生のみを対象とする。

(3) 学芸員養成課程のスケジュール

学芸員養成課程における各種手続や学外講義・集中講義・博物館実習のスケジュールは、ガイダンスで伝えるので＜My KONAN＞の掲示に注意すること。

理工学部 生物学科 カリキュラムツリー

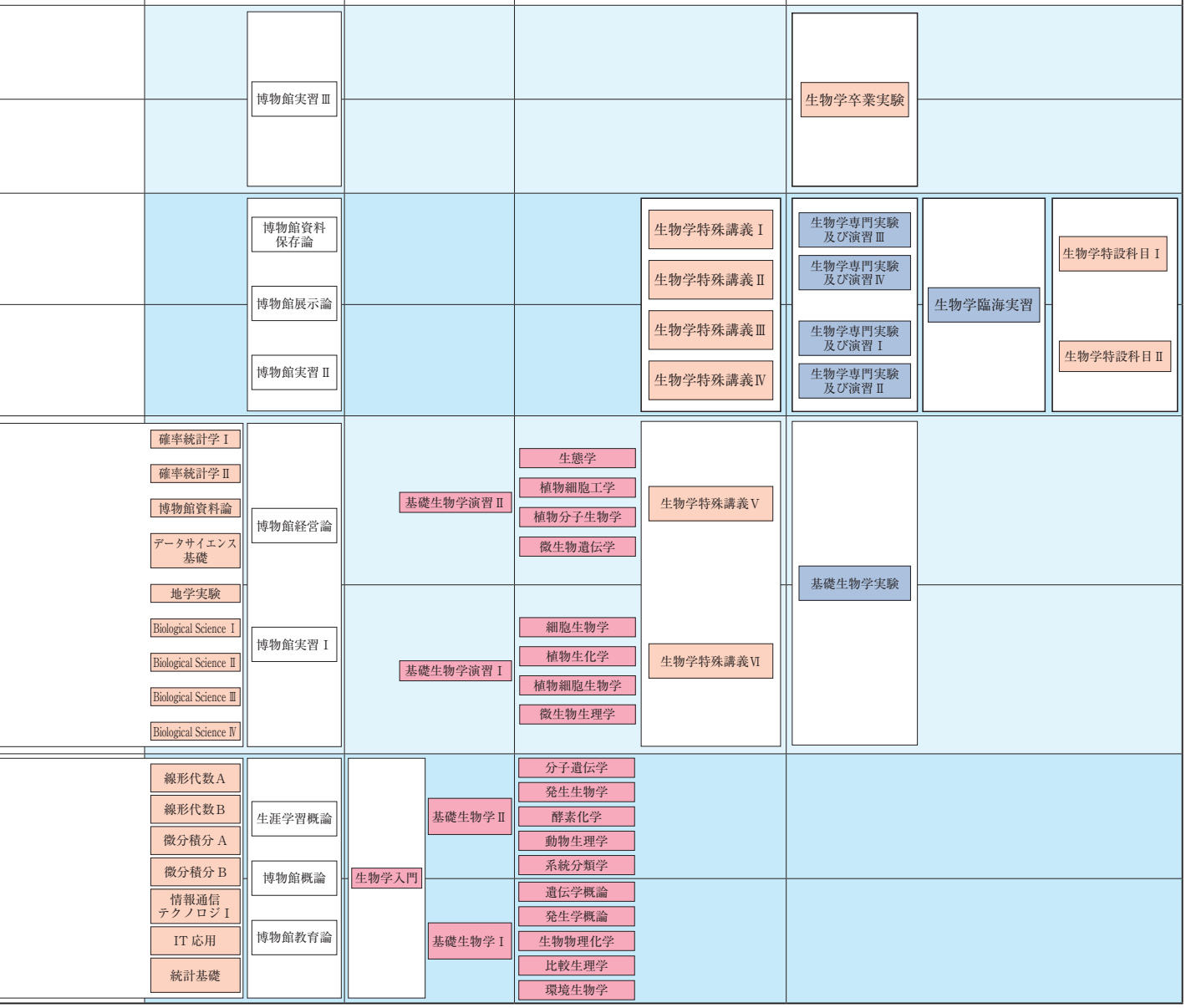
卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。	
対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号	(1) (2) (3) (5)	(2) (3)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、生物学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 自然科学、および生物学の修得・応用に関する幅広いするとともに、それらに基づいて基本的な自然現象を

科目群	全学共通科目	生物学周辺科目
4年後期		
4年前期		
3年後期		上級英語 TOEIC / 上級英語 Life Topics I / 大学日本語 上級 I 上級英語 Global Topics I / 上級英語 Life Topics II / 大学日本語 上級 II 人文地理特論 I / 博物館情報・メディア論
3年前期		上級英語 Global Topics II / 上級英語 Career English I / 上級外国留学科目 I 上級英語 Career English II / 上級外国留学科目 II
2年後期	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	中級英語 Speaking / 中級英語 Global Topics II / English Regions IV 中級英語 Presentation / 中級英語 Life Topics I / 外国留学科目 I 中級英語 Listening / 中級英語 Life Topics II / 外国留学科目 II 中級英語 Reading / 中級英語 Career English I / 外国留学科目 III 文化人類学 / 多文化共生論 / 人文地理 / 環境学入門 / 環境学 有機化学A / 有機化学B / 物理化学A / 物理化学B / 基礎化学実験 / 分析化学A / 分析化学B / 熱・統計力学 / ラボラトリー・フィジックス
2年前期	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	中級英語 Writing / 中級英語 Career English II / 外国留学科目 IV 中級英語 Pronunciation / TOEFL II / 大学日本語中級 I 中級英語 TOEIC / IELTS II / 大学日本語中級 II 中級英語 Global Topics I / English Regions III
1年後期	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 スポーツ健康マネジメント演習 II College English Reading/Writing College English Listening/Speaking 基礎第二外国語 II（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	科学英語演習 II 海外語学講座 I / IELTS I 海外語学講座 II / English Regions I 海外語学講座 III / English Regions II 海外語学講座 IV / 海外ボランティア I TOEFL I / 海外ボランティア II 自然地理学 化学通論 I / 化学通論 II / 物理学通論 I / 物理学通論 II / 地学通論 I / 地学通論 II / コンピュータサイエンス
1年前期	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 スポーツ健康マネジメント演習 I College English Reading/Writing College English Listening/Speaking 基礎第二外国語 I（英語（Content/Project-based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	科学英語演習 I

1. 基礎共通科目は、合計 16 単位を修得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位（＊2）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4) 生物学に関する基本的な知識・技術を修得しています。
	(5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
	(6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

	(4)	(2) (4) (5)	(1) (2) (4) (5) (6)
教養と基礎学力を修得考察することができる。	B 生物学に関する基礎知識を修得し、生物学の専門分野に応用することができる。	C 生物学の専門知識を修得し、それらを状況に応じて適切に活用することができる。	D 生物学に関する実験を行い、各分野の知識をもとに実験結果を解析することができる。
	生物学基礎科目	生物学専門科目	生物学実験・実習科目



2.「エリアスタディーズⅠ～X」については2単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。
ただし、選択必修の単位数に充てることはできない。
注）上記2の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

A群	B群	C-1	C-2	C-3

物質化学科

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生釟三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

物質化学科は、学部の教育基本方針に則った化学・応用化学の学問的土台を強固にする基礎力重視の教育を通じて、分子・化合物から材料に至る物質化学に関する基礎知識と基礎実験技術の両者を高い水準で併せもつ人材を育成します。そして、これらの幅広い化学と応用化学の知識と技術を効果的に融合させる能力と、多角的な化学的観点から問題点を見出し的確に対処する能力を有し、特定分野に偏らず理工学分野で幅広く活躍できる化学系人材の育成をめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。物質化学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上(基礎共通科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理工学）の学位を授与します。

(1)【人物教育】社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。
(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)【専門知識・技術】化学と応用化学の基本的な知識と技術を高い水準で有しています。
(5)【自己表現・コミュニケーション】自己の意見を論理的にまとめ、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。
(6)【課題解決・論理的思考】自立的に問題を発見し、論理的な思考に基づいて情報の整理・分析を行い、問題を解決する能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

理工学部物質化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。

また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において化学の基礎科目及び「物質化学入門」を設けます。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識や異文化について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 化学に関する基礎知識とその応用力を習得するため、初年次から段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
(5) 化学の専門知識と技術を学ぶ者として不可欠な化学における研究の安全と倫理に関する科目を配置します。
(6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、それらを適切に活用する力として身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。
(7) 専攻分野に関する知識を社会で発揮する力を身につけるため、情報技術やビジネス、ならびに知的財産・特許関連の法務等に関する科目を設けます。
(8) 学修成果の集大成とその評価を行うため、「物質化学卒業研究」及び「物質化学卒業演習および実習」を配置します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるため、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか、又はこれらの併用により授業を行います。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を的確に表現し伝える能力、問題解決力を養成し、他者と協調・協働しながら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶため、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の演習及び実験を行います。
(3) 考える力や洞察力を養うため、問題演習、文献調査、学生実験、コンピュータ活用、レポート作成、ディスカッションなどを活用したアクティブ・ラーニングを行います。
(4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	【人物教育】社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【専門知識・技術】化学と応用化学の基本的な知識と技術を高い水準で有しています。
(5)	【自己表現・コミュニケーション】自己の意見を論理的にまとめ、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。
(6)	【課題解決・論理的思考】自立的に問題を発見し、論理的な思考に基づいて情報の整理・分析を行い、問題を解決する能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、物質化学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1) (2) (3) (5)
A	自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、論理的思考に基づいてさまざまな自然科学的現象や概念を正しく理解することができる。	(2) (3) (6)
B	化学の諸分野を正しく理解する上で必要とされる基礎的な知識を修得することにより、より高度かつ分野横断的な学びに柔軟に対応することができる。	(4)
C	化学の諸分野における高度な専門知識を修得することにより、多様な物質の化学を純粋理学の側面から正しく理解、説明することができる。	(2) (4) (6)
D	応用化学ならびにその周辺分野の専門知識を修得することにより、多様な物質の化学を応用・実用科学の観点から理解し、また研究開発等の現場でそれらの知識を有効に活用することができる。	(2) (4) (6)
E	実験や実習、演習、または文献調査等を正しく実施することができ、さらにそこから得られた情報を整理・分析することで、問題を見つけて解決することができる。	(2) (4) (6)
F	高い倫理観と厳格な自己管理のもと、他者と協同しながら責任感をもって専門的な諸作業を実施し、またその結果や成果を社会に分かりやすく説明あるいは還元することができる。	(1) (2) (5)

授業科目表（理工学部物質化学科）　〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E	F
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○						
		外国語科目	*	*	○						
		保健体育科目	*	*	○						
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位）26 単位											
専門教育科目	実験研究科目	物質化学入門	2	1							○
		基礎化学実験	3	2						○	
		物質化学実験 A	3	2						○	
		物質化学実験 B	3	3						○	
		物質化学実験 C	3	3						○	
		物質化学講座	1	3						○	
		化学研究における安全と倫理	2	3							○
	以上 17 単位必修科目										
	基礎科目	化学基礎 A	2	1			○				
		化学基礎 B	2	1			○				
		分析化学基礎	2	1			○				
		物理化学基礎	2	1			○				
		有機化学基礎	2	1			○				
		無機化学基礎	2	1			○				
		材料化学基礎	2	2					○		
	以上 14 単位必修科目										

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標						
					Z	A	B	C	D	E	F
専門教育科目	数理科目	化学数学基礎 A	2	1		○					
		化学数学基礎 B	2	1		○					
		化学数学基礎 C	2	1		○					
		化学数学基礎 D	2	1		○					
		化学数学 A	2	2		○					
		化学数学 B	2	2		○					
		化学のための物理 A	2	2		○					
		化学のための物理 B	2	2		○					
	以上選択必修科目　10 単位以上										
	基幹科目	分析化学 A	2	2				○			
		分析化学 B	2	2				○			
		物理化学 A	2	2				○			
		物理化学 B	2	2				○			
		有機化学 A	2	2				○			
		有機化学 B	2	2				○			
		無機化学 A	2	2				○			
		無機化学 B	2	2				○			
		高分子合成化学	2	3				○			
		量子化学	2	3				○			
		材料化学	2	3					○		
		錯体化学	2	3				○			
	以上選択必修科目　18 単位以上										
	卒業科目	物質化学卒業研究	12	4						○	○
		物質化学卒業演習および実習	6	4						○	○
	以上選択必修科目（物質化学卒業研究か物質化学卒業演習および実習のいずれかを選択）										
	応用科目	有機材料工学	2	3					○		
		固体化学	2	3				○			
		有機構造化学	2	3				○			
		材料電気化学	2	3					○		
		反応速度論	2	3				○			
		応用分析化学	2	3				○			
		量子論	2	3				○			
		合成有機化学	2	3				○			
		化学工学	2	3					○		
		キャリアデザイン	1	3							○
		技術とビジネス	2	3							○
		光材料工学	2	4					○		
		応用有機化学	2	4				○			
		物質化学特別講義 1	1	3・4					○		
		物質化学特別講義 2	1	3・4					○		
		物質化学特別講義 3	1	3・4					○		
		物質化学特別講義 4	1	3・4					○		
	以上選択科目										
	自然科学・情報科目	生物学通論 I	2	1		○					
		生物学通論 II	2	1		○					
		地学通論 I	2	1		○					
		地学通論 II	2	1		○					
		物理学通論 I	2	1		○					
		物理学通論 II	2	1		○					
		IT 基礎	2	1		○					
		IT 応用	2	1		○					
		情報通信テクノロジ I	2	2		○					
		統計基礎	2	1		○					
		データサイエンス基礎	2	2		○					
		統計活用情報分析 I	2	2		○					
		統計活用情報分析 II	2	2		○					
		基礎生物学実験	3	2						○	
		ラボラトリー・フィジックス	3	2						○	
		地学実験	3	2						○	
	以上選択科目										

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標						
					Z	A	B	C	D	E	F
専門教育科目	キャリア系科目	実践ボランティアⅠ	1	2							○
		実践ボランティアⅡ	1	2							○
		情報通信テクノロジⅡ	2	2		○					
		地域プロジェクトⅠ	2	2							○
		地域プロジェクトⅡ	2	2							○
		地域ファシリテイト	2	2							○
		入門マネジメント	2	3							○
		入門ビジネス会計	2	3							○
		入門商業簿記Ⅰ	2	3							○
		入門商業簿記Ⅱ	2	3							○
		ビジネスを支える法の世界	2	3							○
		入門ビジネス法務	2	3							○
		知的財産とイノベーションⅠ	2	3							○
		知的財産とイノベーションⅡ	2	3							○
		基本情報技術	2	3		○					
		ICT セキュリティ	2	3		○					
		実践マネジメント	2	4							○
		実践ビジネス会計	2	4							○
		実践ビジネス法務	2	4							○
		起業・アントレプレナーシップを学ぶ	2	4							○
	以上選択科目										
専門教育科目　102 単位以上											
卒業必要単位数　128 単位以上											

【卒業必要単位数】

1. 理工学部物質化学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		16 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目	実験研究科目	17 単位
	基礎科目	14 単位
選択必修科目	数理科目	10 単位以上
	基幹科目	18 単位以上
	卒業科目	12 または 6 単位
選択科目	応用科目	
	自然科学・情報科目	
	キャリア系科目	
合　計		128 単位以上

2.「中級英語」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」については 8 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、単位は「キャリア系科目」の単位数に算入することとする。

3. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。

4.「エリアスタディーズⅠ～X」及び「English Regions Ⅲ・Ⅳ」については 2 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、単位は「キャリア系科目」の単位数に算入することとする。

Ⅰ．科目履修上の諸注意

1. 卒業研究の分属や種々の奨学金への応募、大学院修士課程の学内推薦等に、成績を考慮することがある。

2. 以下の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履修条件
基礎化学実験	「物質化学入門」の単位を修得していること
物質化学実験 A	「基礎化学実験」の単位を修得していること
物質化学実験 B	「物質化学実験 A」の単位を修得していること
物質化学実験 C	「物質化学実験 B」の単位を修得していること

3.「物質化学卒業研究」および「物質化学卒業演習および実習」はいずれも、物質化学科における学びの集大成として最終年次に配置されるものであり、自身の将来のキャリアパスを見据えつつ、いずれか一方を選択して履修しなければならない。「物質化学卒業研究」は、それまでに修得した化学の専門知識と実験技術を、先端研究に取組む中で実践的に活用する機会として位置付けられた科目であり、化学系を中心とした専門分野で活躍しうる技術者・研究者の育成を目的としている。一方「物質化学卒業演習および実習」は、化学の専門教育を基本としつつ、さらにプレゼンテーションや文献読解、文書作成などを通じ、社会全般で求められる汎用的なスキルの修得を趣旨とする科目であり、ビジネスや情報通信、知的財産分野などの社会科学的素養も身につけ、社会で幅広く活躍することができる文理融合型人材の育成を目的としている。これらの科目については、以下に示す履修条件に従って履修すること。

授業科目	履修条件
物質化学卒業研究	(1) 基礎共通科目の単位を 12 単位以上修得していること (2) 外国語科目および保健体育科目の単位は卒業に必要な単位数を修得していること (3) 専門教育科目の単位は下記の内訳を含めて合計 80 単位以上修得していること (内訳) 実験研究科目：15 単位以上 基礎科目：14 単位 数理科目：10 単位以上 基幹科目：16 単位以上 応用科目：単位数の指定なし 自然科学・情報科目：12 単位まで算入できる キャリア系科目：4 単位まで算入できる
物質化学卒業演習および実習	(1) 基礎共通科目の単位を 12 単位以上修得していること (2) 外国語科目および保健体育科目の単位は卒業に必要な単位数を修得していること (3) 専門教育科目の単位は下記の内訳を含めて合計 80 単位以上修得していること (内訳) 実験研究科目：11 単位以上 基礎科目：14 単位 数理科目：10 単位以上 基幹科目：12 単位以上 応用科目：単位数の指定なし 自然科学・情報科目：単位数の指定なし キャリア系科目：単位数の指定なし

4.「物質化学卒業研究」および「物質化学卒業演習および実習」の履修登録に際しては、履修の前年度後期に開かれる説明会に必ず出席すること。

5.「物質化学卒業研究」では、各専門分野の先端研究に取組むために必須となる高度な知識と実験技術を習得する。これらの実践的素養の習得は、大学院修士課程（化学専攻）でさらに高度な内容を学修するための前提となる。そのため修士課程への進学にあたっては、「物質化学卒業研究」を選択し、これを修得していることが強く望まれる。

6. キャリア創生共通科目である「エリアスタディーズⅠ〜X」は事前登録科目である。実施内容を含め、募集人員、申込み期間、実施期間、申込み方法については、『履修ガイドブック』「第３部：履修上の諸注意」のページ、『シラバス』を確認すること。

7. キャリア創生共通科目である「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」の履修にあたっては、指定された期日までに地域連携センターへの希望登録が必要である。地域連携センターの「ボランティアガイダンス」に出席し、指示に従って手続きすること。

8. キャリア創生共通科目である「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」の履修にあたっては、地域課題ごとに参加者を募集し地域連携センターが取りまとめる。地域連携センターのガイダンスに出席し、指示に従って手続きすること。

［物質化学卒業研究に関して］

「物質化学卒業研究」の成績評価は原則として（1）卒業研究発表と（2）卒業論文提出の両方を行った者に対して行われる。(1)、(2) および１年間の活動状況、報告書提出、報告会での発表、文献輪読などを総合し、60 点以上（100 点満点）を得た者を合格とする。

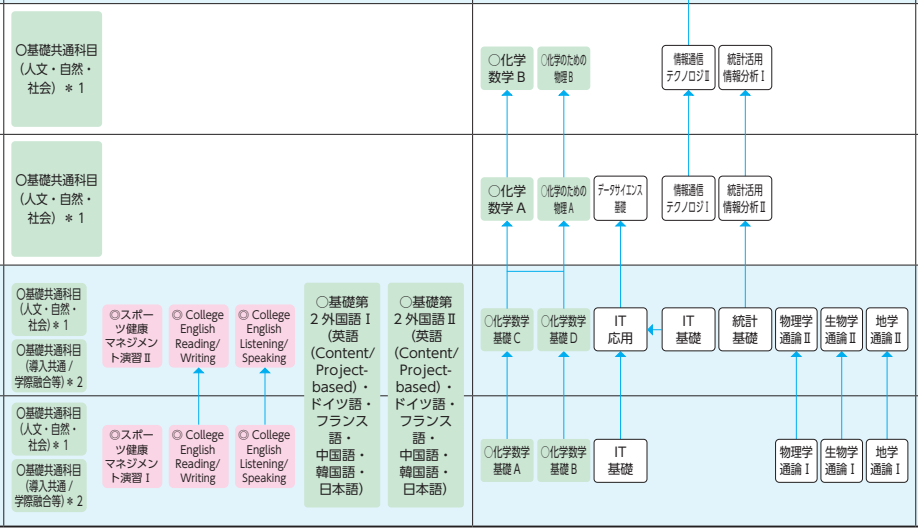
［物質化学卒業演習および実習に関して］

「物質化学卒業演習および実習」の成績評価は原則として、成果物の提出・発表および１年間の活動状況などを総合し、60 点以上（100 点満点）を得た者を合格とする。

理工学部 物質化学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針(DP)	(1)【人物教育】社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。
	(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
	(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。

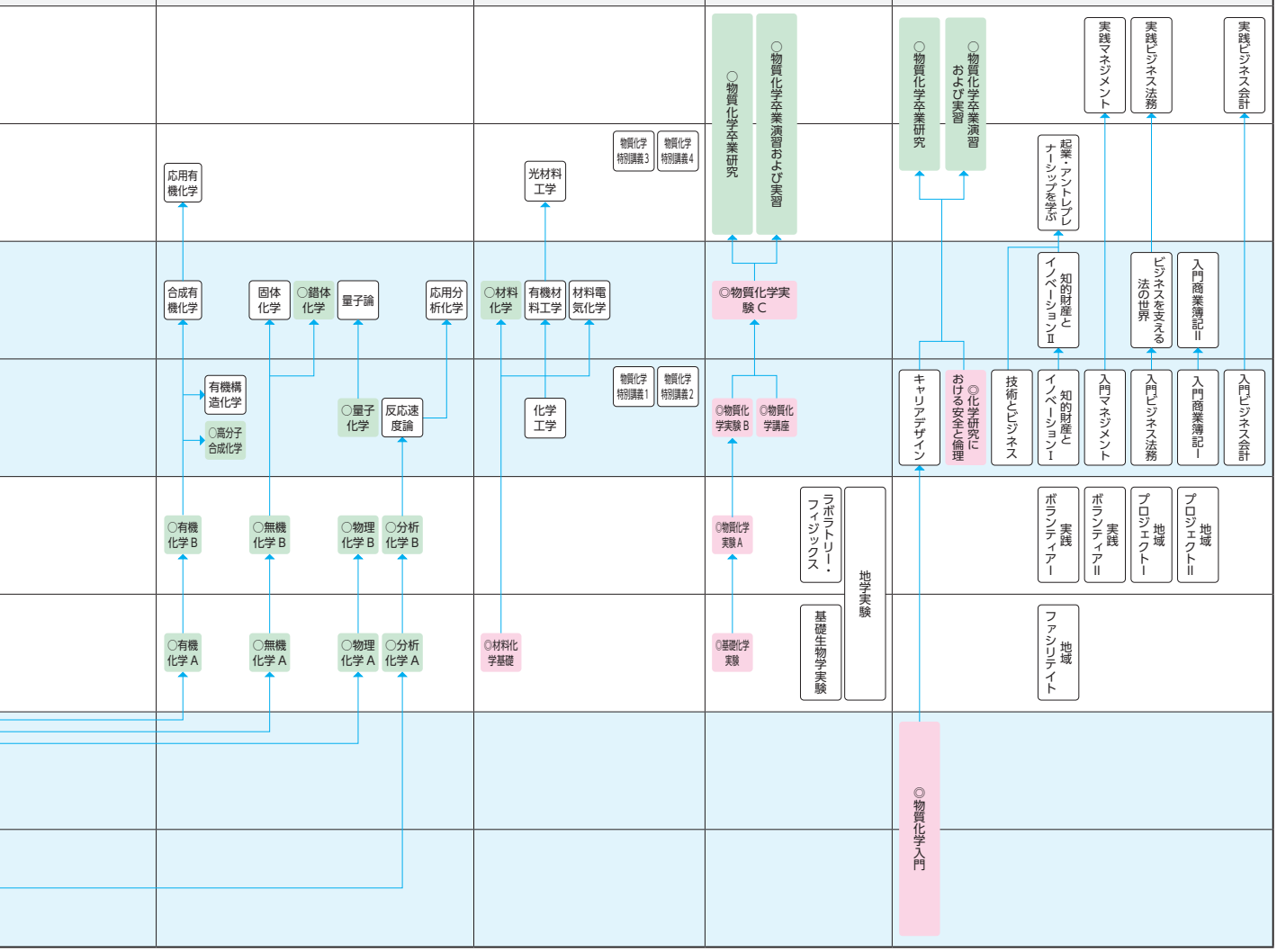
対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号	(1)(2)(3)(5)	(2)(3)(6)	(4)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、物質化学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、論理的思考に基づいてさまざまな自然科学的現象や概念を正しく理解することができる。	B 化学の諸分野を正しく理解する上で必要とされる基礎的な知識を修得することにより、より高度かつ分野横断的な学びに柔軟に対応することができる。
科目群	科目群 Z（全学共通科目）	科目群 A	科目群 B



1. 基礎共通科目は、合計 16 単位を修得しなければならない
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「 AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位（＊2）

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門知識・技術】化学と応用化学の基本的な知識と技術を高い水準で有しています。 (5)【自己表現・コミュニケーション】自己の意見を論理的にまとめ、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。 (6)【課題解決・論理的思考】自立的に問題を発見し、論理的な思考に基づいて情報の整理・分析を行い、問題を解決する能力を有しています。

	(2)（4）(6)	(2)（4）(6)	(2)（4）(6)	(1)（2）(5)
	C 化学の諸分野における高度な専門知識を修得することにより、多様な物質の化学を純粋理学の側面から正しく理解、説明することができる。	D 応用化学ならびにその周辺分野の専門知識を修得することにより、多様な物質の化学を応用・実用科学の観点から理解し、また研究開発等の現場でそれらの知識を有効に活用することができる。	E 実験や実習、演習、または文献調査等を正しく実施することができ、さらにそこから得られた情報を整理・分析することで、問題を見つけて解決することができる。	F 高い倫理観と厳格な自己管理のもと、他者と協同しながら責任感をもって専門的な諸作業を実施し、またその結果や成果を社会に分かりやすく説明あるいは還元することができる。
	科目群 C	科目群 D	科目群 E	科目群 F



2.「中級英語」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」については８単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、単位は「キャリア系科目」の単位数に算入することとする。

3.「エリアスタディーズⅠ～X」及び「English Regions Ⅲ・Ⅳ」については２単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、単位は「キャリア系科目」の単位数に算入することとする。

注）上記 2, 3 の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

環境・エネルギー工学科

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生釟三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

環境・エネルギー工学科は、現代社会が抱える種々の課題の中でも、環境・資源・エネルギーに係わる課題に取り組むうえで必要な化学・物理学・地学の基礎知識、ならびに環境・エネルギー工学に関する専門知識を教授するとともに、持続可能な社会の実現に貢献できる問題解決能力を学生に修得させ、再生可能エネルギー導入の促進、エネルギーの高密度貯蔵、高効率エネルギー変換、エネルギー・資源の有効利用、環境リスクの評価・低減のための材料及び技術開発などの分野で重要な役割を担い得る人材を育成することをめざします。また、社会で活躍するための総合力を実験、実習を通して養成します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。環境・エネルギー工学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 102 単位以上)を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士(理工学)の学位を授与します。

(1)【人物教育】社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。
(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)【専門・知識】化学、物理学ならびに地学の基礎知識を修得し、環境・エネルギー工学に関連した専門知識を有しています。
(5)【専門・コミュニケーション能力】自己の考えを論理的にまとめ、筋道立てて整理し、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。
(6)【集大成・課題解決】自立的かつ論理的な思考に基づいて問題を発見し、情報の整理・分析を行い問題を解決する能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

環境・エネルギー工学科では、卒業認定・学位授与の方針ならびに学修の到達目標に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。

また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造を分かりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA、及び学修の到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを修得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において、化学、物理学、地学や数学など環境・エネルギー工学の基礎を形成するための科目を設けます。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識や異文化について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 化学、物理学ならびに地学の基礎知識、及び環境・エネルギー工学に関連した専門知識を修得するため、初年次から段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
(5) 環境・エネルギー工学の知識を生かして国際的・社会的な感性を育むため、科学英語や科学研究における安全に関する科目を配置します。
(6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるため、科学・技術に係る倫理ならびにキャリア形成にかかわる教育・支援を１年次から４年次まで継続的に実施します。
(7) 環境・エネルギー工学に関する専門職に従事することを希望し、専門知識を修得する意欲を持った学生を対象として、大学院進学を見据えた科目群を設定します。
(8) 専攻分野に関する知識を社会で活用できる力として身につけるため、課題解決型（PBL（Project Based Learning））科目、情報技術やビジネス、特許などの知的財産権等に関する科目を設けます。
(9) 学修の成果の集大成とその評価を行うため、環境・エネルギー工学卒業研究を配置します。

2）教育方法

(1) １）に掲げた教育内容を身につけるため、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらの併用により授業を行います。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を的確に表現し伝える能力、問題解決力を養成し、他者と協調・協働しながら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶため、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の演習及び実験を行います。
(3) 考える力や洞察力を養うため、問題演習、文献調査、学生実験、コンピュータ活用、レポート作成、ディスカッションなどを活用したアクティブ・ラーニングを行います。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の修得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	【人物教育】社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	【専門・知識】化学、物理学ならびに地学の基礎知識を修得し、環境・エネルギー工学に関連した専門知識を有しています。
(5)	【専門・コミュニケーション能力】自己の考えを論理的にまとめ、筋道立てて整理し、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。
(6)	【集大成・課題解決】自立的かつ論理的な思考に基づいて問題を発見し、情報の整理・分析を行い問題を解決する能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、環境・エネルギー工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(5)
A	環境・エネルギー工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる。	(1)(2)(5)
B	自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、その原理から基本的な物理・化学現象を考えることができる。	(3)
C	化学、物理学ならびに情報科学に関する知識を修得し、環境・エネルギー工学へと適切に応用することができる。	(4)
D	環境・エネルギー工学の核をなす環境科学、材料科学ならびにエネルギー科学に関する専門知識を修得し、それらを問題の状況に応じて適切に使うことができる。	(4)(6)
E	化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を行い、各分野の知識をもとに実験結果を解析することができる。	(5)(6)
F	環境・エネルギー工学に関する専門知識を修得するために、化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を長期間にわたって行い、各分野の知識や議論をもとに実験結果を理論的に解析することができる。	(4)(5)(6)

授業科目表（理工学部環境・エネルギー工学科）　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E	F
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○						
		外国語科目	*	*	○						
		保健体育科目	*	*	○						
＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）26単位											
専門教育科目	必修科目	環境・エネルギー工学入門	1	1		○					
		ラボラトリー・フィジックス	3	1						○	
		科学実験基礎	1	2						○	
		ラボラトリー・ケミストリー	3	2						○	
		環境・エネルギー工学実験1	3	3						○	
		環境・エネルギー工学卒業研究	12	4		○				○	○
		研究における安全と倫理	1	3	○						
		工学英語	2	4	○						
	以上26単位必修										
	選択必修科目Ⓐ 専門実験科目	環境・エネルギー工学実験2	4	3						○	
		環境・エネルギー工学実験3	4	3							○
	以上選択必修科目Ⓐ　4単位以上										

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標						
						Z	A	B	C	D	E	F
専門教育科目	選択必修科目Ⓑ	基礎科目	化学１	2	1			○				
			化学２	2	1			○				
			有機化学基礎	2	1			○				
			基礎科学演習１	1	1			○				
			基礎科学演習２	1	1			○				
			力学基礎	2	1			○				
			振動・波動	2	1			○				
			電磁気学基礎	2	2			○				
			地球科学１	2	1			○				
			地球科学２	2	1			○				
			天文学入門	2	2			○				
			工学のための数学１	2	1			○				
			工学のための数学２	2	1			○				
	以上選択必修科目Ⓑ　20 単位以上											
	選択必修科目Ⓒ	専門基礎科目	工学のための数学演習１	1	1			○				
			工学のための数学演習２	1	1			○				
			工学のための応用数学１	2	2				○			
			工学のための応用数学２	2	2				○			
			工学のための IT	1	2				○			
			電磁気学Ⅰ	2	2				○			
			電磁気学Ⅱ	2	3				○			
			分析化学 A	2	2				○			
			熱力学基礎	2	2				○			
			物理化学 A	2	2				○			
			物理化学 B	2	2				○			
			有機化学 A	2	2				○			
			有機化学 B	2	2				○			
			無機化学 A	2	2				○			
			無機化学 B	2	2				○			
			量子化学	2	3				○			
			高分子合成化学	2	3				○			
	以上選択必修科目Ⓒ　21 単位以上											
	選択必修科目Ⓓ	基幹専門科目	環境・エネルギー工学キャリアデザイン	1	2		○					
			環境・エネルギー工学基礎	1	2					○		
			固体科学入門	2	2					○		
			環境科学	2	2					○		
			環境材料工学	2	3					○		
	以上選択必修科目Ⓓ　6 単位以上											
	選択科目Ⓐ	専門科目	合成有機化学	2	3				○			
			反応速度論	2	3				○			
			材料電気化学	2	3					○		
			量子論	2	3				○			
			コンピュータ材料科学	2	3					○		
			電気・電子工学	2	3					○		
			エネルギー材料工学	2	4					○		
			有機材料工学	2	3					○		
			光材料工学	2	4					○		
			電子材料工学	2	4					○		
			知的財産論	1	4	○						
			環境・エネルギー工学特別演習１	2	3							○

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標						
						Z	A	B	C	D	E	F
専門教育科目	選択科目Ⓐ	専門科目	環境・エネルギー工学特別演習２	2	3							○
			環境・エネルギー工学特別演習３	1	4		○					
			環境・エネルギー工学特別講義１	1	4					○		
			環境・エネルギー工学特別講義２	1	4					○		
			環境・エネルギー工学特別講義３	1	4					○		
	以上選択科目Ⓐ											
	選択科目Ⓑ	関連科目	生物学通論Ⅰ	2	1			○				
			生物学通論Ⅱ	2	1			○				
			IT 基礎	2	1				○			
			IT 応用	2	1				○			
			基礎生物学実験	3	2			○				
			地学実験	3	2			○				
	以上選択科目Ⓑ（12 単位を上限として卒業必要単位数に充てることができる）											
専門教育科目　102 単位以上												
卒業必要単位数　128 単位以上												

【卒業必要単位数】

1. 理工学部環境・エネルギー工学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		16 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
必修科目		26 単位
選択必修科目 A	専門実験科目	4 単位以上
B	基礎科目	20 単位以上
C	専門基礎科目	21 単位以上
D	基幹専門科目	6 単位以上
選択科目 A	専門科目	
B	関連科目	12 単位上限
合　計		128 単位以上

2. 中級英語、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」、及び「English Regions Ⅲ・Ⅳ」については 10 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。
4. キャリア創生共通科目のうち、「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」および「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」については 4 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
5. キャリア創生共通科目のうち、「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

Ⅰ．科目履修上の諸注意

1. 卒業研究の分属や種々の奨学金への応募、大学院修士課程の学内推薦等に成績を考慮することがある。
2. 以下の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履修条件
環境・エネルギー工学実験２ 環境・エネルギー工学実験３	「ラボラトリー・フィジックス」、「科学実験基礎」、「ラボラトリー・ケミストリー」、「環境・エネルギー工学実験1」の単位を修得していること
環境・エネルギー工学特別演習１ 環境・エネルギー工学特別演習２	「ラボラトリー・フィジックス」、「科学実験基礎」、「ラボラトリー・ケミストリー」の単位を修得していること
環境・エネルギー工学卒業研究	(1) 基礎共通科目の単位を 12 単位以上修得していること (2) 外国語科目および保健体育科目の単位は卒業に必要な単位数を修得していること (3) 専門教育科目の単位は合計 80 単位以上（うち必修科目：12 単位、選択必修科目 A: 4単位を含む）修得していること

3. 「環境・エネルギー工学実験２」、「同３」、「環境・エネルギー工学特別演習１」、「同２」、「同３」および「環境・エネルギー工学卒業研究」の履修登録に際しては、履修の前年度後期に開かれる説明会に必ず出席すること。
4. キャリア創生共通科目である「エリアスタディーズ I〜X」は事前登録科目である。実施内容を含め、募集人員、申込み期間、実施期間、申込み方法については、『履修ガイドブック』[第３部：履修上の諸注意］のページ、『シラバス』を確認すること。
5. キャリア創生共通科目である「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」の履修にあたっては、指定された期日までに地域連携センターへの希望登録が必要である。地域連携センターの「ボランティアガイダンス」に出席し、指示に従って手続きすること。
6. キャリア創生共通科目である「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」の履修にあたっては、地域課題ごとに参加者を募集し地域連携センターが取りまとめる。地域連携センターのガイダンスに出席し、指示に従って手続きすること。

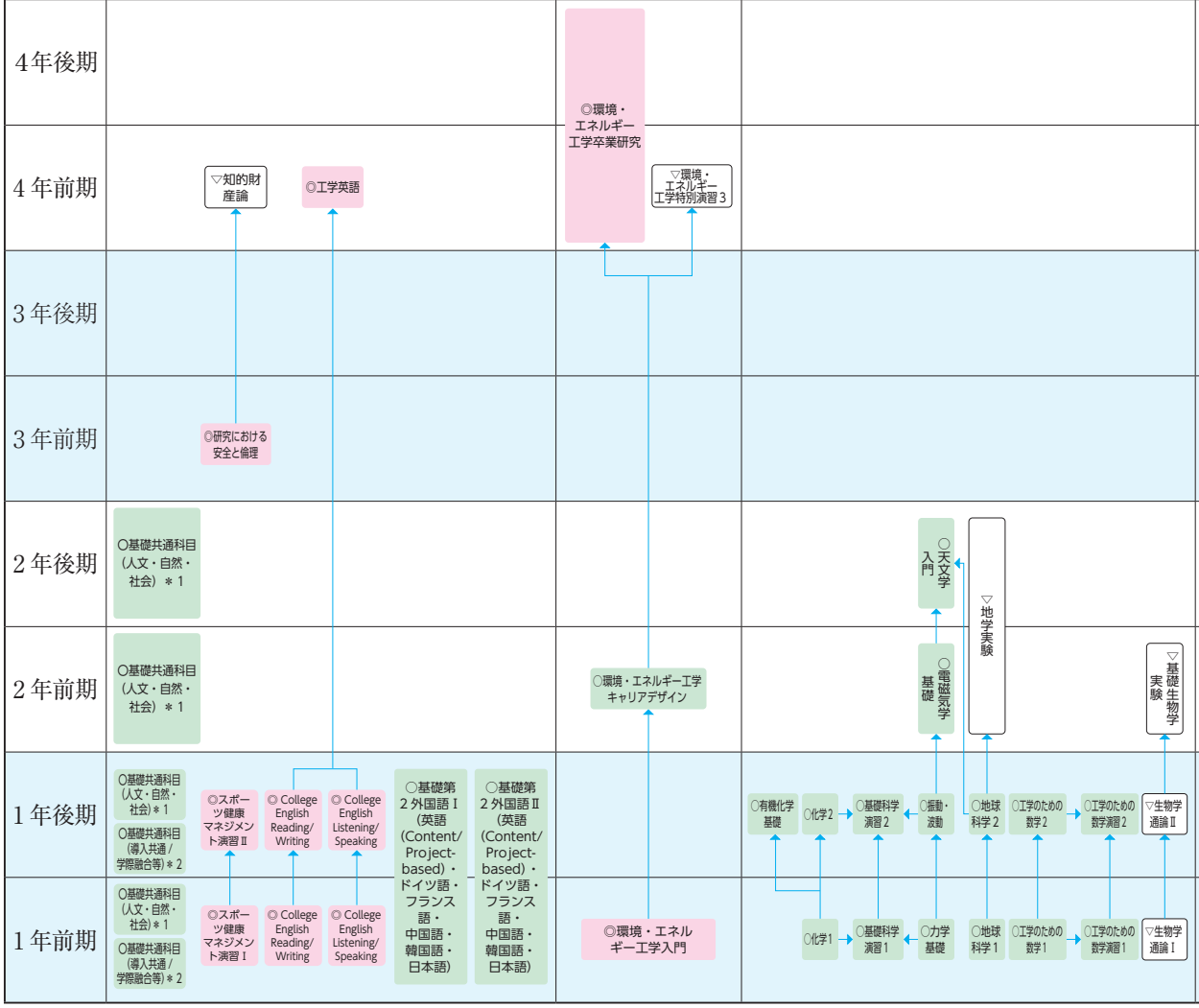
［環境・エネルギー工学卒業研究に関して］

「環境・エネルギー工学卒業研究」の成績評価は原則として（1）卒業研究中間発表、(2) 卒業研究発表と（3）卒業論文提出をすべて行った者に対して行われる。(1) 〜 (3) および１年間の活動状況などを総合し、60 点以上（100 点満点）を得た者を合格とする。

理工学部 環境・エネルギー工学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針(DP)	(1)【人物教育】社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。 (2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3)【広い教養】人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。

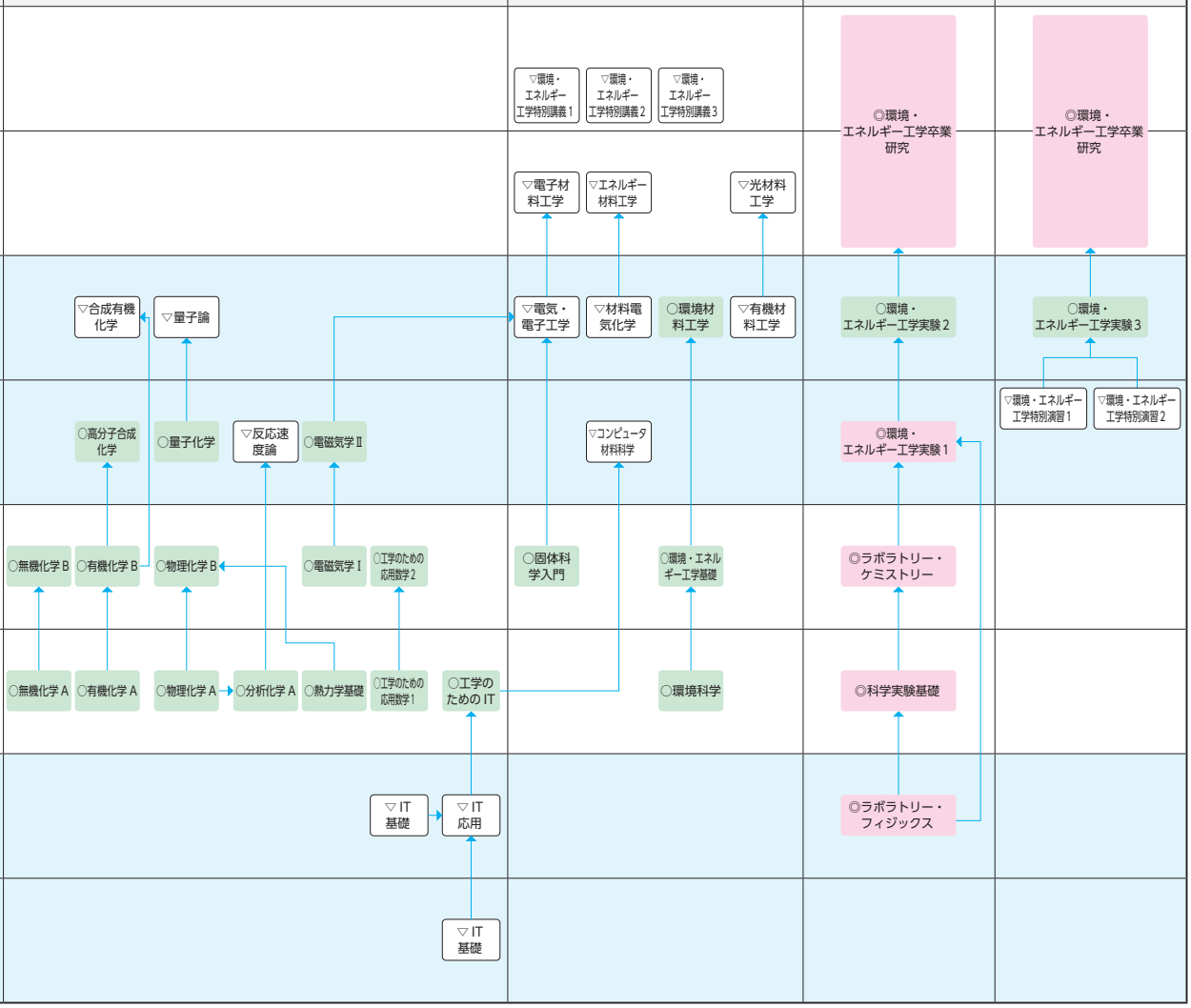
対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号	(1) (2) (3) (5)	(1) (2) (5)	(3)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、環境・エネルギー工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 環境・エネルギー工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる。	B 自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、その原理から基本的な物理・化学現象を考えることができる。
科目群	全学共通科目・技術基盤科目	協働・実践科目	自然科学基礎科目



1. 基礎共通科目は、合計 16 単位を修得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位（＊1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位（＊2）

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門・知識】化学、物理学ならびに地学の基礎知識を修得し、環境・エネルギー工学に関連した専門知識を有しています。
		(5)【専門・コミュニケーション能力】自己の考えを論理的にまとめ、筋道立てて整理し、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。
		(6)【集大成・課題解決】自立的かつ論理的な思考に基づいて問題を発見し、情報の整理・分析を行い問題を解決する能力を有しています。

	(4)	(4)（6）	(5)（6）	(4)（5）(6)
	C 化学、物理学ならびに情報科学に関する知識を修得し、環境・エネルギー工学へと適切に応用することができる。	D 環境・エネルギー工学の核をなす環境科学、材料科学ならびにエネルギー科学に関する専門知識を修得し、それらを問題の状況に応じて適切に使うことができる。	E 化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を行い、各分野の知識をもとに実験結果を解析することができる。	F 環境・エネルギー工学に関する専門知識を修得するために、化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を長期間にわたって行い、各分野の知識や議論をもとに実験結果を理論的に解析することができる。
	環境・ エネルギー工学基盤科目	環境・ エネルギー工学専門科目	環境・エネルギー 工学実験科目	環境・エネルギー 工学発展実験科目



◎必修科目　○選択必修科目　▽選択科目

2. 中級英語、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「エリアスタディーズⅠ～X」、および「English Regions Ⅲ・Ⅳ」については10単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
3. キャリア創生共通科目のうち、「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」および「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」については4単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
4. キャリア創生共通科目のうち、「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

注）上記2～4の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

理工学部転学科選考基準

平成 27 年 11 月 16 日　理工学部教授会改正

各学科は、その教育内容に対する勉学意欲を重視し、修得した科目とその成績及び単位数を考慮し、収容人員に余裕があれば転学科を認める。

＊指定校推薦入学試験、協定校推薦入学、工業科推薦入学試験による学生への注意事項
入学後の転学部・転学科については、原則として認めないので、注意すること。

経　済　学　部

経　済　学　部

経済学科

教育基本方針

甲南大学経済学部は、学生の一人ひとりを見守り、経済学の学修を通じてその成長の手がかりを提供することによって、経済・社会問題を的確に捉え、筋道を立てて問題を考えて、自らの力で解決策を示すことのできる知性と創造力を備え、広く社会に貢献できる人材を養成することを教育の基本方針としています。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。経済学部では、教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目 18 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 100 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（経済学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 幅広い知識と能力を身につけています。
(4) 経済・社会問題を的確に捉えることができます。
(5) 筋道を立てて問題を考えることができます。
(6) 自らの力で解決策を示すことができます。

教育課程編成・実施の方針

経済学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

また、経済学部では特に、次の三つの方針を教育課程の編成・実施の軸としています。

1. 学生の興味・関心に対応した 6 つの専門教育科目群の設定と系統的学修
2. 基礎・中級・上級のステップアップ方式による段階的学修
3. 少人数クラスによる学生と教員、学生同士の密なるコミュニケーション

教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 大学での学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などの修得と、経済学の学修への円滑な導入を図るため、基礎ゼミと経済学入門科目（入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、経済入門）を必修科目として初年次において配置します。
(2) 系統的な学修を促すために、経済学の下位分野を網羅し、かつ、学生の興味・関心に対応する 6 つの専門教育科目群を配置します。
(3) 段階的で計画的な学修を促すために、専門科目を、1 年次配当の基礎科目、2 年次配当の中級科目、3・4 年次配当の上級科目という 3 つのステップに分けるとともに、学修成果を確実なものとするために、基礎科目、中級科目、上級科目のステップ毎に、卒業に必要な修得単位数を設定します。
(4) 外国語によるコミュニケーション能力を修得しながら異文化理解について学ぶ授業科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ授業科目、情報を読み解く力について学ぶ授業科目を配置します。
(5) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(6) 幅広い知識と教養の修得のため、英語による経済学の学修や情報教育、経営学や法学など経済学以外の専門分野の授業科目及び海外を含む他大学との単位互換協定にもとづく授業科目を、卒業必要単位として扱われる授業科目として配置します。
(7) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。
(8) 学生の成長の手がかりを提供するため、キャリア実習やプロジェクトゼミ、企業や地域と連携したワークショップ型授業など、多様な体験学習ができる授業科目を配置します。
(9) 専門科目における学修と研究を深めていき、在学中の学修成果の集大成としての卒業研究や卒業論文の執筆を行う授業科目として、2 年次後期から 4 年次にかけて、同一教員の指導のもとで学ぶゼミを配置します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容の修得のために、講義と演習を適切に組み合わせて授業を行います。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を修得し、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献する責任感・倫理観を養成するために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の演習などを重視した授業を行います。
(3) 授業においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、対話型学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブラーニングを積極的に展開します。
(4) 学生の成長の手がかりに厚みを加えるために、経済学部内のインナーゼミナール大会や学生懸賞論文など、学修成果を発表・評価する機会を設けます。
(5) 学生の成長をより確かなものにするため、教員との面談などを定期的に実施し、学生の学修状況や生活態度を見守ります。
(6) 学生の学修に対する励みとして、成績優秀な学生を顕彰します。
(7) 成績評価を GPA で表示するとともに、到達目標と各授業科目の連関性を明確にし、知識・能力の修得状況について、学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学修成果について、その評価方法を各授業科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針（DP）

(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	幅広い知識と能力を身につけています。
(4)	経済・社会問題を的確に捉えることができます。
(5)	筋道を立てて問題を考えることができます。
(6)	自らの力で解決策を示すことができます。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1) (2) (3) (5)
A	論理的・分析的な思考法、及び、問題を科学的に把握する能力を有している。	(1) (2) (5)
B	市場経済の仕組みと産業・企業の仕組み、及び、政府の役割に関する知識を有している。	(1) (2) (4)
C	国際社会、日本社会、地域社会などが抱える諸問題を理解し、それらを解決するための政策立案能力を有している。	(1) (2) (6)
D	国際経済、国際社会の動向及び外国経済事情に関する知識を有している。	(1) (2) (4)
E	さまざまな情報源（日本語以外で発信されているものも含む）から適切な情報を取捨選択し、有効に活用する能力を有している。	(1) (2) (5)
F	現代経済社会が形成されるに至った歴史的過程とその思想的背景に関する知識を有している。	(1) (2) (4)
G	課題を発見し、自ら調査し、解決策を導き出すことができる。	(1) (2) (6)
H	社会において必要となるコミュニケーション能力、IT 活用能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を有している。	(1) (2) (3)
I	将来、社会の一員として生きる上で必要となる幅広い知識と教養を有している。	(1) (2) (3)

授業科目表（経済学部経済学科）　〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I
全学共通科目			基礎共通科目	*	*	○									
			外国語科目	*	*	○									
			保健体育科目	*	*	○									
＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）28単位															
専門教育科目	基礎科目		基礎ゼミⅠ	2	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○
			経済入門Ⅰ	4	1			○	○	○					
			経済入門Ⅱ	4	1			○	○			○			
			入門ミクロ経済学	4	1		○	○					○		
			入門マクロ経済学	4	1		○	○					○		
			以上 18 単位必修												
			基礎ゼミⅡ	2	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○
			英語で読む経済Ⅰ	2	1						○			○	○
			ベーシック・キャリアデザイン	2	1						○			○	○
			統計入門	2	1		○				○		○		
			数学入門	2	1		○				○		○		
			4 単位以上選択必修												
	中級科目	A群 理論・情報	中級ミクロ経済学	4	2		○	○			○				
			中級マクロ経済学	4	2		○	○			○				
			中級統計学	4	2		○						○		○
			経済数学	2	2		○								
			ＰＣ統計学	2	2		○							○	○
		B群 財政・金融	財政	4	2		○	○	○						
			金融	4	2		○	○	○						
		C群 公共経済	公共経済	4	2		○	○	○						
			労働経済Ⅰ	2	2			○	○						○
			地域政策	2	2		○	○	○						
			経済政策	4	2		○	○	○						
		D群 国際経済	国際経済	4	2			○	○	○					
		E群 産業・企業	産業経済	4	2		○	○			○				

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標									
						Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I
専門教育科目	中級科目	F群 歴史・思想	経済史	4	2							○			
			社会経済思想Ⅰ	2	2							○	○		○
			社会経済思想Ⅱ	2	2							○	○		○
			経済学の歴史	4	2							○			
		G群 ゼミ(演習)	ゼミⅠ	2	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○
		H群 キャリア系科目	キャリアゼミ	2	2						○			○	○
			プロジェクトゼミ	2	2						○		○	○	
			地域プロジェクトⅠ	2	2				○				○	○	
		I群 共通科目	英語で読む経済Ⅱ	2	2				○		○				○
			情報リテラシーA	2	2		○							○	○
			情報リテラシーB	2	2		○							○	○
			現代経済学特論Ⅰ	2	2		○								○
			現代経済学特論Ⅱ	2	2		○								○
			外国大学中級科目A	4	2					○	○				○
			外国大学中級科目B	4	2					○	○				○
	合計 20 単位以上選択必修														
	上級科目	A群 理論・情報	上級ミクロ経済学Ⅰ	2	3・4		○				○		○		
			上級ミクロ経済学Ⅱ	2	3・4		○				○		○		
			上級マクロ経済学Ⅰ	2	3・4		○				○	○			
			上級マクロ経済学Ⅱ	2	3・4		○				○	○			
			計量経済Ⅰ	2	3・4		○				○			○	
			計量経済Ⅱ	2	3・4		○				○			○	
			家計の経済	2	3・4		○		○		○				
			ビジネスデータ分析	2	3・4		○				○			○	
		B群 財政・金融	国際金融Ⅰ	2	3・4			○	○	○					
			国際金融Ⅱ	2	3・4			○	○	○					
			地方財政Ⅰ	2	3・4			○	○						○
			地方財政Ⅱ	2	3・4			○	○						○
			金融政策Ⅰ	2	3・4			○	○	○					
			金融政策Ⅱ	2	3・4			○	○	○					
			ファイナンスⅠ	2	3・4			○	○	○					
			ファイナンスⅡ	2	3・4			○	○	○					
		C群 公共経済	公共政策	2	3・4			○	○						○
			経済体制Ⅰ	2	3・4			○	○			○			
			経済体制Ⅱ	2	3・4			○	○			○			
			労働経済Ⅱ	2	3・4			○	○						○
			健康経済	2	3・4		○		○		○				
			地域政策ワークショップA	2	3・4		○		○				○		
			地域政策ワークショップB	2	3・4		○		○				○		
			震災と地域経済Ⅰ	2	3・4				○		○	○			
			震災と地域経済Ⅱ	2	3・4				○		○	○			
		D群 国際経済	現代アジア経済Ⅰ	2	3・4		○		○	○					
			現代アジア経済Ⅱ	2	3・4				○	○		○			
			現代中国経済	2	3・4				○	○		○			
			現代アメリカ経済	2	3・4				○	○		○			
			現代ヨーロッパ経済	2	3・4				○	○		○			
			現代日本経済	2	3・4			○		○					○
		E群 産業・企業	産業組織Ⅰ	2	3・4		○	○			○				
			産業組織Ⅱ	2	3・4		○	○			○				
			ネットワークエコノミクスⅠ	2	3・4			○	○		○				
			ネットワークエコノミクスⅡ	2	3・4			○			○				○
			環境経済Ⅰ	2	3・4			○	○		○				
			環境経済Ⅱ	2	3・4			○	○		○				
		F群 歴史・思想	現代経済学の諸潮流	2	3・4							○			
			日本の経済思想家	2	3・4						○	○			○
			日本経済史Ⅰ	2	3・4							○			
			日本経済史Ⅱ	2	3・4							○			
			西洋経済史Ⅰ	2	3・4						○	○			○
			西洋経済史Ⅱ	2	3・4						○	○			○
		G群 ゼミ(演習)	ゼミⅡ	4	3		○	○	○	○	○	○	○	○	○
			ゼミⅢ	2	4		○	○	○	○	○	○	○	○	○
		H群 キャリア系科目	キャリア実習	2	3						○			○	○
			地域プロジェクトⅡ	2	3・4						○		○	○	
		I群 共通科目	所得課税法	2	3・4		○								○
			法人課税法	2	3・4		○								○
			外国大学上級科目A	4	3・4					○	○				○
			外国大学上級科目B	4	3・4					○	○				○
			外国大学上級科目C	4	3・4					○	○				○
			外国大学上級科目D	4	3・4					○	○				○
	合計 38 単位以上選択必修														

		授業科目名	単位数	配当年次	到達目標									
					Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I
専門教育科目	自由選択科目Ⅰ群	プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2	2						○			○	○
		プラクティカル・キャリアデザインⅡ	2	3						○			○	○
		アドバンスト・キャリアデザイン	2	4						○			○	○
		簿記Ⅰ	4	2		○				○				○
		簿記Ⅱ	4	3・4		○				○				○
		公共社会学	2	2				○	○					○
		社会学概論	2	2		○						○		○
		文化人類学	2	3・4						○	○			○
		多文化共生論	2	3・4				○		○				○
		憲法Ⅰ	2	2				○			○			○
		憲法Ⅱ	2	2				○			○			○
		労働法Ⅰ	2	3・4			○				○			○
		経済法Ⅰ	2	3・4			○				○			○
		経済法Ⅱ	2	3・4			○				○			○
		政治学入門	2	2					○		○			○
		税法Ⅰ	2	3・4			○				○			○
		税法Ⅱ	2	3・4			○				○			○
		経営学総論	4	2			○		○					○
		会計学総論	4	2										○
		マーケティング総論	4	2										○
		経営実務a	2	3・4										○
		経営実務b	2	3・4										○
		経営実務c	2	3・4										○
		人文地理	2	2										○
		地誌Ⅰ	2	2										○
		地誌Ⅱ	2	2										○
		自然地理学	2	2										○
		法律学概論	2	2										○
		政治学原論	2	2										○
		アジア史概説Ⅰ	2	3					○		○			○
		アジア史概説Ⅱ	2	3					○		○			○
		西洋史概説Ⅰ	2	3					○		○			○
		西洋史概説Ⅱ	2	3					○		○			○
		日本史概説Ⅰ	2	3				○			○			○
		日本史概説Ⅱ	2	3				○			○			○
		地域ファシリテイト	2	2								○	○	○
		外国大学科目A	2	2				○	○					○
		外国大学科目B	2	2				○	○					○
		外国大学科目C	2	2				○	○					○
		外国大学科目D	2	2				○	○					○
		入門民法　財産法編Ⅰ	2	2		○			○					○
		入門民法　財産法編Ⅱ	2	2		○			○					○
		実践民法Ⅰ	2	3・4		○			○					○
		実践民法Ⅱ	2	3・4		○			○					○
		実践民法Ⅲ	2	3・4		○			○					○
		実践民法Ⅳ	2	3・4		○			○					○
		実践民法Ⅴ	2	3・4		○			○					○
		実践民法Ⅵ	2	3・4		○			○					○
		入門商法　会社法編	2	2		○			○					○
		証券市場と法	2	3・4		○			○					○
		金融取引と法	2	3・4		○			○					○
		証券業と法	2	3・4		○			○					○
専門教育科目　100単位以上														
卒業必要単位数　128単位以上														

【卒業必要単位数】

1. 経済学部経済学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		18 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		100 単位以上
必修科目	基礎科目	18 単位
選択必修科目	基礎科目	4 単位以上
	中級科目	20 単位以上
	上級科目	38 単位以上
自由選択科目		
合　計		128 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

(1) 中級外国語・上級外国語・海外語学講座・留学支援科目については、16 単位以内
（ただし、国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）

(2)「グローバル・コミュニケーションⅠ」、「グローバル・コミュニケーションⅡ」については、8 単位以内

(3) ジャパンスタディーズについては、4 単位以内

(4) エリアスタディーズについては、2 単位以内

(5) 生涯スポーツについては、2 単位以内

(6)「IT 応用」、「データサイエンス基礎」については、2 単位以内

(7) 実践ボランティアについては、2 単位以内

(8) 甲南女子大学との単位互換協定に関する科目については、4 単位以内

(9) 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換協定に関する科目については、4 単位以内

Ⅰ．履修登録科目の単位制限について

経済学部では次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重に検討したうえで履修科目を選択すること。

経済学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和８年２月26日　改正〕

経済学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

【2025年度（令和７年度）以降入学生に適用】

1　経済学部の学生が履修登録できる授業科目の単位数は次のとおりとする。

１年次	２年次	３年次	４年次
48単位以内	48単位以内	48単位以内	48単位以内

ただし、１年次に履修できる基礎共通科目の単位数は８単位を限度とする。

2　次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

(1)「キャリア実習」
(2)「海外語学講座Ⅰ～Ⅳ」
(3)「TOEFL Ⅰ」
(4)「IELTS Ⅰ」
(5)「エリアスタディーズⅠ～X」
(6)「ジャパンスタディーズ１～14」
(7) 甲南女子大学との単位互換協定に関する科目
(8) 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換協定に関する科目
(9) 教育職員免許状を得るために必要な教科及び教職に関する科目（経済学部専門教育科目を除く。）
(10) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうちＡ群の科目
(11) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
(12) 公認心理師に関する専門教育科目のうちＡ群の科目
(13) 卒業単位に算入されない授業科目

（中略・2024年度（令和６年度）以前入学生適用表　略）

（改廃）

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、令和８年４月１日から施行する。

Ⅱ. 科目履修上の諸注意

1. 履修登録は前期に、集中講義を含む通年科目、前期科目、後期科目のすべてについて行うことができる。1年間の履修計画を立てたうえで登録をすること。後期科目については、前期および後期に登録可能で、前期に登録したものも後期に追加・変更ができるので、前期にまず登録すること。
2. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できないので注意すること。
3. 履修条件について

以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履修条件
基礎ゼミⅡ	1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに1年次前期のGPAが上位200名以内であること。
情報リテラシーA	「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること。
情報リテラシーB	
PC統計学	「IT基礎」、「IT応用」、または「AI･データサイエンス入門」の単位を修得済みであることが望ましい。
キャリアゼミ	「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していること、並びに、1年次の通算GPAが2.0以上あること。
プロジェクトゼミ	「ベーシック・キャリアデザイン」および「基礎ゼミⅡ」の単位を両方修得していること、並びに1年次の通算GPAが2.0以上あること。
ビジネスデータ分析	「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること。
簿記Ⅱ	「簿記Ⅰ」の単位を修得済みであること。
中級ミクロ経済学	「入門ミクロ経済学」の単位を修得済みであること。
中級マクロ経済学	「入門マクロ経済学」の単位を修得済みであること。
地域政策ワークショップA	「地域政策」の単位を修得済みであること。
地域政策ワークショップB	
現代経済学特論Ⅰ	「入門ミクロ経済学」の単位を修得済みであることが望ましい。
現代経済学特論Ⅱ	「現代経済学特論Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。
震災と地域経済Ⅰ	「震災と地域経済Ⅰ」、「震災と地域経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
震災と地域経済Ⅱ	
上級ミクロ経済学Ⅰ	「上級ミクロ経済学Ⅰ」、「上級ミクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
上級ミクロ経済学Ⅱ	
上級マクロ経済学Ⅰ	「上級マクロ経済学Ⅰ」、「上級マクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
上級マクロ経済学Ⅱ	
計量経済Ⅰ	「計量経済Ⅰ」、「計量経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
計量経済Ⅱ	
国際金融Ⅰ	「国際金融Ⅰ」、「国際金融Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
国際金融Ⅱ	
地方財政Ⅰ	「地方財政Ⅰ」、「地方財政Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
地方財政Ⅱ	

授業科目	履修条件
金融政策Ⅰ	「金融政策Ⅰ」、「金融政策Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
金融政策Ⅱ	
ファイナンスⅠ	「ファイナンスⅠ」、「ファイナンスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい。
ファイナンスⅡ	
経済体制Ⅰ	「経済体制Ⅰ」、「経済体制Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
経済体制Ⅱ	
現代アジア経済Ⅰ	「現代アジア経済Ⅰ」、「現代アジア経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
現代アジア経済Ⅱ	
産業組織Ⅰ	「産業組織Ⅰ」、「産業組織Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
産業組織Ⅱ	
ネットワークエコノミクスⅠ	「ネットワークエコノミクスⅠ」、「ネットワークエコノミクスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい。
ネットワークエコノミクスⅡ	
環境経済Ⅰ	「環境経済Ⅰ」、「環境経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
環境経済Ⅱ	
社会経済思想Ⅰ	「社会経済思想Ⅰ」、「社会経済思想Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
社会経済思想Ⅱ	
日本経済史Ⅰ	「日本経済史Ⅰ」、「日本経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
日本経済史Ⅱ	
西洋経済史Ⅰ	「西洋経済史Ⅰ」、「西洋経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
西洋経済史Ⅱ	

4. 以下の科目は、クラス指定に従って履修しなければならない。

「基礎ゼミⅠ」、「経済入門Ⅰ」、「経済入門Ⅱ」、「入門ミクロ経済学」、「入門マクロ経済学」

5.「経済入門Ⅰ」、「経済入門Ⅱ」、「入門ミクロ経済学」、「入門マクロ経済学」の履修について

それぞれ週に講義形式1回と演習形式1回の合計2回の授業があり、必ず両方を受講しなければならない。

6.「基礎ゼミⅡ」の履修について

9月の成績発表時に掲示する要領に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。なお、「基礎ゼミⅡ」は1年次後期でしか履修できないので注意すること。

7.「キャリアゼミ」、「プロジェクトゼミ」の履修について

書類選考により履修生を決定する。詳細は、2年次履修指導において告知する。

8. 簿記科目について

簿記関連科目として、以下の科目を設けている。

授業科目	単位数	講義内容
簿記Ⅰ	4	簿記入門から始まって、日商簿記検定3級程度の内容
簿記Ⅱ	4	商業簿記を中心に日商簿記検定2級程度の内容

9. 下記の科目は、外国留学規程にもとづく、外国留学帰国学生の単位換算用科目である。ただし、外国大学中級科目・外国大学上級科目への換算については、ダブルディグリー制度を利用した外国留学帰国学生のみを対象とする。

授業科目	単位数
外国大学中級科目A	4
外国大学中級科目B	4
外国大学上級科目A	4
外国大学上級科目B	4
外国大学上級科目C	4
外国大学上級科目D	4
外国大学科目A	2
外国大学科目B	2
外国大学科目C	2
外国大学科目D	2

10. 成績優秀者表彰制度と選考基準

経済学部成績優秀者表彰制度

平成29年5月10日　経済学部教授会改正

（制度の主旨）
経済学部は本学部学生の学修を奨励する目的で、以下の要領で成績優秀者を表彰する。
（選考手順）
一、前年度1年間のGPAによって行う。
一、表彰資格の学年は1～3年次（表彰時は新2～新4年次）とし、過年度生は対象に含まれない。
一、各学年ごとに成績優秀者を5%程度リスト・アップし、そのうちで学年の在籍者数の3%程度を表彰する。
一、前年度1年間の修得単位数が20単位以上の者を対象とする。

成績優秀者は、前年度1年間の修得単位数が20単位以上の学生を対象に、前年度1年間のGPAに基いて生活態度も配慮して決定する。

Ⅲ．科目群について

経済学部では、2年次以降の経済学の専門教育科目を、A（理論・情報）・B（財政・金融）・C（公共経済）・D（国際経済）・E（産業・企業）・F（歴史・思想）という、6つの科目群（グループ）

に分類している。加えて、G（ゼミ（演習））・H（キャリア系科目）・I（共通・自由選択科目）という、3つの科目群（グループ）が存在する。

経済学には、扱う対象・テーマ・トピックやアプローチを異にする様々な分野がある。2年次以降の専門教育科目を6つの群に分類しているのは、学生諸君が、各自の興味・関心や問題意識にしたがって、体系的な履修を行うことで、学習効果が高められることを意図しているからである。

1年次では、基礎的な専門科目を履修することで、経済および経済学の諸分野についての基礎的な知識を身につける。各科目群への入門的な科目が網羅的に配置されているので、それらを履修することによって、自らの興味・関心や問題意識がどのようなものであるのかについて見きわめ、2年次以降に自らの能力をさらに伸ばすことを目的として専門科目を履修するための準備を終えることが望ましい。

6つの科目群に分類された2年次以降の専門科目の中でどの科目群に属するどの科目を履修するかについては、基本的に各自の自由であるが、以下の**〔各科目群の概要〕**を注意深く読み、各自の興味・関心や問題意識、卒業後の進路なども考慮したうえで、自身の能力を確実に向上させることにつながるような、体系的な履修を行うことが望ましい。さらに、これらの専門科目の学習に、G（ゼミ（演習））・H（キャリア系科目）・I（共通科目・自由選択科目）の3つの科目群の履修を組み合わせることで、より専門的、実践的、かつ、広範な知識の修得が可能となる。

科目の履修にあたっては、指導主任の教員などにも積極的に相談して、ほかの誰でもない、自分自身のためになるような学習を進めていってほしい。

〔各科目群の概要〕

A群（理論・情報）

経済現象を精確に把握するためには、たんなる推測ではなく、科学的な「仮説」にもとづいた分析を行うことが不可欠となる。

ほかのすべての科目群の基礎として位置付けられるA群の学習上の到達目標は、「汎用性の高い経済学的な思考方法を習得すること」である。このことは、受信する情報の信頼度を的確に測る能力を身に付けることだけにとどまらず、自らが発信する情報の信頼度を的確に測る能力までを身に付けることであるといってもよい。

1年次には、必修科目の「入門ミクロ経済学」、「入門マクロ経済学」によって基礎的な経済学的思考法を身に付ける。したがって、そのような思考法にもとづいて得られる「仮説」の信頼度をデータによって確認する手法について学ぶ「統計入門」を履修することを勧める。

中級・上級科目では、実際の経済現象を分析するための理論的なアプローチを概観し、「問題を論理的に把握し、理論的に分析し、分析結果の正しさをデータによって確認する」といった経済学的思考の一連のプロセスを体系的に学ぶ。なお、このような目的のため、A群の中級科目の履修に際しては、基礎科目の「入門ミクロ経済学」、「入門マクロ経済学」を修得していることを必要とし、A群の上級科目の履修に際しては、A群の中級科目を修得していることが望ましい。

Ａ群の科目を学ぶことによって身に付ける思考法は、先人の「経済」に関する思考の集大成であり、私たちが継承するべき「知的遺産」である。したがって、それは、学生諸君にとって、生涯にわたって「便益」を生み出し続ける知的財産となるはずである。

Ｂ群（財政・金融）

世の中の経済活動には必ずお金のやりとりがつきまとう。したがって、お金の流れを分析すれば、経済の動きも理解することができる。

Ｂ群では、国や地方自治体などの政府が市場経済社会を統治する「財政」と、資金余剰主体と資金不足主体間の資金の過不足を調整する「金融」の側面に着目して、現実の経済を分析し、理解する方法を学ぶ。さらに、政府や中央銀行がどのような政策を立案・実施すべきであるのか、金融機関がどのような戦略をとるべきであるのかなど、実際的な問題についても考察できるようになることを学習目標とする。

１年次配当の基礎科目である「経済入門Ⅱ」では、財政・金融の基本的なしくみや現実の問題についての基礎的な知識を身に付ける。中級・上級科目では、租税理論と税制、歳出構造と経費論、財政赤字と公債理論、年金・医療・介護等の社会保障財政、地方自治体の財政運営、仲介者としての金融機関の役割、金融市場における金利の動向、中央銀行と金融政策、ファイナンス理論と金融派生商品、国際金融市場と国際金融取引など、財政・金融に関する様々な具体的なテーマについて、専門的に学んでいく。

以上述べたように、Ｂ群の科目は、生きていくための知識や考え方を提供するものであり、卒業後いかなる進路を選択するに際しても必要となるはずのものである。特に、国や地方自治体で政策運営に直接携わる公務員を志望する人、銀行や証券会社などに就職して金融業界で活躍することを目指す人、税理士やファイナンシャルプランナーなどの資格取得に向けて勉強する人には不可欠である。

Ｃ群（公共経済）

「公共経済」とは、人々が安心して生活するために、民間が担う仕事と政府が担う仕事をどのように区分して、どのような制度をつくればいいのかという問題について考える分野である。

たとえば、現実には、空港や橋の建設の費用は政府が担うが、自動車やカメラは民間の会社が製造・販売している。年金制度は政府が運営している一方で、交通事故に伴う賠償保険は民間の保険会社が運営している。また、人口減少をはじめとした地域が抱える問題についても、政府が主体的に考えるべき課題の１つとなっている。このような状態は本当に望ましいのだろうか。望ましいとしたら、それは、どのような理由によるのだろうか。

Ｃ群の科目では、まず、１年次配当の基礎科目である「経済入門Ⅰ」において、老齢年金や医療・介護保険、サラリーマンへの課税や働く母親への支援策など、身の回りの様々な制度の仕組みについて学ぶ。このことによって、学生諸君が社会に出たときの「暮らしと仕事の案内板」を提供する。

中級・上級の各科目においては、これらの制度が抱える問題点に目を向け、今後どのように制度を

つくり変えていけばよいのかを考え、このような問題点をゼミナールに持ち帰って、自分なりの解決策を提言することもできる。さらに、社会保障制度と財政負担の問題、持続可能な医療制度・地域経済を実現するための課題、働き方の多様化と格差の問題、望ましい経済システムのあり方まで、今日的な問題を幅広く取りあげ、それらの問題について、経済学の分析道具を使って明らかにしていく。

Ｃ群の科目では、現実の社会を「鳥の目・アリの目」で観察して、分析的に考える。このことによって、将来どのような分野に進むにしても、社会人として要求される「常識」と「思考法」を身に付けることができるはずである。

Ｄ群（国際経済）

「グローバリゼーション」が進展する現在において、国際経済の諸問題を正しく理解することは、ますます重要になっている。

Ｄ群の課題は、国境を越えてヒト・モノ・カネ・情報が激しく移動する世界経済の現状を学びながら、多様な個性をもつアメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの各地域経済についての理解を深めることである。

Ｄ群では、１年次配当の基礎科目である「経済入門Ⅰ」において国際経済に関する基礎的な知識を身に付け、２年次配当の中級科目である「国際経済」においては、国際経済の諸問題を考えるための基礎的な理論を学ぶ。そして、上級科目においては、世界の諸地域の経済の特徴や現状についての理解を深める。

Ｄ群は、上で述べた基礎科目の「経済入門Ⅰ」、中級科目の「国際経済」、そして、上級科目の「現代アジア経済Ⅰ」、「現代アジア経済Ⅱ」、「現代中国経済」、「現代アメリカ経済」、「現代ヨーロッパ経済」から構成されている。中級・上級の各科目は、基礎科目である「経済入門Ⅰ」の授業内容を予備知識として求めるため、中・上級科目を履修する条件として、「経済入門Ⅰ」の単位を修得していることが望ましい。

卒業後、外資系企業や商社など国際経済の現場で活躍することを目標にしている学生はいうまでもなく、会社員・公務員・教員などの進路を選択する場合にも、ますます重要性が高まる国際経済関係に関して理解を深めることは必要不可欠である。

Ｅ群（産業・企業）

インターネットという世界規模の情報通信ネットワークが普及したことによって、経済システムや産業構造は飛躍的に変化した。たとえば、企業にとっては、顧客情報の入手や在庫管理のための費用が劇的に低下し、効率性や利潤を追求しやすくなったと同時に、法令を遵守する社会的責任や、リサイクル活動を含めた環境面への配慮が強く求められるようになった。

Ｅ群の科目は、企業・産業をめぐる現実の経済問題が経済学的にはどのように理解・説明されるのかについて明らかにする。たとえば、企業間の戦略的行動が社会全体の資源配分に与える影響や、ＩＴ産業における“独り勝ち”の問題、地球温暖化防止策としての二酸化炭素の排出権取引問題などを

学びながら、産業ごとにどのような規制が有効であるのか、あるいはそもそも規制が必要であるのかといったことについて理解を深める。

Ｅ群は､中級科目の「産業経済」と上級科目の「産業組織Ⅰ・Ⅱ」､「ネットワークエコノミクスⅠ・Ⅱ」､「環境経済Ⅰ・Ⅱ」により構成される。いずれの科目も、1年次必修科目の「入門ミクロ経済学」と「経済入門Ⅰ」における授業内容を予備知識として求めるため、中級・上級科目の履修にあたっては､「入門ミクロ経済学」と「経済入門Ⅰ」の単位を修得していることが望ましい。

将来どのような進路を選択するにしても、経済活動の中心である産業・企業について興味・関心を持ち、それらについての理解を深めておくことは、必要不可欠であろう。

Ｆ群（歴史・思想）

バブル崩壊・経済格差・資源問題・技術革新による失業・グローバリゼーション・新興国の急速な経済発展などは、近年になって初めて生じた現象ではない。これらは、経済の長い歴史の中でたびたび見られた現象である。実際、こうした問題については、18世紀以降、多くの経済学者が考え、様々な立場から発言をしてきている。したがって、経済の歴史を学び、経済学の古典に親しむことによって、現代の諸問題を考えるための重要な示唆を得ることができる。

Ｆ群の科目は、経済史や経済思想史に興味・関心を抱く学生諸君だけではなく、現代の経済問題を、長期的な視野と幅広い観点から考えようとする学生諸君にとっても、きわめて有用である。

Ｆ群には、経済学における歴史的アプローチの意義を学ぶ入門科目（「経済入門Ⅰ」の一部）、中級科目の「経済史」があり、さらに、上級科目として日本と西洋の経済発展の歴史、経済社会についての多様な考え方、近代日本における経済思想の大家、現代の経済思想の潮流についての諸科目が配置されている。学生諸君は、これらの科目を体系的に学ぶことを通じて、〈将来のために歴史から学ぶ、古典から学ぶ〉という姿勢を身に付けることができる。

卒業後に、会社員・公務員・団体職員・教員・起業・ジャーナリスト・進学・留学・NPO・NGOなど、どのような進路を選択するにしても、変転激しい21世紀の経済社会を生きていくうえで必要となる〈長期の視点・広範な視野・多様な視点〉を習得することが、Ｆ群の学習上の課題である。

Ｇ群　ゼミ（演習）

「ゼミ（演習）」は、1～20名程度の少人数で行われる科目であり、教員と学生そして学生同士で課題を発見し、学生一人一人が主体的・能動的に活動することで、発見した課題を自分たちで解決していく場を提供する。専門教育科目で得た知識を深め、さらに、その知識を自らのものとすることを通じて、大学での学びの中で得た様々な知識・能力を飛躍的に向上させることを目指す。Ｇ群は、以上のような目標をもつ少人数の授業形態の「ゼミ（演習）」を集めた科目群である。

「基礎ゼミⅠ」は、「甲南大学経済学部入門」として、大学生となった1年生を対象に、学修の基本技術の修得、および、多様なテーマを取り上げ、社会や経済の出来事への関心の喚起を目的とする

科目である。さらに、中級科目「ゼミⅠ」（２年次）、上級科目「ゼミⅡ」（３年次）「ゼミⅢ」（４年次）では、各学生がそれぞれの興味にしたがって選択した教員のもとで、経済学に関する一つの専門分野に集中し、学生と教員、そして、学生同士の双方向のコミュニケーションを通じて、様々な研究課題をより深く追求していく。

「ゼミ（演習）」の中で、グループ討論やプレゼンテーション、ディベートなどを通じて身につけた知識・能力は、卒業後、社会人として生きていく際に、様々な局面で役に立つものとなるはずである。

H群　キャリア系科目

多くの人にとって、大学は社会人となる前の最終教育課程である。そのため、大学で学びながら、将来の進路・就職・社会活動を考えることは、これから人生を設計する上で非常に重要である。大学以外の場所で働く方の話を聞いたり、地元企業や自治体と共にプロジェクトを実施したり、実際の職業を現場で体験したりする機会を得ることができる科目がH群に集められている。

H群には、1年次の入門科目の「ベーシック・キャリアデザイン」、中級科目の「キャリアゼミ」「プロジェクトゼミ」「プラクティカル・キャリアデザインⅠ」、上級科目の「アドバンスト・キャリアデザイン」「プラクティカル・キャリアデザインⅡ」が準備されている。これらの科目の学びを通じて、将来の自分の「キャリア（進路・就職・社会活躍）」を考え、さらには、将来働くためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけることができる。

I群　共通科目・自由選択科目

I群には、社会で広く役立つ一般教養に関する科目や経済学と深い関連をもつ法律学・社会学・経営学の科目が含まれている。これらの科目を併せて履修することで、より広い見識と多角的な視座が身につくとともに、経済学をより深く学ぶことができるようになる。

Ⅳ．ゼミについて

「ゼミⅠ」、「ゼミⅡ」、「ゼミⅢ」は、専門教育科目の研究を一段と深めるために、2年次（2単位）・3年次（4単位）・4年次（2単位）計8単位を継続履修することが望ましい。ただし、履修にあたっては、以下の「ゼミ履修資格に関する申し合わせ」に沿って必要な単位を修得していなければならないので、十分注意されたい。

(1)「ゼミⅠ」は、別途掲示発表する担当者の「ゼミⅠ」を履修しなければならない。

(2)「ゼミⅡ」、「ゼミⅢ」は、単位を修得した「ゼミⅠ」と同一担当者のゼミを履修しなければならない。ただし、経済学部長が特別な事情があると判断した場合は、経済学部教授会で審議し、所属ゼミの変更について決定する。

(3)　4年次に「ゼミⅡ」と「ゼミⅢ」の同時履修を希望する者は、担当教員の許可を得たうえで、履修登録期間中に経済・法・経営学部合同事務室（経済学部担当）へ申し出ること。

ゼミ履修資格に関する申し合わせ

令和５年２月14日経済学部教授会改正

1.「ゼミⅠ」の履修申し込みには、1年次に卒業必要単位数のうち26単位以上を修得しておくことが必要である。

2. 担当教員は各年度、募集時に採用予定者数（15名以上）と選考基準を発表し、それに沿って応募者のなかから選考する。上記1.の単位を修得した者でも、選考からもれた場合は「ゼミⅠ」を履修できない。

3. 上記2.の選考からもれた者は、次年度の「ゼミⅠ」を履修するための申し込みができる。ただし、3年次以降の「ゼミⅠ」の履修申し込み条件は、以下のとおりである。

・3年次　卒業必要単位数のうち52単位以上を修得していること

・4年次　卒業必要単位数のうち80単位以上を修得していること

（この場合、担当教員が同時履修も可能だと特に認める時に限り、4年次以降に「ゼミⅡ」と「ゼミⅢ」をあわせて履修できる。）なお、選考は上記2.に従って行われる。

4. 履修申し込みに必要な単位数を満たしていない者のなかで、休学期間がある者については、経済・法・経営学部合同事務室（経済学部担当）に申し出ること。

附　則

この申し合わせは、平成28年度入学生から適用する。

5月下旬頃から「ゼミⅠ」の申込みが始まる。「ゼミⅠ」の履修登録を希望する学生は、次の点に留意すること。

○**後期水曜３限を必ず空けておくこと。ほかの科目（通年科目および後期科目）を履修登録している場合、「ゼミⅠ」は申込むことができない。**（中級・上級外国語科目等の事前登録科目を、**水曜３限に登録しないよう**特に注意すること。）

○履修単位制限にも十分注意すること。年間の履修計画をたて、「ゼミⅠ」履修登録分として後期2単位分を必ず確保すること。

○留学者への対応

1. e-mailでの応募を受付ける担当者のゼミについては履修可能である。
2. e-mailでの応募を受付けるゼミは少数になる可能性もあるので留意すること。
3. 選考は、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ」第2項に従って行われる。

Ⅴ．編入学生・転学部生の単位認定、及び履修に関する取り扱いについて

編入学生・転学部生の単位認定、及び履修等については次のとおりとする。

経済学部編入学生・転学部生の単位認定、及び履修に関する取り扱い

1. 編入学生・転学部生（以下「編・転入生」という。）は、すべて3年次に編・転入される。
2. 編入生は、基礎共通科目18単位、外国語科目8単位（College English および基礎第2外国語）、保健体育科目2単位（基礎体育学演習）を修得済みであるとみなす。

   前大学で修得した専門教育科目については、38単位を限度に、経済学部専門教育科目を修得したものと認定することができ、その認定は経済学部教授会で行う。

   教職に関する専門教育科目については、「教職ガイドブック」に示されている「編入学生の教育職員養成課程の履修について」にもとづいて認定する。
3. 転入生は、前学部で修得した基礎共通科目または国際言語文化科目（選択したコース）、外国語科目（College English および基礎第2外国語）、保健体育科目（基礎体育学演習）、経済学部専門教育科目、教職に関する専門教育科目については、そのまま認定される。

   その他の専門教育科目については、38単位を限度に、経済学部専門教育科目として認定することができ、その認定は経済学部教授会で行う。
4. 編・転入生は、専門教育科目の履修にあたっては、経済学部専門教育科目から履修するものとする。編・転入生は、必修科目を優先的に履修することが望ましい。

   なお、専門教育科目表は3年次生の科目表を適用する。
5. 編・転入生は、授業科目の配当年次や履修条件にかかわらず、すべての専門科目を履修できる。ただし、「ゼミⅠ」は3年次、「ゼミⅡ」は4年次に履修するものとする。（この場合、担当教員が同時受講も可能だと特に認める時に限り、4年次以降に「ゼミⅡ」と「ゼミⅢ」をあわせて受講できる。）

   なお、履修にあたっては、経済・法・経営学部合同事務室（経済学部担当）を窓口として適宜必要な指導を行う。
6. 編・転入生の3年次における単位制限を48単位とする。また、4年次の単位制限は48単位である。ただし、教職に関する専門科目等、卒業単位に認定されない科目は単位制限の対象外とする。

Ⅵ. 外国留学規程に基づく外国の大学への留学に伴うゼミ履修に関する取り扱いについて

外国留学規程に基づく外国の大学への留学（以下「留学」という。）に伴う
ゼミ履修に関する申し合わせ

令和 5 年 12 月 20 日経済学部教授会改正

〔前期出発の留学（期間：半期）〕

1. 「ゼミⅡ」

留学中に「ゼミⅡ」の担当教員によるメール等を通じた指導を受け、下に定める「課題レポート」を提出し、後期の「ゼミⅡ」の授業に出席することを条件に、「ゼミⅡ」を履修できる。該当する学生は留学前に「ゼミⅡ」の履修登録を行うこと。なお、留学出発後に「ゼミⅡ」の履修登録が取り消されることはないが、「課題レポート」が提出されなかった場合は、「ゼミⅡ」の成績が「不可」となる。また、後期科目の履修登録期限日までに帰国しなかった場合は、履修が取り消される。前期の履修登録期間と留学期間が重なり「ゼミⅡ」の履修登録ができない場合には、留学前に経済・法・経営学部合同事務室（経済学部担当）にその旨を申し出ること。

2. 「ゼミⅢ」

前期開講の「ゼミⅢ」の履修は認めない。

〔前期出発の留学（期間：1 年）〕

「ゼミⅠ」・「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」いずれの履修も認めない。

〔後期出発の留学（期間：半期・1 年以上）〕

1. 「ゼミⅠ」

「ゼミⅠ」の履修は認めない。2 年次に留学を行い、3 年次で「ゼミⅠ」の履修を希望する場合には、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ」が適用され、4 年次以降の「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」の同時履修に関しては、指導教員の承認を必要とする。

2. 「ゼミⅡ」

前期の「ゼミⅡ」の授業に出席し、留学中に「ゼミⅡ」の担当教員によるメール等を通じた指導を受け、下に定める「課題レポート」を提出することを条件に、「ゼミⅡ」を履修できる。なお、留学出発後に「ゼミⅡ」の履修が取り消されることはないが、「課題レポート」が提出されなかった場合は、「ゼミⅡ」の成績が「不可」となる。

1 年留学を行った学生で、次年度の「ゼミⅡ」の履修を希望する場合は、「外国留学に伴う履修登録の取扱い」に定める通年科目の登録期限までに帰国し履修登録を行う 、または〔前期出発の留学（期間：半期）〕1. を満たすことを条件に「ゼミⅡ」を履修できる。ただし、すでに「ゼミⅠ」の単位を修得していること。（4 年次以降の「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」の同時履修に関しては、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ」が適用され、担当教員の承認を必要とする。）

3. 「ゼミⅢ」

後期開講の「ゼミⅢ」の履修は認めない。

1年留学を行った学生で、次年度の前期開講の「ゼミⅢ」の履修を希望する場合は、「外国留学に伴う履修登録の取扱い」に定める前期科目の登録期限までに帰国し履修登録を行うことを条件に、「ゼミⅢ」を履修できる。(4年次以降の「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」の同時履修に関しては、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ」が適用され、担当教員の承認を必要とする。)

〔共通事項〕

1. 「担当教員の指示する課題レポート」は、留学前に学生に指示し、留学先の言語又は英語2000語、A4用紙（1ページ400語）5枚程度を、担当教員の指示した期限（前期出発 は7月末、後期出発は1月末）までに提出させるものとする。
2. ゼミの履修に関連して、留学の決定後に指導主任に相談の上、経済・法・経営学部合同事務室（経済学部担当）に履修希望の届け出を行う必要がある。

附　則

この申し合わせは、平成28年度入学生から適用する。

※前期出発の留学は、前年度の後期定期試験の終了日の翌日から前期定期試験の終了日までに出発する留学を指す。

※後期出発の留学は、前期定期試験の終了日の翌日から後期定期試験の終了日までに出発する留学を指す。

武蔵大学との学生交流協定に基づく経済学部派遣聴講生の募集について

武蔵大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部との間で学生交流協定を締結している。

本大学の経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

武蔵大学経済学部の学生を本大学経済学部に特別聴講生として受入れるとともに、武蔵大学での学修を希望する本大学経済学部学生を武蔵大学経済学部に派遣聴講生として、派遣する。

募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。

経済学部 経済学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針(DP)	（1）自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。		（2）天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		（3）幅広い知識と能力を身につけています。	
対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号	（1）（2）（3）（5）	（1）（2）（5）	（1）（2）（4）	（1）（2）（6）	（1）（2）（4）	（1）（2）（5）
科目群	全学共通科目	A群 理論・情報	B群 財政・金融	C群 公共経済	D群 国際経済	E群 産業・企業
到達目標	**Z** 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	**A** 論理的・分析的な思考法、及び、問題を科学的に把握する能力を有している。	**B** 市場経済の仕組みと産業・企業の仕組み、及び、政府の役割に関する知識を有している。	**C** 国際社会、日本社会、地域社会などが抱える諸問題を理解し、それらを解決するための政策立案能力を有している。	**D** 国際経済、国際社会の動向及び外国経済事情に関する知識を有している。	**E** さまざまな情報源（日本語以外で発信されているものも含む）から適切な情報を取捨選択し、有効に活用する能力を有している。
3、4年次		上級ミクロ経済学Ⅰ 上級ミクロ経済学Ⅱ 上級マクロ経済学Ⅰ 上級マクロ経済学Ⅱ 計量経済Ⅰ 計量経済Ⅱ 家計の経済 ビジネスデータ分析	地方財政Ⅰ 地方財政Ⅱ 金融政策Ⅰ 金融政策Ⅱ 国際金融Ⅰ 国際金融Ⅱ ファイナンスⅠ ファイナンスⅡ	公共政策 労働経済Ⅱ 地域政策ワークショップA 地域政策ワークショップB 経済体制Ⅰ 経済体制Ⅱ 健康経済 震災と地域経済Ⅰ 震災と地域経済Ⅱ	現代日本経済 現代アメリカ経済 現代中国経済 現代ヨーロッパ経済 現代アジア経済Ⅰ 現代アジア経済Ⅱ	ネットワークエコノミクスⅠ ネットワークエコノミクスⅡ 産業組織Ⅰ 産業組織Ⅱ 環境経済Ⅰ 環境経済Ⅱ
2年次	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	中級ミクロ経済学 中級マクロ経済学 中級統計学 経済数学 PC統計学	財政 金融	公共経済 労働経済Ⅰ 地域政策 経済政策	国際経済	産業経済
1年次	基礎共通科目（導入共通／学際融合等）＊2 基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ College English（Reading/Writing） College English（Listening/Speaking） 基礎第2外国語Ⅰ（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語） 基礎第2外国語Ⅱ（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	入門ミクロ経済学 入門マクロ経済学 統計入門 数学入門 経済入門Ⅰ 経済入門Ⅱ				

1. 基礎共通科目は、合計18単位を取得しなければならない。
   ① 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位以上（＊1）
   ② 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から2単位以上、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から2単位以上（＊2）

（4）	（5）	（6）
経済・社会問題を的確に捉えることができます。	筋道を立てて問題を考えることができます。	自らの力で解決策を示すことができます。
（1）（2）（4）	（1）（2）（6）	（1）（2）（3）	（1）（2）（3）

F群 歴史・思想	G群 ゼミ(演習)	H群 キャリア系科目	I群 共通科目・自由選択科目			
F 現代経済社会が形成されるに至った歴史的過程とその思想的背景に関する知識を有している。	**G** 課題を発見し、自ら調査し、解決策を導き出すことができる。	**H** 社会において必要となるコミュニケーション能力、IT 活用能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を有している。	**I** 将来、社会の一員として生きる上で必要となる幅広い知識と教養を有している。			
日本経済史Ⅰ	ゼミⅡ	キャリア実習	英語で読む経済Ⅱ	政治学入門	実践民法Ⅱ	公共社会学
日本経済史Ⅱ			外国大学科目A	政治学原論	実践民法Ⅲ	自然地理学
西洋経済史Ⅰ			外国大学科目B	法律学概論	実践民法Ⅳ	文化人類学
西洋経済史Ⅱ	ゼミⅢ	地域プロジェクトⅡ	外国大学科目C	入門民法 財産法編Ⅰ	実践民法Ⅴ	現代経済学特論Ⅰ
日本の経済思想家			外国大学科目D	入門民法 財産法編Ⅱ	実践民法Ⅵ	現代経済学特論Ⅱ
現代経済学の諸潮流			外国大学中級科目A	入門商法 会社法編	証券市場と法	社会学概論
			外国大学中級科目B	憲法Ⅰ	金融取引と法	多文化共生論
			外国大学上級科目A	憲法Ⅱ	証券業と法	人文地理
経済史	ゼミⅠ	キャリアゼミ	外国大学上級科目B	経済法Ⅰ	会計学総論	地誌Ⅰ
社会経済思想史Ⅰ			外国大学上級科目C	経済法Ⅱ	経営学総論	地誌Ⅱ
社会経済思想史Ⅱ		プロジェクトゼミ	外国大学上級科目D	税法Ⅰ	マーケティング総論	地域ファシリテイト
経済学の歴史			プラクティカル・キャリアデザインⅠ	税法Ⅱ	経営実務a	アジア史概説Ⅰ
		地域プロジェクトⅠ	プラクティカル・キャリアデザインⅡ	所得課税法	経営実務b	アジア史概説Ⅱ
			アドバンスト・キャリアデザイン	法人課税法	経営実務c	西洋史概説Ⅰ
			情報リテラシーA	労働法Ⅰ	簿記Ⅰ	西洋史概説Ⅱ
			情報リテラシーB	実践民法Ⅰ	簿記Ⅱ	日本史概説Ⅰ
	基礎ゼミⅠ	ベーシック・キャリアデザイン	英語で読む経済Ⅰ			日本史概説Ⅱ
	基礎ゼミⅡ					

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
① 中級外国語・上級外国語・海外語学講座・留学支援科目については、16単位以内（ただし、国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）
② 「グローバル・コミュニケーションⅠ」、「グローバル・コミュニケーションⅡ」については、8単位以内
③ ジャパンスタディーズについては、4単位以内
④ エリアスタディーズについては、2単位以内
⑤ 生涯スポーツについては、2単位以内
⑥ 「IT 応用」、「データサイエンス基礎」については、2単位以内
⑦ 実践ボランティアについては、2単位以内
⑧ 甲南女子大学との単位互換協定に関する科目については、4単位以内
⑨ 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換協定に関する科目については、4単位以内

注）上記2の①～⑨の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

法　学　部

法　学　部

法　学　科

教育基本方針

甲南大学法学部は、学園と大学の創立精神をふまえ、法および政治に関する専門知識と思考力の涵養を通じて、個々の学生の論理的な思考力と柔軟な応用力を培い、これによって社会の様々な分野で指導的な役割を担うことのできる人材を育成することを教育の基本方針とします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。法学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数126単位以上（基礎共通科目18単位　外国語科目8単位　保健体育科目2単位　専門教育科目98単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（法学）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 法学と政治学についての基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に問題に対処する能力を有しています。
(5) 社会に生起する諸現象・諸課題を多角的にとらえ、多様な価値観を尊重しつつ、問題解決への道筋を的確に見定める能力を有しています。
(6) グローバル化・情報化する社会で活躍するのに必要な情報収集・活用・発信能力及びコミュニケーション能力を有しています。
(7) 市民として必要とされる人権意識を有しています。

教育課程編成・実施の方針

法学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な演習科目を設けます。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 法学及び政治学の専門知識を基礎から無理なく効果的に習得できるように、段階的・体系的なカリキュラムを配置します。
(5) 問題発見能力、問題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力（相互に尊重し合える関係を築き、話し合いにより妥当な解決策を模索することができる能力）、プレゼンテーション能力（自分の考えを説得的に表現する能力）を育成するために、少人数科目の充実を図ります。
(6) 将来、法及び政治に関係する専門職に従事することを見据えた、実践的なプログラムを設定します。
(7) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
(8) 専門教育科目として法学・政治学の専門科目のみならず、経済学や経営学等の隣接学問領域の科目を法学・政治学の専門科目との関連性に配慮し、効果的に配置します。
(9) 社会的弱者への配慮、市民として果たすべき役割について考える教育を行います。

2）教育方法

教育方法については、とくに、以下の点に配慮します。

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるため、特に学生の潜在的な興味関心及び問題意識を引き出し、課題処理能力の向上を図るため、多様な教授方法を駆使し、授業を実施します。
(2) 体験的な教育を重視し、社会で活躍する実務家が授業に関わる機会、裁判所や各種施設の見学など学生が学外で学修する機会を積極的に設けます。
(3) 法曹等の専門職をめざす学生のために、実践的かつ実務的な学修機会を設けます。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。また、成績優秀学生を表彰し、成績不良学生には特に面談を行います。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針（DP）

(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	法学と政治学についての基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に問題に対処する能力を有しています。
(5)	社会に生起する諸現象・諸課題を多角的にとらえ、多様な価値観を尊重しつつ、問題解決への道筋を的確に見定める能力を有しています。
(6)	グローバル化・情報化する社会で活躍するのに必要な情報収集・活用・発信能力及びコミュニケーション能力を有しています。
(7)	市民として必要とされる人権意識を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1) (2) (3) (6)
A	国家制度の設計や運用に必要な、国家権力の行使に関わる法の基礎的、専門的知識を体系的に修得し、問題を解決できる。	(1) (4) (5) (7)
B	一般市民社会の制度の設計や運用に必要な法の基礎的、専門的知識を体系的に修得し、現実の課題に対応できる。	(1) (4) (5) (7)
C	法の歴史や一般理論あるいは現状分析の手法を修得することで、国家や社会を俯瞰的な視点から理解し、分析するとともに、政治学の基礎的、専門的知識や理論の修得により、国内外の様々な社会現象を分析できる。	(1) (4) (5) (7)
D	法学・政治学の知見を基礎として、実践的な学びに取り組み、問題を自ら発見し、情報を収集・分析して、解決策について論理的な議論を行うことができる。	(1) (2) (4) (5) (6) (7)
E	法学・政治学以外の学問も含めた広範な知識を修得し、多様な視点から物事を捉え検討することができる。	(1) (2) (3) (6)

授業科目表（法学部法学科）　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○					
		外国語科目	*	*	○					
		保健体育科目	*	*	○					
＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）28単位										
専門教育科目	専門基礎	公法入門	2	1		○				
		民事法入門	2	1			○			
		刑事法入門	2	1		○				
		政治学入門	2	1				○		
	以上のうち6単位以上選択必修									
	基礎法	法社会学Ⅰ	2	1				○		
		法社会学Ⅱ	2	1				○		
		西洋法史Ⅰ	2	1				○		
		西洋法史Ⅱ	2	1				○		
		日本法史Ⅰ	2	2				○		
		日本法史Ⅱ	2	2				○		
		英米法Ⅰ	2	3・4				○		

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	基礎法	英米法Ⅱ	2	3・4				○		
		アジア法	2	3・4				○		
		比較法文化論	2	3・4				○		
		法哲学Ⅰ	2	3・4				○		
		法哲学Ⅱ	2	3・4				○		
	以上のうち4単位以上選択必修									
	政治	西洋政治史Ⅰ	2	1				○		
		西洋政治史Ⅱ	2	1				○		
		日本政治史Ⅰ	2	1				○		
		日本政治史Ⅱ	2	1				○		
		行政学Ⅰ	2	2				○		
		行政学Ⅱ	2	2				○		
		国際政治学Ⅰ	2	2				○		
		国際政治学Ⅱ	2	2				○		
		外交史Ⅰ	2	2				○		
		外交史Ⅱ	2	2				○		
		グローバル地域研究	2	3・4				○		
		アメリカ地域研究	2	3・4				○		
		アジア地域研究	2	3・4				○		
		政治学原論	2	2				○		
		現代政治学Ⅰ	2	3・4				○		
		現代政治学Ⅱ	2	3・4				○		
		政治過程論Ⅰ	2	3・4				○		
		政治過程論Ⅱ	2	3・4				○		
		日本政治思想史Ⅰ	2	3・4				○		
		日本政治思想史Ⅱ	2	3・4				○		
		西洋政治思想史Ⅰ	2	3・4				○		
		西洋政治思想史Ⅱ	2	3・4				○		
	以上のうち6単位以上選択必修									
	公法	憲法Ⅰ	2	1		○				
		憲法Ⅱ	2	2		○				
		憲法Ⅲ	2	3・4		○				
		比較憲法	2	3・4		○				
		行政法総論Ⅰ	2	2		○				
		行政法総論Ⅱ	2	2		○				
		行政救済法Ⅰ	2	3・4		○				
		行政救済法Ⅱ	2	3・4		○				
		地方自治	2	3・4		○				
		税法Ⅰ	2	3・4		○				
		税法Ⅱ	2	3・4		○				
		国際法Ⅰ	2	2		○				
		国際法Ⅱ	2	2		○				
		国際法Ⅲ	2	3・4		○				
		刑法総論Ⅰ	2	1		○				
		刑法総論Ⅱ	2	2		○				
		刑法各論Ⅰ	2	2		○				
		刑法各論Ⅱ	2	3・4		○				
		刑事訴訟法Ⅰ	2	2		○				

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	公法	刑事訴訟法Ⅱ	2	3・4		○				
		刑事政策	2	1		○				
		犯罪学	2	3・4		○				
	以上のうち８単位以上選択必修									
	民事法	民法総則Ⅰ	2	1			○			
		民法総則Ⅱ	2	2			○			
		物権法Ⅰ	2	2			○			
		物権法Ⅱ	2	3・4			○			
		債権法Ⅰ	2	2			○			
		債権法Ⅱ	2	2			○			
		不法行為法	2	1			○			
		親族法	2	2			○			
		相続法	2	2			○			
		国際私法Ⅰ	2	3・4			○			
		国際私法Ⅱ	2	3・4			○			
		商法Ⅰ	2	2			○			
		商法Ⅱ	2	3・4			○			
		商法Ⅲ	2	3・4			○			
		商法Ⅳ	2	3・4			○			
		商法Ⅴ	2	3・4			○			
		民事訴訟法Ⅰ	2	3・4			○			
		民事訴訟法Ⅱ	2	3・4			○			
		民事訴訟法Ⅲ	2	3・4			○			
		労働法Ⅰ	2	2			○			
		労働法Ⅱ	2	3・4			○			
		社会保障法Ⅰ	2	3・4			○			
		社会保障法Ⅱ	2	3・4			○			
		知的財産法Ⅰ	2	3・4			○			
		知的財産法Ⅱ	2	3・4			○			
		経済法Ⅰ	2	3・4			○			
		経済法Ⅱ	2	3・4			○			
	以上のうち８単位以上選択必修									
	隣接領域	初級ミクロ経済学	2	3・4						○
		初級マクロ経済学	2	3・4						○
		経営学総論	4	3・4						○
		会計学総論	4	3・4						○
		マーケティング総論	4	3・4						○
		司法・犯罪心理学	2	3・4						○
		日本史概説Ⅰ	2	2※						○
		日本史概説Ⅱ	2	2※						○
		アジア史概説Ⅰ	2	2※						○
		アジア史概説Ⅱ	2	2※						○
		西洋史概説Ⅰ	2	2※						○
		西洋史概説Ⅱ	2	2※						○
		労働経済Ⅰ	2	3・4						○
		労働経済Ⅱ	2	3・4						○
		財政	4	3・4						○
		国際経済	4	3・4						○

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	隣接領域	公共経済	4	3・4						○
		経営管理論	4	3・4						○
		経営戦略論	4	3・4						○
		財務諸表論	4	3・4						○
		ベンチャービジネス	4	3・4						○
		ソーシャル・キャピタル論	2	3・4						○
		家族社会学	2	3・4						○
		現代家族論	2	3・4						○
		司法福祉論	2	3・4						○
		ジェンダー法学	2	3・4						○
		環境学入門	2	3・4						○
		環境学	2	3・4						○
		NPO／NGO 論	2	3・4						○
		公共社会学	2	2※						○
		社会学概論	2	2※						○
		社会心理学	2	3・4						○
		社会意識論	2	3・4						○
	以上より 26 単位まで自由選択科目として卒業必要単位数に算入できる ※については、教職課程履修者のみ 2 年次から履修可能（教職課程履修者以外は 3・4 年次配当）									
	情報	ビジネスシステム論	4	3・4						○
	演習	基礎演習	2	1					○	
		以上「基礎演習」については 2 単位必修								
		アドバンスト・ゼミⅠ	2	1					○	
		アドバンスト・ゼミⅡ	2	2					○	
		アドバンスト・ゼミⅢ	2	2					○	
		以上より 6 単位まで自由選択科目として卒業必要単位数に算入できる								
		選択演習Ⅰ	2	2					○	
		選択演習Ⅱ	2	2					○	
		選択演習Ⅲ	2	2					○	
		選択演習Ⅳ	2	2					○	
		選択演習Ⅴ	2	2					○	
		選択演習Ⅵ	2	2					○	
		選択演習Ⅶ	2	2					○	
		選択演習Ⅷ	2	2					○	
		以上より 8 単位まで自由選択科目として卒業必要単位数に算入できる								
		専門演習	4	3					○	
	特殊講義	特殊講義Ⅰ	2	2					○	
		特殊講義Ⅱ	2	2					○	
		特殊講義Ⅲ	2	3・4					○	
		特殊講義Ⅳ	2	3・4					○	
		外国文献講読	2	3・4					○	
		留学（法学・政治学）Ⅰ	2	1						○
		留学（法学・政治学）Ⅱ	2	1						○
		自治体のしくみと仕事	2	2					○	
		実践法学Ⅰ	2	1					○	
		実践法学Ⅱ	2	1					○	
		実践法学Ⅲ	2	1					○	

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標					
					Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	その他	法律学概論	2	1						○
		留学（その他）Ⅰ	2	1	○					
		留学（その他）Ⅱ	2	1	○					
		留学（その他）Ⅲ	2	1	○					
		留学（その他）Ⅳ	2	1	○					
	「その他」の科目は卒業必要単位数に算入できない									
	キャリア	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	○					
		キャリアゼミ	2	2	○					
		キャリア実習	2	1	○					
		プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2	2	○					
		プラクティカル・キャリアデザインⅡ	2	3	○					
		アドバンスト・キャリアデザイン	2	4	○					
	「キャリア」の科目は6単位まで自由選択科目として卒業必要単位に算入できる									
専門教育科目　98単位以上										
卒業必要単位数　126単位以上										

【卒業必要単位数】

1. 法学部法学科の学生は、次に定めるところに従って合計126単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目		18単位
外国語科目		8単位
保健体育科目		2単位
専門教育科目		98単位以上
必修科目	演習（基礎演習）	2単位
選択必修科目	専門基礎	6単位以上
	基礎法	4単位以上
	政治	6単位以上
	公法	8単位以上
	民事法	8単位以上
自由選択科目		
合　計		126単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。

ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。なお、(1) (2) (3) についてはあわせて16単位以内とする。

(1) 中級外国語・上級外国語・海外語学講座・留学支援科目については、16単位以内

（ただし、国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語Writing」、「中級英語Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）

(2) エリアスタディーズについては、2単位以内

(3) ジャパンスタディーズについては、8単位以内

(4) 「IT応用」「データサイエンス基礎」については、2単位以内

Ⅰ．履修登録科目の単位制限について

法学部では、1年間に履修登録ができる単位数について制限を加えている。前期履修登録および後期履修登録における履修計画を慎重かつ十分に検討したうえで、履修登録科目を選択すること。

法学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和8年2月26日　学長決定〕

1. 法学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

(1) 令和5年度以降入学生

	1年次	2年次	3年次	4年次
法学部専門教育科目 基礎共通科目 中級外国語・上級外国語	36単位以内	48単位以内	48単位以内	48単位以内

（中略・令和4年度以前の入学生適用表　略）

ただし、1年次に履修できる基礎共通科目の単位数は8単位を限度とする。

2. 次に掲げる科目の単位については上記の制限を受けない。
   法学部法学科専門教育科目中の「その他」の科目の単位
   法学部法学科専門教育科目中の「特殊講義」の「実践法学 I～III」の単位
3. この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

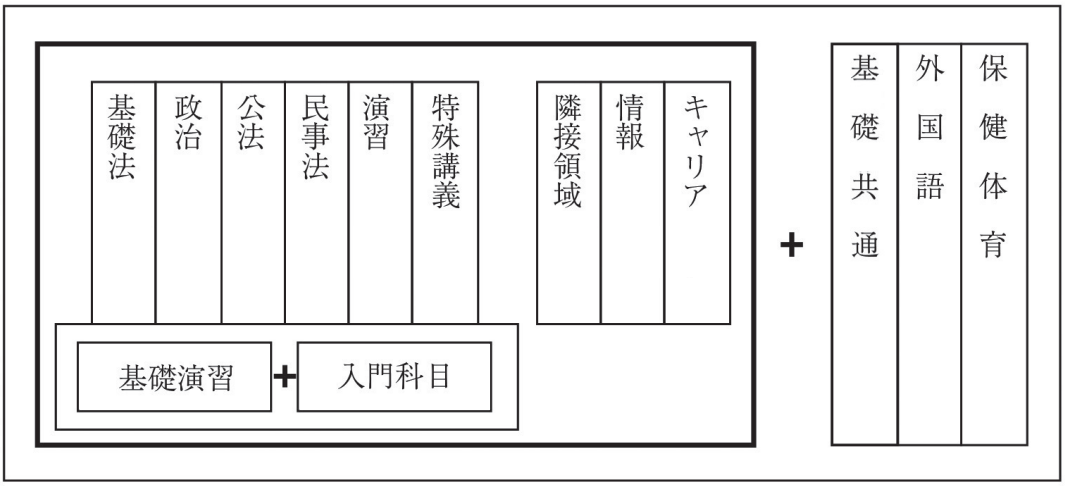
この内規は、令和8年4月1日から施行する。

（注）ただし、College English、基礎第2外国語、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」は、上記内規の適用外である。

例えば、1年次は登録単位制限（36単位）に加え、College English（4単位）、基礎第2外国語（4単位）、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」（各1単位）と合わせて、46単位の履修が可能である。

Ⅱ．法学部専門教育科目の履修にあたって

1　専門教育の位置づけ



法学部は、学生の自己実現と社会の発展への寄与を目的として教育を行っている。みなさんは、専門教育科目としての法学・政治学と全学共通科目とを全体としてバランスよく履修する必要がある。

基礎共通・外国語・保健体育および各種の教職免許など資格取得に関する履修上の説明については、『履修要項』の該当部分を参照すること。

2　専門教育カリキュラムの構成とねらい

法学部では、専門教育科目の中に他学部科目を取込むことによって、多様な科目群の履修を可能にしている。みなさんは、希望する進路や興味関心に合わせて柔軟な学習ができるようになっている。

履修しようとする専門教育科目の選定にあたっては、以下に説明するカリキュラムの趣旨や特徴を理解したうえで、自分の進路や学習目的を熟考し、履修を行うことが望まれる。

履修要項に定める専門教育科目のうち、

○必修科目として、「基礎演習」は単位を修得しないと卒業することができない（2単位）。

○選択必修科目とは、「専門基礎」から「民事法」までの各分類において卒業に必要な最小単位数が定められた科目群である（32単位）。

○自由選択科目とは、上記科目以外の科目のことである。専門教育科目表のうち、「その他」の科目は卒業必要単位に算入されず、「隣接領域」、「演習」、「キャリア」に属する科目は、卒業単位に算入される単位数に上限があるので注意すること。

3　カリキュラムの趣旨と特徴

(1) 法学・政治学の基礎・基本を重視した教育

1年次の前期に、「基礎演習」（必修）で、法学・政治学の勉強を進めるにあたり基本となる事柄について学び、「公法入門」、「民事法入門」、「刑事法入門」、「政治学入門」において、各分野の導入となる知識を修得するとともに、各分野の全体像を把握する。1年次と2年次を通じて、法学・政治学の基本的知識の修得を目指す。

2年次以降、基本となる専門教育科目に加え選択演習が開講されており、専門的テーマを積極的・自律的に学んでいくうえで必要な知識やスキルを補強し、3年次の専門演習および3・4年次の高度な専門教育科目へと勉強をつなげていく。

(2) 多様なニーズに対応し、柔軟性に富むカリキュラム

法学部では、法学・政治学の基礎・基本の修得を基軸に据えつつも、経済学・経営学・社会学・心理学等々の隣接学問分野の科目も履修できるようにし、多様な視点から物事を捉える能力を涵養することができる。

法学部生の進路は、弁護士、司法書士、行政書士、社会保険労務士や公務員、会社・団体への就職など多様である。1年次からキャリア関連科目が用意されており、これらの科目を履修することで、会社員や公務員の業務内容を具体的に知り、そしてどのような人材が求められているかを考えるきっかけが得られるであろう。

例えば、法科大学院進学を目指して徹底して法律学を学びたいと考える人は、2年次に法律実務家による授業が選択演習等で開講されるので、法律学の理論が実務とどのように関連しているのかを意識し、確認しながら勉強を進めることができる。

また、一般企業への就職などを目指して学びたいと考えている人は、法学・政治学だけでなく経済学・経営学・社会学・心理学などについても多くの学修時間（隣接領域・上限26単位）を充てることができる。

他にも、特に外国語の力を伸ばしたいと考える人は、中級・上級外国語科目を履修することができる。また、「エリアスタディーズ」では、外国の大学などで学修することもできる。

なお、司法書士、行政書士、社会保険労務士や公務員試験など各種資格試験対策にも配慮してカリキュラムが構成されており、志望する試験に対応した科目の履修が可能である。

(3) 情報化社会に対応した教育

「IT基礎」、「IT応用」、「データサイエンス基礎」を履修することで、情報リテラシーを涵養することができる。

4　専門教育科目について

法学部の専門教育科目は、別表のとおりである。各科目の配当年次に応じて、科目表中の各区分において定められた単位数に相当する選択必修科目を履修することが基本である。科目表の「基礎演習」（必修科目：2単位）、「専門基礎」から「民事法」（選択必修科目：32単位）に加えて、専門科目群（各群別に上限単位数あり）から64単位以上を修得することになる。不明な点や疑問点などについては指導主任に履修相談をすること。また、経済・法・経営学部合同事務室（法学部担当）（9号館1階）にて照会すること。メールによる相談も受付けている（hou@adm.konan-u.ac.jp）。

Ⅲ．科目履修上の諸注意

1. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。ただし、「アドバンスト・ゼミ I」は１年次生のみ、「アドバンスト・ゼミⅡ・Ⅲ」・「自治体のしくみと仕事」は、原則として、２年次生のみ履修することができる。
2. 「基礎演習」は、１年次で必ず履修すること。１年次で単位を修得できなかった者は、２年次で必ず履修すること。
3. １年次生にとって、入門科目 (「公法入門」、「民事法入門」、「刑事法入門」、「政治学入門」) は、法学部の専門科目を履修するにあたって基礎となる科目であるので、履修することを強く薦める。
4. 専門教育科目の一部は、クラスを分割して授業を行っているので、学籍番号または入学年度の指定に従って履修すること。
5. 履修にあたっては各科目の『シラバス』を熟読し、その指示に従うこと。例えば、「×××Ⅱを履修する学生は、あらかじめ×××Ⅰを履修していることが望ましい」という指示がなされている場合がある。
6. 教員によっては、レジュメ、参考資料等の配付や、課題・小テスト等を〈My KONAN〉を利用して実施する場合がある。
7. 授業に必要な案内は〈My KONAN〉を通じて行うので、各自で確認すること。
8. 「アドバンスト・ゼミⅠ～Ⅲ」・「自治体のしくみと仕事」は一定の要件を満たす者のみ履修することができる。詳細は４月の新入生履修指導や〈My KONAN〉で説明する。
9. 「選択演習Ⅰ～Ⅷ」は、８単位まで、卒業必要単位数に算入することができる。主として２年次生を念頭において開講するが、3・4 年次生も履修できる。
10. 「専門演習」は事前登録（10 月頃募集掲示）を行い、許可を得た者のみ履修できる。法学部では、**「真剣に学ぶ意思のある者のみ専門演習を履修できる」**という方針に基づき、申込者数にかかわらず担当者による面接などの選考を行う場合がある。
11. 法学部においては、**火曜日５限**を補講時限とする。休講があった場合、この時限に補講が行われることがある（具体的な日時・場所等は、その都度、〈My KONAN〉に掲示される）。したがって、この時限には、特段の事情のない限り、原則として履修科目を配置しないようにすること。
12. 法学部では、学業に励み優秀な学業成績を収めた学生に対し、その努力を称え表彰している。表彰の基準は当該年度に修得した法学部固有の専門科目（授業時間表の授業コードの先頭番号が４の科目）について、「秀を５点　優を４点　良を２点　可を１点」として、合計点数の多い順に各学年上位３パーセントの人数とする。1～3 年次生の成績を対象として、2～4 年次生を表彰の対象とする。
13. 法学部専門科目表の隣接領域のうち、「日本史概説Ⅰ・Ⅱ」、「アジア史概説Ⅰ・Ⅱ」、「西洋史概

説Ⅰ・Ⅱ」、「公共社会学」、「社会学概論」の8科目については教職課程履修者のみ2年次からの履修を可能としており、教職課程履修者以外は3・4年次配当科目であることに注意すること。

14.「留学（法学・政治学）Ⅰ・Ⅱ」、「留学（その他）Ⅰ～Ⅳ」は、留学先の大学などで単位を取得し、かつ読替えを申請した者に対し、単位を付与するための科目である。読替えの申請および詳細については、法学部事務室に問合わせること。なお、これらの科目は「法学部履修登録科目の単位制限に関する内規」の制限には含まれず、「留学（法学・政治学）Ⅰ・Ⅱ」は、卒業必要単位数に算入することができる。

15.「実践法学Ⅰ～Ⅲ」は、『履修ガイドブック』で指定された検定試験・資格試験に合格し、かつ単位認定を申請した者に対し、単位を付与するための科目である。詳細については、『履修ガイドブック』および『シラバス』を参照すること。これらの科目は「法学部履修登録科目の単位制限に関する内規」の制限には含まれない。

16. 次に掲げる進級に関する内規を適用するので注意すること。

法学部3年次生の履修登録科目の制限に関する内規

平成27年4月1日　学長決定

第1条　法学部の学生が2年次から3年次に進むにあたり、卒業に必要な修得単位数が50単位未満の場合、3年次において履修できる専門教育の科目・単位は次条に定める限りとする。

第2条　前条の制限に該当する学生が3年次において履修できる専門教育の科目・単位は次の各号に定める範囲に限られる。

(1)　専門演習

(2)　3年次に配当される演習以外の専門教育科目のうち10単位

(3)　未修得の1・2年次配当科目

附　則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

附　則

この規程の改廃は、平成27年4月1日から学長決定により行う。

上記内規に従い、本学部では3年次に進級するとき、一定以下の単位しか修得していない場合には、3・4年次配当科目に履修制限がかかる。

法学部転入生の履修に関する取扱内規

平成 27 年 10 月 27 日　法学部教授会改正

第 1 条　この取扱内規は、転学部規程に基づき、本学部への転学部が許可された者の履修等について定めるものとする。

第 2 条　本学部に転入した者（以下「転入生」という。）は、すべて 3 年次に転入される。

第 3 条　転入生は、転入した年度に基礎演習を履修しなければならない。

第 4 条　転入生は、1・2 年次及び 3 年次配当科目を転入した年度に履修することができる。

第 5 条　転入生は、転入した年度にはできる限り、1・2 年次配当の必修科目を優先的に履修することが望ましい。

第 6 条　転入生が、3 年次及び 4 年次に履修できる法学部専門教育科目及び基礎共通科目の単位数は、それぞれ合計 48 単位を限度とする。

第 7 条　前学部で履修した専門教育科目の単位で、法学部専門教育科目にない科目については、申請に基づき 16 単位を限度として、本学部における自由選択科目の単位として認定することができる。

附則

1　この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

法学部編入生の履修に関する取扱内規

令和 6 年 9 月 24 日　法学部教授会改正

第 1 条　この取扱内規は、本学部への編入が許可された者の履修等について定めるものとする。

第 2 条　本学部に編入した者（以下「編入生」という。）は、すべて 3 年次に編入される。

第 3 条　編入生は、編入した年度に基礎演習を履修しなければならない。

第 4 条　編入生は、1・2 年次及び 3 年次配当科目を編入した年度に履修することができる。

第 5 条　編入生は、編入した年度にはできる限り、1・2 年次配当の必修科目を優先的に履修することが望ましい。

第 6 条　編入生が、3 年次及び 4 年次に履修できる法学部専門教育科目の単位数は、それぞれ合計 48 単位を限度とする。

第 7 条　前大学等で履修した専門教育科目の単位で、法学部専門教育科目にない科目については、申請に基づき 16 単位を限度として、本学部における自由選択科目の単位として認定することができる。

附則

1　この規則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

法学部 法学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。				
	(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。				
	(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。				
	(4) 法学と政治学についての基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に問題に対処する能力を有しています。				
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	(1) (2) (3) (6)		(1) (4) (5) (7)	(1) (4) (5) (7)	
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。		A 国家制度の設計や運用に必要な、国家権力の行使に関わる法の基礎的、専門的知識を体系的に修得し、問題を解決できる。	B 一般市民社会の制度の設計や運用に必要な法の基礎的、専門的知識を体系的に修得し、現実の課題に対応できる。	
科目群	全学共通科目	法学部設置科目	公法科目	民事科目	
	28 単位	キャリア 6 単位まで卒業単位に算入可	8 単位以上選択必修	8 単位以上選択必修	
4 年		アドバンスト・キャリアデザイン	憲法 III 比較憲法 行政救済法 I・II 地方自治 税法 I・II 国際法 III 刑法各論 II 刑事訴訟法 II 犯罪学	物権法 II 商法 II・III・IV・V 民事訴訟法 I・II・III 国際私法 I・II 労働法 II 社会保障法 I・II 知的財産法 I・II 経済法 I・II	
3 年		プラクティカル・ キャリアデザイン II			
2 年	基礎共通科目 (人文・自然・社会)*1	キャリアゼミ プラクティカル・ キャリアデザイン I	憲法 II 行政法総論 I・II 国際法 I・II 刑法総論 II 刑法各論 I 刑事訴訟法 I	民法総則 II 物権法 I 債権法 I・II 親族法 相続法 商法 I 労働法 I	
1 年	基礎共通科目（人文・自然・社会）*1 基礎共通科目（導入共通 / 学際融合等）*2 スポーツ健康マネジメント演習 II スポーツ健康マネジメント演習 I College English Reading College English Writing College English Listening College English Speaking 基礎第 2 外国語 II（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語） 基礎第 2 外国語 I（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	ベーシック・キャリアデザイン キャリア実習 留学（その他）I・II・III・IV *3	憲法 I 刑法総論 I 刑事政策	民法総則 I 不法行為法	
			公法入門 刑事法入門	民事法入門 入門科目 6 単位以上選択必修	

1. 基礎共通科目は、合計 18 単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上（*1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位以上、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位以上（*2）

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(5) 社会に生起する諸現象・諸課題を多角的にとらえ、多様な価値観を尊重しつつ、問題解決への道筋を的確に見定める能力を有しています。
		(6) グローバル化・情報化する社会で活躍するのに必要な情報収集・活用・発信能力及びコミュニケーション能力を有しています。
		(7) 市民として必要とされる人権意識を有しています。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">(1) (4) (5) (7)</td><td colspan="2">(1) (2) (4) (5) (6) (7)</td><td colspan="2">(1) (2) (3) (6)</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">C
法の歴史や一般理論あるいは現状分析の手法を修得することで、国家や社会を俯瞰的な視点から理解し、分析するとともに、政治学の基礎的、専門的知識や理論の修得により、国内外の様々な社会現象を分析できる。</td><td colspan="2">D
法学・政治学の知見を基礎として、実践的な学びに取り組み、問題を自ら発見し、情報を収集・分析して、解決策について論理的な議論を行うことができる。</td><td colspan="2">E
法学・政治学以外の学問も含めた広範な知識を修得し、多様な視点から物事を捉え検討することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">基礎法・政治科目</td><td colspan="2">実践・演習科目</td><td colspan="2">隣接科目</td></tr>
<tr><td></td><td>4 単位以上選択必修</td><td>6 単位以上選択必修</td><td colspan="2">選択演習は 8 単位以内を卒業単位に算入可</td><td></td><td>26 単位まで算入可</td></tr>
<tr><td></td><td>英米法 I・II
アジア法
比較法文化論
法哲学 I・II</td><td>現代政治学 I・II
政治過程論 I・II
日本政治思想史 I・II
西洋政治思想史 I・II
グローバル地域研究
アメリカ地域研究
アジア地域研究</td><td>専門演習</td><td>特殊講義 III・IV
外国文献講読</td><td>ビジネスシステム論</td><td>経営学総論
会計学総論
マーケティング総論
司法・犯罪心理学
労働経済 I・II
財政
国際経済
公共経済
経営管理論
経営戦略論
財務諸表論
ベンチャービジネス
ソーシャル・キャピタル論
家族社会学
現代家族論
司法福祉論
ジェンダー法学
環境学入門
環境学
NPO / NGO 論
社会心理学
社会意識論
初級ミクロ経済学
初級マクロ経済学</td></tr>
<tr><td></td><td>日本法史 I・II</td><td>行政学 I・II
国際政治学 I・II
外交史 I・II
政治学原論</td><td colspan="2">選択演習 I - VIII
アドバンスト・ゼミ II・III
特殊講義 I・II
自治体のしくみと仕事</td><td></td><td>日本史概説 I・II
アジア史概説 I・II
西洋史概説 I・II
公共社会学
社会学概論</td></tr>
<tr><td></td><td>法社会学 I・II
西洋法史 I・II</td><td>西洋政治史 I・II
日本政治史 I・II</td><td colspan="2">アドバンスト・ゼミ I
実践法学 I・II・III</td><td rowspan="2">留学（法学・政治学）I・II
法律学概論 *3</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">政治学入門</td><td colspan="2">基礎演習（必修科目）</td></tr>
</table>

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。なお、①②③についてはあわせて 16 単位以内とする。
①中級外国語・上級外国語・海外語学講座・留学支援科目については、16 単位以内（ただし、国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語 I・II」、「中級フランス語 I・II」、「中級中国語 I・II」、「中級韓国語 I・II」および「大学日本語中級 I・II」、「大学日本語上級 I・II」を除く。）
②エリアスタディーズについては、2 単位以内
③ジャパンスタディーズについては、8 単位以内
④「IT 応用」「データサイエンス基礎」については、2 単位以内
注）上記 2 の①～④の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

3.「その他」の科目は卒業単位に算入できない。（*3）

経　営　学　部

経　営　学　部

経営学科

教育基本方針

甲南大学経営学部では、経営学に関する専門知識および分析能力の教授を通じて、「ヒト・モノ・カネ・情報等からなる組織（企業）の存続・発展のあり方について、自律的な洞察力を有し、社会に貢献するビジネスパーソンの養成」を教育の基本方針とします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。経営学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数130単位以上（基礎共通科目18単位　外国語科目8単位　保健体育科目2単位　専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（経営学）の学位を授与します。

(1) ビジネスパーソンに必要な社会的協調力と自発的遂行及び倫理的責任力を有しています。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 幅広い教養に裏付けられた経営学の知識・理解力を修得しています。
(4) 各種スキルと論理的思考力を有し、それに基づいて経営問題の発見・説明・解決力を体得しています。
(5) 豊かな個性に基づいた社会的貢献力を発揮できます。
(6) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

経営学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次では、経営学を学ぶための前提となる知識を得るとともに、経営学部の学びの基礎を形成するため、少人数クラスで、プレゼンテーション能力や表現力を鍛える基礎的な科目を選択必修科目として配置します。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 1・2年次には、簿記やビジネス英語のようなビジネスマンとして必要なスキルを学ぶ科目を配置します。
(5) 経営戦略、経営組織、財務会計、管理会計、マーケティング、ファイナンス、並びに、国際化の7つの領域に関して、それぞれの学生が専門領域を選んで体系的に学びを深められるようにするため、年次進行に合わせて段階的に高度化する本格的な専門科目を配置します。
(6) 問題発見・解決能力などの社会人としての基礎力を育成するため、2年次から卒業時まで続く、少人数クラスによる専門演習科目を配置します。また専門演習での指導に基づき、卒業時には卒業研究（卒業論文）により、在学中に学んだことを集大成します。
(7) スペシャリストとしての能力とゼネラリストとしての視野を養うため、意欲を持った学生を対象としてビジネスリーダー養成プログラム（ビジネス・プロフェッション・コース／グローバル・ビジネス・コース／アカウンティング・プラクティス・コース）を設定します。
(8) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習により又は併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習、演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針（DP）

(1)	【専門・知識】ビジネスパーソンに必要な社会的協調力と自発的遂行及び倫理的責任力を有しています。
(2)	【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	【広い教養】幅広い教養に裏付けられた経営学の知識・理解力を修得しています。
(4)	【専門・知識】各種スキルと論理的思考力を有し、それに基づいて経営問題の発見・説明・解決力を体得しています。
(5)	【人物教育】豊かな個性に基づいた社会的貢献力を有しています。
(6)	【専門・知識】自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1) (2) (3) (6)
A	課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す、自律的洞察力を有している。	(1) (3) (4) (6)
B	企業組織の仕組みやその背後の論理を学び、ビジネスパーソンにとって必要な知識や洞察力を有している。	(1) (3) (4) (5)
C	会計の原則とその背後の論理を学び、企業会計を理解し、実践する能力を有している。	(1) (3) (4) (5)
D	企業と市場との関係を理解し、それに基づいて企業経営を洞察できる能力を有している。	(1) (3) (4) (5)
E	幅広い教養や情報収集力を身につけ、複眼的に現代社会を視ることができる。	(1) (2) (5)
F	社会の一員として働くことの意識を高め、社会的貢献ができるべく、キャリア形成のための基礎力を有している。	(2) (5) (6)
G	人文科学や社会科学の教養を身につけ、進路指導に関して教育職員としての基礎的指導力を有している。	(2) (5) (6)

授業科目表（経営学部経営学科）　〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E	F	G
全学共通科目	基礎共通科目			*	*	○							
	外国語科目			*	*	○							
	保健体育科目			*	*	○							
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）28単位													
専門教育科目	選択必修科目Ⓐ	基礎科目	基礎演習	4	1						○		
			経営学総論	4	1			○					
			会計学総論	4	1				○				
			マーケティング総論	4	1					○			
			経済学入門	2	1					○			
			入門簿記	4	1				○				
			簿記演習	2	1				○				
	以上のうち 16 単位以上選択必修												
	選択必修科目Ⓑ	基礎関連科目	統計学入門	4	2						○		
			情報処理概論	4	2						○		
			グローバル・コミュニケーションⅠ	4	2	○					○		
			グローバル・コミュニケーションⅡ	4	2	○					○		
		基礎専門科目	経営管理論	4	2			○					
			経営戦略論	4	2			○					
			財務諸表論	4	2				○				
			原価計算	4	2				○				
			商学基礎論	4	2					○			
		専門科目 経営学系統	経営史	4	2			○					
			経営学史	4	2			○					
			経営財務論	4	2			○					
			経営労務論	4	2			○					
			経営組織論	4	2			○					
			工業経営論	4	2			○					
			国際経営論	4	2			○					
			アジア経営論	4	2			○					

授業科目名					単位数	配当年次	到達目標							
							Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	選択必修科目Ⓑ	専門科目	経営学系統	国際ビジネス事情	4	2			○					
				ベンチャービジネス	4	2			○					
				経営科学	4	2			○					
				ビジネスシステム論	4	2			○					
				中小企業論	4	2			○					
				環境経営論	4	2			○					
				非営利組織論	4	2			○					
			会計学系統	管理会計	4	2				○				
				監査論	4	2				○				
				情報会計システム論	4	2				○				
				税務会計	4	2				○				
				国際会計論	4	2				○				
				財務諸表分析	4	2				○				
				会計史	4	2				○				
				企業会計理論	4	2				○				
				経営分析	4	2				○				
			商学系統	マーケティング管理論	4	2					○			
				国際マーケティング論	4	2					○			
				消費者行動論	4	2					○			
				流通システム論	4	2					○			
				金融論	4	2					○			
				証券論	4	2					○			
				リスクマネジメント	4	2					○			
				地域・観光マネジメント	4	2					○			
				地域金融論	4	2					○			
			演習	専門演習Ⅰ	2	2		○	○	○	○			
				専門演習Ⅱ	8	3・4		○	○	○	○			
	Ⓑ以上のうち 62 単位以上選択必修													
		一般		経営学特論 a	4	3・4			○					
				経営学特論 b	4	3・4			○					
				経営学特論 c	4	3・4			○					
				経営学特論 d	4	3・4			○					
				経営学特論 e	2	3・4			○					
				会計学特論 a	4	3・4				○				
				会計学特論 b	4	3・4				○				
				会計学特論 c	4	3・4				○				
				会計学特論 d	4	3・4				○				
				会計学特論 e	2	3・4				○				
				商学特論 a	4	3・4					○			
				商学特論 b	4	3・4					○			
				商学特論 c	4	3・4					○			
				商学特論 d	4	3・4					○			
				商学特論 e	2	3・4					○			
				経営実務 a	2	3・4			○				○	
				経営実務 b	2	3・4			○				○	
				経営実務 c	2	3・4			○				○	
				経営実務 d	2	3・4			○				○	
				中級簿記	4	2	○			○				
				工業簿記	4	2	○			○				
				起業・アントレプレナーシップを学ぶ	2	2	○		○				○	
				経営コンサルティング論	2	3・4			○				○	
				情報処理Ⅰ	4	2						○		
				情報処理Ⅱ	4	2						○		
				グローバル・ビジネス特論Ⅰ	2	2			○					

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	一般	グローバル・ビジネス特論Ⅱ	2	2			○					
		外書講読Ⅰ	4	2						○		
		外書講読Ⅱ	4	2						○		
		ビジネス英語Ⅰ	2	2						○		
		ビジネス英語Ⅱ	2	2						○		
		ビジネス英会話・初級	4	2						○		
		ビジネス英会話・上級	4	2						○		
		初級マクロ経済学	2	2						○		
		初級ミクロ経済学	2	2						○		
		財政	4	3・4						○		
		金融	4	3・4						○		
		国際経済	4	3・4						○		
		産業経済	4	3・4						○		
		入門民法　財産法編Ⅰ	2	2	○					○		
		入門民法　財産法編Ⅱ	2	2	○					○		
		実践民法Ⅰ	2	3	○					○		
		実践民法Ⅱ	2	3	○					○		
		実践民法Ⅲ	2	3	○					○		
		実践民法Ⅳ	2	3	○					○		
		実践民法Ⅴ	2	3	○					○		
		実践民法Ⅵ	2	3	○					○		
		入門商法　会社法編	2	2	○					○		
		証券市場と法	2	3	○					○		
		金融取引と法	2	3	○					○		
		証券業と法	2	3	○					○		
		公共政策論Ⅰ	2	2	○					○		
		公共政策論Ⅱ	2	2	○					○		
		入門ビジネス法務	2	2	○					○		
		ビジネスを支える法の世界	2	3・4	○					○		
	キャリアデザイン	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	○						○	
		プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2	2	○						○	
		プラクティカル・キャリアデザインⅡ	2	3	○						○	
		アドバンスト・キャリアデザイン	2	4	○						○	
		キャリア実習	2	1	○						○	
		実践ボランティアⅠ	1	1	○						○	
		実践ボランティアⅡ	1	1	○						○	
		インターナショナルＯＣＡ	2	2							○	
	教職	職業指導Ⅰ	2	3								○
		職業指導Ⅱ	2	3								○
		人文地理	2	2								○
		地誌Ⅰ	2	2								○
		自然地理学	2	2								○
		日本史概説Ⅰ	2	2								○
		日本史概説Ⅱ	2	2								○
		アジア史概説Ⅰ	2	2								○
		アジア史概説Ⅱ	2	2								○
		西洋史概説Ⅰ	2	2								○
		西洋史概説Ⅱ	2	2								○
		政治学入門	2	2								○
		政治学原論	2	2								○
		法律学概論	2	2								○
専門教育科目　102 単位以上												
卒業必要単位数　130 単位以上												

【卒業必要単位数】

1. 経営学部の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上を修得しなければならない。

基礎共通科目		18 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		102 単位以上
選択必修科目	Ⓐより	16 単位以上
	Ⓑより	62 単位以上
自由選択科目		
合　計		130 単位以上

2. 2 年次にビジネス・リーダー養成プログラムに所属した場合はビジネス・リーダー養成プログラムの専門教育科目の単位も上記 1 に含まれる。
3. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、選択必修の単位数に充てることはできない。
   (1) 中級外国語・上級外国語・海外語学講座・留学支援科目の単位を併せて 20 単位以内
   （ただし、国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語 Writing」、「中級英語 Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」を除く。）
   (2) 文学部英語英米文学科「English Studies Ⅰ～Ⅷ」から、8 単位以内
   (3) 生涯スポーツについては、2 単位以内
   (4)「IT 応用」の 2 単位
   (5)「エリアスタディーズⅠ～X」については、4 単位以内
   (6)「ジャパンスタディーズ 1～14」については、6 単位以内
   (7)「地域ファシリテイト」、「地域プロジェクトⅠ」、「地域プロジェクトⅡ」については、6 単位以内
   (8)「データサイエンス基礎」の 2 単位

Ⅰ．履修登録科目の単位制限について

経営学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。該当者は履修計画を慎重、かつ十分に検討したうえで履修登録科目を選択すること。

経営学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和８年２月 26 日　改正〕

1. 経営学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。

(1) 令和５年度以降入学生

	１年次	２年次	３年次	４年次
経営学部専門教育科目、中級外国語科目、上級外国語科目、基礎共通科目	38 単位以内	46 単位以内	44 単位以内	44 単位以内

（中略・令和４年度以前入学生適用表　略）

（注）1. 登録単位制限は前期履修登録・後期履修登録の単位数を合わせたものである。
2. １年次に履修できる基礎共通科目の単位数は８単位を限度とする。

2. 次に掲げる科目の単位についてはこの制限を受けない。
(1)「キャリア実習」、「実践ボランティアⅠ」・「実践ボランティアⅡ」、「インターナショナル OCA」
(2)「専門演習Ⅰ、Ⅱ」
(3)「BP 演習Ⅰ a」、「BP 演習Ⅰ b」、「BP 演習Ⅱ a」、「BP 演習Ⅱ b」、「BP 演習Ⅲ」
3. この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、令和８年４月１日から施行する。

※ College English、基礎第２外国語、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」は、上記内規の適用外である。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
専　門　演　習　Ⅱ	「専門演習Ⅰ」の単位を修得していること
財　　政	「経済学入門」の単位を修得していること
金　　融	「経済学入門」の単位を修得していること
国　際　経　済	「経済学入門」の単位を修得していること
産　業　経　済	「経済学入門」の単位を修得していること

2. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

3. 履修登録は前期に、集中講義を含む通年科目、前期科目、後期科目のすべてが登録できる。1年間の履修計画を立てたうえで登録をすること。後期科目については、前期および後期に登録可能で、前期に登録した科目も後期に追加・変更ができるので、前期にまず登録をすること。

4. 1年次配当の選択必修科目は、基礎的な専門教育科目であるため、1年次において履修することが望ましい。特に「経営学総論」、「会計学総論」、「マーケティング総論」は、各学系の基礎理論を学習するため重要な科目である。

なお、1年次は再履修クラスでの履修はできない。

5.「基礎演習」の履修については、指定されたクラスに従って事前に履修登録されるので、履修を希望しない者は、担当教員に相談のうえ、『シラバス』に記載の履修登録期間中に経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）まで申出ること。

6. 複数のクラスを開講する科目については、〈My KONAN〉で確認のうえ、指定されたクラスで履修すること。

7.「簿記演習」は「入門簿記」履修者が、さらに簿記の勉強を継続することを念頭に設置されている科目である。簿記検定合格状況に基づいて、履修に制限がある2種類のクラスが開講されるので、申し合わせに沿って履修する必要がある。申し合わせおよび申込み方法については、『履修ガイドブック』、『シラバス』を参照すること。

8.「ビジネス英会話・初級」および「ビジネス英会話・上級」は申し合わせが適用される。申し合わせおよび申込み方法については、『履修ガイドブック』を参照すること。

9.「キャリア実習」および「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」の履修については、指定された期日までにキャリアセンター・地域連携センターへの登録申請が必要である。4月の履修登録は必要ない。実施後に単位認定申請書の提出をもって履修登録され、レポートの提出により、成績評価される。希望者はキャリアセンターの『インターンシップ・キャリア実習ガイダンス』、地域連携センターの『ボランティアガイダンス』に出席し、指示に従って手続きをすること。

10.「インターナショナルOCA」履修については、実施後に単位認定申請書の提出（経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に提出）をもって履修登録され、報告会参加およびレポート提出などにより、成績評価されるので、4月の履修登録は必要ない。履修希望者は『シラバス』を確認すること。

Ⅲ．専門演習の履修について

経営学部の専門演習は、2年次に「専門演習Ⅰ」（2単位）、3・4年次で「専門演習Ⅱ」（8単位）を継続して履修することが原則である。

「専門演習Ⅰ」

(1)「専門演習Ⅰ」（2年次配当）は後期科目である。履修を希望する者は前期履修登録時、**「専**

門演習Ⅰ」の開講曜日・時限（後期火曜２限）に、通年科目を登録しないように注意すること。履修登録完了後に、登録科目の取消しはできない（中級・上級外国語科目等の事前登録科目等を、火曜２限に登録しないよう特に注意すること。２年次後期に留学が決まっている場合も同様である）。

(2) 「専門演習Ⅰ」の所属申込みにあたっては、『専門演習Ⅰ所属申込書』を経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に提出すること。「専門演習Ⅰ」の所属申込などに関する説明会を実施する予定なので、履修を希望する者は掲示に注意し、説明会に参加すること。

(3) 『専門演習Ⅰ所属申込書』や『専門演習Ⅰガイドブック』の配付は6月上旬の予定である。詳細は決まり次第掲示（〈My KONAN〉）する。

(4) 所属申込者が定員を超えた「専門演習Ⅰ」においては、担当教員による選考が行われる。選考にもれた者は「専門演習Ⅰ」の履修はできない。なお、「専門演習Ⅰ」の定員や各担当者の選考基準、選考方法等の詳細は『専門演習Ⅰガイドブック』に示す。

(5) 履修年度に留学などを予定（希望）している者は、「専門演習Ⅰ」の募集が始まるまでに経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に申出ること。

(6) 所属が決定した者は、自動的に履修登録されるので、改めて自分で登録する必要はない。後期の履修登録時に正しく登録されているか確認すること。

(7) 所属演習が決まらなかった場合、留年することなく「専門演習Ⅱ」を履修することはできないので、注意すること。

「専門演習Ⅱ」

(1) 「専門演習Ⅱ」は、3・4年次の2年間継続して履修する科目である。「専門演習Ⅰ」の単位を修得した者のみが、同一担当者の演習を継続して履修することができる。万が一履修の継続を希望しない者は、担当教員に相談のうえ、3年次前期の履修登録期間中に〈My KONAN〉から登録を取消すこと。

(2) 協定校への留学で、前年度に「専門演習Ⅰ」を履修していない者で履修を希望する者は後掲の申し合わせに従い、経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に申出ること。

(3) 「専門演習Ⅱ」の単位修得にあたっては、研究成果に関する論文（卒業論文）を提出して、審査に合格しなければならない。作成要領などは10月下旬に発表する。提出期日については、『履修ガイドブック』を参照すること。

Ⅳ．経営学部成績優秀者選考方法について

経営学部では、1・2・3年次の各年次の上位3%程度の者を成績優秀者として表彰する。

成績優秀者の選出は、GPA方式で表彰者を決定する。算定方式における最低修得単位数は40単位とする。なお、読替え科目の取扱いについては、順位算出の期日（4月末）現在で読替えられている科目とする。

外国留学等に基づく外国の大学への留学（以下「留学」）等による専門演習Ⅰ・Ⅱの受講の例外的な取扱いに関する申し合わせ

令和5年6月25日経営学部教授会決定

専門演習Ⅰ・Ⅱは、通常は2年生後期（専門演習Ⅰ 2単位）、3・4年生（専門演習Ⅱ 8単位）を連続で受講し、4年生最後に卒業論文を提出して、それが合格することによって完結する。留学等によって上記のプロセスを経なかった場合も、以下のようなケースにおいては特例的に単位取得が可能となるものとする。

1．留学による履修の中断の場合

［専門演習Ⅰ（2年生後期）について］

(1) 2年後期が留学期間（半期・1年）に当たっている場合、専門演習Ⅰの履修は認められないが、例外的に3年生からの専門演習Ⅱの履修は認められる。ただし、3年生から専門演習Ⅱを履修するためには、2年生前期において専門演習Ⅰの所属申し込みを行い、演習の所属先が決まっている必要がある。なお、留学期間も、専門演習Ⅰの受講に代わって、メール等による指導教員の指示に基づいて、補習に該当する指導を受ける必要がある。また、帰国後ただちに、講義の受講を開始する必要がある。

(2) 専門演習Ⅰの申込期間に留学中で国内にいない場合は、郵送等により所属申し込みをすることができる。該当する学生は、留学出発前に経営学部事務室にその旨を届け出る必要がある。

［専門演習Ⅱ（3・4年生）について］

(1) 3・4年生に留学によって専門演習Ⅱの履修が半期間欠けた場合、例外的にその期間も演習の履修期間に含めることができる。ただし、留学期間中には専門演習Ⅱの受講に代わって、メール等による指導教員の指示に基づいて、補習に該当する指導を受ける必要がある。

(2) 3年生（前後期とも）出発の1年間の留学に関しては、留学先で履修した4単位相当の専門科目をもって､その期間の専門演習Ⅱの履修とみなす､すなわち､履修期間に含めることができる。ただし、該当する単位は甲南大学の他の単位への読み替えは認めないものとする。必要な単位が修得できなかった場合は、留学期間は履修期間に含められず、休学した場合と同様の扱いとなる。

(3) 専門演習Ⅱの単位は、卒業論文を提出し、合格することにより与えられるが、4年生後期に半期留学し、提出期間に国内にいない場合は、郵送等での提出を認めるものとする。該当する学生は、留学出発前に経営学部事務室にその旨を届け出る必要がある。

(4) 4年生前期出発の1年間の留学に関しては、4年生後期に単位認定は行われない。留学先で取得してきた単位を専門演習Ⅱの履修と読み替えることの可否に応じて、別途定める条件を満たしている場合は、5年生において単位認定されることは可能である。
なお、4年生後期出発の1年間の留学に関しては、4年生後期出発の半期留学と同様、郵送等による提出を認めるものとする（(3) と同様に取り扱われる）。

［学生からの届け出］

専門演習Ⅰ・Ⅱの受講に関連して、留学の決定、留学からの帰国後、学生は即座に学部事務室に届け出を行う必要がある。

2．休学による履修の中断や卒業論文の未提出・不合格の場合

これらに関しては、別途の定めに基づいて、5年生以降に単位取得ができる可能性がある。該当する学生で専門演習Ⅱの単位取得を希望する場合は、新学期が始まるまでに経営学部事務室に問い合わせること。特に、休学の場合は、復学後ただちにその旨を事務室に連絡すること。

ただし、休学による特例的な扱いは、当該学生が在学中に指導教員が在籍している場合に限り可能であり、退職等によってそうでない場合にはこの限りではないので注意すること。

ビジネス・リーダー養成プログラム
（BP コース・GB コース・AP コース）

授業科目表　〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

		授業科目名	単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E	F	G
専門教育科目	BPコース科目	ＢＰコース特論Ⅰ	2	2			○	○	○			
		ＢＰコース特論Ⅱ	2	2			○	○	○			
		ＢＰコース特論Ⅲ	2	2			○	○	○			
		ＢＰ演習Ⅰａ	2	2		○	○				○	
		ＢＰ演習Ⅰｂ	2	2		○	○				○	
		ＢＰ演習Ⅱａ	2	3		○	○				○	
		ＢＰ演習Ⅱｂ	2	3		○	○				○	
		BP インターンシップ実践演習	2	3			○				○	
		ＢＰ演習Ⅲ	4	4		○	○					
		ＢＰ特別演習	4	4		○	○					
		ＢＰインターンシップⅠ	6	3			○				○	
		ＢＰインターンシップⅡ	6	3			○				○	
		ＢＰインターンシップⅢ	6	3			○				○	
		ＢＰ経営コンサルティング論	2	2			○	○	○			
	以上ＢＰコースⒷ選択必修											
	GBコース科目	ＧＢビジネス特論Ⅰ	2	2						○	○	
		ＧＢビジネス特論Ⅱ	2	2						○	○	
		GBコースＴＯＥＦＬ・ＩＥＬＴＳⅠ	2	2						○	○	
		GBコースＴＯＥＦＬ・ＩＥＬＴＳⅡ	2	2						○	○	
		GBコースＴＯＥＦＬ・ＩＥＬＴＳⅢ	2	2						○	○	
		GBコースＴＯＥＦＬ・ＩＥＬＴＳⅣ	2	2						○	○	
		ＧＢビジネス英語Ⅰ	2	2						○	○	
		ＧＢビジネス英語Ⅱ	2	2						○	○	
		ＧＢビジネス英会話・初級	4	2						○	○	
		ＧＢビジネス英会話・上級	4	2						○	○	
		ＧＢ外書講読Ⅰ	4	2						○	○	
		ＧＢ外書講読Ⅱ	4	2						○	○	
		ＧＢ国際アクティビティーⅠ	2	2						○	○	
		ＧＢ国際アクティビティーⅡ	2	2						○	○	
		ＧＢ国際アクティビティーⅢ	2	2						○	○	
	以上ＧＢコースⒷ選択必修											
	APコース科目	AP アカウンティング・プラクティスⅠ	4	2				○			○	
		AP アカウンティング・プラクティスⅡ	4	2				○			○	
		AP アカウンティング・プラクティスⅢ	2	2				○			○	
		AP アカウンティング・プラクティス演習Ⅰ	2	2				○			○	
		AP アカウンティング・プラクティス演習Ⅱ	2	2				○			○	
		ＡＰ経営コンサルティング論	2	3				○			○	
		上級簿記Ⅰ	2	2				○			○	
		上級簿記Ⅱ	2	2				○			○	
		上級財務諸表論Ⅰ	2	2				○			○	
		上級財務諸表論Ⅱ	2	2				○			○	
		上級工業簿記	2	2				○			○	
		上級原価計算	2	2				○			○	
		入門パーソナルファイナンス	2	2				○			○	
		応用パーソナルファイナンス	2	2				○			○	
	以上ＡＰコースⒷ選択必修											

※ BP コースと AP コースの併願および両属を認める。ただし、BP コースと AP コースの両属になった場合も、BP インターンシップには参加しなければならない。

ビジネス・リーダー養成プログラムについて

本プログラムは、経営学、会計学および商学の３分野の専門的知識を習得したうえで、より高度な学習を行いたいとの意欲を持った学生のために設置されている。ビジネス・プロフェッション・コース（BP コース）、グローバル・ビジネス・コース（GB コース）、アカウンティング・プラクティス・コース（AP コース）の３コースからなるが、その概要は以下のとおりである。

ビジネス・プロフェッション・コース（BP コース）

３年次に長期のフルタイムインターンシップに参加し、その成果を踏まえ、企業経営全般の専門知識を「現場」で使いこなす能力を身に付けることを目標とする。そのために、2 年次において、「BP 演習Ⅰa」、「BP 演習Ⅰb」、「BP コース特論Ⅰ」、「BP コース特論Ⅱ」、「BP 経営コンサルティング論」を履修し、経営学の諸分野に関する基礎固めを行う。これらの科目は、少人数で開講し、多くの課題が出され、双方向的な形で授業が進められるなど、密度の高い演習・講義が行われる。３年次に「BP 演習Ⅱa」および「BP コース特論Ⅲ」を履修するとともに、インターンシップに参加する。４年次には、それまで習得した知見、経験、問題意識を基に卒業論文を作成する「BP 演習Ⅲ」を履修する。

グローバル・ビジネス・コース（GB コース）

コースにおいて開講されている各種の語学科目を履修し（20 単位程度、Ⓑ選択必修として卒業必要単位に算入される）、海外留学を目指す。このコースの学生として留学すると、留学先での各種の経験に対しても、単位認定が行われる。

アカウンティング・プラクティス・コース（AP コース）

より実務志向的な、または、資格を目指した簿記関連科目、キャリア創生共通科目を履修し、会計実務の即戦力となることを目指す。日商簿記検定２級に単に合格するだけではなく、その内容を完全に自分のものとすることを最低限の目標とする。これを前提に各種資格試験合格のための基礎をかためる。

Ⅰ．ガイダンス・選考日程（本プログラムへの登録申請手続）

本プログラムは、１年次後期に募集と選考が行われ、２年次からスタートする。各コースの出願のための日程などの予定は以下のとおりである。

４月上旬 ：新入生履修指導（BL 養成プログラムの概要説明）
12 月中旬 ：ガイダンス（選考日程・内容の公表、登録申請手続の説明、既履修生の体験説明）
１月下旬 ：登録申請書の提出
２月中旬 ：面接試験の実施
３月中旬 ：選考結果の発表、履修指導ガイダンス

Ⅱ．登録申請条件および選考方法

	BP コース〈20 名程度〉	GB コース〈40 名程度〉	AP コース〈80 名程度〉
登録申請条件	・1 年次配当の「総論 3 科目のうち 2 科目以上＋外国語 5 科目」のうち、前期開講科目の単位を修得済みで、かつ後期開講科目の単位を修得見込みの学生は登録申込みを行うことができる。 ・上記の後期開講科目の単位をすべて修得できなかった場合には登録申込みを申込日に遡って取消すものとする。 **・BP コースに所属した場合、「専門演習Ⅰ」および「専門演習Ⅱ」に代えて、BP 演習を履修することになる。**	・1 年次配当の「総論 3 科目のうち 2 科目以上＋外国語 5 科目」のうち、前期開講科目の単位を修得済みで、かつ後期開講科目の単位を修得見込みの学生は登録申込みを行うことができる。 ・上記の後期開講科目の単位をすべて修得できなかった場合には登録申込みを申込日に遡って取消すものとする。 ・原則、「留学のための英語集中プログラム」を履修していること。もしくは TOEFL の ITP430 点以上、TOEIC450 点以上を有していること。	・2 年次進級時に以下の 3 つの条件を満たす見込みがあるものは、登録申込みを行うことができる。①総論 3 科目のうち 2 科目以上の単位を修得していること。②外国語科目 5 科目のうち、4 科目の単位を修得していること。③日商簿記 3 級に合格していること。 ・上記条件が 2 年次前期開講時に満たされていない場合は、登録申込みを申込日に遡って取消すものとする。
選抜方法	・選抜方法は、以下の 2 点の評価を総合して決定 ①書類選考 ・1 年次の成績と志望動機 ②面接試験 ・本プログラムへの参加意欲、コミュニケーション能力、一般教養・専門知識などを確認	・選抜方法は、以下の 2 点の評価を総合して決定 ①書類選考 ・1 年次の成績と志望動機 ②面接試験 ・本プログラムへの参加意欲、コミュニケーション能力、一般教養・専門知識などを確認	・選抜方法は、以下の 2 点の評価、確認により決定 ①書類選考 ・1 年次の成績と志望動機 ②資格確認 ・日商簿記検定 3 級取得

※ただし、2026 年 4 月 1 日時点で、日商簿記検定 2 級取得者については、1 年次から AP コースに所属することが可能である。所属希望者は 4 月上旬の新入生履修指導（BL 養成プログラムの概要説明・AP コース向けガイダンス）に出席すること。

Ⅲ．科目履修上の諸注意

本プログラムに所属する学生（以下、当該学生という。）は、履修指導ガイダンスに出席し、履修指導を受けること。

1. 当該学生は、経営学部開講の科目に限り経営学部専門教育科目表の配当年次に関わらず、所属する年次を超える配当年次の授業科目を履修できる。
2. 当該学生は、経営学部専門教育科目表科目に加えて、「ビジネス・リーダー養成プログラム専門教育科目表」に記載の科目を卒業必要単位として算入できる。

3. 以下の科目については、いずれか一方の科目のみ履修可能である。

ビジネス・リーダー養成プログラム専門教育科目表	経営学部専門教育科目表
ＧＢビジネス英会話・初級	ビジネス英会話・初級
ＧＢビジネス英会話・上級	ビジネス英会話・上級
ＧＢビジネス英語Ⅰ	ビジネス英語Ⅰ
ＧＢビジネス英語Ⅱ	ビジネス英語Ⅱ
ＧＢビジネス特論Ⅰ	グローバル・ビジネス特論Ⅰ
ＧＢビジネス特論Ⅱ	グローバル・ビジネス特論Ⅱ
ＧＢ外書講読Ⅰ	外書講読Ⅰ
ＧＢ外書講読Ⅱ	外書講読Ⅱ
ＢＰ経営コンサルティング論	経営コンサルティング論
ＡＰ経営コンサルティング論	

4. BP コース科目に関しては、原則として配当年次にのみ履修可能であり、再履修は認めない。

5. 以下の GB コース科目を履修するためには、原則右側に記載されている科目の単位を修得していることを前提とする。ただし、学力の状況によって例外的な取扱いが行われることもある。例外的な取扱いを希望する場合は、経済・法・経営学部合同事務室（9 号館 1 階）に申出ること。

当該科目	前提となる科目
GBコースTOEFL・IELTSⅢ	GBコースTOEFL・IELTSⅠ
GBコースTOEFL・IELTSⅣ	GBコースTOEFL・IELTSⅡ
ＧＢビジネス英会話・上級	ＧＢビジネス英会話・初級
ＧＢビジネス英語Ⅱ	ＧＢビジネス英語Ⅰ

6. 以下の AP コース科目の履修は原則次の年次・学期とする。

ただし、学習の進捗状況によって例外的な取扱いが行われることもある。例外的な取扱いを希望する場合は、経済・法・経営学部合同事務室（9 号館 1 階）に申出ること。

当該科目	履修すべき学年・学期
APアカウンティング・プラクティスⅠ	2年次・前期
APアカウンティング・プラクティスⅡ	2年次・前期
APアカウンティング・プラクティス演習Ⅰ	2年次・後期
APアカウンティング・プラクティス演習Ⅱ	2年次・後期
上級簿記Ⅰ	3年次
上級簿記Ⅱ	3年次
上級財務諸表論Ⅰ	3年次
上級財務諸表論Ⅱ	3年次
上級工業簿記	3年次
上級原価計算	3年次

Ⅳ．卒業要件とプログラム修了要件

1. 本プログラムに所属する学生の卒業のために必要な単位数や、卒業必要単位に算入できる専門教育科目以外の科目などは一般の学生と同様である。

2. プログラムの修了要件

本プログラムに参加し、その趣旨に見合った成果を残した学生を、「プログラム修了生」とする。プログラムを修了するためには、以下の要件を満たしている必要がある。

(1) ビジネス・プロフェッション・コース（BP コース）

①3 年次にインターンシップに参加し、「BP インターンシップⅠ」、「BP インターンシップⅡ」の 12 単位と「BP インターンシップ実践演習」、「BP 演習Ⅰb」、「BP 演習Ⅱa」、「BP 演習Ⅱb」、「BP 演習Ⅲ」の 12 単位を修得していること。

②ただし、インターンシップに参加するためには、「BP コース特論」から、4 単位以上修得し、さらに、「BP 演習Ⅰb」、「BP 演習Ⅱa」の単位を修得しておく必要がある。

(2) グローバル・ビジネス・コース（GB コース）

①卒業時に GB コース科目から、18 単位以上修得していること。ただし、国際交流センターによる 1 年以上の交換留学を終えた場合は、18 単位以下でも GB プログラム修了とする。

②GB コース学生として、交換留学、語学プラス交換留学、奨励留学、エリアスタディーズ、認定校留学を行い、「ＧＢ国際アクティビティーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得していること。

③「ＧＢ国際アクティビティーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の単位が付与される留学制度は、国際交流センターによる交換留学、語学プラス交換留学、奨励留学である。エリアスタディーズは、「GB 国際アクティビティーⅠ」のみとする。認定校留学の単位は、留学内容によって GB 運営委員会にて判断する。交換留学、語学プラス交換留学、奨励留学は、国際交流センターにおいて、留学先大学に応じて、所定の時期に選考が行われる。

④「グローバル・コミュニケーションⅠ」、「グローバル・コミュニケーションⅡ」は必修。

(3) アカウンティング・プラクティス・コース（AP コース）

①「AP アカウンティング・プラクティスⅠ」、「AP アカウンティング・プラクティスⅡ」、「AP アカウンティング・プラクティス演習Ⅰ」、「AP アカウンティング・プラクティス演習Ⅱ」は必修。

②その他の AP コース科目を 10 単位以上修得していること。

③日商簿記検定 2 級以上に合格していること。

※例外的に、日商簿記検定 2 級合格後 AP コースに所属した学生（入学時、2 年次進級時所属の両方を含む）に関しては、②の条件を満たすのみで修了と認める。また、日商簿記検定 1 級合格、税理士試験の科目合格、公認会計士試験の短答式試験合格、いずれかの場合は、そのことのみをもって修了と認める（①から③の条件は課さない）。

経営学部の早期卒業制度について

経営学部では平成 20 年度より、3 年で卒業を認める「早期卒業制度」を導入している。

本学大学院社会科学研究科経営学専攻または他大学の会計大学院（以下「大学院」という。）への進学を希望し、かつ、学業が特に優秀な学生に対し、3 年で卒業を認める「早期卒業」が可能である。この制度を利用し、3 年次終了時に大学卒業資格（学士）を得て大学院に進学し、大学院修士課程または専門職学位課程の 2 年間を合わせた 5 年間で学士号と修士号の二つの学位を取得することができる。これにより、有能な人材が大学院に進むことが期待され、その結果、高い専門的な教育を受けた人材を多く社会に送り出すことによって、社会的ニーズに応えることを目的としている。

【早期卒業制度とは】

卒業単位を優秀な成績で修得したと認められ、かつ、大学院への進学が確定していることを条件に学生自らが希望し、3 年以上在籍で卒業することをいう。

【実施要領】

1. 申請期日・申請書類提出場所は『履修ガイドブック』を参照すること。
2. 申請条件
   (1) 3 年次前期終了時に卒業に必要な修得単位数の合計が 102 単位以上であり、後期履修登録とあわせて、卒業に必要な単位数を修得見込みであること。
   (2) 大学院への進学を強く希望し、学内推薦試験の受験資格を満たしている者。
3. 候補者の判定基準
   (1) 本人が早期卒業を希望していること。
   (2) 在学期間が当該年度末において 3 年であること。
   (3) 在学期間にかかる卒業要件以外の卒業要件を全て満たしていること。
   (4) 成績が優秀と判定されること。
   (5) 選考試験等（9 月実施）に合格すること。
4. 候補者の指導

   候補者の単位修得、大学院への進学（学内推薦入学試験の受験）が円滑に行えるように随時、指導主任から指導を受けるものとする。また、履修制限の緩和が必要と認める場合には、別途検討する。

   なお、候補者が早期卒業の希望を取消す場合には速やかに届け出なければならない。
5. 卒業要件

   3 年次終了時に、次の全ての卒業要件を満たした学生について、3 月の卒業判定会議の議を経て、認定を行う。

   (1) 本人が早期卒業を希望していること。

(2) 卒業に必要な単位を全て修得していること。

(3) 大学院への進学が決定していること。

(4) 早期卒業に関する審査を経て、専門科目に関する高度な資質と能力を有すると判定された者。

6. 早期卒業候補者の辞退と卒業要件をクリアできなかった場合

(1) 辞退した時点で、履修登録の緩和を取消すとともに、緩和による登録科目を取消す。

(2) 3年次終了時に要件を満たしていないことが判明した場合には、履修制限内の修得単位は卒業単位として認定し、履修制限の緩和により登録した科目の修得単位は履修登録を取消すものとする。

(3) 早期卒業の認定を受けた者であっても、大学院への入学資格を喪失した場合は、早期卒業の認定を取消し、4年に在学するものとする。

甲南大学経営学部早期卒業に関する規程

平成27年3月19日　大学会議改正

（趣旨）

第1条　この規程は、甲南大学学則（以下「学則」という。）に基づき、経営学部に3年以上在学した者に対する卒業（以下「早期卒業」という。）の認定に関し、必要な事項を定める。

（対象者）

第2条　早期卒業は、学則に定める経営学部の卒業必要単位を修得し、本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は別に定める大学院への進学の意思及び理由が明確であると認められた者を対象とする。

（改廃）

第3条　この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が決定する。

附　則

1　この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2　この規程は、平成24年入学生から適用する。

附　則

1　この規程は、平成27年4月1日から施行する。

経営学部早期卒業に関する申し合わせ

平成 27 年 2 月 13 日　経営学部教授会改正

（趣旨）

第 1 条　この申し合わせは、「甲南大学経営学部早期卒業に関する規程」に基づき、甲南大学経営学部に 3 年以上在学し、本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院に進学することが認められた者に対する卒業（以下「早期卒業」という。）を認定することに関し必要な事項を定める。

（早期卒業の要件）

第 2 条　早期卒業の認定を受けることができる者は、次に挙げる全ての要件を満たしていなければならない。

(1) 本人が早期卒業を希望していること。

(2) 卒業に必要な単位を全て修得していること。

(3) 本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院への進学が決定していること。

(4) 早期卒業に関する審査を経て、専門科目に関する高度な資質と能力を有すると判定された者。

（早期卒業の希望及び候補者の決定）

第 3 条　早期卒業を希望する者は、3 年次前期終了時までに「経営学部早期卒業申請書」を提出するものとする。

2　次の要件を満たし、経営学部教授会の議により成績優秀と認められた者について、早期卒業予定者（以下「候補者」という。）と認定する。

(1) 3 年次前期終了時において、卒業に必要な修得単位数の合計が 102 単位以上であり、後期履修登録とあわせて、卒業に必要な単位数を取得見込であること。

(2) 本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院への進学を強く希望している者。

（候補者の指導と受講制限の緩和）

第 4 条　候補者は、大学院への進学が円滑に行えるように指導主任から指導を受けるものとする。

2　受講制限の緩和が必要と認められる場合には、8 単位を上限に教授会で承認する。

（早期卒業の認定）

第 5 条　早期卒業の要件を満たした候補者に対して、早期卒業の意思確認を行った後、審査の上、教授会の議を経て、それに基づき認定を行う。

（早期卒業希望の撤回）

第 6 条　候補者で、早期卒業を希望しなくなった場合には速やかに届け出なければならない。

（早期卒業認定の取り消し）

第 7 条　早期卒業の認定を受けた者であっても、本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院への入学資格を喪失した場合は、教授会の議を経て早期卒業の認定を取り消す。

（早期卒業の時期）

第 8 条　早期卒業の時期は、3 年次の 3 月とする。

松山大学との学生交流協定に基づく経営学部派遣聴講生の募集について

Ⅰ．松山大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経営学部と松山大学経営学部との間で学生交流協定を締結している。

二つの大学の経営学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

松山大学経営学部の学生を本大学経営学部に特別聴講生として受入れるとともに、松山大学での学修を希望する本大学経営学部の学生を松山大学経営学部に派遣聴講生として派遣する。募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。

岡山商科大学との学生交流協定に基づく経営学部派遣聴講生の募集について

Ⅰ．岡山商科大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経営学部と岡山商科大学経営学部との間で学生交流協定を締結している。

二つの大学の経営学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

岡山商科大学経営学部の学生を本大学経営学部に特別聴講生として受入れるとともに、岡山商科大学での学修を希望する本大学経営学部の学生を岡山商科大学経営学部に派遣聴講生として派遣する。募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。

武蔵大学との学生交流協定に基づく経営学部派遣聴講生の募集について

Ⅰ．武蔵大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部との間で学生交流協定を締結している。

本大学の経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

武蔵大学経済学部の学生を本大学経営学部に特別聴講生として受入れるとともに、武蔵大学での学修を希望する本大学経営学部の学生を武蔵大学経済学部に派遣聴講生として派遣する。募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。

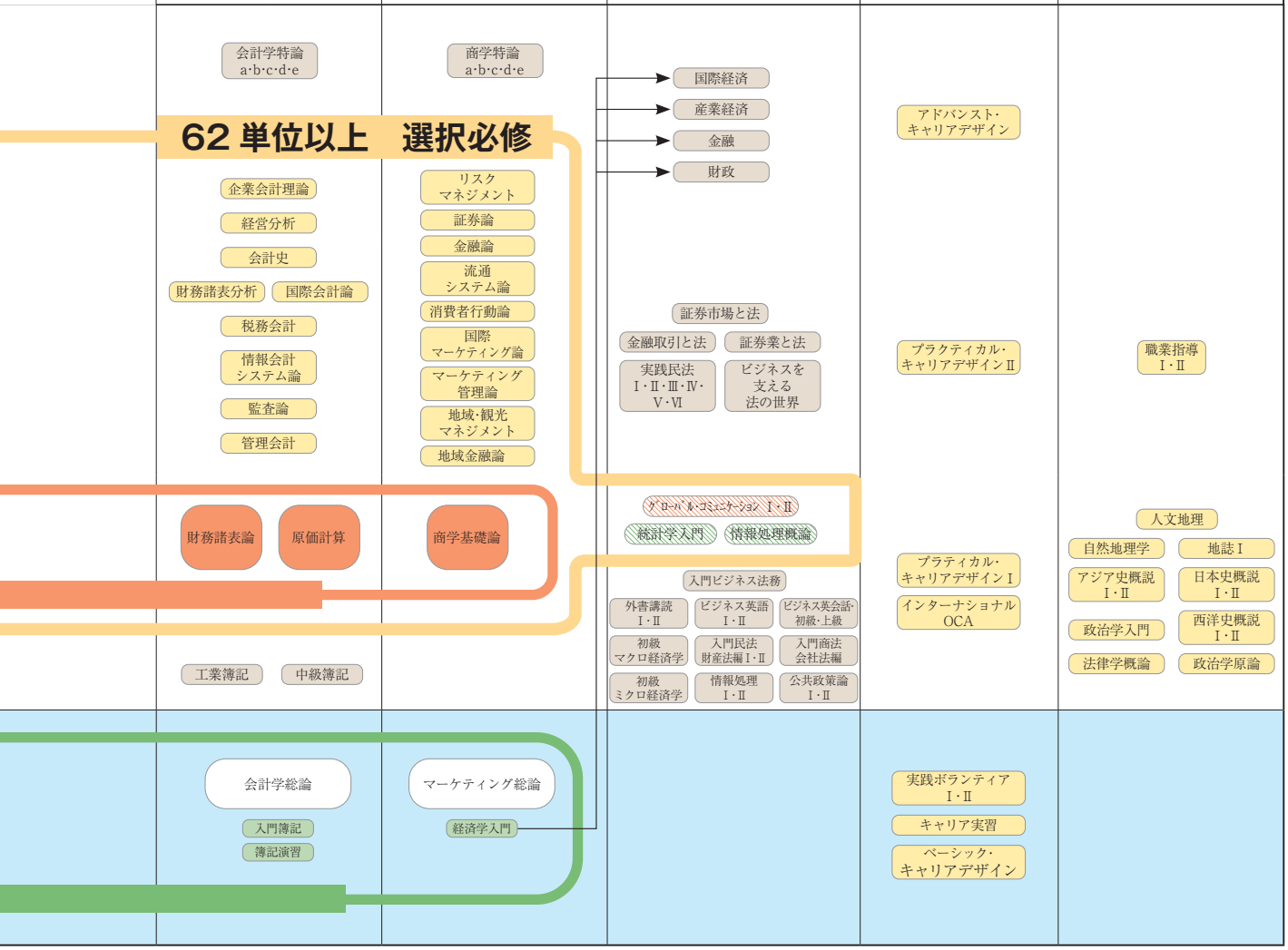
経営学部 経営学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針(DP)	(1)【専門・知識】ビジネスパーソンに必要な社会的協調力と自発的遂行及び倫理的責任力を有しています。		
	(2)【人物教育】天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。		
	(3)【広い教養】幅広い教養に裏付けられた経営学の知識・理解力を修得しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号	(1) (2) (3) (6)	(1) (3) (4) (6)	(1) (3) (4) (5)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す、自律的洞察力を有している。	B 企業組織の仕組みやその背後の論理を学び、ビジネスパーソンにとって必要な知識や洞察力を有している。
科目群	全学共通科目	演習科目	経営系科目
4年次			経営コンサルティング論 経営学特論 a·b·c·d·e 経営実務 a·b·c·d
3年次		専門演習Ⅱ 専門演習Ⅰ	B 環境経営論 非営利組織論 ベンチャービジネス 中小企業論 ビジネスシステム論 経営科学 アジア経営論 工業経営論 国際経営論 経営組織論 国際ビジネス事情 経営財務論 経営労務論 経営史 経営学史
2年次	基礎共通科目(人文·自然·社会)*1		経営管理論 経営戦略論 基礎専門科目 起業·アントレプレナーシップを学ぶ グローバル·ビジネス特論 Ⅰ·Ⅱ
1年次	基礎共通科目(人文·自然·社会)*1 基礎共通科目(導入共通/学際融合等)*2 スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ College English Writing College English Reading College English Speaking College English Listening 基礎第2外国語Ⅱ(ドイツ語·フランス語·中国語·韓国語·日本語) 基礎第2外国語Ⅰ(ドイツ語·フランス語·中国語·韓国語·日本語)	基礎演習 A 16単位以上選択必修	経営学総論

1. 基礎共通科目は、合計18単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位以上(*1)
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT基礎」「AI·データサイエンス入門」の中から2単位以上、学際融合系·国際言語文化系·スポーツ健康系の授業科目の中から2単位以上(*2)

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)【専門・知識】各種スキルと論理的思考力を有し、それに基づいて経営問題の発見・説明・解決力を体得しています。
	(5)【人物教育】豊かな個性に基づいた社会的貢献力を有しています。
	(6)【専門・知識】自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。

(1) (3) (4) (5)	(1) (3) (4) (5)	(1) (2) (5)	(2) (5) (6)	(2) (5) (6)
C 会計の原則とその背後の論理を学び、企業会計を理解し、実践する能力を有している。	**D** 企業と市場との関係を理解し、それに基づいて企業経営を洞察できる能力を有している。	**E** 幅広い教養や情報収集力を身につけ、複眼的に現代社会を視ることができる。	**F** 社会の一員として働くことの意識を高め、社会的貢献ができるべく、キャリア形成のための基礎力を有している。	**G** 人文科学や社会科学の教養を身につけ、進路指導に関して教育職員としての基礎的指導力を有している。
会計系科目	商学系科目	一般科目	キャリアデザイン系科目	教職科目



2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、選択必修の単位数に充てることはできない。
①中級外国語·上級外国語·海外語学講座·留学支援科目の単位を併せて20単位以内（ただし、国際言語文化副専攻に登録した者が履修する「中級英語Writing」、「中級英語Presentation」、「中級ドイツ語Ⅰ·Ⅱ」、「中級フランス語Ⅰ·Ⅱ」、「中級中国語Ⅰ·Ⅱ」、「中級韓国語Ⅰ·Ⅱ」および「大学日本語中級Ⅰ·Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ·Ⅱ」を除く。）
②文学部英語英米文学科「English Studies Ⅰ～Ⅷ」から、8単位以内
③生涯スポーツについては、2単位以内
④「IT応用」の2単位
⑤「エリアスタディーズⅠ～X」については、4単位以内
⑥「ジャパンスタディーズ 1～14」については、6単位以内
⑦「地域ファシリテイト」、「地域プロジェクトⅠ」、「地域プロジェクトⅡ」については、6単位以内
⑧「データサイエンス基礎」の2単位
注）上記2の①～⑧の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

知 能 情 報 学 部

知 能 情 報 学 部

知能情報学科

教育基本方針

甲南大学知能情報学部は、甲南大学創設者の平生釟三郎の教育理念「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の才能を引き出す」を踏襲し、専門的能力の育成とともに、「個々人のバランスのとれた人間性」、「他者の文化を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力」を引き出すことを目的としています。この理念のもと、知能情報学部では、情報学と、工学及び理学の情報学に関わる分野について、徹底したインタラクティブ（双方向）教育によって学び、「ＩＣＴをベースに人間力と感性・知性で未来を切り拓く人材」を育成します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。知能情報学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目 16 単位、外国語科目８単位、保健体育科目２単位、専門教育科目 102 単位以上）を修得し、下記の能力・資質を身につけた学生に、学士（知能情報学）の学位を授与します。

(1) 人間力・コミュニケーション能力を有しています。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 知能情報学の知識の基礎から応用まで幅広く修得しています。
(5) チームを組んで問題を解決でき、知能情報学における研究課題を深く理解することができます。
(6) 自ら問題を発掘し、解決することができ、研究成果の効果的な発表能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

知能情報学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な演習科目を設けます。知能情報学部では専門教育科目において、基礎となる数学科目とプログラミング、及び４年間の学びを概観し教員と直接交流する「知能情報学概論及び基礎演習」を配置します。
(2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
(3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む基礎的な幅広い知識や異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 知能情報学に関する知識を基礎から応用まで幅広く修得する科目を配置します。特に、２年次、３年次は、本学部が提供する専門教育科目群から、各人の興味や将来の希望に合わせて履修し、知能情報学における知識を体系的に理解するとともに、自ら学びの視点を増やし、国際的な広い視野と柔軟な発想力を育成する科目を配置します。
(5) ４年次では、各自のテーマについての研究又は演習を行い、その成果を卒業論文にまとめ発表することにより、学部における学修の集大成をする「卒業研究及び演習」を配置します。
(6) 全学年を通じて教員と学生が緊密な関係を結び､学生が主体的に学べるよう､徹底したインタラクティブ教育を展開します。１年次「知能情報学概論及び基礎演習」、２年次「プロジェクト演習」と「コース演習」、３年次「知能情報学セミナーⅠ」と「知能情報学セミナーⅡ」、４年次「卒業研究及び演習」と、各学年に演習形式の授業を設け、学修面のきめ細かな指導はもちろん、協調性や社会性の養成にも力を入れます。
(7) 各学年のゼミにおけるグループ作業やプレゼンテーションを通して、問題発掘及び問題解決の一連のプロセスをまとめ、発表する能力を養います。また、ＩＴ技術を活用して、問題解決に必要な情報を収集・分析・整理する方法、及び高性能な計算環境を利用した問題指向的なソフトウェアを作成するための高度な知識と技法を学ぶ機会を提供します。
(8) 情報化社会の現状、情報産業の社会的位置づけと意義を理解し、情報産業に携わる個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身につけるため、初年次から４年次まで一貫してキャリア支援を実施し、学生が最適な進路決定をできるように取り組みます。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実験・実習・演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	人間力・コミュニケーション能力を有しています。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	知能情報学の知識の基礎から応用まで幅広く修得しています。
(5)	チームを組んで問題を解決でき、知能情報学における研究課題を深く理解することができます。
(6)	自ら問題を発掘し、解決することができ、研究成果の効果的な発表能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1) (2) (3)
A	知能情報学に関する基礎的な知識を修得し、適切に使うことができる。	(4)
B	知能情報学に関する幅広い専門知識を修得し、適切に使うことができる。	(4)
C	知能情報学の基礎的・専門的知識と、他者の意見を尊重するコミュニケーション能力を活かし、様々な課題を解決に導き、目標達成に貢献できる。	(1) (4) (5)
D	長期間にわたる実験や演習を通して知能情報学に関する専門知識を修得し、各分野の知識や議論をもとに実験や演習の結果を理論的に解析することができる。	(2) (6)

授業科目表（知能情報学部知能情報学科）　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D
全学共通科目		基礎共通科目	*	*	○				
		外国語科目	*	*	○				
		保健体育科目	*	*	○				
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位）26単位									
専門教育科目	必修科目	知能情報学概論及び基礎演習	2	1		○		○	
		プログラミング演習Ⅰ	2	1		○			
		プログラミング演習Ⅱ	2	1		○			
		微分積分及び演習Ⅰ	3	1		○			
		微分積分及び演習Ⅱ	3	1		○			
		線形代数及び演習Ⅰ	3	1		○			
		線形代数及び演習Ⅱ	3	1		○			
		確率統計Ⅰ	2	1		○			
		アドバンストプログラミング演習	2	2		○			
		知能情報学セミナーⅠ	2	3			○	○	○
		知能情報学セミナーⅡ	2	3			○	○	○
		卒業研究及び演習	8	4			○	○	○
	以上34単位必修								
	選択必修科目	コンピュータサイエンス	2	1		○			
		情報通信ネットワーク	2	2		○			
		情報理論	2	2		○			
		データ構造とアルゴリズムⅠ	2	2		○			
		コンピュータアーキテクチャ	2	2		○			
		オペレーティングシステム	2	2		○			
		人工知能	2	2		○			
		ヒューマンインタフェース	2	2		○			
		データ構造とアルゴリズムⅡ	2	2		○			
		データベース	2	2		○			

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標				
					Z	A	B	C	D
専門教育科目	選択必修科目	コース演習：クラウドシステム	2	2			○	○	
		コース演習：AI データサイエンス	2	2			○	○	
		コース演習：知能ロボット	2	2			○	○	
		コース演習：メディアデザイン	2	2			○	○	
		コース演習：ヒューマンセンシング	2	2			○	○	
		コース演習：数理情報	2	2			○	○	
	以上のうち 16 単位以上選択必修								
	選択科目	IT 基礎	2	1		○			
		情報社会と情報倫理	2	2			○		
		確率統計Ⅱ	2	2			○		
		応用統計学	2	2			○		
		オブジェクト指向プログラミング	2	2			○		
		信号解析	2	2			○		
		コンパイラ・インタプリタ	2	2			○		
		最適化	2	2			○		
		情報セキュリティ	2	2			○		
		センサー工学	2	2			○		
		電気電子回路入門	2	2			○		
		グラフ理論	2	2			○		
		離散数学	2	2			○		
		数値解析	2	2			○		
		集合と論理	2	2			○		
		プロジェクト演習	2	2			○	○	
		情報英語	2	2			○		
		認知情報科学	2	3			○		
		人間工学	2	3			○		
		ロボティクス	2	3			○		
		メディア情報処理	2	3			○		
		Web コンピューティング	2	3			○		
		コンピュータグラフィックス	2	3			○		
		ソフトウエア工学	2	3			○		
		機械学習	2	3			○		
		システム解析	2	3			○		
		行動計測学	2	3			○		
		自然言語処理	2	3			○		
		実験デザインとデータ処理	2	3			○		
		画像工学	2	3			○		
		感性計測学	2	3			○		
		メディアデザイン	2	3			○		
		代数学	2	3			○		
		応用代数学	2	3			○		
		解析学	2	3			○		
		幾何学	2	3			○		
		情報と職業	2	3				○	
専門教育科目　102 単位以上									
卒業必要単位数　128 単位以上									

【卒業必要単位数】

1. 知能情報学部知能情報学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目	16 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	34 単位
選択必修科目	16 単位以上
選択科目	
合　計	128 単位以上

2.「データサイエンス基礎」の２単位については、専門教育科目として選択科目に充てることができる。

3.「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「プラクティカル・キャリアデザインⅠ」、「プラクティカル・キャリアデザインⅡ」については、合計 4 単位までを専門教育科目として選択科目に充てることができる。

4. 次表の左欄に掲げる授業科目については、それぞれ中欄に掲げる単位数を上限として、合計 8 単位までを専門教育科目として選択科目に充てることができる。

中級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・外国留学科目・日本語） 上級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・外国留学科目・日本語） 海外語学講座Ⅰ～Ⅳ	8 単位まで	合計 8 単位まで
エリアスタディーズⅠ～X	2 単位まで	
地域ファシリテイト、地域プロジェクトⅠ～Ⅱ	2 単位まで	

5. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ～Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ～Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ～Ⅱ」）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生が履修することができる。

Ⅰ．履修登録科目の単位制限について

知能情報学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討したうえで履修登録科目を選択すること。

知能情報学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和７年２月27日　改正〕

【令和７年度以降入学生】

１　知能情報学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける単位数は次のとおりである。

１年次	２年次	３年次	４年次
通　　年	通　　年	通　　年	通　　年
49単位以内	49単位以内	49単位以内	49単位以内

２　次に掲げる科目の単位については、上記の単位制限を受けない。

（1）教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」

（2）外国語科目にある海外語学講座・留学支援科目のうち海外語学講座

（3）キャリア創生共通科目（ただし、「データサイエンス基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」、「プラクティカル・キャリアデザインⅠ」、「プラクティカル・キャリアデザインⅡ」、「地域ファシリテイト」は上記の単位制限を受ける。）

（4）その他の卒業単位に算入されない授業科目

（中略・令和６年度以前の入学生適用表　略）

（改廃）

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、令和７年４月１日から施行する。

Ⅱ．知能情報学部「卒業研究及び演習」審査基準について

卒業研究の成果と卒業研究発表会の結果に基づいて、以下の項目について総合的に判断し、学部教員全員による評価を行う。60点以上（100点満点）を得た者を合格とする。

（1）テーマの妥当性

研究課題が、関連する知識に基づいて、指導教員との相談を経て決定され、意義のあるものとなっていること。

（2）方法の適切性

研究分野における適切な研究方法を用いていること。

(3) 内容の豊かさ

分析および考察などが充実しており、内容が十分練られたものであること。

(4) 表現能力

レジメの体裁が整い、内容が適切に伝わるものとなっていること。また、卒業研究発表会において内容を分かりやすく説明でき、質問に正確かつ端的に答えられること。

Ⅲ．科目履修上の諸注意

1. 知能情報学部生は、知能情報学科について、学則により指定された必修・選択必修科目の単位を修得しなければならない。また、履修科目の選択にあたっては、指導主任およびそれぞれの授業科目の担当教員に相談のうえ、その選択を誤らないよう留意されたい。
2. 専門教育科目は、配当年次を考慮して履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は原則として履修できない。
3. 次の授業科目は、設備などに限界があるため、知能情報学科の学生以外の履修は原則として認めない。
   - ●「知能情報学概論及び基礎演習」
   - ●「プログラミング演習Ⅰ」、「プログラミング演習Ⅱ」
   - ●「アドバンストプログラミング演習」
   - ●「コース演習：クラウドシステム」、「コース演習：AI データサイエンス」、「コース演習：知能ロボット」、「コース演習：メディアデザイン」、「コース演習：ヒューマンセンシング」、「コース演習：数理情報」
   - ●「プロジェクト演習」
   - ●「知能情報学セミナーⅠ」

   ただし、特に希望する者については選考のうえ、許可することがあるので、履修登録とは別に、理由を付した履修許可願を教務部へ提出すること。提出期日は、『履修ガイドブック』を参照すること。
4. 知能情報学科では、学習の質を高めるために履修科目数の登録上限を設定する。具体的な内容については、「知能情報学部履修登録科目の単位制限に関する内規」を参照すること。各年度において履修登録できる単位数を超えて授業科目を登録することはできない。また、上記の単位制限は**各年度の修得単位数ではなく履修登録する授業科目の合計単位数**に対して制限を課すものであるから、前期・後期の履修すべき登録科目数（特に、必修科目および選択必修科目）に留意し、配当年次に従って着実に単位を修得すること。
5. 「知能情報学セミナーⅠ」（3 年次配当科目）を履修するにあたっては、前期の履修登録時に次の条件を満たしていることが必要である。

条件　卒業単位に算入される授業科目を 50 単位以上修得していること。

6.「知能情報学セミナーⅡ」(3 年次配当科目) および「卒業研究及び演習」(4 年次配当科目) は原則として同一教員のクラスを履修するものとする。

「知能情報学セミナーⅡ」を履修するにあたっては、原則として次の条件を満たしていることが必要である。

条件　「知能情報学セミナーⅠ」を修得していること。

「卒業研究及び演習」を履修するにあたっては、原則として次の条件を満たしていることが必要である。

条件　「知能情報学セミナーⅡ」を修得していること。

7.「キャリア実習」(1 年次配当科目) の希望者は、指定された期日までにキャリアセンターへ登録書の提出が必要である。なお､4 月の履修登録は必要としない。実施後に単位認定申請書の提出 (キャリアセンターに提出) をもって履修登録され、インターンシップの実施、事前・事後研修の受講およびレポートの提出により、成績評価される。「キャリア実習」の履修にあたっては、種々の手続きを要するので、履修希望者は履修年度の 4 月に、キャリアセンターで開かれるキャリア実習・ガイダンスに出席し、指示に従って手続きすること。

8. 知能情報学部では、本学部学部生の学修を奨励する目的で、成績優秀者を表彰している。表彰資格の学年は 2・3 年次 (表彰時は新 3・4 年次) とし、2 年次は学年の在籍者数の成績上位 6% 程度、3 年次は学年の在籍者数の成績上位 3% 程度を表彰する。選考は 1 年次から対象年次までの GPA に基づいて行う。

Ⅳ. 専門教育科目のコースについて

知能情報学部では、知能情報学科の専門教育科目について、履修モデルとして以下のような 6 つのコースを設けている。

【クラウドシステムコース】

インターネットシステムに関する理解を深め、ソフトウェア開発や、安全なネットワーク環境の実現を目指す

【AI データサイエンスコース】

ディープラーニングや機械学習について学び、ビッグデータの分析技術や活用方法を身につけ、AI アプリなどの開発を目指す

【知能ロボットコース】

センサー技術や制御技術およびロボット工学を学び、生活に溶込み人の役に立つロボットなどの開発を目指す

【メディアデザインコース】

映像情報や音情報等の表現や設計方法を学び、五感に働きかける情報メディアの直感的な表現技術などの開発を目指す

【ヒューマンセンシングコース】

人間の行動特性や情報の伝達方法を学び、人間とコンピュータや機械との関係をより良くする方法の開発を目指す

【数理情報コース】

数学を基礎に、数理論理能力と情報技術を身に付け、数学教員から情報技術者まで幅広く活躍できる人材を目指す

各コースには、コースに関係する分野を学修するために必要な科目である特有科目が定められている。履修科目の選択にあたっては、6つのコースから、少なくとも2つのコースにおいて、各コースの特有科目を、それぞれ20単位以上修得することが望ましい。

知能情報学科におけるコース制について不明な点があれば、指導主任に相談のうえ、卒業要件（「授業科目表」および【卒業必要単位数】を参照）に不足の生じないように注意すること。

コース特有科目

選択必修科目	配当年次	クラウドシステム	AIデータサイエンス	知能ロボット	メディアデザイン	ヒューマンセンシング	数理情報
コンピュータサイエンス	1	○	○	○	○	○	○
情報通信ネットワーク	2	○					
情報理論	2	○	○	○			○
コンピュータアーキテクチャ	2	○	○				
データ構造とアルゴリズムⅠ	2	○	○	○	○	○	
オペレーティングシステム	2	○				○	
人工知能	2		○	○			
ヒューマンインタフェース	2			○	○	○	
データ構造とアルゴリズムⅡ	2	○	○	○	○	○	
データベース	2	○	○				
コース演習：クラウドシステム	2	○					
コース演習：AIデータサイエンス	2		○				
コース演習：知能ロボット	2			○			
コース演習：メディアデザイン	2				○		
コース演習：ヒューマンセンシング	2					○	
コース演習：数理情報	2						○

選択科目	配当年次	クラウドシステム	AIデータサイエンス	知能ロボット	メディアデザイン	ヒューマンセンシング	数理情報
IT基礎	1						
情報社会と情報倫理	2						
確率統計Ⅱ	2		○		○	○	○
応用統計学	2		○	○		○	○
オブジェクト指向プログラミング	2	○					
信号解析	2			○	○	○	○
コンパイラ・インタプリタ	2	○					
最適化	2		○	○			○
情報セキュリティ	2	○					○
センサー工学	2			○	○	○	
電気電子回路入門	2			○	○	○	
グラフ理論	2	○					○
離散数学	2	○					○
集合と論理	2						○
数値解析	2						○
プロジェクト演習	2	○	○	○	○	○	
情報英語	2						
認知情報科学	3				○	○	
人間工学	3				○	○	
ロボティクス	3			○	○		
メディア情報処理	3			○	○	○	
Ｗｅｂコンピューティング	3	○	○				
コンピュータグラフィックス	3			○	○		
ソフトウエア工学	3	○					
機械学習	3		○	○	○	○	
システム解析	3			○			○
行動計測学	3		○	○	○	○	
自然言語処理	3		○	○			
実験デザインとデータ処理	3				○	○	
画像工学	3			○	○	○	
感性計測学	3				○	○	
メディアデザイン	3			○	○	○	
代数学	3						○

選択科目	配当年次	クラウドシステム	AIデータサイエンス	知能ロボット	メディアデザイン	ヒューマンセンシング	数理情報
応用代数学	3						○
解析学	3			○			○
幾何学	3						○
情報と職業	3						

知能情報学部 知能情報学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	（1）人間力・コミュニケーション能力を有しています。 （2）天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 （3）人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に 関する技能を有しています。	
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	（1）（2）（3）	（4）
到達目標	**Z** 人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	**A** 知能情報学に関する基礎的な知識を修得し、適切に使うことができる。
科目群	全学共通科目	基礎科目
4年		
3年		
2年	基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1	アドバンストプログラミング演習 情報通信ネットワーク 情報理論 データ構造とアルゴリズムⅡ データ構造とアルゴリズムⅠ コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム 人工知能 ヒューマンインタフェース データベース
1年	基礎共通科目（導入共通 / 学際融合等）＊2 基礎共通科目（人文・自然・社会）＊1 スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ College English Reading College English Writing College English Listening College English Speaking 基礎第2外国語Ⅱ（英語（Content/Project- based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語） 基礎第2外国語Ⅰ（英語（Content/Project- based）・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	プログラミング演習Ⅱ プログラミング演習Ⅰ 微分積分及び演習Ⅱ 微分積分及び演習Ⅰ 線形代数及び演習Ⅱ 線形代数及び演習Ⅰ 確率統計Ⅰ コンピュータサイエンス IT 基礎

1. 基礎共通科目は、合計 16 単位を取得しなければならない。
   ① 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位（＊1）
   ② 導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から 2 単位、
   学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2 単位（＊2）
2.「データサイエンス基礎」の 2 単位については、専門教育科目として選択科目に充てることができる。
3.「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「プラクティカル・キャリアデザインⅠ」、「プラクティカル・キャリアデザインⅡ」
   については、合計 4 単位までを専門教育科目として選択科目に充てることができる。

注）上記 2、3 の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4) 知能情報学の知識の基礎から応用まで幅広く修得しています。	
	(5) チームを組んで問題を解決でき、知能情報学における研究課題を深く理解することができます。	
	(6) 自ら問題を発掘し、解決することができ、研究成果の効果的な発表能力を有しています。	

	(4)	(1) (4) (5)	(2) (6)
	B 知能情報学に関する幅広い専門知識を修得し、適切に使うことができる。	**C** 知能情報学の基礎的・専門的知識と、他者の意見を尊重するコミュニケーション能力を活かし、様々な課題を解決に導き、目標達成に貢献できる。	**D** 長期間にわたる実験や演習を通して知能情報学に関する専門知識を修得し、各分野の知識や議論をもとに実験や演習の結果を理論的に解析することができる。
	発展科目	実践演習科目	学術探究科目
			卒業研究及び演習
	認知情報科学 人間工学 ロボティクス メディア情報処理 Web コンピューティング コンピュータグラフィックス ソフトウエア工学 機械学習 システム解析 行動計測学 自然言語処理 実験デザインとデータ処理 画像工学 感性計測学 メディアデザイン 応用代数学 代数学 解析学 幾何学	情報と職業	知能情報学セミナーⅡ 知能情報学セミナーⅠ
	情報社会と情報倫理 確率統計Ⅱ 応用統計学 オブジェクト指向プログラミング 信号解析 コンパイラ・インタプリタ 最適化 情報セキュリティ センサー工学 電気電子回路入門 グラフ理論 離散数学 数値解析 集合と論理 情報英語	コース演習：クラウドシステム コース演習：AI データサイエンス コース演習：知能ロボット コース演習：メディアデザイン コース演習：ヒューマンセンシング コース演習：数理情報 プロジェクト演習	
		知能情報学概論及び基礎演習	

必修科目は ピンク 、選択必修科目は 水色 で示しています。それ以外は選択科目です。

4. 次の授業科目については、それぞれに掲げる単位数を上限として、合計８単位までを専門教育科目として選択科目に充てることができる。
・中級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・外国留学科目・日本語）、上級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・外国留学科目・日本語）、海外語学講座Ⅰ～Ⅳ：８単位まで
・エリアスタディーズⅠ～Ⅹ：２単位まで
・地域ファシリテイト、地域プロジェクトⅠ～Ⅱ：２単位まで

注）上記４の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

マネジメント創造学部

マネジメント創造学部

マネジメント創造学科

教育基本方針

創立者である平生釟三郎の教育理念のもと、現代社会の要請に応えるべく、教養と品格を備え、総合的マネジメント能力を有し、社会に貢献できる人材の育成をめざします。総合的マネジメント能力とは、個々人が、自らの所属する組織、地域社会あるいは日常的生活の中で、様々な問題に直面しつつ社会を生き抜くために必要となる、問題の本質を見抜き、個人あるいはチームとしてその問題解決に向けた適切なアクションを実行し、やり抜く力であり、複雑化する諸問題に怯まず立ち向かうことのできる汎用性の高い力、さらには自分自身を管理、成長させることをも含む総合的な能力を意味します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。

マネジメント創造学部の教育方針のもと、卒業必要単位数 124 単位以上（基礎共通科目 8 単位　保健体育科目 2 単位　専門教育科目 114 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身に着けた学生に学士（マネジメント）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することで、自らを律し、他者と協調・協働することができます。先例や古い固定観念にとらわれず、異なる文化や考え方に対しても柔軟に対応することで、地域社会だけでなく広く国際社会で活躍することもできます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養と、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)「自ら学ぶ力」「共に学ぶ力」「自ら考え行動する力」を涵養するとともに、経済、経営の専門的知識を仲間と共に、現実社会で実践することを通して、幅広い分野で活躍できる総合的マネジメント能力を有しています。
(5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力、地域社会と国際社会に積極的に係わり、社会的責任を果たせる能力を有しています。
(6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

マネジメント創造学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、必要とする科目を体系的に編成し、講義や演習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 建学の理念を学び、マネジメント創造学部の教育課程等の理解と、プロジェクト型学修と専門科目への基礎教育を目的とした「導入基礎科目」を配置します。
(2) 国際性を意識した教育の充実と、国際社会に積極的に係わることのできる人材を育成するため、世界の経済・経営・文化について英語でディスカッションやプレゼンテーションを行う少人数英語授業を実施します。
(3) 英語能力の涵養のみならず、多文化理解を通じ、教養と品格ある国際人育成を目的とした「外国語科目」を配置します。
(4) マネジメント創造分野に関する理解の一助とするとともに、物事を深く考えるための知的基盤形成を促すため、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び多文化理解について学ぶ「基礎共通科目」を配置します。
(5) 経済学・経営学をベースに理論と実践を融合したより実践的で創造的な学修と、海外での活躍を見据えた国際的実践力の習得を目的とした「実践・創造科目」を配置します。
(6) 研究テーマや目的に応じたグループ学修による総合的マネジメント能力の育成を目的とし、テーマに沿ったレポートやプレゼンテーションを作り上げる演習形式の「研究プロジェクト科目」を配置します。
(7)「研究プロジェクト科目」で必要となる知識やスキルの習得を目的として「プロジェクト導入科目」を配置します。
(8) 多様な社会経験を通じ学生の思考・視野を広げるあるいは社会性・国際性を培うことをめざし、海外留学、フィールドワーク、就業体験、ボランティア活動の機会を積極的に提供し参加を促します。
(9) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。
(10) 学修成果を集大成する仕組みとそれを評価する取組みとして、卒業論文等を完成させ、卒業研究発表会での発表までを行う「卒業研究プロジェクト科目」を配置します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義や演習によって授業を実施します。マネジメント創造学部では、特に「自ら学ぶ」ことを重視するため、各専任教員の講義科目とプロジェクト科目を連携させることで、経済・経営分野における理論と実践の総合的理解をめざします。

(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習、演習などを重視したクラス編成を行います。

(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。

(4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することで、自らを律し、他者と協調・協働することができます。先例や古い固定観念にとらわれず、異なる文化や考え方に対しても柔軟に対応することで、地域社会だけでなく広く国際社会で活躍することもできます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養と、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	「自ら学ぶ力」「共に学ぶ力」「自ら考え行動する力」を涵養するとともに、経済、経営の専門的知識を仲間と共に、現実社会で実践することを通して、幅広い分野で活躍できる総合的マネジメント能力を有しています。
(5)	自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力、地域社会と国際社会に積極的に係わり、社会的責任を果たせる能力を有しています。
(6)	事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(3)(5)
A	マネジメント創造学部での学習に必要となる論理的思考能力、文章作成能力、情報収集・活用能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有している。	(1)(4)(6)
B	国際社会へ積極的にかかわるために必要な英語力と表現力、海外に留学するための実践的英語力、国際人に求められる幅広い知識と教養を有している。	(2)(5)
C	経済・経営学分野の知識、公共政策に関わる知識や社会の現状、及び研究プロジェクト科目で必要となる知識について理論と実践をバランスよく学び、社会科学的視点による課題解決思考力を有している。	(3)(4)
D	多様な人と協働し、合意形成や役割分担を適切に行いながら課題を解決することができ、成果をわかりやすく発表・報告する論理的表現力を有している。	(1)(5)(6)
E	自己の特性や関心を的確に把握し、将来の進路や職業について検討する力をもとに、多様な働き方への理解を深め、自らのキャリア形成を主体的に計画・実行することができる	(1)(2)

授業科目表（マネジメント創造学部 マネジメント創造学科）　〔2026年度（令和8年度）の入学生に適用〕

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E
全学共通科目	基礎共通科目			*	*	○					
全学共通科目	保健体育科目			*	*	○					
*単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目(基礎共通科目8単位、保健体育科目2単位)10単位											
専門教育科目	導入基礎科目	フレーム形成科目	ＣＵＢＥ入門	2	1		○				
			学びデザイン	2	1		○				
			ロジカル・シンキング	2	1		○				
			リサーチ・イントロダクション	2	1		○				
			経済学入門Ⅰ	2	1		○				
			経済学入門Ⅱ	2	1		○				
			経営学入門Ⅰ	2	1		○				
			経営学入門Ⅱ	2	1		○				
			ＩＴリテラシー	2	1		○				
		18単位必修									
		外国語科目 Core科目	Global Challenges	2	1			○			
			American Studies	2	1			○			
			Speech and Discussion	2	1			○			
			Discussion and Debate	2	1			○			
			CUBE English I	1	1			○			
			CUBE English II	1	1			○			
			Japan Studies	1	2			○			
			European Studies	1	2			○			

授業科目名					単位数	配当年次	到達目標					
							Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	導入基礎科目	外国語科目	Core科目	Business Communication	1	2			○			
				Introduction to TOEIC	1	2			○			
				大学日本語入門Ⅰ	2	1			○			
				大学日本語入門Ⅱ	2	1			○			
			大学日本語入門Ⅰ・Ⅱを除く14単位必修 ただし、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生は、「大学日本語入門Ⅰ」「大学日本語入門Ⅱ」4単位を修得しなければならない。「大学日本語入門Ⅰ」「大学日本語入門Ⅱ」を履修する場合、「Speech and Discussion」「Discussion and Debate」4単位は履修できない。									
			Applied科目	Media Studies	2	2			○			
				English for Business Contexts	2	2			○			
				Studies in Literacy	2	2			○			
				Cross-Disciplinary Studies	2	2			○			
				English as a Second Language Ⅰ	2	2			○			
				English as a Second Language Ⅱ	2	2			○			
				English as a Second Language Ⅲ	2	2			○			
	実践・創造科目	経済学の実践		産業と規制	2	2				○		
				経済と社会	2	2				○		
				雇用と賃金	2	2				○		
				こころと経済	2	2				○		
				地球環境政策	2	2				○		
				公共政策	2	2				○		
				国際金融と貿易	2	2				○		
				経済成長と国際協力	2	2				○		
				ミクロ経済と現代社会	2	2				○		
				マクロ経済と現代社会	2	2				○		
		経営学の実践		組織論	2	2				○		
				イノベーション・マネジメント	2	2				○		
				経営財務分析	2	2				○		
				戦略論	2	2				○		
				会計基礎	2	2				○		
				会計応用	2	2				○		
				ファイナンス基礎	2	2				○		
				コーポレートファイナンス	2	2				○		
				マーケティング基礎	2	2				○		
				マーケティングとCSR	2	2				○		
				マーケティングリサーチ	2	2				○		
				消費者行動	2	2				○		
				NPO	2	2				○		
				中小企業経営	2	2				○		
		社会の現状認識		社会問題と思想	2	2				○		
				社会問題と制度	2	2				○		
				都市政策	2	2				○		
				社会保障	2	2				○		
				少子化と人口問題	2	2				○		
				国際関係と多文化共生	2	2				○		
				国際通商	2	2				○		
				ビジネスと法	2	2				○		
		CALA		Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅰ	4	1			○	○		
				Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅱ	4	1			○	○		
				Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅲ	4	2			○	○		
				Academic Success Workshop（CALA）	2	3			○	○		

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標					
						Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	実践・創造科目	グローバル実践	Academic Subjects Ⅰ	2	2			○	○		
			Academic Subjects Ⅱ	2	2			○	○		
			Academic Subjects Ⅲ	2	2			○	○		
			Academic Subjects Ⅳ	2	2			○	○		
			Academic Subjects Ⅴ	3	2			○	○		
			Academic Subjects Ⅵ	3	2			○	○		
	以上のうち、24単位以上選択必修										
	プロジェクト科目	プロジェクト導入科目	数学的論理思考	2	1				○		
			芸術と多文化理解	2	1				○		
			科学技術と倫理Ⅰ	2	1				○		
			科学技術と倫理Ⅱ	2	2				○		
			ＩＴの実践	2	1				○		
			情報の科学	2	1				○		
			データ分析の実践	2	1				○		
			データ分析とプログラミング	2	2				○		
			社会調査	2	1				○		
			政策評価の手法	2	1				○		
			英語で学ぶ経済学	2	1				○		
			英語で学ぶ経営学	2	1				○		
			Liberal Studies in English	2	1				○		
			Regional Studies	2	1				○		
		以上のうち、6単位以上選択必修									
		研究プロジェクト科目	パブリック研究プロジェクトＢⅠ	6	2					○	
			パブリック研究プロジェクトＢⅡ	6	2					○	
			パブリック研究プロジェクトＢⅢ	6	3					○	
			パブリック研究プロジェクトＢⅣ	6	3					○	
			パブリック研究プロジェクトＢⅤ	6	4					○	
			ビジネス研究プロジェクトＢⅠ	6	2					○	
			ビジネス研究プロジェクトＢⅡ	6	2					○	
			ビジネス研究プロジェクトＢⅢ	6	3					○	
			ビジネス研究プロジェクトＢⅣ	6	3					○	
			ビジネス研究プロジェクトＢⅤ	6	4					○	
			グローバル研究プロジェクトＢⅠ	6	2					○	
			グローバル研究プロジェクトＢⅡ	6	2					○	
			グローバル研究プロジェクトＢⅢ	6	3					○	
			グローバル研究プロジェクトＢⅣ	6	3					○	
			グローバル研究プロジェクトＢⅤ	6	4					○	
			超領域研究プロジェクトＢⅠ	6	2					○	
			超領域研究プロジェクトＢⅡ	6	2					○	
			超領域研究プロジェクトＢⅢ	6	2					○	
			パブリック研究プロジェクトＡⅠ	4	2					○	
			パブリック研究プロジェクトＡⅡ	4	2					○	
			パブリック研究プロジェクトＡⅢ	4	3					○	
			パブリック研究プロジェクトＡⅣ	4	3					○	
			パブリック研究プロジェクトＡⅤ	4	4					○	
			ビジネス研究プロジェクトＡⅠ	4	2					○	
			ビジネス研究プロジェクトＡⅡ	4	2					○	
			ビジネス研究プロジェクトＡⅢ	4	3					○	
			ビジネス研究プロジェクトＡⅣ	4	3					○	
			ビジネス研究プロジェクトＡⅤ	4	4					○	
			グローバル研究プロジェクトＡⅠ	4	2					○	
			グローバル研究プロジェクトＡⅡ	4	2					○	

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標					
						Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	プロジェクト科目	研究プロジェクト科目	グローバル研究プロジェクトＡIII	4	3					○	
			グローバル研究プロジェクトＡIV	4	3					○	
			グローバル研究プロジェクトＡV	4	4					○	
			超領域研究プロジェクトＡI	4	2					○	
			超領域研究プロジェクトＡII	4	2					○	
			超領域研究プロジェクトＡIII	4	2					○	
		以上のうち、12単位以上かつ3科目以上選択必修									
		フィールドワーク科目	国内短期フィールドワークⅠ	2	1					○	
			国内短期フィールドワークⅡ	2	1					○	
			国内短期フィールドワークⅢ	2	1					○	
			国内短期フィールドワークⅣ	2	1					○	
			国内短期フィールドワークⅤ	2	1					○	
			国内中期フィールドワークⅠ	3	1					○	
			国内中期フィールドワークⅡ	3	1					○	
			国内中期フィールドワークⅢ	3	1					○	
			国内長期フィールドワークⅠ	4	1					○	
			海外短期フィールドワークⅠ	2	1					○	
			海外短期フィールドワークⅡ	2	1					○	
			海外中期フィールドワークⅠ	3	1					○	
			海外中期フィールドワークⅡ	3	1					○	
			海外中期フィールドワークⅢ	3	1					○	
			海外長期フィールドワークⅠ	4	1					○	
			海外長期フィールドワークⅡ	4	1					○	
			海外長期フィールドワークⅢ	4	1					○	
			海外長期フィールドワークⅣ	4	1					○	
	以上のうち、30単位以上選択必修										
	プロジェクト科目		卒業研究プロジェクト	8	4					○	
	以上のうち、8単位必修										
		キャリア関連科目	ボランティア体験Ⅰ	4	1						○
			ボランティア体験Ⅱ	4	1						○
			ボランティア体験Ⅲ	2	1						○
			ボランティア体験Ⅳ	2	1						○
			CUBE ジョブトライアルⅠ	4	1						○
			CUBE ジョブトライアルⅡ	4	1						○
			CUBE ジョブトライアルⅢ	2	1						○
			CUBE ジョブトライアルⅣ	2	1						○
			コミュニケーション支援Ⅰ	2	2						○
			コミュニケーション支援Ⅱ	2	2						○
			コミュニケーション支援Ⅲ	2	2						○
			コミュニケーション支援Ⅳ	2	2						○
			コミュニケーション支援Ⅴ	2	2						○
		特設科目	特設科目Ⅰ	2	3						○
			特設科目Ⅱ	2	3						○
			特設科目Ⅲ	2	3						○
		留学特設科目	外国留学科目Ⅰ	2	2						○
			外国留学科目Ⅱ	2	2						○
			外国留学科目Ⅲ	3	2						○
			外国留学科目Ⅳ	3	2						○
		中級・上級外国語科目	大学日本語中級Ⅰ	4	2			○			
			大学日本語中級Ⅱ	4	2			○			
			大学日本語上級Ⅰ	4	3			○			
			大学日本語上級Ⅱ	4	3			○			
専門教育科目　114単位以上											
卒業必要単位数　124単位以上											

【卒業必要単位数】

1. マネジメント創造学部の学生は、次に定めるところに従って合計 124 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目			8 単位
保健体育科目			2 単位
専門教育科目			114 単位以上
導入基礎科目			
フレーム形成科目		必修	18 単位
外国語科目	Core 科目	必修	14 単位
	Applied 科目	自由選択	
実践・創造科目		選択必修	24 単位以上
プロジェクト科目（卒業研究プロジェクトを除く）		選択必修	30 単位以上
	プロジェクト導入科目	選択必修	6 単位以上
	研究プロジェクト科目	選択必修	12 単位以上
	フィールドワーク科目	自由選択	
	卒業研究プロジェクト	必修	8 単位
キャリア関連科目		自由選択	
特設科目		自由選択	
留学特設科目		自由選択	
中級・上級外国語科目		留学生用科目	
合計			124 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

(1) キャリア創生共通科目については、8 単位以内

(2) 生涯スポーツについては、3 単位以内

(3) 基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語については、いずれか 1 外国語 4 単位以内

(4) 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換協定に関する科目については、4 単位以内

3. 外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生および日本語を母語としない学生は、外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）を履修することができる。

4. 外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生は、「大学日本語入門Ⅰ」「大学日本語入門Ⅱ」4 単位を修得しなければならない。

5. 外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生および「大学日本語入門Ⅰ」「大学日本語入門Ⅱ」を履修する日本語を母語としない学生は、「Speech and Discussion」「Discussion and Debate」4 単位は履修できない。

Ⅰ．履修登録科目の単位制限について

マネジメント創造学部では次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。単位制限とは、1 年間に履修登録できる単位数の上限を定めたものである。この単位制限は、単位制度の趣旨に沿った十分な学修量を確保することを目的としている。一週間に実行不可能な学修量に相当する授業科目を履修しても成果は上がらないため、履修計画を慎重かつ十分に検討したうえで履修登録科目を選択すること。

マネジメント創造学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和 8 年 2 月 26 日　改正〕

1. マネジメント創造学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。

【令和 7 年度以降入学生】

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
マネジメント創造学部専門教育科目、及び基礎共通科目	通年で合計 36 単位以内	通年で合計 40 単位以内	通年で合計 40 単位以内	通年で合計 40 単位以内

ただし、次に掲げる科目の単位については、上記表の制限を受けない。

「国内短期フィールドワークⅠ～Ⅴ」、「国内中期フィールドワークⅠ～Ⅲ」、「国内長期フィールドワークⅠ」、「海外短期フィールドワークⅠ～Ⅱ」、「海外中期フィールドワークⅠ～Ⅲ」、「海外長期フィールドワークⅠ～Ⅳ」、「ボランティア体験Ⅰ～Ⅳ」、「CUBE ジョブトライアルⅠ～Ⅳ」

（中略・令和 6 年度以前入学生適用表　略）

2. この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

2年次配当のCore科目については、以下のとおり履修条件が設定されているので注意すること。

授業科目	履修条件
Japan Studies	1年次配当のCore科目6科目のうち、4科目以上を修得していること
European Studies	1年次配当のCore科目6科目のうち、4科目以上を修得していること
Business Communication	1年次配当のCore科目6科目のうち、3科目以上を修得していること
Introduction to TOEIC	1年次配当のCore科目のうち「CUBE English Ⅰ」「CUBE English Ⅱ」のいずれかを修得していること

2. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。
3. 履修登録は前期に、集中講義を含む通年科目、前期科目、後期科目のすべてが登録できる。1年間の履修計画を立てたうえで登録をすること。後期科目については、前期および後期に登録可能で、前期に登録した授業科目も後期に追加・変更ができるので、前期にまず登録すること。
4. 「導入基礎科目」のうち、必修科目は、原則としてクラス指定に従って履修しなければならない。
5. 「プロジェクト科目」のカテゴリーの中には、「研究プロジェクト科目」「プロジェクト導入科目」「フィールドワーク科目」の3つの小カテゴリーがあり、卒業までに合わせて30単位以上を修得する必要がある。中でも「研究プロジェクト科目」は、2〜4年次の間に最低でも3科目以上を修得する必要があるので注意すること。なお、「プロジェクト導入科目」の多くは1年次配当であるため、選択必修6単位は1年次後期で修得することが望ましい。また、「フィールドワーク科目」は、キャンパス内での学びをキャンパス外で実践する貴重な機会であるため、多くの学生が履修することを期待する。
6. 「キャリア関連科目」のうち、「ボランティア体験Ⅰ〜Ⅳ」及び「CUBEジョブトライアルⅠ〜Ⅳ」については、甲南大学（キャリアセンター及びマネジメント創造学部）の実施する就業体験（インターンシップ）・ボランティアプログラムや自身で選定するプログラムを対象とする。詳細は4月中旬に開催予定の「就業体験（インターンシップ）・ボランティアガイダンス」に参加し、確認すること。なお、マネジメント創造学部独自の就業体験（インターンシップ）、ボランティア、企業訪問などが実施される場合には、その都度〈My KONAN〉にて通知する。

Ⅲ．各科目群の概要

導入基礎科目

フレーム形成科目

高等学校での学習から、「自ら学び、共に学ぶ」「自ら考え行動する」CUBE スタイルの学びへと移るために必要となる、言語的論理思考能力、数学的論理思考能力、コミュニケーション能力、体育といった基礎能力を育成する。

1 クラスを複数の教員が担当し、国際経済、マーケティング、企業会計などの分野に触れる「学びデザイン」や「経済学入門」「経営学入門」などの基礎科目のほか、グループワークを中心としたアクティブラーニング形式で学ぶ「ロジカル・シンキング」や、勝ち抜きによるプレゼンテーション大会での発表を目標とした「リサーチ・イントロダクション」などで構成されている。

外国語科目

Core 科目

必修科目である Core 科目は、「英語を勉強する」から「英語で勉強する」に重きをおき、スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの 4 技能を駆使しながら総合的な英語力を向上させ、大学における様々な活動において、英語を活用する能力と自信を身につけることを目標としている。

Applied 科目

選択科目である Applied 科目は、1〜2 年次前期の間に培われた基礎の上に構築するイメージで開発・設計されており、海外での授業をできるだけ忠実に再現することを意識しながら様々なトピック（学術的なものからビジネスまで）を扱うことで、英語を運用する能力と自信を身につけることを目標としている。

実践・創造科目

企業・産業系、公共経営・政策系、グローバルスタディーズ系など、実ビジネスや現実社会との係わりを、意識した様々な講義を実施する。知識・スキルを学ぶだけでなく、経営者や専門家とのディスカッションや、具体的ケーススタディなど実践的な教育がおこなわれている。

CALA 科目（CUBE Accelerated Language and Academics）

1 年次に履修する「Academic Foundation Workshop（CALA）I」および「Academic Foundation Workshop（CALA）Ⅱ」は 1・2 年次必修の Core 科目に追加して履修することで、より実践的に英語のスキルと知識の習得を可能とすることから、留学や海外フィールドワーク、英語を活かしたキャリアなど、海外での活躍を希望する学生に最適な科目となっている。

2 年次より履修できる「Academic Foundation Workshop（CALA）Ⅲ」は、留学や海外フィールドワーク、研究プロジェクト科目履修の準備期間として、学生がより高度なコミュニケーション能力と専門性を養うことを目標としている。

3・4年次を対象とした「Academic Success Workshop（CALA）」は、留学や研究プロジェクト科目履修を通じて得た英語力と専門性をベースに、海外に向けたキャリアや大学院進学準備を想定した内容となっている。

授業では海外での授業をできるだけ忠実に再現することを意識しながら、グローバル規模の様々なテーマ（教育と貧困、社会・歴史を変えた発明、心理学、絶滅危惧種など学術的なものからビジネスまで）を扱い、リサーチをはじめグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを数多く経験する中で、英語を運用する能力だけでなく多文化理解に必要な教養を身につけることも期待される。

CALA プログラムの修了要件（CALA Excellence AWARD）について

本プログラムは英語力向上や留学に役立つ幅広い知識・スキルを磨きたいという意欲を持った学生のために設置しており、CALA 科目を履修した多くの学生が、留学やフィールドワーク等により海外での学びを実践している。本プログラムに参加し、マネジメント創造学部におけるグローバルな学びに積極的に取り組んだ学生を「CALA プログラム修了生」とし、その功績を称えることを目的として、「CALA Excellence AWARD」にて表彰する。

なお、プログラムを修了するためには、以下（1）（2）（3）いずれかの要件を満たしている必要がある。

（1）CALA 科目を3科目以上単位修得していること
（2）CALA 科目を2科目以上単位修得し、甲南大学が提供する海外プログラムに参加して単位修得していること
（3）CALA 科目を2科目以上単位修得し、マネジメント創造学部教授会が CEA 認定相当であると認めた学外の海外プログラムに参加して単位修得していること

以　上

プロジェクト科目

CUBE の学びの中心となる科目群で、「プロジェクト導入科目」「研究プロジェクト科目」「フィールドワーク科目」「卒業研究プロジェクト」により構成される。CUBE の「プロジェクト型学習」は、卒業までにいくつもの研究プロジェクトに取り組み、［自学→発見→体験→実践］を何度も繰り返す。そうすることで自身に不足しているものを理解し、また、実社会と関わる多くの体験を通じて「自ら学び、共に学ぶ力」と「自ら考え行動する力」を身につける。また、フィールドワークでは、さまざまなリサーチの方法を学んだ上で実際に国内外の団体・地域社会を訪れて、CUBE で得た知識を深める。教室で学んだことを単なる知識にしてしまうのではなく、常に社会を意識しながら、どこに問題の本質があり、解決の糸口があるのかを考える習慣を身につけ、学生から社会人への成長を促す。

キャリア関連科目

ジョブトライアル、ボランティアなどの企業・団体・地域社会と連携した直接的な社会体験・就業体験を通じて、社会で求められる知識や能力を体得し、将来のキャリア形成において重要な姿勢を培う。

Ⅳ．研究プロジェクトについて

（1）研究プロジェクトは2年次以降に履修する、マネジメント創造学部の中心的なカリキュラムである。実社会とリンクした様々なテーマに対してグループで調査・研究、報告・発表に取り組み、プロジェクトの目的を達成するまでの過程（プロセス）を通じ、与えられた知識を吸収するだ

けではなく、自ら問題を発見し、仲間と共に解決する能力を養う。

(2) 研究プロジェクトは授業時間外にも調査・研究などが必要となること、他の科目を含めた1年間の履修単位制限が40単位以内であることから、半期に1科目、1年間に2科目が標準的な履修モデルとなる。なお、2年次は前期に英語科目があること、及び初めての研究プロジェクト履修であることを考慮し、原則前期に1科目、後期に1科目の履修を計画すること。また、1年間に4科目以上の研究プロジェクトを履修することはできないため、履修計画をしっかりと立てることが大切である。

(3) 研究プロジェクトの履修にあたっては、将来幅広い知識や経験を生かし様々な分野で活躍するために、以下「パブリック」「ビジネス」「グローバル」「超領域」のうち、卒業までに3つ以上の領域から履修することを推奨する。

領域名等	概要
パブリック領域	環境、エネルギー、情報通信、金融、財政、教育・文化、雇用・社会保障、地域政策等さまざまな経済・社会問題あるいはNGO、NPOや公的機関の経営をテーマにした研究プロジェクトである。各産業の現状と市場の役割について理解し、産業政策や公共部門の役割を議論するための基本的な理論を修得する。
ビジネス領域	企業経営、マーケティング、会計等の各分野や事業承継、起業等をテーマにした研究プロジェクトである。様々なビジネスでの事例等から学ぶと同時に、各分野で必要とされる基本的な理論を修得する。
グローバル領域	開発援助、貧困、人権、国際紛争理解などの国際政治経済、環境や南北問題、諸外国の歴史、文化、宗教、政治・経済の調査研究、周辺諸国や日本との関係などの多文化共生、地域研究などについて、さらに国際機関の役割等をテーマとした研究プロジェクトである。国際的な諸問題や日本との関り等の調査・研究を通じて多文化主義、国際協調、平和への理解を深め、グローバルな視野で物事を判断する国際的な感覚を修得します。
超領域	パブリック、ビジネス、グローバルの3つの分野のいずれにも分類されない、歴史、思想、哲学、文化、芸術などの人文科学分野、ＩＴ、数学、科学技術などの自然科学分野、メディア、エンターテイメント、マスコミ、政治などの社会科学分野をテーマとした研究プロジェクトである。

Ⅴ．卒業研究プロジェクトについて

卒業研究プロジェクトは必修科目の1つで、マネジメント創造学部での4年間の学びを総括する重要なプロジェクトと位置付けられる。2年次前期から履修する「研究プロジェクト科目」とは大きく異なり、教員がテーマを設定することはない。履修者一人ひとりが自らの研究テーマや内容を設定し、

指導教員のもと、個人で研究を進めていく。3年次の10月上旬に説明会を実施予定であるため、必ず参加すること。

Ⅵ. 外国留学規程にもとづく外国留学帰国学生の単位換算について

（1）下記の科目は、外国留学規程にもとづく、外国留学帰国学生の単位換算用科目である。

実践・創造科目（グローバル実践）

授業科目名	単位数
Academic Subjects Ⅰ	2
Academic Subjects Ⅱ	2
Academic Subjects Ⅲ	2
Academic Subjects Ⅳ	2
Academic Subjects Ⅴ	3
Academic Subjects Ⅵ	3

留学特設科目

授業科目名	単位数
外国留学科目Ⅰ	2
外国留学科目Ⅱ	2
外国留学科目Ⅲ	3
外国留学科目Ⅳ	3

(2) 留学先で修得した英語科目および専門教育科目については、次ページの表にもとづき単位換算を申請することができる。

マネジメント創造学部における単位換算について

2単位科目については授業時間数が30時間、3単位科目については45時間を超えるごとに科目下表の1科目に単位換算可能である。なお、留学先で単位を取得した科目を2科目以上併せて単位換算を行うことは原則不可とする。

奨励留学(語学プラス交換留学の語学部分含む)については、留学先で単位取得した授業内容と、マネジメント創造学部のカリキュラムマップおよび内容(キーワード)を確認の上、申請を行う。

奨励留学における換算上限単位数は、20単位とする。

換算科目		単位数	単位換算可能科目		授業内容に含まれるキーワード
			英語科目	専門教育科目	
外国語科目	Media Studies	2	○	○	「メディア文化の歴史」、「メディア分析」、「映画」等
	English for Business Contexts	2	○	○	「TOEIC」、「ビジネスコミュニケーション」、「コミュニケーションスキル」等
	Studies in Literacy	2	○	○	「イギリス文学」、「アメリカ文学」、「表現法」、「思想」、「詩」、「歌」等
	Cross-Disciplinary Studies	2	○	○	海外の「文化」、「経済」、「歴史」、「社会」、「政治」を2つ以上含むこと
	English as a Second Language Ⅰ	2	○	○	単位換算用科目
	English as a Second Language Ⅱ	2	○	○	
	English as a Second Language Ⅲ	2	○	○	
実践創造科目	Academic Subjects Ⅰ	2		○	単位換算用科目
	Academic Subjects Ⅱ	2		○	
	Academic Subjects Ⅲ	2		○	
	Academic Subjects Ⅳ	2		○	
	Academic Subjects Ⅴ	3		○	
	Academic Subjects Ⅵ	3		○	
プロジェクト導入科目	Liberal Studies in English	2	○	○	「グローバリゼーション」、「社会人類学」、「異文化理解」、「クリティカル・シンキング」等
	Regional Studies	2	○	○	海外の「文化」、「経済」、「歴史」、「言語」、「社会」、「芸術」、「ファッション」、「文明」、「経済」、「貿易」、「商業」、「環境問題」、「映画と音楽」、「政府と政治」、「多文化主義」、「国際関係」等
キャリア関連科目	コミュニケーション支援Ⅰ	2	○	○	「異文化理解」、「言語文化」、「コミュニケーション」、「フランス語」、「スペイン語」等
留学特設科目	外国留学科目Ⅰ	2	○	○	単位換算用科目
	外国留学科目Ⅱ	2	○	○	
	外国留学科目Ⅲ	3	○	○	
	外国留学科目Ⅳ	3	○	○	

【成績評価について】

奨励留学においては、あらかじめ設定された各留学先大学の評価基準に基づくものとする。
交換留学、認定校留学においては、審議の上決定する。

マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針 (DP)	(1)自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することで、自らを律し、他者と協調・協働することができます。先例や古い固定観念にとらわれず、異なる文化や考え方に対しても柔軟に対応することで、地域社会だけでなく広く国際社会で活躍することもできます。 (2)天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3)人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養と、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。

対応する卒業認定・学位授与の方針 (DP) の番号	(1) (2) (3) (5)	(1) (4) (6)	(2) (5)	
到達目標	**Z** 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	**A** マネジメント創造学部での学習に必要となる論理的思考能力、文章作成能力、情報収集・活用能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有している。	**B** 国際社会へ積極的にかかわるために必要な英語力と表現力、海外に留学するための実践的英語力、国際人に求められる幅広い知識と教養を有している。	
科目群	全学共通科目	フレーム形成科目	外国語科目 中級・上級外国語科目 実践・創造科目	
4年			大学日本語上級 Ⅰ・Ⅱ	**経済学の実践** 産業と規制 経済と社会 雇用と賃金 こころと経済 地球環境政策 公共政策 国際金融と貿易 経済成長と国際協力 ミクロ経済と現代社会 マクロ経済と現代社会
3年			大学日本語中級 Ⅰ・Ⅱ	
2年	基礎共通科目 (人文・自然・社会)*1		Media Studies English for Business Contexts Studies in Literacy Cross-Disciplinary Studies English as a Second Language Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ Japan Studies European Studies Business Communication Introduction to TOEIC **必修 14 単位** Global Challenges American Studies Speech and Discussion Discussion and Debate CUBE English Ⅰ・Ⅱ (大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ)	**CALA** Academic Success Workshop (CALA) Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅲ Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅱ Academic Foundations Workshop (CALA) Ⅰ **選択必修 24 単位以上**
1年	基礎共通科目 (導入共通 / 学際融合等)*1 スポーツ健康マネジメント演習 Ⅰ・Ⅱ	**必修 18 単位** CUBE 入門 学びデザイン ロジカル・シンキング リサーチ・イントロダクション 経済学入門Ⅰ・Ⅱ 経営学入門Ⅰ・Ⅱ IT リテラシー		

1. 基礎共通科目は、合計8単位を取得しなければならない。
・人文科学系、社会科学系、自然科学系、学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目、導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」(*1)

	卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4)「自ら学ぶ力」「共に学ぶ力」「自ら考え行動する力」を涵養するとともに、経済、経営の専門的知識を仲間と共に、現実社会で実践することを通して、幅広い分野で活躍できる総合的マネジメント能力を有しています。
		(5)自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力、地域社会と国際社会に積極的に係わり、社会的責任を果たせる能力を有しています。
		(6)事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

	(3) (4)	(1) (5) (6)	(1) (2)
	C 経済・経営学分野の知識、公共政策に関わる知識や社会の現状、及び研究プロジェクト科目で必要となる知識について理論と実践をバランスよく学び、社会科学的視点による課題解決思考力を有している。	**D** 多様な人と協働し、合意形成や役割分担を適切に行いながら課題を解決することができ、成果をわかりやすく発表・報告する論理的表現力を有している。	**E** 自己の特性や関心を的確に把握し、将来の進路や職業について検討する力をもとに、多様な働き方への理解を深め、自らのキャリア形成を主体的に計画・実行することができる。
	実践・創造科目 プロジェクト導入科目	研究プロジェクト科目 フィールドワーク科目 卒業研究プロジェクト	キャリア関連科目 特設科目 留学特設科目

経営学の実践
- 組織論
- 戦略論
- イノベーション・マネジメント
- 経営財務分析
- 会計基礎
- 会計応用
- ファイナンス基礎
- コーポレートファイナンス
- マーケティング基礎
- マーケティングと CSR
- マーケティングリサーチ
- 消費者行動
- NPO
- 中小企業経営

社会の現状認識
- 社会問題と思想
- 社会問題と制度
- 都市政策
- 社会保障
- 少子化と人口問題
- 国際関係と多文化共生
- 国際通商
- ビジネスと法

Academic Subjects I・II・III・IV・V・VI

プロジェクト導入科目

選択必修 6 単位以上

- 科学技術と倫理 II
- データ分析とプログラミング
- 数学的論理思考
- 芸術と多文化理解
- 科学技術と倫理 I
- IT の実践
- 情報の科学
- データ分析の実践
- 社会調査
- 政策評価の手法
- 英語で学ぶ経済学
- 英語で学ぶ経営学
- Liberal Studies in English
- Regional Studies

卒業研究プロジェクト 必修 8 単位

研究プロジェクト科目

選択必修 12 単位以上

- パブリック研究プロジェクト A・B I・II・III・IV・V
- ビジネス研究プロジェクト A・B I・II・III・IV・V
- グローバル研究プロジェクト A・B I・II・III・IV・V
- 超領域研究プロジェクト A・B I・II・III

選択必修 30 単位以上

フィールドワーク科目
- 海外長期フィールドワーク I・II・III・IV
- 海外中期フィールドワーク I・II・III
- 海外短期フィールドワーク I・II
- 国内長期フィールドワーク I
- 国内中期フィールドワーク I・II・III
- 国内短期フィールドワーク I・II・III・IV・V

- ボランティア体験 I・II・III・IV
- CUBE ジョブトライアル I・II・III・IV
- コミュニケーション支援 I・II・III・IV・V
- 特設科目 I・II・III
- 外国留学科目 I・II・III・IV

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
① キャリア創生共通科目については、8 単位以内
② 生涯スポーツについては、3 単位以内
③ 基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語については、いずれか1 外国語4 単位以内
④ 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換協定に関する科目については、4 単位以内

注）上記 2 の①～④の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

フロンティアサイエンス学部

フロンティアサイエンス学部

生命化学科

教育基本方針

甲南大学フロンティアサイエンス学部の教育方針は、甲南学園創立者平生釟三郎の教育理念を基本としています。教育・研究対象の中心に「生命化学」を据え、徹底した少人数教育によりバイオテクノロジー、ナノテクノロジー、およびそれらの融合領域であるナノバイオに関する知識と技能を修得させることにより、先端科学技術を社会の発展・福祉の増進に生かすことのできる、専門性をもった職業人の養成をめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。フロンティアサイエンス学部生命化学科では、「教育・研究対象の中心に「生命化学」を据え、徹底した少人数教育によりバイオテクノロジー、ナノテクノロジー、及びそれらの融合領域であるナノバイオに関する知識と技能を教授研究することにより、先端科学技術を社会の発展・福祉の増進に生かすことのできる、専門性をもった職業人の養成をめざす」という教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上 (先進科学コース：基礎共通科目 10 単位、外国語科目 4 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 93 単位以上、学際科学コース：基礎共通科目 10 単位、外国語科目 8 単位以上、保健体育科目 2 単位、キャリア創生共通科目 20 単位以上、専門教育科目 56 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理工学）の学位を授与します。

(1) 強い知的探求心をもち、幅広い教養についての基礎的な知識と常識をもとに、理科系の最先端知識を修得し応用できる、【基盤力】を有しています。
(2) 責任感や倫理観を意識することができ、自らを律し他者と協調・協働することができる、【協働力】を有しています。
(3) 生命化学分野に関して基本的な知識を修得し、専門分野の変化に対応し、フロンティア的発想・企画をするための、【専門力】を有しています。
(4) 自分の意見等を的確に分かりやすく説明する意志とプレゼンテーション技能である、【発表力】を有しています。
(5) 国際社会で活躍するために必須となる、科学英語を駆使したコミュニケーションができる、【国際力】を有しています。
(6) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力、【自己実現力】を有しています。

教育課程編成・実施の方針

フロンティアサイエンス学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎科目、基礎専門科目、専門科目、応用科目、全学共通科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

［全学共通科目］

(1) 理科系の最先端知識を習得し応用するためには、幅広いバックグラウンドが必要となります。そのため、建学の理念、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識及び異文化理解について学ぶ基礎共通科目を配置します。（先進科学コース、学際科学コース共通）
(2) ナノバイオに関する知識を幅広く社会の発展・福祉の増進に生かせるように、キャリア創生共通科目を配置します。（学際科学コース）

［基礎科目］

(1) 基礎データ解析に必要な数理的知識、科学英語を題材としたコミュニケーション能力、および自然科学に関する基礎知識について、学生の志向に応じて選択できるよう、基礎共通科目群（自然科学系）を選択必修科目として配置します。（先進科学コース、学際科学コース共通）
(2) 最先端のサイエンスや経済の動きに直に触れ、広い視野を養うことを重視し、社会で活躍する方々を講師に招き、豊富な体験談・甲南スピリットなどを学生に伝えていただく、「フロントランナー講座」を選択必修科目として配置します。（先進科学コース、学際科学コース共通）
(3) プレゼンテーション資料の作成方法や効果的な表現方法等を実例を用いて習得するため、「実践プレゼンテーション」を選択必修科目として配置します。（先進科学コース、学際科学コース共通）
(4) 学生が将来のキャリアを考慮しつつ、専門科目の学修を進められるように、「医療概論」「先端材料概論」「創薬概論」「食品・化粧品概論」を配置します。
(5) 先進科学研究を進める上で効果的なプレゼンテーション資料の作成、発表技法の習得のため、3 年次以降に「科学英語プレゼンテーション演習」を配置します。（先進科学コース）
(6) 学際科学研究を進める上で効果的なプレゼンテーション資料の作成、発表技法の習得のため、3 年次以降に「学際科学プレゼンテーション演習」を配置します。（学際科学コース）

［基礎専門科目］

本学部の教育・研究の中核である専門教育内容の概要を把握するとともに、基礎的事項に関する学力不足事項を認識できるよう、初年度教育科目として、生物学、化学の序論を配置します。（先進科学コース、学際科学コース共通）

［専門科目］
(1) 専門科目については、ナノサイエンス、バイオサイエンス、ナノバイオサイエンス、ケミカルサイエンスに関連する科目群をパックとすることで、一人ひとりの興味や志向の多様性に対応した履修が効率よくかつ系統立って行えるカリキュラムを編成します。(先進科学コース、学際科学コース共通)
(2) 1、2 年次に生物学、化学に関する実験技法を習得する「生物学基礎実験」「化学基礎実験」「生物学応用実験」「化学応用実験」をそれぞれ配置します。(先進科学コース、学際科学コース共通)
(3) 3 年次以降に「ナノバイオラボ」「ナノバイオラボ卒業研究」を配置し、その中で卒業研究や卒業論文作成を実践し、問題提起能力及び問題解決能力を開花させるような教育を行います。(先進科学コース)
(4) 3 年次以降に「共通応用演習」を配置し、2 年次までに学んできたナノバイオと、ビジネスや政策・法務、情報、国際、地域、福祉、スポーツ科学などの分野を学際的に融合し、新たなモノを創出できる能力を開花させるような教育を行います。(学際科学コース)
［応用科目］
(1) 応用科目は、専門科目で身につけた知識や技能を、社会に活かすという視点から捉える科目群と、グローバルな視点で実践する「エリアスタディーズ V」から構成された選択必修科目群であり、一人ひとりの多様性に対応した学修が効率よくかつ系統立って行えるカリキュラムを編成します。
(2)「神戸医療産業都市」の中核地、ポートアイランドの立地の特性を生かし、企業や研究機関等との連携を進め、講義だけではなく、学生が社会に触れる機会を積極的に提供します。
［キャリア科目］
各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次以降継続的に実施します。

2）教育方法

(1) 1）に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実験、実習のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、社会貢献への主体性を持ち、安全や倫理を重視した、社会人に求められる責任感や倫理観を身につけるために、学生一人ひとりの顔が見える少人数で学生参加型の講義、演習、実験、実習を重視したクラス編成を行います。
(3) 実験系科目において、少人数教育の効果が最大限に発揮できるよう、一人の学生に対して複数の教員が指導に参加するポリバレントシステムをとります。
(4) 考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、などを中心としたアクティブ・ラーニングを活用した授業を実施します。
(5) 苦手克服、理解度向上のための時間外講義（キャッチアップセミナー、アドバンストセミナーなど）を実施します。
(6) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	強い知的探究心をもち、幅広い教養についての基礎的な知識と常識をもとに、理科系の最先端知識を修得し応用できる、【基盤力】を有しています。
(2)	責任感や倫理観を意識することができ、自らを律し他者と協調・協働することができる、【協働力】を有しています。
(3)	生命化学分野に関して基本的な知識を修得し、専門分野の変化に対応し、フロンティア的発想・企画するための、【専門力】を有しています。
(4)	自分の意見等を的確に分かりやすく説明する意志とプレゼンテーション技能である、【発表力】を有しています。
(5)	国際社会で活躍するために必須となる、科学英語を駆使したコミュニケーションができる、【国際力】を有しています。
(6)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力、【自己実現力】を有しています。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、ナノバイオと社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1)(2)(4)(6)
A	生命現象の理解と応用に必要な知識を有し、活用することができる。	(1)(3)
B	化学現象の理解と応用に必要な知識を有し、活用することができる。	(1)(3)
C	必要に応じて英語を使用しながら、資料作成、ポスター発表、口頭発表を行える技術を有し、活用することができる。	(4)(5)
D	理科系の最先端知識を修得し応用するために必要な、情報収集、実験技術、課題発見、課題解決の能力を有し、活用することができる。	(3)(6)
E	幅広い教養についての基礎的な知識と常識を修得し、責任感や倫理観を意識しながら自らを律し他者と協調・共同する能力を有し、活用することができる。	(2)(6)

授業科目表（フロンティアサイエンス学部生命化学科）　〔2026年度（令和8年度）以降の入学生に適用〕

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D	E
全学共通科目			基礎共通科目	*	*	○					
			外国語科目	*	*	○			○		
			保健体育科目	*	*	○					
			キャリア創生共通科目	*	*	○					○
＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 先進科学コースは全学共通科目（基礎共通科目10単位、外国語科目4単位、保健体育科目2単位）16単位 学際科学コースは全学共通科目（基礎共通科目10単位、外国語科目4単位、保健体育科目2単位）16単位、外国語科目（中級英語）4単位以上、キャリア創生共通科目20単位以上											
専門教育科目	必修科目	基礎専門科目	生物学序論	2	1		○				
			化学序論	2	1			○			
		専門科目	生物学基礎実験1	1	1					○	
			生物学基礎実験2	1	1					○	
			化学基礎実験1	1	1					○	
			化学基礎実験2	1	1					○	
			生物学応用実験1	2	2					○	
			生物学応用実験2	2	2					○	
			化学応用実験1	2	2					○	
			化学応用実験2	2	2					○	
	以上16単位必修										
	選択必修科目基礎	基礎科目	実践プレゼンテーション	2	2				○		
			フロントランナー講座	2	1						○
			数学	2	1						○
			物理学	2	1						○

授業科目名						単位数	配当年次	到達目標					
								Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	選択必修科目基礎	基礎科目	化学			2	1						○
			生物学			2	1						○
			地学			2	1						○
			生命化学			2	1						○
			地球の歴史			2	1						○
			生物の歴史			2	1						○
			自然と人間			2	1						○
			自然科学史			2	1						○
			技術の歴史			2	1						○
			環境と地理			2	1						○
			現代生活と物理学			2	1						○
			現代生活と生物学			2	1						○
			現代生活と数理科学			2	1						○
			現代生活と最先端科学			2	1						○
			核と環境			2	1						○
			環境の化学			2	1						○
			大気と海洋			2	1						○
			国際化と情報ネットワーク			2	1						○
			国際社会における最先端科学			2	1						○
			現代生活と生命化学			2	1						○
			Science in the World Today			2	1						○
			Science, Technology and SDGs			2	1						○
			Science News			2	1						○
			知能情報			2	1						○
			生体情報			2	1						○
			感性情報			2	1						○
			生命情報			2	1						○
			認知科学			2	1						○
	以上 10 単位以上選択必修												
	選択必修科目A群	専門科目	A1バイオサイエンスパック	ベーシック科目	分子生物学	2	1		○				
					遺伝子工学・バイオテクノロジー	2	1		○				
					生命機能科学	2	2		○				
					細胞工学	2	2		○				
				アドバンスト科目	薬理学	2	2		○				
					発生学	2	3		○				
			A2ナノサイエンスパック	ベーシック科目	無機化学	2	1			○			
					量子物理化学	2	1			○			
					固体光化学	2	2			○			
					ナノテクノロジー	2	2			○			
				アドバンスト科目	生物無機化学	2	2			○			
					電気化学	2	3			○			
			A3ナノバイオサイエンスパック	ベーシック科目	生化学	2	1		○				
					生命分析化学	2	1		○				
					生命物理化学	2	2		○				
					バイオ計測工学	2	2		○				
				アドバンスト科目	高分子化学	2	2		○				
					生体分子工学	2	3		○				
			A4ケミカルサイエンスパック	ベーシック科目	構造有機化学	2	1			○			
					有機電子論	2	1			○			
					有機反応各論	2	2			○			
					有機化学と分光法	2	2			○			
				アドバンスト科目	生物有機化学	2	2			○			
					有機合成化学	2	3			○			
	以上選択必修科目 A 群のうち、先進科学コース選択者は 24 単位以上（ただし、いずれか 1 パックについてはすべて修得すること）、学際科学コース選択者は 12 単位以上（ただし、すべてのパックから 2 単位以上ずつ修得すること）選択必修												

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標					
						Z	A	B	C	D	E
専門教育科目	キャリア科目		ベーシックキャリアデザイン	2	1						○
			理系キャリアデザイン	2	2						○
			キャリア実習	2	2						○
	キャリア科目は選択必修科目の単位数に充てることができない										
	選択必修科目B群	応用科目	B1科目 医療系 メディカルバイオテクノロジー	2	2		○				
			医療関連研究開発論	2	3		○				
			B2科目 先端材料系 アドバンストマテリアル	2	2			○			
			先端ナノ・マイクロ材料科学	2	3			○			
			B3科目 創薬系 創薬テクノロジー	2	2		○				
			ケミカルバイオロジー	2	3		○				
			B4科目 食品・化粧品系 バイオ・食品関連研究開発論	2	2			○			
			化粧品関連研究開発論	2	3			○			
			B5共通科目 エリアスタディーズⅤ	2	1				○		○
			理系キャリア実習	1	2					○	
			知財マネジメント	2	3						○
	以上選択必修科目B群のうち、先進科学コース選択者は10単位以上、学際科学コース選択者は4単位以上選択必修										
	選択必修科目C群	基礎科目※	医療概論	2	1		○				○
			先端材料概論	2	1			○			○
			創薬概論	2	1		○				○
			食品・化粧品概論	2	1			○			○
	以上選択必修科目C群のうち、先進科学コース選択者は2単位以上選択必修										
	先進科学コース必修科目	基礎科目	科学英語プレゼンテーション演習1	1	3				○		
			科学英語プレゼンテーション演習2	1	3				○		
			科学英語プレゼンテーション演習3	1	4				○		
			科学英語プレゼンテーション演習4	1	4				○		
		専門科目	ナノバイオラボA	6	3					○	
			ナノバイオラボB	6	3					○	
			ナノバイオ卒業研究	15	4		○	○	○	○	○
	学際科学コース必修科目	基礎科目	学際科学プレゼンテーション演習1	1	3				○		
			学際科学プレゼンテーション演習2	1	3				○		
		専門科目	共通応用演習Ⅰ	2	3				○		
			共通応用演習Ⅱ	2	3				○		
			文理融合総合研究	8	4		○	○	○	○	○
	以上先進科学コースは31単位、学際科学コースは14単位必修										
専門教育科目　先進科学コースは93単位以上、学際科学コースは56単位以上											
卒業必要単位数　128単位以上											

※学際科学コース選択者は専門教育科目の単位数に充てることができない。
（キャリア創生共通科目の単位数に充てることはできる。）

【卒業必要単位数】

1. フロンティアサイエンス学部の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上を修得しなければならない。

先進科学コース		学際科学コース	
基礎共通科目	10 単位	基礎共通科目	10 単位
外国語科目		外国語科目	
College English Reading	1 単位	College English Reading	1 単位
College English Writing	1 単位	College English Writing	1 単位
College English Listening	1 単位	College English Listening	1 単位
College English Speaking	1 単位	College English Speaking	1 単位
		中級英語	4 単位以上
保健体育科目	2 単位	保健体育科目	2 単位
		キャリア創生共通科目	20 単位以上
専門教育科目	93単位以上	専門教育科目	56 単位以上
必修科目		必修科目	
基礎専門科目	4 単位	基礎専門科目	4 単位
専門科目	12 単位	専門科目	12 単位
選択必修科目基礎		選択必修科目基礎	
基礎科目	10 単位以上	基礎科目	10 単位以上
選択必修科目		選択必修科目	
A 群（専門科目）	24 単位以上	A 群（専門科目）	12 単位以上
B 群（応用科目）	10 単位以上	B 群（応用科目）	4 単位以上
C 群（基礎科目）	2 単位以上		
コース必修科目		コース必修科目	
基礎科目	4 単位	基礎科目	2 単位
専門科目	27 単位	専門科目	12 単位
自由選択科目		自由選択科目	
合計	128 単位以上	合計	128 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業単位に充てることができる。ただし、必修または選択必修科目の単位数に充てることはできない。

(1) キャリア創生共通科目（「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「医療概論」、「先端材料概論」、「創薬概論」、「食品・化粧品概論」、「エリアスタディーズⅤ」は除く）。

(2) 基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門、College English Topics、College English Project については、いずれか 1 外国語 4 単位以内。

(3)「エリアスタディーズⅠ～Ⅳ」および「エリアスタディーズⅥ～Ⅹ」については、2 単位以内。

(4) 関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目については、学際科学コース選択者は 16 単位以内。

(5) 生涯スポーツについては、2 単位以内。

Ⅰ．履修登録科目の単位制限について

フロンティアサイエンス学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討したうえで履修登録科目を選択すること。

フロンティアサイエンス学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和８年２月26日　改正〕

【令和８年度以降入学生】

1. フロンティアサイエンス学部の学生が履修登録できる授業科目の単位数は次のとおりとする。なお、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

１年次	２年次	３年次	４年次
通年で合計48単位以内	通年で合計44単位以内	通年で合計44単位以内	通年で合計44単位以内

2. 次に掲げる科目の単位については、前項の単位制限を受けない。
   (1) 専門教育科目のうち、「ベーシック・キャリアデザイン」、「理系キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「エリアスタディーズⅤ」
   (2) 外国語科目の「海外語学講座Ⅰ～Ⅳ」、「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」及びキャリア創生共通科目の「エリアスタディーズⅠ～Ⅳ」、「エリアスタディーズⅥ～Ⅹ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」、「海外キャリア実習」、「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」、「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」
   (3) 他学部・他学科専門教育科目（学際科学コース）

（中略）・令和７年度以前の入学生適用表　略

（改廃）

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、令和８年４月１日から施行する。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 学期について

フロンティアサイエンス学部では、授業期間を４つに分け、４月から５月までをＡ期、６月から７月までをＢ期、９月から11月中旬までをＣ期、11月中旬から翌年１月までをＤ期として位置付け、原則として選択必修科目（Ａ群、Ｂ群の一部）等については、各学期８週（週２回、計15回）の授業を実施する。

なお、このような形態で実施する科目をクオーター科目と呼ぶ。同時に、Ａ期・Ｂ期、休業期間等を合わせた４月１日から９月16日までを前期、Ｃ期・Ｄ期、休業期間等を合わせた９月17日から３月31日までを後期として位置付け、基礎科目や選択必修科目（Ｂ群の一部）等については、前期あるいは後期各15週（週１回、計15回）の授業を実施する。このような形態で実施する科目をそれぞれ前期科目および後期科目（総じて半期科目）と呼ぶ。ただし、クオーター科目および半期科目は、期間を定めて集中講義として授業を実施することがある。このほか、前・後期を通じて年間30週（週

1回、計30回）の授業を実施する科目もあり、これらは通年科目と呼ぶ。

期別	学期	授業期間
前期	A期	4月から5月まで
	B期	6月から7月まで
後期	C期	9月から11月中旬まで
	D期	11月中旬から翌年1月まで

※詳細の日程については、『履修ガイドブック』の学年暦を参照すること。

2. 外国語科目について

(1)「College English Reading」、「College English Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」の計4単位を修得しなければならない。

(2) 基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門、College English Topics、College English Projectについては、いずれか1外国語4単位以内を専門教育科目として卒業必要単位に充てることができる。ただし、必修または選択必修科目の単位数に充てることはできない。

(3) 学際科学コース選択者は「中級英語 Speaking」、「中級英語 Presentation」、「中級英語 Writing」、「中級英語 Pronunciation」、「中級英語 Global Topics Ⅰ・Ⅱ」、「中級英語 Life Topics Ⅰ・Ⅱ」を卒業必要単位に充てることができる（3年次より履修可能、4単位以上修得が必要）。

(4) 配当年次2・3・4年次科目で（3）で掲げた科目以外の科目および「海外語学講座・留学支援科目」は、卒業必要単位に充てることはできない。

3. キャリア創生共通科目について

(1) 専門教育科目として卒業必要単位に充てることができる。ただし、必修または選択必修科目の単位数に充てることはできない（「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「医療概論」、「先端材料概論」、「創薬概論」、「食品・化粧品概論」、「エリアスタディーズⅤ」を除く）。

(2) 学際科学コース選択者は、20単位以上を修得しなければならない（「医療概論」、「先端材料概論」、「創薬概論」、「食品・化粧品概論」も含む）。

4. カリキュラムについて

カリキュラムは、おもに本学部の学生に対して開講される (1) 基礎科目、(2) 基礎専門科目、(3) 専門科目、(4) 応用科目、(5) キャリア科目、および全学部・学環向けに開講される (6) 全学共通科目、(7) 他学部の専門教育科目からなっている。

(1) 基礎科目

選択必修科目基礎・基礎科目は、専門分野に関する知識や技能を身に付けるうえで、その前提となる基礎学力や能力を1年次、2年次に養成する科目群である。基礎共通科目（自然科学系）は、

自然界における様々な現象を研究対象とする自然科学に属する科目群で、入学前までに習得した基礎的な学力を再確認するとともに、専門教育を受けるために必要な学修レベルへと引き上げることを目的としている。自然科学への理解を深めながら、体系的かつ段階的に専門分野へと進むための導入的な学修機会を提供する。また、「実践プレゼンテーション」では、専門知識や専門技能を生かして社会で活躍する際に必要となる、専門的内容に関する日本語による表現方法について学ぶ。「フロントランナー講座」は、各界の最先端を切り拓いてきた社会の“フロントランナー”をゲスト講師としてお招きして、先進的な考え方、困難を乗り越えた経験、さらには甲南スピリットについて教授いただくという趣旨の科目である。1年次後期に開講され、早い時期に将来を考え始めるきっかけとするというキャリア教育の役割も担っている。

3年次になると、先進科学コース、学際科学コースのいずれかのコースを選択する。ただし、「生物学応用実験」、「化学応用実験」で研究室コースを選択した者は、学際科学コースを選択することは原則としてできない。

先進科学コースでは、演習系科目の「科学英語プレゼンテーション演習」を履修し、専門知識や専門技能をさらに深め、専門的内容に関する英語のリーディング・ライティング・スピーキング・リスニング、および英語あるいは日本語による表現方法について理解を深めていく。

学際科学コースでは、演習系科目の「学際科学プレゼンテーション演習」を履修し、理系と文系にわたる幅広い専門知識に関して、調査、考察、プレゼンテーションを行い、その表現方法について理解を深めていく。

(2) 基礎専門科目【必修】

基礎専門科目は2つの序論科目からなっており、「生物学序論」では、生物学（バイオサイエンス）と生体分子化学（ナノバイオサイエンス）、「化学序論」では、有機化学（ケミカルサイエンス）と無機化学（ナノサイエンス）に関する基礎的な知識や考え方、さらに各分野の最新トピックスなどを交え、各分野の魅力や全体像を把握できる科目構成になっている。基礎専門科目は計4単位のすべてが必修で、いずれの科目も半期科目である。

(3) 専門科目

専門科目は、必修である実験科目と選択必修である講義科目からなっており、本学部での「学び」の基盤となる知識と技能を習得する。

実験科目「生物学基礎実験」、「化学基礎実験」、「生物学応用実験」、「化学応用実験」は1年次から2年次まで、生物学（バイオサイエンスとナノバイオサイエンス）、化学（ケミカルサイエンスとナノサイエンス）に関する実験技能および関連知識を系統的に身に付ける構成となっている。ただし、2年次より研究室での研究を希望する一部の学生（研究室コース選択者）は、研究室に所属して研究テーマに取組み、「生物学応用実験」、「化学応用実験」で一つの分野を掘り下げて学ぶ構

成を選択することもできる（先進科学コース選択希望者のみ）。この場合、原則として 4 年次終了まで研究室を変更することはできない。

先進科学コースでは、3 年次になると、全員が研究室に所属し、「ナノバイオラボ A」、「ナノバイオラボ B」を履修して特定の研究テーマに重点的に取り組むことにより、さらに高度な実験技術に加えて、結果の解釈や考察の記述に習熟するなど、卒業研究への橋渡しとなる内容を学ぶ。ただし、「生物学基礎実験 1、2」、「化学基礎実験 1、2」（1 年次配当の実験科目）を 1 科目でも未修得の場合、もしくは 3 年次に単位制限まで履修しても「ナノバイオ卒業研究」の履修要件を満たさない場合は、研究室への配属も「ナノバイオラボ A」、「ナノバイオラボ B」の履修もできない。4 年次になると「ナノバイオ卒業研究」を履修して卒業研究に取り組む。「ナノバイオ卒業研究」は通年科目で、年度の終わりには研究内容に関する発表や質疑応答等を通じて成績評価がなされる。専門科目では、必修科目 12 単位、コース必修科目 27 単位、計 39 単位を修得することが必要である。

学際科学コースでは、3 年次には岡本キャンパスで「共通応用演習Ⅰ」、「共通応用演習Ⅱ」を履修し、ゼミ形式で文理融合的な学びを進めていく。4 年次には「文理融合総合研究」を履修して卒業研究に取り組む。「文理融合総合研究」は通年科目で、年度の終わりには研究内容に関する発表や質疑応答等を通じて成績評価がなされる。専門科目では、必修科目 12 単位、コース必修科目 12 単位、計 24 単位を修得することが必要である。

講義科目は選択必修科目 A 群と位置付けられており、A1：バイオサイエンスパック、A2：ナノサイエンスパック、A3：ナノバイオサイエンスパック、A4：ケミカルサイエンスパックという 4 つのパック（科目群）に分類されている。卒業に際しては、先進科学コースでは、このうち少なくとも 1 つのパックについて、すべての科目（6 科目）を修得することが求められる。また学際科学コースでは、すべてのパックから 1 科目以上を修得することが求められる。なお、選択必修科目 A 群の科目はすべてクオーター科目である。

専門科目は、先進科学コースでは、必修 39 単位、選択必修 A 群から 24 単位以上、計 63 単位以上を、学際科学コースでは、必修 24 単位、選択必修 A 群から 12 単位以上、計 36 単位以上を修得することが必要である。

(4) 応用科目

応用科目は、専門科目で身に付けたナノサイエンス、バイオサイエンス、ナノバイオサイエンス、ケミカルサイエンスに関する知識や技能を社会に生かすという視点から捉える科目群と、グローバルな視点で実践する「エリアスタディーズⅤ」から構成された選択必修科目 B 群からなっている。この科目群には、幅広い最先端科学技術に関する医療系科目、先端材料系科目、創薬系科目、食品・化粧品系科目、企業の研究開発などに関する科目、知財関連法規や起業に関する科目などが含まれ、本学部での学びが実社会で多彩に活用されていることを学ぶ。

11 科目からなる応用科目のうちから先進科学コースは計 10 単位以上、学際科学コースは計 4単位

以上の修得が必要である。

(5) キャリア科目

キャリア科目は、大学入学後の早い段階から自身のキャリアデザインに関心をもち、理想とするキャリアパスを描いてその実現のために何を学ぶべきかを考えてもらうことを目的とした科目群である。将来のビジョンを明確にするという意味で重要な科目であるが、選択必修科目の単位数に充てることができない（専門教育科目（自由選択科目）として卒業単位に充てることはできる)。また、この科目群には3科目が含まれるが、履修する単位数は4単位までとすることを標準とする。

(6) 全学共通科目

全学共通科目は、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目等からなる。本学部の学生は1年次では前期の火曜日以外と後期の金曜日、2年次では前期と後期の金曜日に岡本キャンパスおよび六甲アイランド体育施設でこれらの科目を学ぶ。外国語科目は英語と第2外国語からなる。基礎共通科目は、幅広い教養知識の涵養を目的とした人文科学系・社会科学系・自然科学系・学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系・導入共通科目からなる科目群である。また、キャリア創生共通科目は、社会で活躍するフィールドを広げる、すなわちキャリアの広がりを創り出していくことを目的とした、大学と社会をつなぐ科目群である。これらの数多くの科目の中から、自身の興味や関心に合った科目を選択し、履修することができる。また、この岡本での講義は他学部・学環の学生との交流を深めるチャンスでもあるので、積極的に活用してほしい。

全学共通科目のうち、基礎共通科目から10単位、外国語科目（「College English Reading」、「College English Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」）から4単位、保健体育科目から2単位、合計16単位が必修となっている。なお、本学部で基礎共通科目として認められるのは、人文科学系・社会科学系・学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系・導入共通科目の科目である（自然科学系は選択必修科目基礎・基礎科目として卒業単位に充てることができる)。また、外国語科目として第2外国語（基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門、College English Topics、College English Projectの中からいずれか1外国語4単位以内）を履修することができる。生涯スポーツについても、2単位以内を履修することができる。これらも専門教育科目（自由選択科目）として卒業必要単位に充てることはできるが、選択必修科目に充てることはできない。岡本キャンパスおよび六甲アイランド体育施設で開講される科目は、1・2年次の岡本での講義の機会に卒業に必要な単位数を修得できなかった場合、卒業要件を満たすために3年次以上でキャンパス間移動を伴う履修をする必要があるので、特に注意して、よく考えたうえで、履修登録をすること。

※「医療概論」「先端材料概論」「創薬概論」「食品・化粧品概論」について

自身の将来のキャリアを見据えつつ、専門的知識を段階的に習得できるよう、「医療概論」「先端材料概論」「創薬概論」「食品・化粧品概論」の4科目が用意されている。これらの科目は、先進科学コースにおいては選択必修科目C群として、学際科学コースにおいてはキャリア創生共通科目として卒業単位に充当される。医療、材料、創薬、食品・化粧品など多様な分野への理解を促進するとともに、今後履修する選択必修科目A群やB群との関連性を把握することを目的としている。

(7) 他学部の専門教育科目

3年次以降､学際科学コースの選択者は「共通応用演習Ⅰ」､「共通応用演習Ⅱ」､「文理融合総合研究」を履修する中で本学部の学びだけでは得られない専門知識が必要となる場合、関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目を16単位以内に限って履修することができる。履修にあたっては、指導教員などを通じて事前に申し出ることが必要である。

※先進科学コースの選択者は、『履修ガイドブック』第2部履修登録 を確認すること。

5. 学際科学コース選択時における成績要件

(1) 基礎専門科目（「生物学序論」､「化学序論」）を修得していること。

(2) 専門科目（「生物学基礎実験」､「生物学応用実験」､「化学基礎実験」､「化学応用実験」）を修得していること。

(3) 選択必修科目基礎（基礎科目）のうち、6単位以上修得していること。

(4) 選択必修科目A群 のうち、12単位以上修得していること。

(5) 選択必修科目B群 のうち、2単位以上修得していること。

(6) 外国語科目（4単位)、基礎共通科目（10単位)、保健体育科目（2単位）を修得していること。

＊学際科学コースは希望しても必ず選択できるとは限らない。

6. 卒業条件と履修条件について

(1) 卒業条件

【先進科学コース】

フロンティアサイエンス学部を卒業するためには、原則として4年以上在学し、かつ必修科目16単位（基礎専門科目4単位・専門科目12単位)、選択必修科目基礎（基礎科目）10単位以上、選択必修科目A群（専門科目）24単位以上､選択必修科目B群（応用科目）10単位以上､選択必修科目C群（基礎科目）2単位以上、先進科学コース必修科目31単位（基礎科目4単位・専門科目27単位)、全学共通科目16単位（基礎共通科目10単位・外国語科目4単位・保健体育科目2単位）を修得し、合計128単位以上を修得しなければならない。

なお、選択必修科目 A 群に関しては、A1：バイオサイエンスパック、A2：ナノサイエンスパック、A3：ナノバイオサイエンスパック、A4：ケミカルサイエンスパックのうち、1 つ以上のパックについて、すべての科目の単位を修得しなければならない。

また、各パック内のアドバンスト科目（A1：「薬理学」、「発生学」、A2：「電気化学」、「生物無機化学」、A3：「高分子化学」、「生体分子工学」、A4：「生物有機化学」、「有機合成化学」）を履修するためには、当該パックに対応する基礎専門科目（A1,A3 は生物学序論、A2,A4 は化学序論）を修得していることが原則として必要である。

※ 3 年次配当科目の「科学英語プレゼンテーション演習 1」と「ナノバイオラボ A」、「科学英語プレゼンテーション演習 2」と「ナノバイオラボ B」、4 年次配当科目の「科学英語プレゼンテーション演習 3、4」と「ナノバイオ卒業研究」はそれぞれ同時に履修することが望ましい。

【学際科学コース】

フロンティアサイエンス学部を卒業するためには、原則として 4 年以上在学し、かつ必修科目 16 単位（基礎専門科目 4 単位・専門科目 12 単位）、選択必修科目基礎（基礎科目）10 単位以上、選択必修科目 A 群（専門科目）12 単位以上、選択必修科目 B 群（応用科目）4 単位以上、学際科学コース必修科目 14 単位（基礎科目 2 単位・専門科目 12 単位）、全学共通科目 16 単位（基礎共通科目 10 単位・外国語科目 4 単位・保健体育科目 2 単位）、中級英語 4 単位以上、キャリア創生共通科目 20 単位以上を修得し、合計 128 単位以上修得しなければならない。

なお、選択必修科目 A 群に関しては、A1：バイオサイエンスパック、A2：ナノサイエンスパック、A3：ナノバイオサイエンスパック、A4：ケミカルサイエンスパックのすべてのパックから 2 単位以上修得しなければならない。

また、各パック内のアドバンスト科目（A1：「薬理学」、「発生学」、A2：「電気化学」、「生物無機化学」、A3：「高分子化学」、「生体分子工学」、A4：「生物有機化学」、「有機合成化学」）を履修するためには、当該パックに対応する基礎専門科目（A1,A3 は生物学序論、A2,A4 は化学序論）を修得していることが原則として必要である。

※ 3 年次配当科目の「学際科学プレゼンテーション演習 1」と「共通応用演習Ⅰ」、「学際科学プレゼンテーション演習 2」と「共通応用演習Ⅱ」はそれぞれ同時に履修することが望ましい。

⑵ ナノバイオ卒業研究の履修条件

【ナノバイオ卒業研究（先進科学コース選択者）】

以下の条件①～⑥をすべて満たしていない場合は、4 年次配当科目である「ナノバイオ卒業研究」を原則として履修することができない。「ナノバイオ卒業研究」は必修科目のため、履修することができない場合、4 年間で卒業できないことになる。1 年次から計画的な履修を心がけること。また、「ナノバイオ卒業研究」の履修にあたっては、各研究室で決められている研究室のルールを守ること。

①基礎科目については、選択必修科目基礎 10 単位以上、先進科学コース必修科目 4 単位のうち 2 単位以上修得していること。

②基礎専門科目（必修 4 単位）をすべて修得していること。

③専門科目については、必修科目 12 単位、先進科学コース必修科目 27 単位、計 39 単位すべて、選択必修科目 A 群より 22 単位以上を修得していること。

④選択必修科目 B 群より 8 単位以上を修得していること。

⑤選択必修科目 C 群より 2 単位以上を修得していること。

⑥全学共通科目については、基礎共通科目の自然科学系を除く、人文科学系・社会科学系・学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系・導入共通科目の中から 10 単位、外国語科目（「College English Reading」、「College English Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」）より 4 単位、保健体育科目より 2 単位を修得していること。

7. 研究開発リーダー養成プログラムについて

本プログラムは、大学院進学を早期に希望する学生を対象とした特別な教育プログラムである。大学院進学を支援するとともに、就職後は研究開発のリーダーとして広い視野を持ち活躍できる人材を育成することを目的としている。院進学を見据え、高度な学習意欲を持つ学生のために設置されており、実際の研究現場で専門知識を応用する能力の習得を目標とする。学生は 2 年次前期から 4 年次前期までの各学期（前期・後期）において、プログラム生として本プログラムの修了をめざすか、通常の先進科学コースで卒業するかを選択することができる。

(1)　本プログラムに所属する学生の卒業のために必要な単位数や、卒業必要単位に算入できる専門教育科目以外の科目などは一般の学生と同様である。

(2)　プログラムの修了要件　本プログラムに参加し、その趣旨に見合った成果を残した学生を、「プログラム修了生」とする。プログラムを修了するためには、以下の 1)～5)の要件をすべて満たしている必要がある。

1）「理系キャリア実習」（プログラム生のみ受講可能とする）を修得していること。

2）キャリア科目（「ベーシックキャリアデザイン」、「理系キャリアデザイン」、「キャリア実習」）から 4 単位以上修得していること。

3）「フロントランナー講座」、「実践プレゼンテーション」、「知財マネジメント」、「エリアスタディーズ V」から 4 単位以上修得していること。

4）プログラム生対象イベントに参加していること。

5）以下の条件を 2 つ以上満たしていること。

①２年次配当の応用実験科目において研究室コースを選択し、研究室活動が特に優れていると認められた者。
②「ナノバイオ卒業研究」、「ナノバイオラボ A」、「ナノバイオラボ B」の一環として、多くの学外者が参加する場（リサーチフェスタ、産学交流会、シンポジウム、学会など）において自ら主体となり行なった研究成果を発表した者。
③大学院科目早期履修制度を利用して、フロンティアサイエンス研究科開講科目から２単位以上修得した者。
④ポートアイランドキャンパスにおける学生リーダー活動が特に優れていると認められた者。
⑤研究活動またはアイランドシップ連携活動においてリーダー的な役割を担ったと認められた者。
⑥「危険物取扱者」、「毒劇物取扱責任者」、「高圧ガス製造保安責任者」、「上級バイオ技術者」、「技術士」のいずれかの資格を取得している者。
⑦ TOEIC 600 点以上、実用英語技能検定（英検）準１級以上、またはこれらに準ずる英語能力試験のスコアを有している者。
⑧第２外国語の「College English Topics」と「College English Project」をともに修得していること。

(3)　学生の活動記録を基に、習得した能力や成長を可視化する個別面談を定期的に実施する予定である。

(4)　学生が研究活動や学びの成果を発表する場を設け、フィードバックと学内外への発信を行う体験発表会を実施する予定である。

【サブコースについて】

フロンティアサイエンス学部（FIRST）では、生命化学分野の幅広い進路に対応できるよう、実験科目を除く専門科目を選択必修科目（修得すべき単位数は定められているが、どの科目を履修するかは学生さんが選択できる科目）として配置しています。これは、みなさん一人ひとりが描くキャリアデザイン（仕事や学びの構想）にあわせて、柔軟に履修計画を組み立てられるようにするためです。しかし、選択肢が多いからこそ、「どの科目を選べばよいか迷ってしまう」という声も少なくありません。そこで FIRST では、多様な履修の組み合わせ例を整理し、進路の方向性ごとに参考として示した「サブコース」を新たに設置しました。

サブコースは「医療」「創薬」「先端材料」「食品・化粧品」の４つから構成され、それぞれの分野で活躍するために役立つ知識や思考力を身につける科目がまとめられています。例えば、「将来、食品・化粧品業界で活躍したい」という学生さんは、このサブコースに含まれる科目を履修することで、科学的知識や研究力だけではなく、関連する法律や業界構造の理解など、将来像へ近づくための学習の道筋を把握しやすくなります。

ただし、記載されたサブコース内の科目は、すべての科目の修得が必須という意味ではなく、あくまでみなさんの履修計画を支援する“モデル履修コース”の一つにすぎません。サブコースにとらわれず、自分らしい学びの組み合わせを自由に設計することも可能です。また、現時点でまだ明確な将来イメージがなくても心配する必要はありません。興味がある科目、あるいは今、目の前にある学びに一生懸命取り組むことで、少しずつ自分の進みたい方向が見えてきます。

その際に役立つよう、FIRST では１年次にサブコースの概論科目を配置しています（基礎的なキャリア形成の機会を確保するため、いずれか１つ以上を履修することになっています)。この概論科目では、各サブコースの分野で求められる知識や能力、また履修が将来どのようなキャリアにつながるかを具体的にイメージすることができます。

サブコースは、みなさんの多様な未来像に寄り添い、主体的な学びを後押しするための仕組みです。ぜひ、自分の興味や目標と向き合いながら、最適な履修プランを築いていってください。

●医療

医療は人々の健康を増進／回復させることを目的としており、フロンティアサイエンス学部ではバイオテクノロジーやナノテクノロジー等の科学技術がいかに医療に貢献しうるかを学んでいきます。

具体的には、ナノおよびバイオテクノロジーが切りひらく、疾病メカニズムの理解、診断試薬の開発、画像診断法の開発、治療法の開発等の最前線を学び、また、新しい医療技術を生み出すための基礎知識や着眼点等を身につけていきます。

【対象科目】

生物学序論、化学序論

医療概論

分子生物学、遺伝子工学・バイオテクノロジー、生命機能科学、細胞工学、薬理学、発生学、電気化学、生物無機化学、生化学、生命分析化学、生命物理化学、バイオ計測工学、高分子化学、生体分子工学、有機電子論

メディカルバイオテクノロジー、医療関連研究開発論、ケミカルバイオロジー

●創薬

薬とは、簡単に言えば、生体内のバイオ分子に作用する化学物質です。したがって、薬を設計するためには、細胞の働き、生体内のバイオ分子の構造や性質、生体内の化学反応等の知識を身につける必要があります。さらに、これらの知識をもとに、薬分子が生体内で作用するメカニズム（薬理学など）について学んでいきます。また、薬分子を合成するのに必要な有機化学の知識や、微生物等に薬を生産させるバイオテクノロジーの知識も欠かせません。

【対象科目】

生物学序論、化学序論

創薬概論

遺伝子工学・バイオテクノロジー、生命機能科学、薬理学、生物無機化学、生化学、生命分析化学、生命物理化学、バイオ計測工学、生体分子工学、構造有機化学、有機電子論、有機反応各論、有機化学と分光法、生物有機化学、有機合成化学

メディカルバイオテクノロジー、医療関連研究開発論、創薬テクノロジー、ケミカルバイオロジー

●先端材料

私たちの生活の中では、スマートフォンや電気自動車、太陽電池など、さまざまな場面で「新しい材料」が使われています。こうした材料は情報通信、エネルギー、環境など幅広い分野で活躍し、社会の発展を支えています。

フロンティアサイエンス学部では、化学やナノテクを中心に、材料の設計、合成、解析に役立つ知識やスキルを学んでいきます。

【対象科目】

生物学序論、化学序論

先端材料概論

無機化学、量子物理化学、固体光化学、ナノテクノロジー、電気化学、高分子化学、構造有機化学、有機電子論、有機反応各論、有機化学と分光法、生物有機化学、有機合成化学

メディカルバイオテクノロジー、アドバンストマテリアル、先端ナノ・マイクロ材料科学

●食品・化粧品

食品と化粧品は、私たちの生活に身近な存在です。食べものは体をつくり健康を支え、化粧品は肌を守り、気分を前向きにするなど心の面でも役立ちます。一方で、飢餓やフードロスといった社会課題、化粧品による肌トラブルや白斑のような安全性問題もあり、科学的に考える力が求められています。近年はナノ化技術、発酵などのバイオ技術、AI、代替肉など新技術が進み、食品・化粧品の世界は大きく変化しています。本サブコースでは、食品と化粧品を「社会で役立つ科学技術」として基礎から体系的に学び、安全性・品質管理・法規制・環境配慮まで含めて理解を深めます。「バイオ・食品関連研究開発論」「化粧品関連研究開発論」では企業研究者の講義を通じて、現場の開発や考え方を学び、知識を社会で活かす力を身につけます。

【対象科目】

生物学序論、化学序論

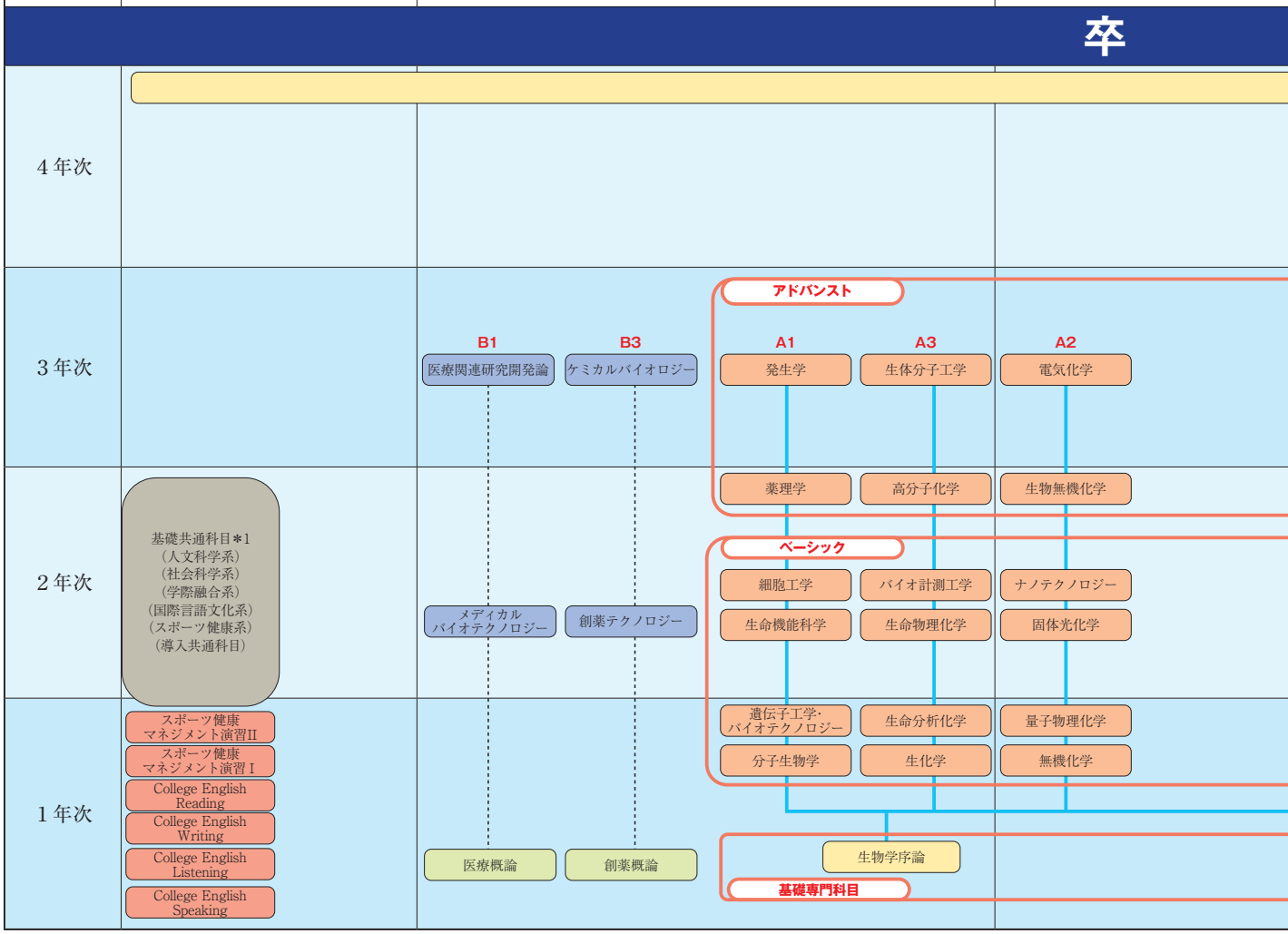
食品・化粧品概論

遺伝子工学・バイオテクノロジー、細胞工学、発生学、ナノテクノロジー、生物無機化学、生化学、生命分析化学、生命物理化学、バイオ計測工学、高分子化学、生体分子工学、有機反応各論、有機化学と分光法、生物有機化学

医療関連研究開発論、ケミカルバイオロジー、バイオ・食品関連研究開発論、化粧品関連研究開発論

フロンティアサイエンス学部 生命化学科 先進科学コース カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	（1）強い知的探究心をもち、幅広い教養についての基礎的な知識と常識をもとに、理科系の最先端知識を修得し応用できる、【基盤力】を有しています。 （2）責任感や倫理観を意識することができ、自らを律し他者と協調・協働することができる、【協働力】を有しています。 （3）生命化学分野に関して基本的な知識を修得し、専門分野の変化に対応し、フロンティア的発想・企画するための、【専門力】を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	（1）（2）（4）（6）	（1）（3）	
到達目標	**Z** 人文科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、ナノバイオと社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	**A** 生命現象の理解と応用に必要な知識を有し、活用することができる。	
科目群	全学共通科目	選択必修科目A群（バイオパック、ナノバイオパック） 選択必修科目B群（医療、創薬） 選択必修科目C群（医療概論、創薬概論） 基礎専門科目（生物学序論） ナノバイオ卒業研究	

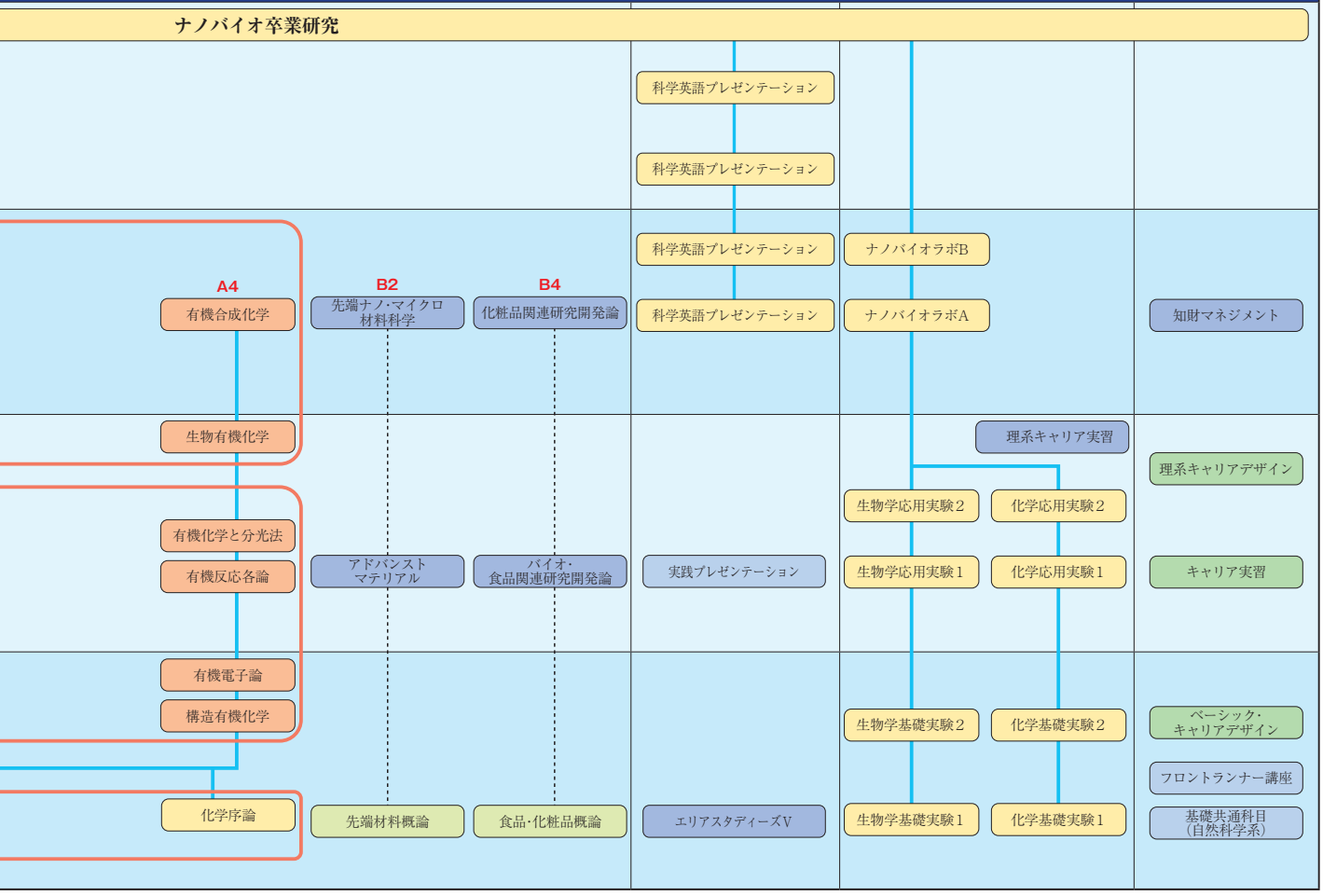


1. 基礎共通科目は、合計 10 単位を取得しなければならない。
・人文科学系、社会科学系、学際融合系（「フロントランナー 講座」を除く。）、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目、導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「 AI・データサイエンス入門」（＊1）
2. 次の科目については、専門教育科目として卒業単位に充てることができる。ただし、必修または選択必修科目の単位数に充てることはできない。
①キャリア創生共通科目（「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「医療概論」、「先端材料概論」、「創薬概論」、「食品・化粧品概論」、「エリアスタディーズⅤ」は除く）。
②基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門、College English Topics Ⅰ・Ⅱ、College English Project Ⅰ・Ⅱについては、いずれか 1 外国語 4 単位以内。
③「エリアスタディーズⅠ～Ⅳ」および「エリアスタディーズⅥ～Ⅹ」については、2 単位以内。
④生涯スポーツについては、2 単位以内。
注）上記②～④の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

卒業認定・学位授与の方針（DP）	（4）自分の意見等を的確に分かりやすく説明する意志とプレゼンテーション技能である、【発表力】を有しています。	
	（5）国際社会で活躍するために必須となる、科学英語を駆使したコミュニケーションができる、【国際力】を有しています。	
	（6）天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力、【自己実現力】を有しています。	

（1）（3）	（4）（5）	（3）（6）	（2）（6）
B 化学現象の理解と応用に必要な知識を有し、活用することができる。	**C** 必要に応じて英語を使用しながら、資料作成、ポスター発表、口頭発表を行える技術を有し、活用することができる。	**D** 理科系の最先端知識を修得し応用するために必要な、情報収集、実験技術、課題発見、課題解決の能力を有し、活用することができる。	**E** 幅広い教養についての基礎的な知識と常識を修得し、責任感や倫理観を意識しながら自らを律し他者と協調・共同する能力を有し、活用することができる。
選択必修科目A群（ケミカルパック、ナノパック） 選択必修科目B群（先端材料、食品・化粧品） 選択必修科目C群（先端材料概論、食品・化粧品概論） 基礎専門科目（化学序論） ナノバイオ卒業研究	先進科学コース 必修基礎科目 実践プレゼンテーション エリアスタディーズV ナノバイオ卒業研究	先進科学コース専門科目 必修・専門科目（実験系） 理系キャリア実習 ナノバイオ卒業研究	基礎共通科目（自然科学系）フロントランナー講座 キャリア科目 知財マネジメント ナノバイオ卒業研究

業

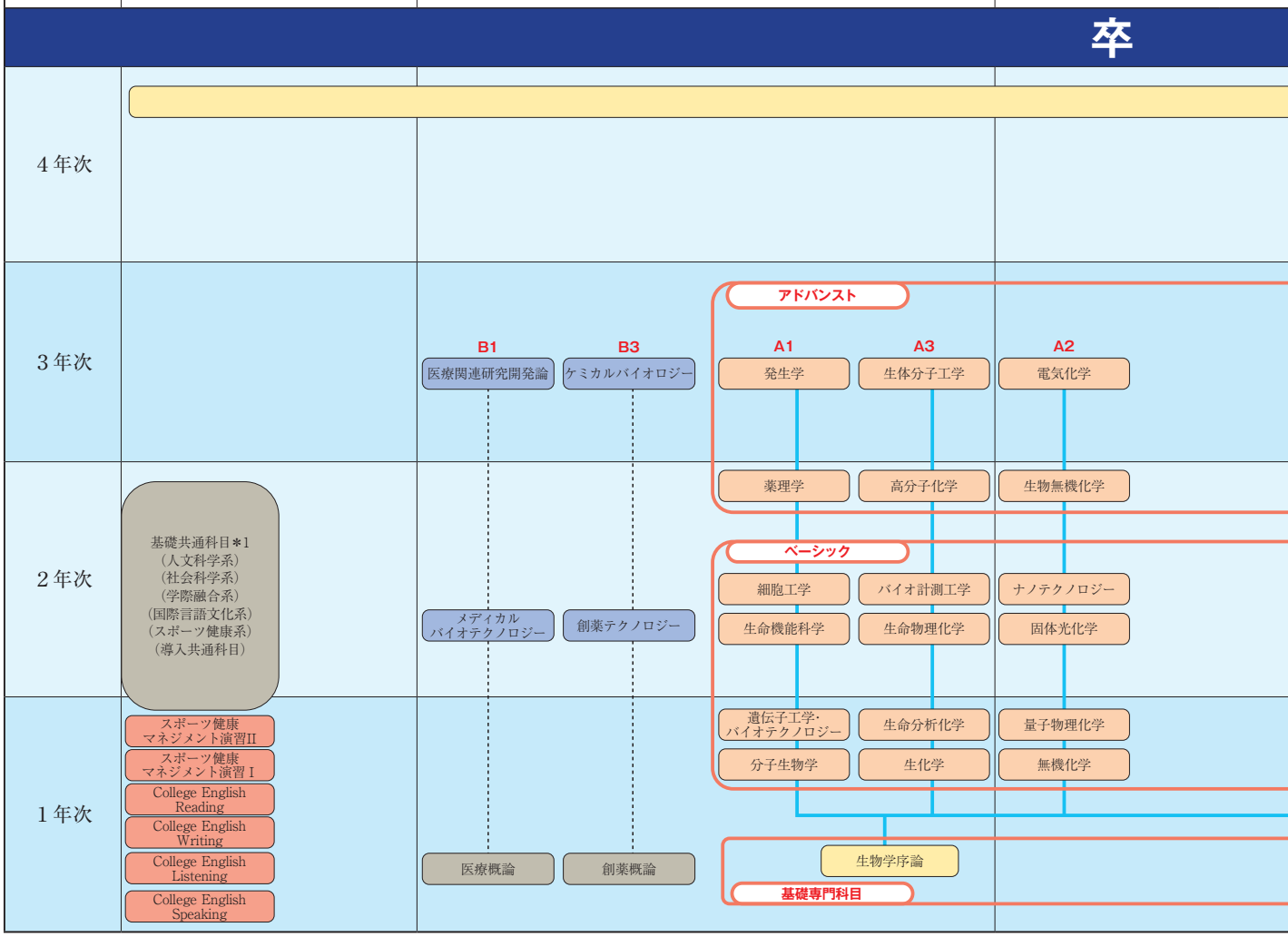


タグの色分け

必修科目　選択必修科目基礎　選択必修科目A群　選択必修科目B群　選択必修科目C群　キャリア科目　全学共通科目　全学共通科目（必修）

フロンティアサイエンス学部 生命化学科 学際科学コース カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針（DP）	（1）強い知的探究心をもち、幅広い教養についての基礎的な知識と常識をもとに、理科系の最先端知識を修得し応用できる、【基盤力】を有しています。 （2）責任感や倫理観を意識することができ、自らを律し他者と協調・協働することができる、【協働力】を有しています。 （3）生命化学分野に関して基本的な知識を修得し、専門分野の変化に対応し、フロンティア的発想・企画するための、【専門力】を有しています。		
対応する卒業認定・学位授与の方針（DP）の番号	（1）（2）（4）（6）	（1）（3）	
到達目標	**Z** 人文科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、ナノバイオと社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる 。	**A** 生命現象の理解と応用に必要な知識を有し、活用することができる。	
科目群	全学共通科目	選択必修科目A群（バイオパック、ナノバイオパック） 選択必修科目B群（医療、創薬） 選択必修科目C群（医療概論、創薬概論） 基礎専門科目（生物学序論） 文理融合総合研究	

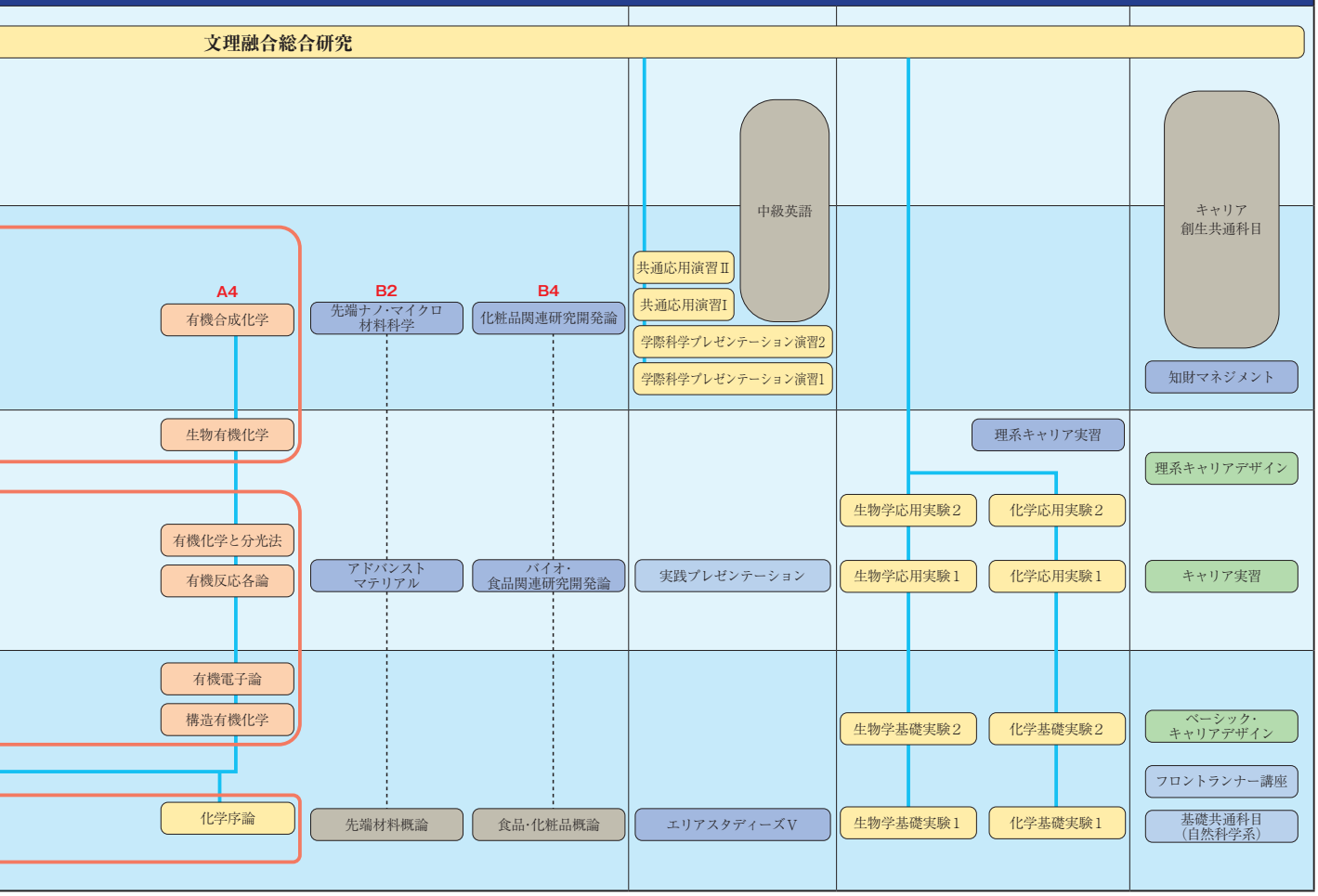


1. 基礎共通科目は、合計 10 単位を取得しなければならない。
・人文科学系、社会科学系、学際融合系（「フロントランナー 講座」を除く。）、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目、導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「 AI・データサイエンス入門」（＊1）
2. 次の科目については、専門教育科目として卒業単位に充てることができる。ただし、必修または選択必修科目の単位数に充てることはできない。
①キャリア創生共通科目（「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「医療概論」、「先端材料概論」、「創薬概論」、「食品・化粧品概論」、「エリアスタディーズⅤ」は除く）。
②基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門、College English Topics Ⅰ・Ⅱ、College English Project Ⅰ・Ⅱについては、いずれか 1 外国語 4 単位以内。
③「エリアスタディーズⅠ～Ⅳ」および「エリアスタディーズⅥ～Ⅹ」については、2 単位以内。
④関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目については、学際科学コース選択者は 16 単位以内。
⑤生涯スポーツについては、2 単位以内。
注）上記②～⑤の科目名は、カリキュラムツリー上に表示していない。

卒業認定・学位授与の方針（DP）	（4）自分の意見等を的確に分かりやすく説明する意志とプレゼンテーション技能である、【発表力】を有しています。	
	（5）国際社会で活躍するために必須となる、科学英語を駆使したコミュニケーションができる、【国際力】を有しています。	
	（6）天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力、【自己実現力】を有しています。	

（1）（3）	（4）（5）	（3）（6）	（2）（6）
B 化学現象の理解と応用に必要な知識を有し、活用することができる。	**C** 必要に応じて英語を使用しながら、資料作成、ポスター発表、口頭発表を行える技術を有し、活用することができる。	**D** 理科系の最先端知識を修得し応用するために必要な、情報収集、実験技術、課題発見、課題解決の能力を有し、活用することができる。	**E** 幅広い教養についての基礎的な知識と常識を修得し、責任感や倫理観を意識しながら自らを律し他者と協調・共同する能力を有し、活用することができる。
選択必修科目A群（ケミカルパック、ナノパック） 選択必修科目B群（先端材料、食品・化粧品） 選択必修科目C群（先端材料概論、食品・化粧品概論） 基礎専門科目（化学序論） 文理融合総合研究	学際科学コース 必修科目 中級英語 実践プレゼンテーション エリアスタディーズⅤ 文理融合総合研究	必修・専門科目（実験系） 理系キャリア実習 文理融合総合研究	基礎共通科目（自然科学系） フロントランナー講座 キャリア科目 知財マネジメント キャリア創生共通科目 文理融合総合研究

業



必修科目　全学共通科目　全学共通科目（必修）　選択必修科目基礎　選択必修科目A群　選択必修科目B群　キャリア科目

グローバル教養学環

グローバル教養学環

グローバル教養学位プログラム

教育基本方針

甲南大学グローバル教養学環は、創立者である平生釟三郎の教育理念のもと、複数言語の運用能力とグローカルに課題解決を図るための知識と技能を身につけ、異文化と多様性の中で文化や言語の壁を越えて、世界の人々と協働する力を養います。それにより、多様な価値観が並び立つ予測困難な時代において、グローバル社会や地域社会の様々な課題解決に取り組む人材として、社会の第一線で活躍できる高潔で意欲的な人物を育成することを目指します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。グローバル教養学環の教育基本方針のもと、複数言語圏での海外学習を経験し、かつ卒業必要単位数130単位以上（基礎共通科目18単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位、専門教育科目102単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（グローバル教養）の学位を授与します。

(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力、資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4) 多様な文化と言語背景を持つ人々と関わり、協働することを可能とする複数の言語運用能力を有します。
(5) 異文化間の機微を察知して葛藤を未然に防ぐ異文化間調整能力を有します。
(6) 課題解決に必要な社会科学の知識と文理横断的な知識と技能を有し、論理的思考力を有します。
(7) 現代社会の問題に対し国際的な視野をもって的確な問いをたて、グローカルに問題解決をはかる能力を有します。

教育課程編成・実施の方針

グローバル教養学環では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③複数の言語圏への留学による異文化体験、④問題解決能力と国際教養の知識による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。

また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次から4年次まで継続する演習科目ゼミにより、基礎的な読解力、表現力、コミュニケーション力、問題解決能力を養成します。
(2) 英語および第2外国語によるコミュニケーション能力を育成する科目や異文化理解について学ぶ科目を配置します。
(3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的知識を学ぶ基礎共通科目を配置します。
(4) 交換留学、奨励留学、海外語学講座を始めとする留学プログラムを配置します。
(5) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
(6) 企業や行政等との地域連携による実践PBL科目を始めとして、グローカルな視点で学びを深める科目を配置します。
(7) 卒業論文あるいは課題研究プロジェクトにより、留学をはじめ、在学中に学んだことを集大成します。

2）教育方法

(1) 1)に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
(2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習・演習などを重視したクラス編成を行います。
(3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
(4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3）学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針(DP)

(1)	自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
(2)	天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
(3)	人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力、資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
(4)	多様な文化と言語背景を持つ人々と関わり、協働することを可能とする複数の言語運用能力を有します。
(5)	異文化間の機微を察知して葛藤を未然に防ぐ異文化間調整能力を有します。
(6)	課題解決に必要な社会科学の知識と文理横断的な知識と技能を有し、論理的思考力を有します。
(7)	現代社会の問題に対し国際的な視野をもって的確な問いをたて、グローカルに問題解決をはかる能力を有します。

到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号
Z	人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	(1) (2) (3)
A	【複数言語の運用能力】グローカルな課題解決に必要な多言語運用能力を有する。	(4)
B	【異文化間調整能力】グローカルな課題解決に必要な異文化間調整能力を有する。	(5) (7)
C	【企画立案・提案力】社会に主体的に貢献しながら、自己実現することができる。	(1) (2)
D	【文理横断的な知識・技能】人文科学・自然科学・社会科学に関する専門的教養および文理横断的な知識、技能、論理的思考力を有する。	(3) (6)

授業科目表（グローバル教養学位プログラム）　〔2026 年度（令和 8 年度）の入学生に適用〕

授業科目名称				単位数	配当年次	到達目標 Z	A	B	C	D
全学共通科目			基礎共通科目	*	*	○				
			外国語科目	*	*	○				
			保健体育科目	*	*	○				
＊単位数、配当年次については、全学共通科目のカリキュラムマップに記載されている各科目を参照のこと 全学共通科目（基礎共通科目 18 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位）28 単位										
専門教育科目	必修科目	STAGE 演習	STAGE 演習Ⅰ A	2	1				○	
			STAGE 演習Ⅰ B	2	1				○	
			STAGE 演習Ⅱ A	2	2				○	
			STAGE 演習Ⅱ B	2	2				○	
			STAGE 演習Ⅲ A	2	3				○	
			STAGE 演習Ⅲ B	2	3				○	
			STAGE 演習 Capstone	8	4				○	
	以上 20 単位必修									
	言語運用科目	中級英語①	中級英語 Writing	4	1		○			
			中級英語 Presentation	4	1		○			
			中級英語 Speaking	4	2		○			
			中級英語 Global Topics Ⅰ	2	2		○			
			中級英語 Global Topics Ⅱ	2	2		○			
		中級英語②	中級英語 Listening	4	2		○			
			中級英語 Reading	4	2		○			
			中級英語 Pronunciation	2	2		○			
			中級英語 TOEIC	4	2		○			
			中級英語 Life Topics Ⅰ	2	2		○			
			中級英語 Life Topics Ⅱ	2	2		○			
			中級英語 Career English Ⅰ	2	2		○			
			中級英語 Career English Ⅱ	2	2		○			

授業科目名称				単位数	配当年次	到達目標				
						Z	A	B	C	D
専門教育科目	言語運用科目	上級英語	上級英語 TOEIC	4	3		○			
			上級英語 Global Topics Ⅰ	2	3		○			
			上級英語 Global Topics Ⅱ	2	3		○			
			上級英語 Career English Ⅰ	2	3		○			
			上級英語 Career English Ⅱ	2	3		○			
			上級英語 Life Topics Ⅰ	2	3		○			
			上級英語 Life Topics Ⅱ	2	3		○			
		ドイツ語	中級ドイツ語Ⅰ	4	2		○			
			中級ドイツ語Ⅱ	4	2		○			
			中級ドイツ語Ⅲ	4	2		○			
			中級ドイツ語Ⅳ	4	2		○			
			上級ドイツ語Ⅰ	4	3		○			
			上級ドイツ語Ⅱ	4	3		○			
		フランス語	中級フランス語Ⅰ	4	2		○			
			中級フランス語Ⅱ	4	2		○			
			中級フランス語Ⅲ	4	2		○			
			中級フランス語Ⅳ	4	2		○			
			上級フランス語Ⅰ	4	3		○			
			上級フランス語Ⅱ	4	3		○			
		中国語	中級中国語Ⅰ	4	2		○			
			中級中国語Ⅱ	4	2		○			
			中級中国語Ⅲ	4	2		○			
			中級中国語Ⅳ	4	2		○			
			上級中国語Ⅰ	4	3		○			
			上級中国語Ⅱ	4	3		○			
		韓国語	中級韓国語Ⅰ	4	2		○			
			中級韓国語Ⅱ	4	2		○			
			中級韓国語Ⅲ	4	2		○			
			中級韓国語Ⅳ	4	2		○			
			上級韓国語Ⅰ	4	3		○			
			上級韓国語Ⅱ	4	3		○			
		日本語	大学日本語中級Ⅰ	4	2		○			
			大学日本語中級Ⅱ	4	2		○			
			大学日本語上級Ⅰ	4	3		○			
			大学日本語上級Ⅱ	4	3		○			
		留学支援	TOEFL Ⅰ	2	1		○			
			TOEFL Ⅱ	2	2		○			
			IELTS Ⅰ	2	1		○			
			IELTS Ⅱ	2	2		○			
			海外語学講座Ⅰ	4	1		○			
			海外語学講座Ⅱ	4	1		○			
			海外語学講座Ⅲ	2	1		○			
			海外語学講座Ⅳ	2	1		○			
			外国留学科目Ⅰ	4	2		○			
			外国留学科目Ⅱ	4	2		○			
			外国留学科目Ⅲ	4	2		○			
			外国留学科目Ⅳ	4	2		○			
	以上のうち 32 単位以上選択必修 ただし、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語から 2 言語を選択し、それぞれ 8 単位以上選択必修									

授業科目名称				単位数	配当年次	到達目標				
						Z	A	B	C	D
専門教育科目	国際理解・グローカル科目	A群	国際理解Ⅰ（異文化理解）	2	1			○		
			国際理解Ⅱ（国際問題）	2	1			○		
			SDGs 概論	2	1			○		
			グローカル実践プロジェクトⅠ	2	2				○	
			グローカル実践プロジェクトⅡ	2	3				○	
		以上のうち 6 単位以上選択必修								
		B群	世界の中の日本Ⅰ	2	2			○		
			世界の中の日本Ⅱ	2	2			○		
			English Regions Ⅰ	2	1			○		
			English Regions Ⅱ	2	1			○		
			English Regions Ⅲ	2	2		○			
			English Regions Ⅳ	2	2		○			
			German Studies Ⅰ	2	1			○		
			German Studies Ⅱ	2	2			○		
			German Studies Ⅲ	2	2		○			
			German Studies Ⅳ	2	2		○			
			French Studies Ⅰ	2	1			○		
			French Studies Ⅱ	2	2			○		
			French Studies Ⅲ	2	2		○			
			French Studies Ⅳ	2	2		○			
			Chinese Studies Ⅰ	2	1			○		
			Chinese Studies Ⅱ	2	2			○		
			Chinese Studies Ⅲ	2	2		○			
			Chinese Studies Ⅳ	2	2		○			
			Korean Studies Ⅰ	2	1			○		
			Korean Studies Ⅱ	2	2			○		
			Korean Studies Ⅲ	2	2		○			
			Korean Studies Ⅳ	2	2		○			
			社会学概論	2	2			○		
			多文化共生論	2	2			○		
			文化人類学	2	2			○		
			社会人間学	2	2			○		
			社会心理学	2	2			○		
			ブリティッシュ・スタディーズⅠ	2	2			○		
			ブリティッシュ・スタディーズⅡ	2	2			○		
			アメリカン・スタディーズⅠ	2	2			○		
			アメリカン・スタディーズⅡ	2	2			○		
			社会問題と思想	2	2			○		
			社会問題と制度	2	2			○		
			グローバル研究プロジェクト A	4	2				○	
			グローバル研究プロジェクト B	6	2				○	
			海外ボランティアⅠ	4	1		○			
			海外ボランティアⅡ	2	1		○			
			海外キャリア実習	4	2		○			
			エリアスタディーズⅠ	2	1		○			
			エリアスタディーズⅡ	2	1		○			
			エリアスタディーズⅢ	2	1		○			
			エリアスタディーズⅣ	2	1		○			

授業科目名称				単位数	配当年次	到達目標				
						Z	A	B	C	D
専門教育科目	国際理解・グローカル科目	B群	エリアスタディーズⅤ	2	1		○			
			エリアスタディーズⅥ	2	1		○			
			エリアスタディーズⅦ	2	1		○			
			エリアスタディーズⅧ	2	1		○			
			エリアスタディーズⅨ	2	1		○			
			エリアスタディーズX	2	1		○			
			実践ボランティアⅠ	1	1				○	
			実践ボランティアⅡ	1	1				○	
			地域ファシリテイト	2	2				○	
	以上のうち14単位以上選択必修									
	データサイエンス科目		AI・データサイエンス入門	2	1					○
			データサイエンス基礎	2	2					○
			IT応用	2	1					○
			情報通信テクノロジⅠ	2	1					○
			情報通信テクノロジⅡ	2	1					○
			ICTセキュリティ	2	2					○
			基本情報技術	2	3					○
			統計基礎	2	1					○
			統計活用情報分析Ⅰ	2	2					○
			統計活用情報分析Ⅱ	2	2					○
	以上のうち8単位以上選択必修									
	社会科学科目	経済学	初級ミクロ経済学	2	2					○
			初級マクロ経済学	2	2					○
			国際経済	4	2					○
			経済政策	4	2					○
			地域政策	2	2					○
			現代アジア経済Ⅰ	2	3					○
			現代アジア経済Ⅱ	2	3					○
			現代中国経済	2	3					○
			現代アメリカ経済	2	3					○
			公共政策	2	3					○
			中級統計学	4	2					○
			計量経済Ⅰ	2	3					○
			計量経済Ⅱ	2	3					○
			ビジネスデータ分析	2	3					○
		法学・政治学	入門民法　財産法編Ⅰ	2	2					○
			入門民法　財産法編Ⅱ	2	2					○
			入門商法　会社法編	2	2					○
			入門ビジネス法務	2	2					○
			実践ビジネス法務	2	2					○
			ビジネスを支える法の世界	2	3					○
			公共政策論Ⅰ	2	2					○
			公共政策論Ⅱ	2	2					○
			知的財産とイノベーションⅠ	2	2					○
			知的財産とイノベーションⅡ	2	2					○
			国際法Ⅰ	2	2					○
			国際法Ⅱ	2	2					○

授業科目名称				単位数	配当年次	到達目標				
						Z	A	B	C	D
専門教育科目	社会科学科目	法学・政治学	国際政治学Ⅰ	2	2					○
			国際政治学Ⅱ	2	2					○
			経済法Ⅰ	2	3・4					○
			経済法Ⅱ	2	3・4					○
		経営学	入門マネジメント	2	2					○
			実践マネジメント	2	2					○
			入門ビジネス会計	2	2					○
			実践ビジネス会計	2	2					○
			経営管理論	4	2					○
			経営戦略論	4	2					○
			ベンチャービジネス	4	2					○
			環境経営論	4	2					○
			国際経営論	4	2					○
			アジア経営論	4	2					○
			国際マーケティング論	4	2					○
			経営コンサルティング論	2	3・4					○
	アカデミック留学科目		STAGE アカデミック留学科目Ⅰ	4	2		○			
			STAGE アカデミック留学科目Ⅱ	4	2		○			
			STAGE アカデミック留学科目Ⅲ	4	2		○			
			STAGE アカデミック留学科目Ⅳ	4	2		○			
			STAGE アカデミック留学科目Ⅴ	4	2		○			
	キャリアデザイン科目		国際理解Ⅲ（グローバルキャリア）	2	1					○
			ベーシック・キャリアデザイン	2	1					○
			プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2	2					○
			プラクティカル・キャリアデザインⅡ	2	3					○
専門教育科目　102 単位以上										
卒業必要単位数　130 単位以上										

【卒業必要単位数】

1. グローバル教養学環の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	20 単位
選択必修科目	
言語運用科目	32 単位以上
国際理解・グローカル科目	14 単位以上
データサイエンス科目	8 単位以上
自由選択科目	
合計	130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。

(1) 第 3 外国語として履修する基礎外国語科目については、4 単位以内

(2) 関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（専門科目に含まれるものを除く。）については、12 単位以内

3. 外国語科目のうち、日本語（「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」）は、日本語を母語としない学生が履修することができる。

グローバル教養学環設置届出に係る学則記載事項の確認について

令和 6 年 3 月 22 日　改正
グローバル教養学位プログラム開設準備委員会

グローバル教養学環の設置届出に係る学則記載事項については、以下のとおり取り扱うものとする。

(1)　甲南大学学則別表第 2 の（5）における「第 3 外国語として履修する基礎外国語科目」は、「外国語科目として履修する科目以外の基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語及び大学日本語入門」とする。

(2)　本取扱いは令和 6 年度入学者から適用する。

以上

Ⅰ．履修登録科目の単位制限について

グローバル教養学環では次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討したうえで履修科目を選択すること。

グローバル教養学環履修登録科目の単位制限に関する内規

〔令和７年２月 27 日　改正〕

グローバル教養学環の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

【2025 年度（令和７年度）以降入学生に適用】

1. グローバル教養学環の学生が履修登録できる授業科目の単位数は次のとおりとする。

１年次	２年次	３年次	４年次
48 単位以内	48 単位以内	48 単位以内	48 単位以内

2. 次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

(1)「STAGE 演習 Capstone」
(2)「海外語学講座Ⅰ～Ⅳ」
(3)「TOEFL Ⅰ」「IELTS Ⅰ」
(4)「キャリア実習」
(5)「エリアスタディーズⅠ～X」「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」「海外キャリア実習」
(6)「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」
(7)「ジャパンスタディーズ 1～14」
(8) 単位互換科目
(9) 教育職員免許状を得るために必要な教科及び教職に関する科目
(10) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(11) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
(12) 公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
(13) 卒業単位に算入されない授業科目

〈中略・2024 年度（令和６年度）以前入学者適用表　略〉

（改廃）
この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附　則
この内規は、令和７年４月１日から施行する。

Ⅱ．科目履修上の諸注意

1. 履修登録は前期に、集中講義を含む通年科目、前期科目、後期科目のすべてについて行うことができる。1年間の履修計画を立てたうえで登録すること。後期科目については、前期および後期に登録可能で、前期に登録したものも後期に追加・変更ができるので、前期にまず登録すること。
2. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できないので注意すること。
3. 「STAGE 演習 Capstone」を履修するにあたり、3年次終了までに複数言語圏での海外学習を経験することを原則とする。短期留学とは「エリアスタディーズ」「海外語学講座」「海外ボランティア」等を、中・長期留学とは外国留学規程に基づく留学を基本とする。（詳細についてはグローバル教養学環の学生を対象とした留学に関する説明会で周知する。）
4. 4年次の学生は「STAGE 演習 Capstone」を履修登録したうえで、卒業論文又は課題プロジェクト成果物を提出しなければならない。
5. 履修条件について

   以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履修条件
国際経済 経済政策 地域政策 現代中国経済 現代アメリカ経済 公共政策 中級統計学	「初級ミクロ経済学」および「初級マクロ経済学」を修得済みであること。
ビジネスデータ分析	「初級ミクロ経済学」および「初級マクロ経済学」を修得済みであること。また、「統計基礎」または「AI・データサイエンス入門」の単位を修得済みであること。
計量経済Ⅰ	「初級ミクロ経済学」および「初級マクロ経済学」を修得済みであること。なお、「計量経済Ⅰ」、「計量経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
計量経済Ⅱ	
現代アジア経済Ⅰ	「初級ミクロ経済学」および「初級マクロ経済学」を修得済みであること。なお、「現代アジア経済Ⅰ」、「現代アジア経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
現代アジア経済Ⅱ	

6. 下記の科目は、外国留学規程にもとづく、外国留学帰国学生の単位換算用科目である。

授業科目	単位数
外国留学科目Ⅰ	4
外国留学科目Ⅱ	4
外国留学科目Ⅲ	4
外国留学科目Ⅳ	4
STAGEアカデミック留学科目Ⅰ	4
STAGEアカデミック留学科目Ⅱ	4
STAGEアカデミック留学科目Ⅲ	4
STAGEアカデミック留学科目Ⅳ	4
STAGEアカデミック留学科目Ⅴ	4

Ⅲ．科目群について

グローバル教養学環では、専門教育科目を、「必修科目」、「言語運用科目」、「国際理解・グローカル科目」、「データサイエンス科目」、「社会科学科目（経済学、法学・政治学、経営学）」、「アカデミック留学科目」、「キャリアデザイン科目」という７つの科目群（グループ）に分類している。

〔各科目群の概要〕

必修科目

初年次から卒業時まで続く、少人数クラスによる演習形式の必修科目が「STAGE 演習」である。1 年次から段階的に進め、複数言語圏での海外学習を経験しより高度な内容として発展させ、卒業時には卒業研究（卒業論文又は課題プロジェクト）により、在学中に学んだことを集大成する。必修の演習科目（ゼミ）として 4 年間継続して履修する。1 年次は導入科目である「STAGE 演習Ⅰ A」（前期）、「STAGE 演習Ⅰ B」（後期）、2 年次は留学に向けた準備に重点を置いた「STAGE 演習Ⅱ A」（前期）と留学中の学生への継続した指導を行う「STAGE 演習Ⅱ B」（後期）、3 年次は引き続き留学中の学生への継続した指導を行う「STAGE 演習Ⅲ A」（前期）、帰国後に留学の意味を考察し深める「STAGE 演習Ⅲ B」（後期）、そして 4 年次は本学での学習と留学・海外体験を合わせて深化させ卒業論文（課題プロジェクト）として仕上げていくための「STAGE 演習 Capstone」である。留学中もオンラインを活用して演習科目（ゼミ）の指導を継続する。

演習科目（ゼミ）テーマとして（1）グローバルビジネス、（2）グローバルイシューズ、（3）異文化間コミュニケーション、（4）地域創生、（5）持続可能な社会の 5 つの分野を設定し、STAGE の専任教員がアカデミック・アドバイザーとしてチーム体制で指導にあたる。学生はグループワークを通してリサーチと発表を経験し、さらに個人のテーマを絞り卒業研究につなぐ。

言語運用科目

外国語の運用能力やプレゼンテーション能力などコミュニケーション能力の向上に資する授業科目として、英語と第 2 外国語の中級、上級科目を設置している。また、英語圏への留学に必要な TOEFL や IELTS に対応するための科目や海外語学講座を始めとする短期・中長期留学での学びを単位認定するための科目を設けている。

国際理解・グローカル科目

異文化と接することによって生じる様々なコミュニケーションの問題を理解するとともに、国際問題を学ぶことで世界が直面している課題を理解するため、「国際理解Ⅰ（異文化理解）」、「国際理解Ⅱ（国際問題）」、「グローカル実践プロジェクトⅠ」等の科目が設けられている。留学を経た後には「グローカル実践プロジェクトⅡ」により、自らの経験の意味を再考しながら地域の課題に取組む機会となる。さらに SDGs に包括される諸問題を自らのものとして捉え持続可能な世界の実現に努める。

データサイエンス科目

地域課題の解決ができる人材になるための素養を身に付けることを目標として、「統計基礎」、「AI・データサイエンス入門」、「データサイエンス基礎」等の科目により、リテラシーから応用基礎レベル相当までを学習し、「グローカル実践プロジェクトⅡ」などにおける情報活用、発信につながる力を養う。さらに「IT 応用」、「情報通信テクノロジⅠ」、「情報通信テクノロジⅡ」、「基本情報技術」等、情報倫理やセキュリティ問題について必要な知識を得る発展的科目を履修することで、IT パスポート取得や基本情報技術者試験の受験につなげる。

社会科学科目（経済学、法学・政治学、経営学）

様々な要因が絡み合う現代社会では、専門分野にとどまらない複数の学問知識や文系・理系の枠におさまらない幅広い豊かな教養が求められる。物事の本質を見極めていく洞察力、批判的・論理的な思考力、俯瞰的な問題解決能力などを養い、知性と感性のバランスのとれた高潔で意欲的な人材となることを目標とする。

アカデミック留学科目

中長期の留学プログラムにおいて修得したアカデミックな科目の本学単位読替え科目として、「STAGE アカデミック留学科目Ⅰ～Ⅴ」を設けている。

キャリアデザイン科目

各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくかを考えるとともに、社会で活用できる力を身に付け、社会人としての責任感、倫理観、協調性などを総合的に養成するためキャリアデザイン科目を履修する。

Ⅳ．外国留学規程に基づく外国の大学への留学に伴うゼミ履修に関する取り扱いについて

外国留学規程に基づく外国の大学への留学（以下「留学」という。）に伴う STAGE 演習履修に関する申し合わせ

令和 5 年 12 月 12 日
グローバル教養学位プログラム開設準備委員会

1. 「STAGE 演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB」
　留学中に STAGE 演習の担当教員によるメール等を通じた指導を受けること、課題レポートを提出すること、および Web を活用した授業に参加することを条件に、STAGE 演習を履修できる。

2. 「STAGE 演習 Capstone」
　STAGE 演習 Capstone は本学での学習と留学・海外体験を合わせて深化させ卒業論文（課題研究）として仕上げていくための科目である。この趣旨を踏まえ、STAGE の学生は 3 年次までに留学を終えられるよう計画することを原則とするが、事情により留学期間の終了が STAGE 演習 Capstone を履修する年度の 4 月 1 日以降となる場合は、必ず事前に指導主任及び全学教育推進機構事務室に相談すること。
　ただし、留学を開始する日が 4 月 1 日以降となる場合は、当該年度の STAGE 演習 Capstone の履修は認めない。また、留学を終えて帰国する日が本学の後期授業開始日を過ぎた場合は、当該年度の STAGE 演習 Capstone の履修は認めない。
　STAGE 演習 Capstone の履修が認められた場合は、留学中に STAGE 演習の担当教員によるメール等を通じた指導を受け、課題レポートを提出し、また Web を活用した授業に参加すること。

3. 　留学前に担当教員から指示された課題レポートには自らの研究テーマに関する留学先での学びを記述し、指定された期限までに提出すること。

4. 　留学出発後に STAGE 演習の履修登録が取り消されることはないが、担当教員とのメール連絡を怠った場合や、課題レポートの提出および Web を活用した授業への参加を教員の指示どおりにしなかった場合は、STAGE 演習の成績は「不可」となる。

5. 　STAGE 演習の同時履修（複数の演習科目を同時に履修すること）に関しては、担当教員の承認を必要とする。

6. 　なお、ここでいう「留学」には、夏期授業休止期間中、または春期授業休止期間中に実施される短期留学を含まない。

附　則
この申し合わせは、令和 6 年度入学生から適用する。

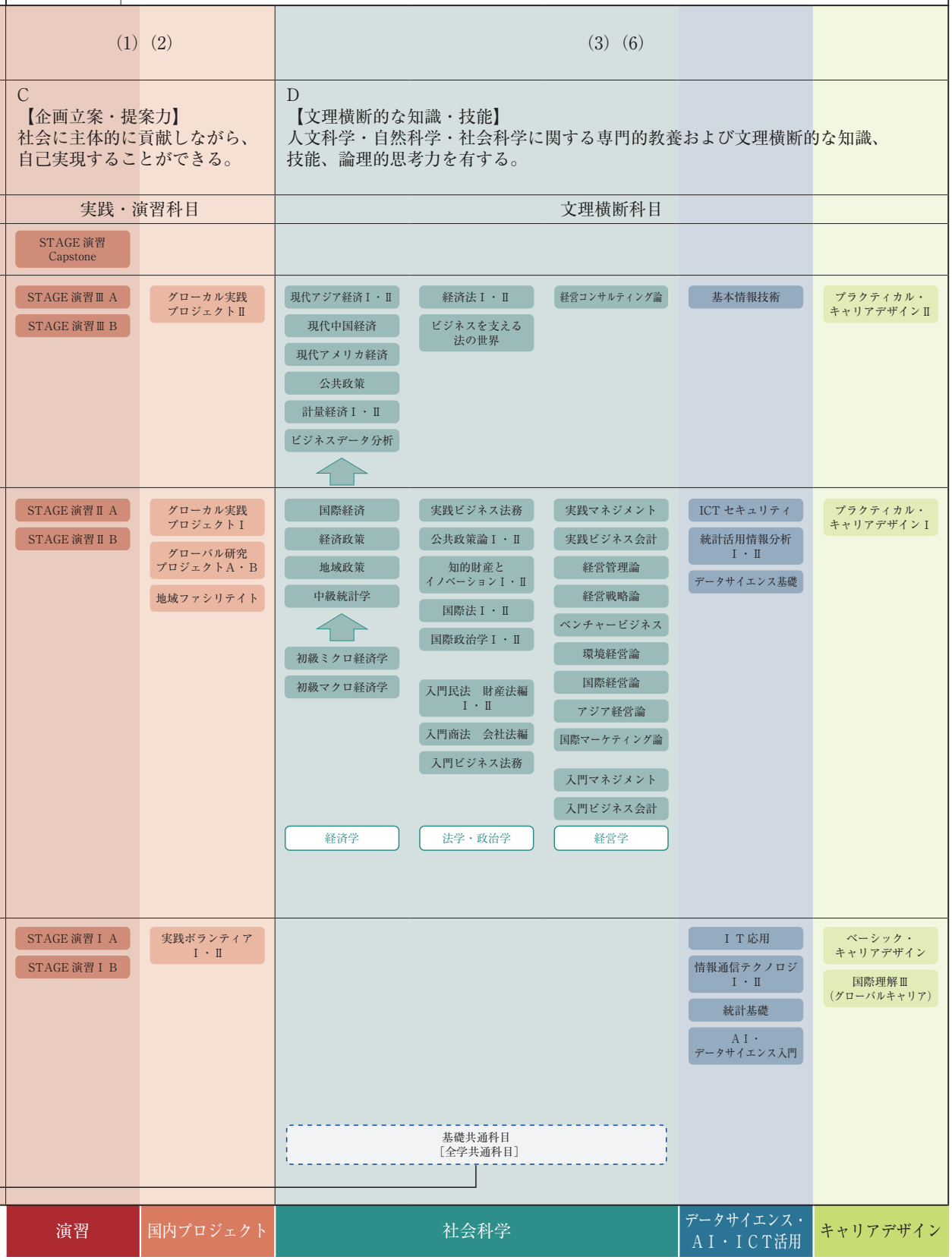
グローバル教養学環 グローバル教養学位プログラム カリキュラムツリー

卒業認定・学位授与の方針(DP)	(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力、資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。

対応する卒業認定・学位授与の方針(DP)の番号	(1) (2) (3)	(4)	(5) (7)
到達目標	Z 人文科学、自然科学、社会科学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、専門分野と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	A 【複数言語の運用能力】 グローカルな課題解決に必要な多言語運用能力を有する。	B 【異文化間調整能力】 グローカルな課題解決に必要な異文化間調整能力を有する。
科目群	全学共通科目	外国語・留学関係科目	国際・異文化理解科目
4年			
3年		上級英語 TOEIC 上級英語 Global Topics Ⅰ・Ⅱ 上級英語 Career English Ⅰ・Ⅱ 上級英語 Life Topics Ⅰ・Ⅱ 上級ドイツ語Ⅰ～Ⅱ 上級フランス語Ⅰ～Ⅱ 上級中国語Ⅰ～Ⅱ 上級韓国語Ⅰ～Ⅱ 大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ	
2年	基礎共通科目（人文・自然・社会）*1	中級英語 Listening 中級英語 Reading 中級英語 Pronunciation 中級英語 TOEIC 中級英語 Life Topics Ⅰ・Ⅱ 中級英語 Career English Ⅰ・Ⅱ 中級英語 Speaking 中級英語 Global Topics Ⅰ・Ⅱ 中級ドイツ語Ⅰ～Ⅳ 中級フランス語Ⅰ～Ⅳ 中級中国語Ⅰ～Ⅳ 中級韓国語Ⅰ～Ⅳ 大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ IELTS Ⅱ TOEFL Ⅱ 外国留学科目Ⅰ～Ⅳ STAGE アカデミック留学科目Ⅰ～Ⅴ English Regions Ⅲ・Ⅳ German Studies Ⅲ・Ⅳ French Studies Ⅲ・Ⅳ Chinese Studies Ⅲ・Ⅳ Korean Studies Ⅲ・Ⅳ 海外キャリア実習	多文化共生論 文化人類学 社会人間学 社会心理学 社会学概論 社会問題と思想 社会問題と制度 ブリティッシュ・スタディーズⅠ・Ⅱ アメリカン・スタディーズⅠ・Ⅱ 世界の中の日本Ⅰ・Ⅱ German Studies Ⅱ French Studies Ⅱ Chinese Studies Ⅱ Korean Studies Ⅱ
1年	基礎共通科目（人文・自然・社会）*1 基礎共通科目（導入共通／学際融合等）*2 スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ College English (Reading/Writing/Listening/Speaking) 基礎第２外国語Ⅰ（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語） 基礎第２外国語Ⅱ（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語）	中級英語 Presentation 中級英語 Writing IELTS Ⅰ TOEFL Ⅰ 海外語学講座Ⅰ～Ⅳ 海外ボランティアⅠ～Ⅱ エリアスタディーズⅠ～Ⅹ 外国語科目（基礎）［全学共通科目］	国際理解Ⅰ（異文化理解） 国際理解Ⅱ（国際問題） SDGs 概論 English Regions Ⅰ・Ⅱ German Studies Ⅰ French Studies Ⅰ Chinese Studies Ⅰ Korean Studies Ⅰ
		外国語学習	交換留学・語学留学・海外フィールドワーク / 国際・異文化理解

1. 基礎共通科目は、合計 18 単位を取得しなければならない。
①人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4単位以上（*1）
②導入共通科目「甲南大学と平生釟三郎」「共通基礎演習」「IT基礎」の中から 2単位以上、学際融合系・国際言語文化系・スポーツ健康系の授業科目の中から 2単位以上（*2）

卒業認定・学位授与の方針（DP）	(4) 多様な文化と言語背景を持つ人々と関わり、協働することを可能とする複数の言語運用能力を有します。
	(5) 異文化間の機微を察知して葛藤を未然に防ぐ異文化間調整能力を有します。
	(6) 課題解決に必要な社会科学の知識と文理横断的な知識と技能を有し、論理的思考力を有します。
	(7) 現代社会の問題に対し国際的な視野をもって的確な問いをたて、グローカルに問題解決をはかる能力を有します。



2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることはできない。
①第３外国語として履修する基礎外国語科目については、4単位以内
②関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（専門科目に含まれるものを除く）については、12単位以内
注）上記２の①②の科目は、カリキュラムツリー上に表示していない。

資格取得のための科目

教育職員養成課程
図書館学に関する専門教育科目
公認心理師に関する専門教育科目
日本語教員養成課程

教育職員養成課程

教育職員養成課程は、教育職員免許状の取得を希望する学生のために設けられている。

卒業に必要な単位とは別に多くの単位を修得しなければならず、1年次から計画的な履修が求められる。また、1年次終わりに教職課程履修者登録をすることが必要である。登録には、①1年次前期に開講される「教職入門」を修得済みであること、②1年次末通算のGPAが2.00以上あることなど満たさなければならない条件がある。また在学中に単位を修得しきれない場合は、免許取得が困難となる場合があるので、『教職ガイドブック』（教職教育センター実施の説明会で配付）をしっかり読み込むことが必要である。

Ⅰ．本学で取得できる免許状の種類

本学で教職課程の認定を受けている免許状の種類は、次表のとおりである。

[2026年度（令和8年度）の入学生に適用]

学部	学科	免許教科	免許状の種類
文学部	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	社会学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
	人間科学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史文化学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
理工学部	宇宙理学・量子物理工学科 生物学科 物質化学科 環境・エネルギー工学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
法学部	法学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
経営学部	経営学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
		商業	
知能情報学部	知能情報学科	数学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		情報	高等学校教諭一種免許状

※所属する学部・学科で認定を受けていない免許状の取得については、教職教育センター窓口に相談すること。

Ⅱ．教職課程の履修・単位修得方法

教員免許状の取得に必要な基礎資格と免許状の種類毎の最低修得単位数は、次頁のとおりである。基礎資格とは、各自が所属する学部・学科において、卒業に必要な単位を修得し、学士の学位を取得することである。基礎資格を取得するのに必要な単位は、甲南大学学則により定められた全学共通科目と専門教育科目の履修方法にしたがって、履修しなければならない。

ただし、教員免許状を取得するには、上記の基礎資格のほかに、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」、教育職員養成課程で定める「教科及び教職に関する科目」を各自の入学年度に応じた科目表にしたがって履修すること。

なお、履修にあたっては、次の事項に留意すること。

(1)「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目として、「日本国憲法」（基礎共通科目）、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」、「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」、「中級英語Speaking」又は「中級英語Presentation」、ならびにそれぞれの学部学科で指定した「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」に関する科目を修得すること。

(2) 基礎共通科目の「人権（同和）の問題」（2単位）を修得することが望ましい。

(3) 中学校の教員免許状の取得を希望する者は、基礎共通科目の「哲学」（2単位）または「倫理学」（2単位）のいずれか1科目を含めて修得することが望ましい。

基礎資格及び最低修得単位数

[2026 年度（令和 8 年度）入学生に適用]

免許状の種類		基礎資格	大学における最低修得単位数					
			教科及び教職に関する科目	免許法施行規則第 66 の 6 に定める科目				合計
				日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	
中学校教諭一種免許状	国語（文学部日本語日本文学科）	学士の学位を有すること	67	2	2	4	2	77
	英語（文学部英語英米文学科）		65	2	2	4	2	75
	社会（文学部社会学科）（文学部人間科学科）（文学部歴史文化学科）		63	2	2	4	2	73
	（経済学部経済学科）		67					77
	（法学部法学科）（経営学部経営学科）		63					73
	理科（理工学部宇宙理学・量子物理工学科）		70	2	2	4	2	80
	（理工学部生物学科）		86					96
	（理工学部物質化学科）		69					79
	（理工学部環境・エネルギー工学科）		69					79
	数学（知能情報学部知能情報学科）		61	2	2	4	2	71
高等学校教諭一種免許状	国語（文学部日本語日本文学科）		69	2	2	4	2	79
	英語（文学部英語英米文学科）		69	2	2	4	2	79
	地理歴史（文学部人間科学科）（文学部歴史文化学科）（経済学部経済学科）（法学部法学科）		61	2	2	4	2	71
	公民（文学部社会学科）（文学部人間科学科）（経済学部経済学科）（法学部法学科）（経営学部経営学科）		61	2	2	4	2	71
	商業（経営学部経営学科）		61	2	2	4	2	71
	理科（理工学部宇宙理学・量子物理工学科）		65	2	2	4	2	75
	（理工学部生物学科）		66					76
	（理工学部物質化学科）		66					76
	（理工学部環境・エネルギー工学科）		65					75
	数学（知能情報学部知能情報学科）		65	2	2	4	2	75
	情報（知能情報学部知能情報学科）		61	2	2	4	2	71

教職に関する専門教育科目

① 教育職員免許状を取得するには、「教科及び教職に関する科目」並びに「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」より必要な科目を修得しなければならない。

教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員養成課程に関する規程（後掲）および『教職ガイドブック』（教職教育センター実施の説明会で配付）を参照すること。

② 中学校の免許状取得希望者は、以下科目の履修とは別に、7日間の「介護等体験」が必要である。

教育実習や介護等体験は、麻疹（はしか）の抗体がなければ参加できない。

Ⅰ．教科及び教職に関する科目

①教科及び教職に関する科目表（教科に関する専門的事項の科目を除く。）

[2026 年度（令和 8 年度）入学生に適用]

授業科目	単位	配当年次	備考	授業科目	単位	配当年次	備考
教育原論	2	1		英語科教育法Ⅰ	2	3	
教職入門	2	1	※1	英語科教育法Ⅱ	2	3	
教育社会行政論	2	2		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2	3	
教育心理	2	1		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2	3	
特別支援教育論	2	2		社会科・公民科教育法Ⅰ	2	2	
教育課程論	2	2		社会科・公民科教育法Ⅱ	2	3	
道徳指導法	2	2	※2	商業科教育法Ⅰ	2	3	
特別活動・総合的な学習の時間指導法	2	3		商業科教育法Ⅱ	2	3	
				理科教育法Ⅰ	2	3	
教育の方法・技術(ICTの活用含む)	2	2		理科教育法Ⅱ	2	3	
生徒指導法（進路指導含む）	2	3		理科教育法Ⅲ	2	3	
教育相談	2	2		理科教育法Ⅳ	2	3	
教育実習Ⅰ	5	4		数学科教育法Ⅰ	2	3	
教育実習Ⅱ	3	4		数学科教育法Ⅱ	2	3	
教職実践演習（中・高）	2	4		数学科教育法Ⅲ	2	3	
国語科教育法基礎Ⅰ	2	2		数学科教育法Ⅳ	2	3	
国語科教育法基礎Ⅱ	2	2		情報科教育法Ⅰ	2	3	
国語科教育法Ⅰ	2	3		情報科教育法Ⅱ	2	3	
国語科教育法Ⅱ	2	3		人権教育論	2	2	自由選択科目
英語科教育法基礎Ⅰ	2	2					
英語科教育法基礎Ⅱ	2	2					

※1 **1年次前期開講の「教職入門」を必ず履修すること。1年次末に行う教職課程履修者登録には「教職入門」を修得していることが必要である。**

※2 高等学校教諭一種免許状の取得を希望する場合、「道徳指導法」は「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる。

【科目履修上の諸注意】

1.「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」は、いずれの教科の免許状を取得する場合でも、修得しなければならない科目であり、各教科の教育法基礎Ⅰ・Ⅱ、教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを除いて、共通の科目である。

2. 修得した自由選択科目の単位については、「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。

3.「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」には、所属する学部・学科の卒業必要単位数に算入されるものと、算入されないものがある。各学部・各学科により取扱いが異なるので、それぞれの学部・学科の項を参照のこと。

また、「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」を履修の際には、各学部・各学科で定められている履修登録科目の単位制限にも十分注意をはらい、計画的に履修すること。

4. 各教科の「教育法Ⅰ」および「教育法Ⅱ」は、配当年次で履修すること。

5. 各教科の「教育法基礎」「教育法」の単位は、取得を希望する免許教科ごとに修得しなければならない。ただし、社会科の免許状取得希望者の「教育法」は「社会科・地歴科教育法Ⅰ」、「社会科・地歴科教育法Ⅱ」と「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」の4科目（8単位）を修得しなければならない。

6. 教育実習は、4年次で履修すること。教育実習を履修するための条件は、次のとおりである。

（1） 3年次終了までに、「教育原論」、「教職入門」、「教育心理」、「教育課程論」、「教育の方法・技術（ICTの活用含む）」、「生徒指導法（進路指導含む）」および「教育相談」を修得済みであること。

（2） 国語科・英語科・社会科・地理歴史科・公民科・商業科・理科・情報科の免許状取得希望者は、「各教科の指導法」における必修科目を修得済みであること。

（3） 数学科の免許状取得希望者は、「各教科の指導法」における必修科目を履修し、「数学科教育法Ⅰ」および「数学科教育法Ⅱ」を修得済みであること。

（4） 教職課程履修者登録、教育実習予備登録および本登録などの諸手続きを完了していること。

（5） 教育実習は、事前・事後指導と実習校での実習で成立しているため、事前・事後指導に欠席することは許されない（教育実習は事前・事後指導を含めて単位認定する）。

（6） （1）～（5）以外にも実習教科ごとに「教科に関する専門的事項の科目」の履修条件があるので、『教職ガイドブック』で確認するとともに、説明会に必ず出席すること。

7. 教育実習は、中学校免許状の取得を希望する者は「教育実習Ⅰ」を、高等学校免許状の取得を希望する者は「教育実習Ⅱ」を履修すること。

両方の免許状の取得を希望する者は、「教育実習Ⅰ」を履修すること。

8. 複数クラス開講する科目は、いずれもクラスをまたがって履修することはできない。

9. 下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
各教科の「教育法Ⅰ」および「教育法Ⅱ」	「教職入門」の単位を修得していること。
教育実習Ⅰ・Ⅱ	本項6に記載のとおり履修すること。
教職実践演習（中・高）	「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」を履修中か修得済みであること。ならびに「履修カルテ」を年度ごとに作成していること。

10. 教職課程履修者としての登録は､1 年次の年度末(3 月)に行う。教職課程履修者としての登録に「教職課程履修者登録に関する内規」が適用される。
11. 教職課程履修者登録を完了していない者は、介護等体験申込みおよび教育実習予備登録の手続きができない。
12. 教職課程履修登録者と教育実習予備登録者から教職課程費を徴収する。詳細はガイダンスや〈My KONAN〉の掲示等において通知する。
13. 甲南大学を卒業後、引き続き教職課程を履修しようとする場合は、『教職希望の科目等履修生等に関する申合せ（教職ガイドブックに掲載)』に基づき受入れを決定するので、注意すること。

②大学が独自に設定する科目

［2019 年度（平成 31 年度）以降の入学生に適用］

大学が独自に設定する科目表

授業科目	単位	配当年次	授業科目	単位	配当年次
学校経営と学校図書館	2	2	読書と豊かな人間性	2	2
学習指導と学校図書館	2	2	情報メディアの活用	2	2
学校図書館メディアの構成	2	2			

「大学が独自に設定する科目」は、中学校一種 4 単位以上、高等学校一種 12 単位以上修得する必要があり、大学が独自に設定する科目表の科目以外に「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。)」および「教科に関する専門的事項の科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した科目は、「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。ただし、取得しようとする教科によって「教科に関する専門的事項の科目」は異なるため、複数教科の取得を希望する場合は注意すること。

③教科に関する専門的事項の科目

1.「教科に関する専門的事項の科目」は、取得しようとする免許状ごとに所定の単位を修得しなければならない。
2. これらの単位数および履修上の注意については、教科ごとに『教職ガイドブック』に記載してあるので、開設されている学部・学科を確認のうえ修得すること。

なお、「教科に関する専門的事項の科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した科目は、「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。ただし、取得しようとする教科によって「教科に関する専門的事項の科目」は異なるため、複数教科の取得を希望する場合は注意すること。

Ⅱ．教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

〔2026 年度（ 令和 8 年度 ）の入学生に適用〕

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目表

教育職員免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目		授業科目	単位数	配当 年次	履修要件
日本国憲法		日本国憲法	2	1	必　修
体育		スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	1	1	必　修
		スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	1	1	
外国語コミュニケーション		中級英語 Speaking	4	2	いずれか 選択必修
		中級英語 Presentation	4	2	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	文、経済、法、経営、理工学部 生物学科、物質化学科、環境・エネルギー工学科	AI・データサイエンス入門	2	1	いずれか 選択必修
		IT 基礎	2	1	
		IT 応用	2	1	
	理工学部 宇宙理学・量子物理工学科	AI・データサイエンス入門	2	1	いずれか 選択必修
		コンピュータ実習Ⅰ	2	2	
	知能情報学部	AI・データサイエンス入門	2	1	いずれか 選択必修
		プログラミング演習Ⅰ	2	1	

『教職ガイドブック』は、教職教育センターが実施する説明会で配付します。

教育職員養成課程に関する規程（抄）

令和８年２月26日　改正

第１条　この規程は、中学校及び高等学校の教員免許状の授与を受けようとする者のために必要な事項を定めるものとする。

第２条　免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
文学部	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	社会学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
	人間科学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史文化学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
理工学部	宇宙理学・量子物理工学科 生物学科 物質化学科 環境・エネルギー工学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
法学部	法学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
経営学部	経営学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
		商業	
知能情報学部	知能情報学科	数学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		情報	高等学校教諭一種免許状

研究科	専攻	免許教科	免許状の種類
人文科学研究科	日本語日本文学専攻	国語	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
	英語英米文学専攻	英語	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
	応用社会学専攻	社会	中学校教諭専修免許状
		地理歴史	高等学校教諭専修免許状
		公民	
	人間科学専攻	社会	中学校教諭専修免許状
		公民	高等学校教諭専修免許状
自然科学研究科	物理学専攻 化学専攻 生物学専攻 環境・エネルギー工学専攻	理科	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
	知能情報学専攻	数学	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
社会科学研究科	経済学専攻 経営学専攻	社会	中学校教諭専修免許状
		公民	高等学校教諭専修免許状
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	理科	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状

第３条　前条の免許状は、次の表に掲げる基礎資格を有し、かつ、所定の単位を修得した者に授与せられる。

免許状の種類		基礎資格	大学における最低修得単位数				
			教科及び教職に関する科目	免許法施行規則第66の6に定める科目			
				日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作
中学校教諭一種免許状	国語（文学部日本語日本文学科）	学士の学位を有すること	67	2	2	4	2
	英語（文学部英語英米文学科）		65	2	2	4	2
	社会（文学部社会学科） （文学部人間科学科） （文学部歴史文化学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科） （経営学部経営学科）		63 67 63	2	2	4	2
	理科（理工学部宇宙理学・量子物理工学科） （理工学部生物学科） （理工学部物質化学科） （理工学部環境・エネルギー工学科）		70 86 69 69	2	2	4	2
	数学（知能情報学部知能情報学科）		61	2	2	4	2
高等学校教諭一種免許状	国語（文学部日本語日本文学科）		69	2	2	4	2
	英語（文学部英語英米文学科）		69	2	2	4	2
	地理歴史（文学部人間科学科） （文学部歴史文化学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科）		61	2	2	4	2
	公民（文学部社会学科） （文学部人間科学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科） （経営学部経営学科）		61	2	2	4	2
	商業（経営学部経営学科）		61	2	2	4	2
	理科（理工学部宇宙理学・量子物理工学科） （理工学部生物学科） （理工学部物質化学科） （理工学部環境・エネルギー工学科）		65 66 66 65	2	2	4	2
	数学（知能情報学部知能情報学科）		65	2	2	4	2
	情報（知能情報学部知能情報学科）		61	2	2	4	2

免許状の種類		基礎資格	最低修得単位数
中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国　語（人文科学研究科日本語日本文学専攻） 英　語（人文科学研究科英語英米文学専攻） 社　会（人文科学研究科応用社会学専攻） （人文科学研究科人間科学専攻） （社会科学研究科経済学専攻） （社会科学研究科経営学専攻） 地理歴史（人文科学研究科応用社会学専攻） 公　民（人文科学研究科応用社会学専攻） （人文科学研究科人間科学専攻） （社会科学研究科経済学専攻） （社会科学研究科経営学専攻） 理　科（自然科学研究科物理学専攻） （自然科学研究科化学専攻） （自然科学研究科生物学専攻） （自然科学研究科環境･エネルギー工学専攻） （フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻） 数　学（自然科学研究科知能情報学専攻）	修士の学位を有すること。又は大学院に1年以上在学し30単位以上を修得すること。	上記に加え、24単位以上を大学院修士課程の授業科目中それぞれの教科及び教職に関する科目のうち、大学が独自に設定する科目について修得すること。

第4条　「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目として､基礎共通科目の「日本国憲法」､「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」､「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」､「中級英語 Speaking」又は「中級英語 Presentation」､並びにそれぞれの学部学科で指定した数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作に関する科目を履修しなければならない。

第5条　中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するために必要な教科及び教職に関する科目のうち、教科に関する専門的事項の科目の単位の修得方法は、次の表の第1欄に掲げる免許教科の種類に応じ第2欄に掲げる科目についてそれぞれ第3欄に掲げる単位を修得するものとする。

教科に関する専門的事項の科目表

第1欄	第　2　欄	第3欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
国語（中学）	（文学部日本語日本文学科）	
	日本語学概論Ⅰ	2
	日本語学概論Ⅱ	2
	日本語表現法Ⅰ	2
	日本語表現法Ⅱ	2
	日本文学史Ⅰａ	2
	日本文学史Ⅰｂ	2
	日本文学史Ⅱａ	2
	日本文学史Ⅱｂ	2
	漢文学Ⅰａ	2
	漢文学Ⅰｂ	2
	漢文学Ⅱａ	2
	漢文学Ⅱｂ	2
	書道	2
	日本語史Ⅰ	2
	日本語史Ⅱ	2
	日本語文法論Ⅰ	2
	日本語文法論Ⅱ	2
	日本文学概論Ⅰ	2
	日本文学概論Ⅱ	2
		計　26単位

（「日本語学概論Ⅰ」～「書道」：26単位必修）

第1欄	第　2　欄	第3欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
国語（高校）	（文学部日本語日本文学科）	
	日本語学概論Ⅰ	2
	日本語学概論Ⅱ	2
	日本語表現法Ⅰ	2
	日本語表現法Ⅱ	2
	日本文学史Ⅰａ	2
	日本文学史Ⅰｂ	2
	日本文学史Ⅱａ	2
	日本文学史Ⅱｂ	2
	漢文学Ⅰａ	2
	漢文学Ⅰｂ	2
	漢文学Ⅱａ	2
	漢文学Ⅱｂ	2
	日本語史Ⅰ	2
	日本語史Ⅱ	2
	日本語文法論Ⅰ	2
	日本語文法論Ⅱ	2
	日本文学概論Ⅰ	2
	日本文学概論Ⅱ	2
		計　24単位

（「日本語学概論Ⅰ」～「漢文学Ⅱｂ」：24単位必修）

第1欄	第　2　欄	第3欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
英語（中学・高校）	（文学部英語英米文学科）	
	英語学入門	4
	英米文化･文学入門	4
	英作文Ⅰａ	1
	英作文Ⅰｂ	1
	イングリッシュ･フォーラムⅠａ	1
	イングリッシュ･フォーラムⅠｂ	1
	英米文化探訪Ⅰ	2
	英米文化探訪Ⅱ	2
	英米文化研究Ⅰ	2
	英米文化研究Ⅱ	2
	英語の文法	2
	英語の意味	2
	英語の音声	2
	英語の獲得と理解	2
	英語の歴史	2
	英語のレキシコン	2
	イギリス文学思潮史Ⅰ	2
	イギリス文学思潮史Ⅱ	2
	アメリカ文学思潮史Ⅰ	2
	アメリカ文学思潮史Ⅱ	2
	英作文Ⅱａ	1
	英作文Ⅱｂ	1
	イングリッシュ･フォーラムⅡａ	1
	イングリッシュ･フォーラムⅡｂ	1
	ブリティッシュ･スタディーズⅠ	2
	ブリティッシュ･スタディーズⅡ	2
	アメリカン・スタディーズⅠ	2
	アメリカン・スタディーズⅡ	2
		計　24単位

（「英語学入門」～「イングリッシュ･フォーラムⅠｂ」：20単位必修）

（「英語の文法」～「英語の獲得と理解」：4単位以上選択必修）

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
社会（中学）	（文学部社会学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	20単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	地誌Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	法律学概論	2	
	公共社会学	2	
	社会学概論	2	
	哲学	2	2単位以上選択必修
	倫理学	2	
	宗教学	2	
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ	2	
	アジア史研究Ⅰ	2	
	アジア史研究Ⅱ	2	
	西洋史研究Ⅰ	2	
	西洋史研究Ⅱ	2	
	地誌Ⅱ	2	
	地域社会論	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	社会調査法	2	
	フィールドワーク研究	2	
	文化人類学	2	
	多文化共生論	2	
	文化社会学	2	
	家族社会学	2	
	現代家族論	2	
	都市社会学	2	
	NPO／NGO論	2	
	ソーシャル・キャピタル論	2	
	応用倫理学	2	
		計　22単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
社会（中学）	（文学部人間科学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	20単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	地誌Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	法律学概論	2	
	公共社会学	2	
	社会学概論	2	
	哲学	2	2単位以上選択必修
	倫理学	2	
	宗教学	2	
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	哲学思想史	2	
	倫理思想史	2	
	西洋美術史	2	
	日本美術史	2	
	心理学史Ⅰ	2	
	心理学史Ⅱ	2	
	文学思想史	2	
	芸術社会史	2	
	地誌Ⅱ	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	文化人類学	2	
	多文化共生論	2	
	ヒューマンライツ	2	
	平和学	2	
	応用倫理学	2	
		計　22単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
社会（中学）	（文学部歴史文化学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	20単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	地誌Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	法律学概論	2	
	公共社会学	2	
	社会学概論	2	
	哲学	2	2単位以上選択必修
	倫理学	2	
	宗教学	2	
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ	2	
	アジア史研究Ⅰ	2	
	アジア史研究Ⅱ	2	
	西洋史研究Ⅰ	2	
	西洋史研究Ⅱ	2	
	日本史特論Ⅱ	2	
	アジア史特論Ⅱ	2	
	地誌Ⅱ	2	
	地理と情報Ⅰ	2	
	地理と情報Ⅱ	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	応用倫理学	2	
		計　22単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
社会（中学）	（経済学部経済学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	24単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	地誌Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	法律学概論	2	
	中級マクロ経済学	4	
	中級ミクロ経済学	4	
	哲学	2	2単位以上選択必修
	倫理学	2	
	宗教学	2	
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	経済学の歴史	4	
	日本経済史Ⅰ	2	
	日本経済史Ⅱ	2	
	西洋経済史Ⅰ	2	
	西洋経済史Ⅱ	2	
	地誌Ⅱ	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	統計入門	2	
	経済政策	4	
	財政	4	
	金融	4	
	公共経済	4	
	国際経済	4	
	産業経済	4	
	応用倫理学	2	
		計　26単位	

第１欄	第　２　欄	第３欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
社会（中学）	（法学部法学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	20単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	地誌Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	法律学概論	2	
	公共社会学	2	
	社会学概論	2	
	哲学	2	2単位以上選択必修
	倫理学	2	
	宗教学	2	
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	日本法史Ⅰ	2	
	日本法史Ⅱ	2	
	日本政治史Ⅰ	2	
	日本政治史Ⅱ	2	
	西洋法史Ⅰ	2	
	西洋法史Ⅱ	2	
	西洋政治史Ⅰ	2	
	西洋政治史Ⅱ	2	
	地誌Ⅱ	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	行政法総論Ⅰ	2	
	行政法総論Ⅱ	2	
	刑法総論Ⅰ	2	
	刑法総論Ⅱ	2	
	民法総則Ⅰ	2	
	民法総則Ⅱ	2	
	応用倫理学	2	
		計　22単位	

第１欄	第　２　欄	第３欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
社会（中学）	（経営学部経営学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	20単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	地誌Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	法律学概論	2	
	初級マクロ経済学	2	
	初級ミクロ経済学	2	
	哲学	2	2単位以上選択必修
	倫理学	2	
	宗教学	2	
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	経営史	4	
	地誌Ⅱ	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	経営管理論	4	
	国際経営論	4	
	アジア経営論	4	
	経営労務論	4	
	金融論	4	
	応用倫理学	2	
		計　22単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
地理歴史（高校）	（文学部人間科学科）	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	人文地理	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
		14単位必修
	日本美術史	2
	心理学史Ⅱ	2
	芸術社会史	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	哲学思想史	2
	倫理思想史	2
	西洋美術史	2
	心理学史Ⅰ	2
	文学思想史	2
	地誌Ⅱ	2
		計　20単位

第1欄	第　2　欄	第3欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
地理歴史（高校）	（文学部歴史文化学科）	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	人文地理	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
		14単位必修
	日本史研究Ⅰ	2
	日本史研究Ⅱ	2
	日本史特論Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	アジア史研究Ⅰ	2
	アジア史研究Ⅱ	2
	西洋史研究Ⅰ	2
	西洋史研究Ⅱ	2
	アジア史特論Ⅱ	2
	実践地域学	2
	地誌Ⅱ	2
	地理と情報Ⅰ	2
	地理と情報Ⅱ	2
		計　20単位

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
地理歴史（高校）	（経済学部経済学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	14単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	地誌Ⅰ	2	
	日本経済史Ⅰ	2	
	日本経済史Ⅱ	2	
	日本の経済思想家	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	経済学の歴史	4	
	経済史	4	
	西洋経済史Ⅰ	2	
	西洋経済史Ⅱ	2	
	社会経済思想Ⅰ	2	
	社会経済思想Ⅱ	2	
	地誌Ⅱ	2	
		計　20単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
地理歴史（高校）	（法学部法学科）		
	日本史概説Ⅰ	2	14単位必修
	日本史概説Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅰ	2	
	西洋史概説Ⅰ	2	
	人文地理	2	
	自然地理学	2	
	地誌Ⅰ	2	
	日本法史Ⅰ	2	
	日本法史Ⅱ	2	
	日本政治史Ⅰ	2	
	日本政治史Ⅱ	2	
	日本政治思想史Ⅰ	2	
	日本政治思想史Ⅱ	2	
	アジア史概説Ⅱ	2	
	西洋史概説Ⅱ	2	
	西洋法史Ⅰ	2	
	西洋法史Ⅱ	2	
	西洋政治史Ⅰ	2	
	西洋政治史Ⅱ	2	
	西洋政治思想史Ⅰ	2	
	西洋政治思想史Ⅱ	2	
	地誌Ⅱ	2	
		計　20単位	

第１欄	第　２　欄	第３欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
公民（高校）	（文学部社会学科）	
	法律学概論	2
	公共社会学	2
	社会学概論	2
		6単位必修
	哲学	2
	倫理学	2
	心理学	2
	宗教学	2
	哲学入門	2
	倫理学基礎論	2
	心理学概論	2
	こころの科学	2
		2単位以上選択必修
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	社会調査法	2
	フィールドワーク研究	2
	文化人類学	2
	多文化共生論	2
	コミュニケーション研究	2
	メディア研究	2
	文化社会学	2
	家族社会学	2
	現代家族論	2
	都市社会学	2
	NPO/NGO 論	2
	ソーシャル・キャピタル論	2
	社会心理学	2
	社会意識論	2
	応用倫理学	2
		計　20単位

第１欄	第　２　欄	第３欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
公民（高校）	（文学部人間科学科）	
	法律学概論	2
	公共社会学	2
	社会学概論	2
		6単位必修
	哲学	2
	倫理学	2
	心理学	2
	宗教学	2
	哲学入門	2
	倫理学基礎論	2
	心理学概論	2
	こころの科学	2
		2単位以上選択必修
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	文化人類学	2
	多文化共生論	2
	コミュニケーション研究	2
	メディア研究	2
	ヒューマンライツ	2
	平和学	2
	臨床心理学概論	2
	力動的心理学	2
	トラウマ学	2
	現代思想	2
	応用倫理学	2
		計　20単位

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
公民（高校）	（経済学部経済学科）		
	法律学概論	2	
	中級マクロ経済学	4	14単位必修
	中級ミクロ経済学	4	
	国際経済	4	
	哲学	2	
	倫理学	2	
	心理学	2	
	宗教学	2	2単位以上選択必修
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	心理学概論	2	
	こころの科学	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	統計入門	2	
	経済政策	4	
	財政	4	
	金融	4	
	公共経済	4	
	産業経済	4	
	応用倫理学	2	
		計　20単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
公民（高校）	（法学部法学科）		
	法律学概論	2	
	公共社会学	2	6単位必修
	社会学概論	2	
	哲学	2	
	倫理学	2	
	心理学	2	
	宗教学	2	2単位以上選択必修
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	心理学概論	2	
	こころの科学	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	国際法Ⅰ	2	
	国際法Ⅱ	2	
	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	行政法総論Ⅰ	2	
	行政法総論Ⅱ	2	
	刑法総論Ⅰ	2	
	刑法総論Ⅱ	2	
	民法総則Ⅰ	2	
	民法総則Ⅱ	2	
	法社会学Ⅰ	2	
	法社会学Ⅱ	2	
	応用倫理学	2	
		計　20単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
公民（高校）	（経営学部経営学科）		
	法律学概論	2	10単位必修
	初級マクロ経済学	2	
	初級ミクロ経済学	2	
	国際経済	4	
	哲学	2	2単位以上選択必修
	倫理学	2	
	心理学	2	
	宗教学	2	
	哲学入門	2	
	倫理学基礎論	2	
	心理学概論	2	
	こころの科学	2	
	政治学入門	2	
	政治学原論	2	
	経営管理論	4	
	国際経営論	4	
	アジア経営論	4	
	経営労務論	4	
	金融論	4	
	応用倫理学	2	
		計　20単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
商業（高校）	（経営学部経営学科）		
	財務諸表論	4	20単位必修
	経営財務論	4	
	経営組織論	4	
	マーケティング管理論	4	
	職業指導Ⅰ	2	
	職業指導Ⅱ	2	
	入門簿記	4	
	経営戦略論	4	
	中級簿記	4	
	工業簿記	4	
	原価計算	4	
	管理会計	4	
	監査論	4	
	証券論	4	
		計　20単位	

第１欄	第　２　欄	第３欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
理科（中学）	（理工学部宇宙理学・量子物理工学科）	
	力学基礎	2
	電磁気学基礎	2
	化学通論Ⅰ	2
	化学通論Ⅱ	2
	生物学通論Ⅰ	2
	生物学通論Ⅱ	2
	地学通論Ⅰ	2
	地学通論Ⅱ	2
	物理学実験１	2
	物理学実験２	2
	基礎化学実験	3
	基礎生物学実験	3
	地学実験	3
	力学Ⅰ	2
	力学Ⅱ	2
	熱・統計力学	2
	電磁気学Ⅰ	2
	電磁気学Ⅱ	2
	量子論入門	2
	統計力学Ⅰ	2
	量子力学Ⅰ	2
	天文学入門	2
	物理学実験３	2
		計　29 単位

29 単位必修

第１欄	第　２　欄	第３欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
理科（中学）	（理工学部生物学科）	
	物理学通論Ⅰ	2
	物理学通論Ⅱ	2
	化学通論Ⅰ	2
	化学通論Ⅱ	2
	基礎生物学Ⅰ	2
	基礎生物学Ⅱ	2
	地学通論Ⅰ	2
	地学通論Ⅱ	2
	ラボラトリー・フィジックス	3
	基礎化学実験	3
	生物学専門実験及び演習Ⅰ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅱ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅲ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅳ	5
	地学実験	3
	生態学	2
	植物生化学	2
	遺伝学概論	2
	発生学概論	2
	生物物理化学	2
	環境生物学	2
	比較生理学	2
	植物細胞生物学	2
	微生物生理学	2
		計　45 単位

45 単位必修

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
理科（中学）	（理工学部物質化学科）		
	物理学通論Ⅰ	2	28単位必修
	物理学通論Ⅱ	2	
	化学基礎A	2	
	化学基礎B	2	
	生物学通論Ⅰ	2	
	生物学通論Ⅱ	2	
	地学通論Ⅰ	2	
	地学通論Ⅱ	2	
	ラボラトリー・フィジックス	3	
	基礎化学実験	3	
	基礎生物学実験	3	
	地学実験	3	
	物理化学A	2	
	物理化学B	2	
	無機化学A	2	
	無機化学B	2	
	分析化学A	2	
	分析化学B	2	
	有機化学A	2	
	有機化学B	2	
	物質化学実験A	3	
	物質化学実験B	3	
	物質化学実験C	3	
		計　28単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
理科（中学）	（理工学部環境・エネルギー工学科）		
	力学基礎	2	28単位必修
	電磁気学基礎	2	
	化学1	2	
	化学2	2	
	生物学通論I	2	
	生物学通論Ⅱ	2	
	地球科学1	2	
	地球科学2	2	
	ラボラトリー・フィジックス	3	
	ラボラトリー・ケミストリー	3	
	基礎生物学実験	3	
	地学実験	3	
	振動・波動	2	
	天文学入門	2	
	分析化学 A	2	
	熱力学基礎	2	
	物理化学 A	2	
	物理化学 B	2	
	有機化学 A	2	
	有機化学 B	2	
	無機化学 A	2	
	無機化学 B	2	
	量子化学	2	
	科学実験基礎	1	
	環境・エネルギー工学実験1	3	
		計　28単位	

第１欄	第　２　欄	第３欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
理科（高校）	（理工学部宇宙理学・量子物理工学科）	
	力学基礎	2
	電磁気学基礎	2
	化学通論Ⅰ	2
	化学通論Ⅱ	2
	生物学通論Ⅰ	2
	生物学通論Ⅱ	2
	地学通論Ⅰ	2
	地学通論Ⅱ	2
		16単位必修
	物理学実験1	2
	物理学実験2	2
	基礎化学実験	3
	基礎生物学実験	3
	地学実験	3
		2単位以上選択必修 ただし、物理学実験１を選択する者は物理学実験２も必ず履修すること。
	力学Ⅰ	2
	力学Ⅱ	2
	熱・統計力学	2
	電磁気学Ⅰ	2
	電磁気学Ⅱ	2
	量子論入門	2
	統計力学Ⅰ	2
	量子力学Ⅰ	2
	天文学入門	2
	物理学実験3	2
		計　20単位

第１欄	第　２　欄	第３欄
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数
理科（高校）	（理工学部生物学科）	
	物理学通論Ⅰ	2
	物理学通論Ⅱ	2
	化学通論Ⅰ	2
	化学通論Ⅱ	2
	基礎生物学Ⅰ	2
	基礎生物学Ⅱ	2
	地学通論Ⅰ	2
	地学通論Ⅱ	2
		16単位必修
	生物学専門実験及び演習Ⅰ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅱ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅲ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅳ	5
	ラボラトリー・フィジックス	3
	基礎化学実験	3
	地学実験	3
		3単位以上選択必修 ただし、生物学専門実験及び演習を選択する者は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ全てを履修すること。
	生態学	2
	植物生化学	2
	遺伝学概論	2
	発生学概論	2
	生物物理化学	2
	環境生物学	2
	比較生理学	2
	植物細胞生物学	2
	微生物生理学	2
		計　21単位

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
理科（高校）	（理工学部物質化学科）		
	物理学通論Ⅰ	2	16単位必修
	物理学通論Ⅱ	2	
	化学基礎A	2	
	化学基礎B	2	
	生物学通論Ⅰ	2	
	生物学通論Ⅱ	2	
	地学通論Ⅰ	2	
	地学通論Ⅱ	2	
	基礎化学実験	3	3単位以上選択必修
	ラボラトリー・フィジックス	3	
	基礎生物学実験	3	
	地学実験	3	
	物理化学A	2	
	物理化学B	2	
	無機化学A	2	
	無機化学B	2	
	分析化学A	2	
	分析化学B	2	
	有機化学A	2	
	有機化学B	2	
	物質化学実験A	3	
	物質化学実験B	3	
	物質化学実験C	3	
		計　21単位	

第1欄	第　2　欄	第3欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
理科（高校）	（理工学部環境・エネルギー工学科）		
	力学基礎	2	16単位必修
	電磁気学基礎	2	
	化学1	2	
	化学2	2	
	生物学通論I	2	
	生物学通論Ⅱ	2	
	地球科学1	2	
	地球科学2	2	
	ラボラトリー・フィジックス	3	3単位以上選択必修
	ラボラトリー・ケミストリー	3	
	基礎生物学実験	3	
	地学実験	3	
	振動・波動	2	
	天文学入門	2	
	分析化学 A	2	
	熱力学基礎	2	
	物理化学 A	2	
	物理化学 B	2	
	有機化学 A	2	
	有機化学 B	2	
	無機化学 A	2	
	無機化学 B	2	
	量子化学	2	
	科学実験基礎	1	
	環境・エネルギー工学実験1	3	
		計　20単位	

第１欄	第　２　欄	第３欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
数学（中学・高校）	（知能情報学部知能情報学科）		
	代数学	2	8単位必修
	幾何学	2	
	解析学	2	
	確率統計Ⅰ	2	
	プログラミング演習Ⅰ	2	2単位以上選択必修
	プログラミング演習Ⅱ	2	
	コンピュータサイエンス	2	
	線形代数及び演習Ⅰ	3	
	線形代数及び演習Ⅱ	3	
	離散数学	2	
	集合と論理	2	
	微分積分及び演習Ⅰ	3	
	微分積分及び演習Ⅱ	3	
	確率統計Ⅱ	2	
		計　20単位	

第１欄	第　２　欄	第３欄	
免許教科	教科に関する専門的事項の科目	最低修得単位数	
情報（高校）	（知能情報学部知能情報学科）		
	情報社会と情報倫理	2	18単位必修
	情報と職業	2	
	コンピュータアーキテクチャ	2	
	オペレーティングシステム	2	
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2	
	データベース	2	
	情報通信ネットワーク	2	
	メディア情報処理	2	
	画像工学	2	
	人間工学	2	
	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	
	コンパイラ・インタプリタ	2	
	ソフトウエア工学	2	
	アドバンストプログラミング演習	2	
	自然言語処理	2	
	実験デザインとデータ処理	2	
	ヒューマンインタフェース	2	
		計　20単位	

（第５条第２項については、『大学院履修要項』を参照すること）

第６条　教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）の単位の修得方法は、次の表によるものとする。

教科及び教職に関する科目表（教科に関する専門的事項の科目を除く。）

科目＼免許状の種類		中学校教諭一種・専修	高等学校教諭一種・専修	備考
教育原論		2	2	必修 ただし中学校教諭一種免許状取得には教育実習Ⅰ、高等学校教諭一種免許状取得には教育実習Ⅱ、中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状取得には教育実習Ⅰを選択すること。
教職入門		2	2	
教育社会行政論		2	2	
教育心理		2	2	
特別支援教育論		2	2	
教育課程論		2	2	
道徳指導法		2		
特別活動・総合的な学習の時間指導法		2	2	
教育の方法・技術（ICTの活用含む）		2	2	
生徒指導法（進路指導含む）		2	2	
教育相談		2	2	
教育実習Ⅰ		5		
教育実習Ⅱ			3	
教職実践演習（中・高）		2	2	
各教科の指導法	国語科教育法基礎Ⅰ	2	2	取得希望免許教科に対応して、次のとおり修得しなければならない。 1. 国語科は、国語科教育法基礎Ⅰ・Ⅱ、国語科教育法Ⅰ・Ⅱ計８単位必修。 2. 英語科は、英語科教育法基礎Ⅰ・Ⅱ、英語科教育法Ⅰ・Ⅱ計８単位必修。 3. 社会科は、社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ計８単位必修。 4. 地理歴史科は、社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ計４単位必修。 5. 公民科は、社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ計４単位必修。 6. 商業科は、商業科教育法Ⅰ・Ⅱ計４単位必修。 7. 理科は、理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ計８単位必修。 8. 数学科は、数学科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ計８単位必修。 9. 情報科は、情報科教育法Ⅰ・Ⅱ計４単位必修。
	国語科教育法基礎Ⅱ	2	2	
	国語科教育法Ⅰ	2	2	
	国語科教育法Ⅱ	2	2	
	英語科教育法基礎Ⅰ	2	2	
	英語科教育法基礎Ⅱ	2	2	
	英語科教育法Ⅰ	2	2	
	英語科教育法Ⅱ	2	2	
	社会科・地歴科教育法Ⅰ	2	2	
	社会科・地歴科教育法Ⅱ	2	2	
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	2	
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	2	
	商業科教育法Ⅰ		2	
	商業科教育法Ⅱ		2	
	理科教育法Ⅰ	2	2	
	理科教育法Ⅱ	2	2	
	理科教育法Ⅲ	2	2	
	理科教育法Ⅳ	2	2	
	数学科教育法Ⅰ	2	2	
	数学科教育法Ⅱ	2	2	
	数学科教育法Ⅲ	2	2	
	数学科教育法Ⅳ	2	2	
	情報科教育法Ⅰ		2	
	情報科教育法Ⅱ		2	
人権教育論		2	2	自由選択科目

大学が独自に設定する科目表

免許状の種類 / 科　目	中学校教諭 一種・専修	高等学校教諭 一種・専修
学校経営と学校図書館	2	2
学習指導と学校図書館	2	2
学校図書館メディアの構成	2	2
読書と豊かな人間性	2	2
情報メディアの活用	2	2
道徳指導法		2

「大学が独自に設定する科目表」に定める科目、又は最低修得単位数を超えて履修した第５条に定める免許教科の種類に応じた「教科に関する専門的事項の科目表」の第２欄に掲げる科目若しくは前掲「教科及び教職に関する科目表（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」の科目について、併せて中学校は４単位、高等学校は12単位以上修得しなければならない。

第７条　教育実習に関する内規は、別にこれを定める。

第８条　この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が決定する。

附　則

1. この規程は、令和８年４月１日から施行する。
2. 令和７年度以前の入学生については、改正後の第２条、第３条、第５条及び第６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

教職課程履修者登録に関する内規

平成 30 年 3 月 5 日　教育職員養成課程カリキュラム委員会承認

1　教職課程の履修は、「教職入門」の履修から始まるものとし、その履修には 4 年間を要する。

2　教職課程履修者登録は、以下の条件に従って行うものとする。

（1）1 年次の GPA が 2.00 以上であること。

なお、1 年次の GPA が 2.00 未満のため 1 年次末に課程登録ができなかった場合、2 年次 1 年間の GPA が 2.00 以上あれば、2 年次末に課程登録が可能。ただし、教職課程の履修には、登録してから 3 年を要する。

（2）「教職入門」を修得していること。

3　教職課程履修者登録をする者は、誓約書を提出するものとする。

4　前項の誓約書の内容を遵守できない場合は、教職課程履修者登録を取消すものとする。

5　教職課程履修者登録をした者は、教職課程履修者登録時及び教育実習予備登録時に教職課程費（教員採用試験対策費等に充当）を納めるものとする。

6　教職課程履修者登録をした者は、教員採用試験を受けるものとする。

7　教職課程履修者登録をした者は、各年度末の GPA が原則として 2.00 を下回らないものとする。

8　教職課程履修者登録をした者について、「履修カルテ」を作成するものとする。

9　教職課程履修者登録をした者に対して、教職科目担当教員、教職教育センター教員、教職教育センター指導員等は、「履修カルテ」を参考にしながら、適宜指導を行う。

附　則

1　この内規は、平成 30 年 3 月 5 日から施行する。

2　この内規の施行に伴い、教職課程履修者登録に関する内規（平成 23 年 10 月 17 日　教職教育センター運営委員会承認）は、平成 30 年 3 月 4 日をもって廃止する。

教育実習に関する内規

平成 31 年 1 月 24 日　学長決定

1　実習学校は、原則として出身中学校又は出身高等学校とする。

2　教育実習の指導者は、次のとおりとする。

教育実習主任 —— 教職教育センター所長

教育実習指導主任 —— 教科教育法、教育実習担当の教員

教育実習指導員 —— 実習学校の教員

3　各実習生は、1 名の教育実習指導主任に配属され、実習学校において教育実習指導員の指導のもとに教育実習を行う。

4　中学校教諭一種・専修免許状の取得を希望する者は教育実習Ⅰを、高等学校教諭一種・専修免許状の取得を希望する者は教育実習Ⅱを履修するものとし、その両方を取得希望する者は、教育実習Ⅰをもって充てる。

5　教育実習Ⅰは、5 単位とし、観察・参加・実地授業（4 単位）及び事前・事後指導（1 単位）をもって充てる。

6　教育実習Ⅱは、3 単位とし、観察・参加・実地授業（2 単位）及び事前・事後指導（1 単位）をもって充てる。

7　事前・事後指導を遅刻・欠席により一部又は全部を受けなかった者は教育実習の単位を修得することができない。ただし、遅刻・欠席者への補講を「学修に関する取扱い」7（1）～（10）を準用して行う。なお、7（3）の適用は教員採用試験のみとする。

8　観察、参加及び実地授業は中学校 3 週間（120 時間）、高等学校 2 週間（80 時間）とし、その実施については実習学校の教育実習実施計画に基づいて行う。

9　観察は、実習学校における授業等の見学とする。

10　参加は、実験準備及び補助、考査の問題作成及び採点その他校務の見習、補助等を含む。

11　実地授業は、教育実習指導主任又は教育実習指導員の指導の下に行う。

12　随時合同参観、研究会及び実習学校以外の見学を行う。

13　事前指導は、教育実習の意義・目的、教育実習の内容、模擬授業（演習を含む）、授業の評価等について行う。

14　事後指導は、教育実習日誌・学習指導案についての講評、反省会・座談会等を行う。

15　教育実習の成績評価は、教育実習指導員の意見を参酌して教育実習指導主任が行う。

附　則

この内規の改廃は、平成 27 年 4 月 1 日から学長決定により行う。

附　則

この内規は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

図書館学に関する専門教育科目

本大学の図書館学課程は、図書館および学校図書館に関する知識・技能を修得し、図書館法（第４条）に定める「司書」の資格又は学校図書館法（第５条）に定める「司書教諭」の資格を得ることを目的として開講されている。

(1)　図書館司書は、公共図書館、大学図書館、研究機関などの図書館で、資料・情報を提供したり、本を選び整理したり、図書館を経営したりする専門職である。司書の資格を取得するためには、文部科学省令に定める司書資格取得に要する所定の授業科目の単位を修得し、大学を卒業することが条件になる。(「図書館法」第５条第１項第１号)

(2)　司書教諭は、小学校・中学校・高等学校で、学校図書館に関する公務をつかさどる専門的な職能として求められている。司書教諭は、教諭をもって充て、当該教諭については、文部科学大臣の委嘱を受けて行う大学等の司書教諭の講習を修了した者と定められている。(学校図書館法第５条）本大学は、この講習に対応する科目を開設しているので、司書教諭の資格を取得するには、これら科目の単位を修得し、教育職員免許状を取得することが条件になる。

Ⅰ．図書館司書

1. 授業科目

[2011 年度（平成 23 年度）以降の入学生に適用]

①　図書館法施行規則に定める科目

群	授業科目	単　位	配当年次	備　考
A群	生涯学習概説	2	2	
	図書館概論	2	2	
	情報図書館学	2	2	
	図書館行政学	2	2	
	図書館サービス概論	2	2	
	情報サービス論	2	2	
	児童サービス論	2	2	(注) 2. (3) 参照
	情報サービス演習	2	3	
	図書館情報メディア論	2	3	
	資料情報組織法	2	2	
	資料情報組織演習	2	3	
	図書館情報学研究	2	3	
	12 科目 24 単位必修			

② 大学が加える科目

群	授業科目	単位	開講学部・学科
B群	コミュニケーション論	2	基礎共通科目
	社会調査法	2	文学部社会学科
	情報社会論	2	文学部社会学科
	知的財産法Ⅱ	2	法学部
	4単位以上選択必修		

必修科目	**12科目**	**24単位**
選択必修科目		**4単位以上**
合計		**28単位以上**

2. 授業科目の履修について

(1) 単位の認定について

① A群の授業科目は、卒業必要単位に算入することはできない。

② B群の授業科目（「コミュニケーション論」を除く）は、各学部・学科・学環により単位の扱いが異なるので、それぞれ各学部・学科・学環の項を参照のこと。

③ B群の「コミュニケーション論」は、基礎共通科目として取扱う。

(2) 授業科目の配当年次および履修条件について

① B群の授業科目は、それぞれの学部・学科・学環の配当年次に従って履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

② 下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履修条件
情報サービス演習	「情報サービス論」の単位を修得していること。
資料情報組織演習	「資料情報組織法」の単位を修得していること。

(3) 所定の学修による単位の認定について

「図書館法施行規則第5条第3項及び第6条第3項に規定する学修を定める件」（平成21年文部科学省告示第127号）により、「読書と豊かな人間性」を修得した場合、「児童サービス論」の科目の単位を修得したとみなされる。

3.「司書資格取得証明書」の交付および「司書資格単位修得証明書」の交付申込みについて

司書資格取得に要する条件を備えた者には、卒業時に「司書資格取得証明書」を交付するが、これは、本大学における司書課程を修了したことの証明として発行するものである。実際に司書となるためには採用試験に合格しなければならないが、受験の際に求められる「司書資格単位修得証明書」は、教務部に申込みのうえ交付する。

Ⅱ．学校図書館司書教諭（注意：別に教育職員免許状取得に必要な科目の履修が必要）

1．授業科目

［2004 年度（平成 16 年度）以降の入学生に適用］

必修科目

授業科目	単　位	配当年次	備　考
学校経営と学校図書館	2	2	
学校図書館メディアの構成	2	2	
学習指導と学校図書館	2	2	
読書と豊かな人間性	2	2	
情報メディアの活用	2	2	
5 科目 10 単位必修			

※司書教諭に加え、司書資格取得も目指している者は「読書と豊かな人間性」を修得すれば「児童サービス論」の科目の単位を修得したとみなされるため、「児童サービス論」を履修する必要はない。

2．司書教諭の資格取得

詳しくは『教職ガイドブック』を参照のこと。

公認心理師に関する専門教育科目

本学の公認心理師に関する専門教育科目は、公認心理師に求められる役割、知識および技術を整理してデザインされたもので、公認心理師法第二条における公認心理師が業として行う行為について適切に実践できる能力を養成するために開講されている。

公認心理師資格について

(1)　「公認心理師」とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいう。

①心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。

②心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。

③心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。

④心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供を行うこと。

(2)　公認心理師の受験資格を得るためには、一般的に２種類の方法がある。

①大学において心理学やそのほかの公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めて卒業し、かつ、大学院において心理学やそのほかの公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めてその課程を修了する。

②大学において心理学やその他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めて卒業し、かつ、文部科学省令・厚生労働省令で定める施設において文部科学省令・厚生労働省令で定める期間以上（1）における①～③の業務に従事する。

1. 授業科目

［2019 年度（平成 31 年度）以降の入学生に適用］

科目群	分野	授業科目		科目区分	単位	配当年次	備　考
心理学基礎科目	心理学基礎科目	公認心理師の職責	必修	A	2	1	資格科目
		心理学概論		B	2	1	文学部人間科学科
		臨床心理学概論		B	2	2	文学部人間科学科
		心理学研究法		B	2	2	文学部人間科学科
		心理学統計法		B	2	1	文学部人間科学科
		心理学実験	選択必修	A	2	1	資格科目
		心理学実験実習		B	2	1	文学部人間科学科
心理学発展科目	基礎心理学	知覚・認知心理学	必修	B	2	3・4	文学部人間科学科
		学習・言語心理学		B	2	1	文学部人間科学科
		感情・人格心理学		C	2	1	基礎共通科目
		神経・生理心理学		B	2	2	文学部人間科学科
		社会・集団・家族心理学		B	2	2	文学部人間科学科
		発達心理学		B	2	1	文学部人間科学科
		障害者・障害児心理学		B	2	3・4	キャリア創生共通科目
		心理的アセスメント		B	2	2	文学部人間科学科
		心理学的支援法		A	2	2	資格科目
	実践心理学	健康・医療心理学		B	2	3・4	文学部人間科学科
		福祉心理学		B	2	2	キャリア創生共通科目
		教育・学校心理学		B	2	2	文学部人間科学科
		司法・犯罪心理学		B	2	3・4	法学部
		産業・組織心理学		A	2	3・4	資格科目
	関連科目 心理学	人体の構造と機能及び疾病		C	2	1	基礎共通科目
		精神疾患とその治療		B	2	2	文学部人間科学科
		関係行政論		A	2	3・4	資格科目
実習演習科目	実習演習科目	心理演習	必修	A	2	2	資格科目
		心理実習		A	2	3・4	資格科目
演習科目	演習科目	公認心理セミナーⅠ	選択	A	2	3・4	資格科目
		公認心理セミナーⅡ		A	2	3・4	資格科目

心理学基礎科目の必修科目 10 単位、選択必修科目 2 単位以上、心理学発展科目の必修科目 34 単位、実習演習科目の必修科目 4 単位、計 25 科目 50 単位以上を修得すること。

2.　授業科目の履修について

(1)　単位の認定について

①科目区分 A 群の授業科目は、卒業必要単位に算入することはできない。

②科目区分 B 群の授業科目は、所属する学部学科により単位の扱いが異なるため、所属する学部学科のページを参照のこと。

③科目区分 C 群の授業科目は、基礎共通科目として取扱う。

(2)　履修登録について

①資格科目の履修登録は〈My KONAN〉上で「公認心理師カリキュラムに関する履修申請」の手続きをする必要がある。詳しくは『履修ガイドブック』の「第 2 部：履修登録」を参照すること。

②「心理演習」、「心理実習」および「公認心理セミナーⅠ・Ⅱ」は、事前登録を行う必要がある。公認心理師養成センターが行うガイダンスに従うこと。

(3)　授業科目の履修条件および配当年次について

下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
心　理　演　習	「公認心理師の職責」、「心理学概論」、「心理学統計法」の 3 科目ならびに「心理学実験」、「心理学実験実習」のいずれか 1 科目の単位を修得していること、またはそれと同等の専門知識を有していること。
心　理　実　習	1・2 年次配当の必修科目すべて(17 科目 34 単位)ならびに「心理学実験」、「心理学実験実習」のいずれか 1 科目の単位を修得していること、またはそれと同等の専門知識を有していること。

①公認心理師に関する専門教育科目は、授業科目表の配当年次に従って履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

②「公認心理セミナーⅠ」、「公認心理セミナーⅡ」は文学部人間科学科以外の学生が対象の科目である。

③「心理学実験」、「心理学実験実習」については、所属する学部学科の履修指導に従うこと。文学部人間科学科の学生は、『履修ガイドブック』の文学部人間科学科のページを参照すること。

3.　公認心理師に関する専門教育科目についての各種証明書について

公認心理師に関する専門教育科目についての各種証明書は、教務部に申請すること。

日 本 語 教 員 養 成 課 程

1. 日本語教員とは？

日本語教員とは、日本語を母語としない人々に外国語（第二言語）として日本語を教える教員を指します。日本の漫画やアニメ、音楽、映像、小説などへの人気の高まりも影響して、海外では日本の文化や社会に興味をもち日本語を学びたい人が増えています。また、留学や就労のために日本に定住する外国人の数も増加しているため、日本国内においても日本語を専門的に教えることのできる人材が求められています。

2. 日本語教員養成課程修了後のキャリア

日本語教員養成課程を修了すると、海外の日本語学校や企業の外国人従業員向け日本語研修などの場で、外国語として日本語を教える仕事に就く可能性が広がります。また、日本国内にある小学校・中学校・高等学校などの公立学校教員採用選考試験で、日本語教員養成課程修了者に加点制度のある地域があります。

なお、日本国内の「認定日本語教育機関」で日本語を教えるためには、「登録日本語教員」という国家資格が必要です。

3. 国家資格「登録日本語教員」とは？

文部科学大臣が認定した日本国内の日本語学校などの「認定日本語教育機関」で日本語を教える教員には「登録日本語教員」という国家資格が必要となる制度が、2024 年 4 月に始まりました。

登録日本語教員になるためには、以下の 2 つのルートがあります。

（1）試験ルート

国家試験「日本語教員試験（①基礎試験と②応用試験）」に合格＋③実践研修を修了

（2）養成機関ルート（実践研修機関と養成機関の両方の登録を受けた機関）

日本語教員養成課程を修了＋「日本語教員試験（②応用試験）」に合格

（「日本語教員試験（①基礎試験）」と③実践研修は免除）

＊「日本語教員試験」の受験申込時に日本語教員養成課程をまだ修了していない場合、試験の結果が合格基準を満たしていても仮合格の扱いとなり、試験が実施された翌年の 4 月末までに修了証を提出しなければ合格が取り消されます。資格取得に関する詳細は、文部科学省のホームページを確認してください。

4. 本学の日本語教員養成課程

本学の日本語教員養成課程は、学部・学環を問わず履修できます。次ページの科目表にしたがって日本語教員に求められる各方面の能力を身につけ、定められた単位を修得した者に日本語教員養成課程の修了証を卒業時に交付します。

また、本学の日本語教員養成課程を修了することで、上記 3.（2）養成機関ルートでの「登録日本語教員」の国家資格取得を目指すことができます。

日本語教員養成課程に関する科目　　[2025 年度(令和 7 年度) 以降の入学生に適用]

区　　分	授業科目名	単位数	開　講　学　科
社会・文化・地域	日本事情	2	日本語日本文学科
言　語　と　社　会	社会言語学Ⅱ	2	
言　語　と　心　理	日本語教育概論Ⅰ	2	
	日本語教育概論Ⅱ	2	
言　語　と　教　育	日本語教育研究Ⅰ	2	
	日本語教育研究Ⅱ	2	
	日本語教授法研究Ⅰ	2	
	日本語教授法研究Ⅱ	2	
言　　語	言語学概論Ⅰ	2	
	日本語学概論Ⅰ	2	
	日本語学概論Ⅱ	2	
	日本語文法論Ⅱ	2	
	日本語史Ⅰ	2	
以上 26 単位必修			
実　践　研　修	日本語教授法実習Ⅰ	2	日本語日本文学科
	以上 2 単位必修		
	日本語教授法実習Ⅱ	2	日本語日本文学科
	以上自由選択科目		
課程修了必要単位数　計 28 単位以上			

5.　履修上の諸注意

下記の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履　修　条　件
日本語教授法実習Ⅰ	「日本語学概論Ⅰ」、「日本語文法論Ⅱ」、「日本語教育概論Ⅰ」、「日本語教育概論Ⅱ」の 8 単位、ならびに、次の 4 科目「日本語教育研究Ⅰ」、「日本語教育研究Ⅱ」、「日本語教授法研究Ⅰ」、「日本語教授法研究Ⅱ」の中から選択した 2 科目 4 単位と併せて 12 単位を修得していること。
日本語教授法実習Ⅱ	「日本語教授法実習Ⅰ」の単位を修得していること。

- 「日本語教授法実習Ⅰ・Ⅱ」は ①国内実習、②国外実習のうち、いずれかのクラスを選択して履修する。②クラスは、後期分の授業を夏期休暇中に海外で集中的に行う。海外での実習に参加できない者は①クラスを選択すること。なお、各クラスの説明は 4 月の第 1 回目の授業で行う。
- 国内・国外ともに交通費等（②クラスは渡航費や宿泊費を含む）の実費は、履修者の自己負担とする。

6.　修了見込証明書の発行について

上記 5 に記載した「日本語教授法実習Ⅰ」の履修条件を満たした者に対して、3 年次以降に養成課程の修了見込証明書を発行します（希望者のみ）。

外国人留学生対象科目

日本語特設科目
国際交流科目

日 本 語 特 設 科 目

本大学では、外国人留学生を対象として日本語特設科目を次のとおり開設している。

Ⅰ．Year-in-Japan プログラム参加留学生対象

1. 授業科目表

授業科目	単位数	開　講　形　態
日　本　語　Ⅰ	10	秋学期・春学期の各学期に授業を行う。 開講する科目は、学期毎に定める。
日　本　語　Ⅱ	10	
日　本　語　Ⅲ	10	
日　本　語　Ⅳ	10	
日　本　語　Ⅴ	10	

2. 各授業科目のレベル・修了時の能力等

授業科目	レベル	内容	修了時の能力
日本語Ⅰ	初　級	会話 文法 聴解 読解 作文	日本でよく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるようになることを目指します。
日本語Ⅱ	初中級		基本的な身の回りの情報など、よく使われる文や表現が理解でき、情報交換ができるようになることを目指します。
日本語Ⅲ	中　級		学校や友達との話など身近な話題について、共通語による話し方であれば理解でき、やり取りができるようになることを目指します。
日本語Ⅳ	中上級		具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑な内容を理解でき、やり取りができるようになることを目指します。
日本語Ⅴ	上　級		社会的、学問的、職業上の目的に応じた、内容を理解し、その内容について、自己表現ができ、相手に合わせて、ディスカッションすることができるようになることを目指します。

Ⅱ．一般交換留学生対象

1. 授業科目表

授業科目	単位数	開講形態
中級日本語Ⅰ 中級日本語Ⅱ 上級日本語	2 2 2	半期科目として前期又は後期に開講する。一般交換留学生（Year-in-Japan プログラム参加学生以外）は１科目を履修するものとする。
日本の文化Ⅰ 日本の文化Ⅱ	2 2	半期科目として前期又は後期に開講する。一般交換留学生（Year-in-Japan プログラム参加学生以外）は１科目を履修するものとする。

2. 各授業科目のレベル・修了時の能力等

授業科目	レベル・内容
中級日本語Ⅰ	論説文やエッセイなどを正確に読取ることができ、要旨をまとめ、内容について感想を述べることができる。JLPT・N2 レベル程度の留学生対象。
中級日本語Ⅱ	論説文、エッセイ、小説などを正確かつ一定の速度で読込むことができ、要旨をまとめ、内容について自分の考えを述べることができる。JLPT・N2 レベル程度の留学生対象。
上級日本語	より高度な文章を、より速くより正確に読んだり書いたりでき、また高度な内容を聞き取って、自分の考えをまとめ、口頭発表などを行うことができる。JLPT・N1 程度の留学生対象。
日本の文化Ⅰ	日本の文化や慣習について詳しく調べ、インターネットやパワーポイントなどを使用して分かりやすく説明できる。また、それに対する自分の意見を簡潔かつ分かりやすく述べることができる。JLPT・N1 レベル以上の留学生対象。
日本の文化Ⅱ	現代日本事情について詳しく調べ、インターネットやパワーポイントなどを駆使して分かりやすく解説できる。また、調べた事柄に関する資料を収集し、レポートが作成できる。JLPT・N1 レベル以上の留学生対象。

国際交流科目

国際交流科目である「ジャパンスタディーズ」は外国人留学生を対象にした科目であり、秋学期（9月～12月）と春学期（翌年1月～5月）に開講している。各科目の甲南大学生の履修可否については、『履修ガイドブック』を参照すること。各科目のテーマ、詳細内容、開講日時については、『シラバス』を参照すること。

［2017年度（平成29年度）以降の入学生に適用］

授業科目	単　位	配当年次	備　　考
ジャパンスタディーズ1	3	2	言語・文学・教育①
ジャパンスタディーズ2	3	2	言語・文学・教育②
ジャパンスタディーズ3	3	2	言語・文学・教育③
ジャパンスタディーズ4	3	2	言語・文学・教育④
ジャパンスタディーズ5	3	2	歴史・宗教・地理①
ジャパンスタディーズ6	3	2	歴史・宗教・地理②
ジャパンスタディーズ7	3	2	経済・経営①
ジャパンスタディーズ8	3	2	経済・経営②
ジャパンスタディーズ9	3	2	芸術・文化・社会①
ジャパンスタディーズ10	3	2	芸術・文化・社会②
ジャパンスタディーズ11	3	2	国際関係・法学・政治①
ジャパンスタディーズ12	3	2	国際関係・法学・政治②
ジャパンスタディーズ13	2	1	Joint Seminar
ジャパンスタディーズ14	2	1	Joint Seminar

1.「ジャパンスタディーズ1～12」について、秋学期に開講する科目に限り、甲南大学生は履修することができる。ただし事前登録科目となるため、履修条件・申込み方法については『履修ガイドブック』を参照すること。

2.「ジャパンスタディーズ13・14」は外国人留学生と甲南大学生を対象とした科目である。ただし事前登録科目となるため、履修条件・申込み方法については『履修ガイドブック』を参照すること。

3.『履修ガイドブック』および『シラバス』を参照したうえで質問がある場合は、国際交流センターに問合わせること。

2026 年度

履　修　要　項

2026. 4. 1 発行

編集・発行　　甲　南　大　学　教　務　部

〒 658-8501　神戸市東灘区岡本 8 丁目 9 番 1 号
電　　話　（078）431–4341（大代表）
https://www.konan-u.ac.jp

Curriculum Guidelines

甲南大学